

Latsumura

Injurious Insects of Japan



LIBRARY OF

Dr Z P Metcalf

1885-1956

肆 書 各 捌 賣

北海道札幌大通東一丁目
 東京日本橋區通三丁目
 東京日本橋區通四丁目
 東京日本橋區本石町三丁目
 東京京橋區南傳馬町二丁目
 東京京橋區南傳馬町二丁目
 東京神田區表神保町
 東京麻布區本村町
 東京赤阪區溜池町
 東京牛込區早稻田鶴卷町
 京都市下京區寺町通二條上ル
 熊本縣熊本市新町二丁目
 鹿兒島縣鹿兒島市中町
 大分縣豐後大分町
 石川縣金澤市片町
 新潟縣越後國長岡町
 長野縣長野市大門通リ前
 宮城縣仙臺市南材木町

佐藤政太郎	西澤喜太郎	目黒十郎	宇都宮源平	甲斐幸兵衛	吉田崎次郎	長崎茂一	若林農園	早稻田農園	東京興農局	學農社雜誌	東京堂書房	目黒甚七	穴山有隣堂	小林仙鶴堂	林平次郎	丸善書	北海道農會
-------	-------	------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-----	-------

明治三十二年八月廿一日印刷

明治三十二年八月廿五日發行

日本害蟲篇上卷奧付

正價(上)金參圓

札幌農學校學藝會藏版

獨逸國留學中

著 者

松 村 松 年

發 行 者

芳 野 兵 作

印 刷 者

玉 村 秀 橘



發 行 所

東京市日本橋區本石町三丁目十三番地

裳 華 書 房

發 賣 所

大阪市東區備後町四丁目

吉 岡 平 助

發 賣 所

名古屋市本町三丁目

川 瀨 代 助

印 刷 所

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地

株式會社秀英舍

1899

(二) 小木ニシテ尤モ貴重ナル種類ニアリテハ三、四十倍ノ石油乳劑ニ煙草浸汁劑
(拙著害蟲驅除全書參照セヨ) 二合ヲ混シ園用唧筒ヲ以テ一面ニ灌注スベシ但シ成蟲ノ發生期ニ
 行フベシ

日本害蟲篇上卷 終

條ノ黄線アリ眼ハ黒ク口吻ハ赤褐ヲ呈シ弓狀ヲナシテ遙カニ前方ニ突出ス口吻ノ中央ニ膝狀ヲナセル細キ觸角アリテ末端節膨大ス脚、長ク腿節ハ棍棒狀ヲ呈シ其下方ニ一個、棘狀ノ突起アリ全體鱗狀毛ヲ以テ被包セラル

○幼蟲 充分成長スル時ハ四分内外ニ達ス全體黄白ニシテ小形ナル褐色ノ頭ヲ有シ體ニハ横皺多ク其他短毛ヲ有セル等ハ前種ニ異ナルナシ

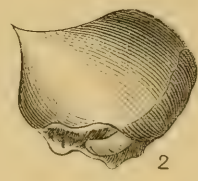
○經過習性 成蟲ハ六七月ノ頃顯ハレ長キ口吻ヲ以テ稚果ニ孔ヲ穿テ口吻ヲ以テ一顆宛卵子ヲ深ク其内ニ納ム其後果實ノ成長ト共ニ孔ハ塞閉セラレテ單ニ黒點ヲ留ムルニ過ギズ蟲害ニ罹リタル栗果ハ熟スルコト早キヲ以テ隨テ地上ニ落ツルコトモ早シ其地上ニ落ツルヤ老熟セルモノハ孔ヲ穿テ果外ニ出デ深ク地中ニ入りテ越年ス翌春蛹化シ次デ羽化ス尤モ未ダ老熟セザルモノハ果内ニ殘リ坊間ニ販賣スルモノノ内ニ存在スルコトアルハ世人ノ能ク知ル所ナリ

○驅除豫防法

(一)被害セラレタル栗ハ加害セラレザルモノヨリ概畧早く落下スルヲ以テ直チニ焼拂フベシ

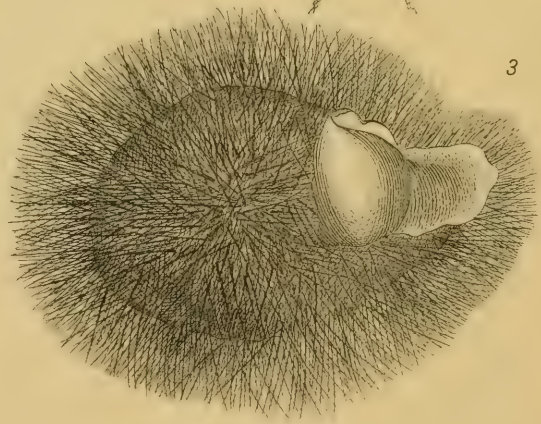
第百一圖

栗ノ象鼻蟲
くりの志ぎむし



$\frac{2}{1}$

1 成蟲
2 被害ノ狀
3 被害セラレタル栗



3

テ後、此方法ヲ行フベシ

(二) 冬季ハ地中ニ越年スルモノナレバ晩秋ニ至リテ其根邊ヲ地下二、三寸位マデ攪拌スベシ

(三) 他樹ヨリ移轉シ來ル恐レアレバ樹根ノ周圍ニ溝ヲ堀リ又ハ根邊ニ綿、若クハ毛髮ヲ纏繞シ置キ該蟲ノ上昇ヲ防クヲ得ベシ

(四) 六、七月頃、即チ該蟲ノ産卵期ニ於テ園用唧筒ヲ以テ石油乳劑三、四十倍位ノモノヲ注射シ置クベシ臭氣ヲ忌避スルヲ以テ大ニ其効ヲ奏セリ

○ 栗ノ象鼻蟲(くりのまぎむし)

學名 *Balanus dentipes*, Roel.

昆蟲學上ノ地位 鞘翅目、象鼻蟲科

被害植物 栗等

○ 成蟲

體長三分、幅一分五厘、口吻三分、全體暗黃色ニシテ翅鞘ハ殆ント圓柱狀ヲナシ黒褐ノ班紋ヲ散在ス稜狀部ハ畧ボ圓形ニシテ小サク前胸背ニ不明ナル三

○幼蟲 充分成長スレバ長サ四分弱ニ達ス體ハ圓柱形ニシテ兩端細ク白色半透明ナレバ胃中ノ内容ヲ窺ヒ得ベシ頭部ハ少シク黃色ヲ帶ビ口部ハ赤褐ナリ體節ハ太ク何レモ腫起シ背面ニハ横皺ヲ有シ側面ニハ縦皺多シ各節ノ後半ニハ短小ノ粗毛アリテ横列ス無脚ナリ

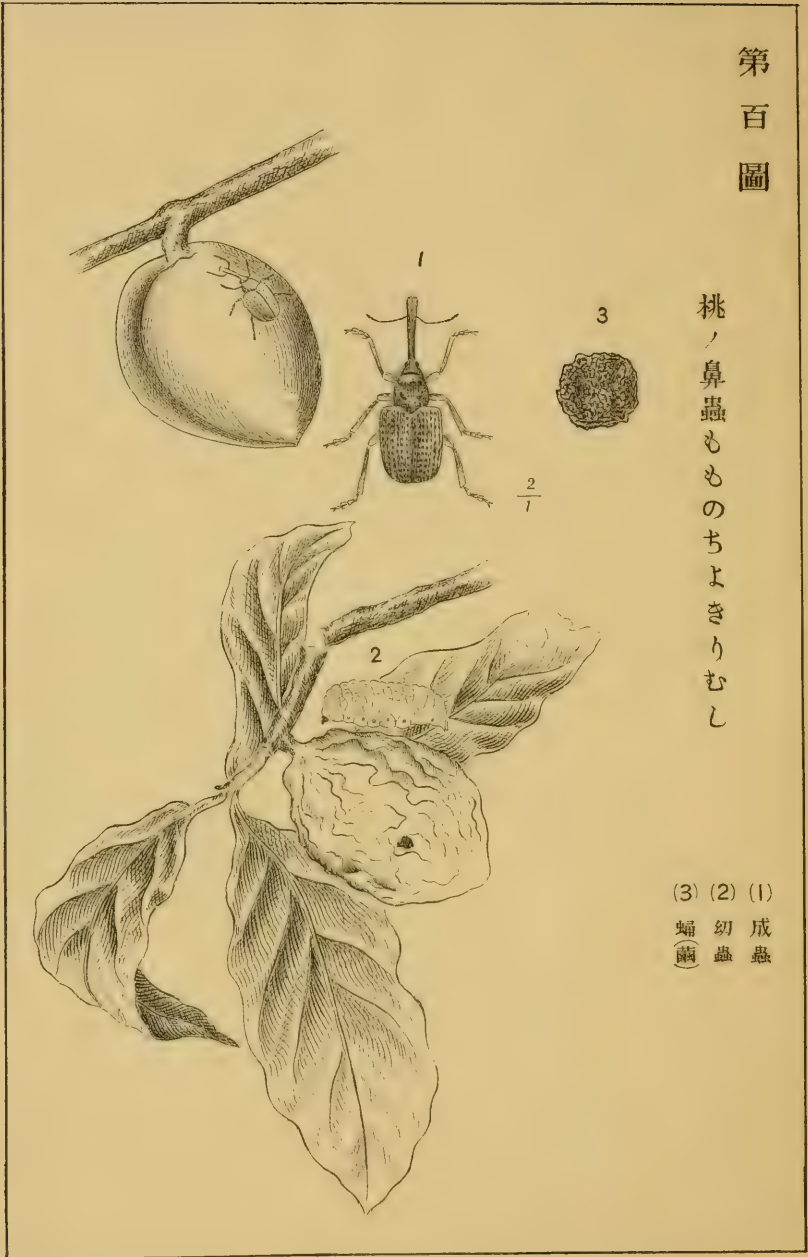
○經過習性 成蟲ハ六七月ノ頃顯ハレ長吻ヲ以テ果實ニ孔ヲ穿テ後、尾端ヲ其孔ニ當テ一個ノ卵子ヲ產下シ後、一種ノ膠質液ヲ以テ孔ヲ閉塞ス早蟲ノ既ニ産卵シ終リタル頃ハ蟲飛ビ來リテ其果實ヲ架スル枝ニ止マリ其枝ノ周リノ半バヲ咬ミ切ルヲ以テ爲メニ時ノ經過ト共ニ其局部、折レテ垂下シ幼蟲ノ蛹化セントスル頃、恰カモ地上ニ落下スルニ至ル幼蟲ハ直チニ孔ヲ穿チテ果外ニ出デ地中ニ入り土塊ヲ纏テ球形ノ繭ヲ營ミ其内ニ越年ス翌春ニ至リテ蛹化シ五、六月頃ニ至リテ羽化スルノ前述ノ如シ蛹ハ白色ニシテ既ニ成蟲ノ具有セル口吻、脚、翅等ヲ具フ

○驅除豫防法

(一)五、六月頃成蟲(象鼻蟲)羽化スレバ樹枝ニ昇リアルヲ以テ朝夕急ニ樹幹ヲ動搖スレバ皆脚ヲ縮小シテ地上ニ落ツベシ此場合ニハ豫メ根邊ノ雜草ヲ除キ置キ

第百圖

桃ノ鼻蟲もものちよきりむし



(1) 成蟲
(2) 幼蟲
(3) 蛹(爾)

- (二) 此害蟲ニ罹リタル果實ヲ採リテ深ク地中ニ埋ムルカ若クハ燒キ拂フベシ大ナル蟲孔ヲ穿チ之レヨリ褐色ノ蟲糞ヲ出スヲ以テ容易ニ其存在ヲ認メ得ベシ若シ之レヲ驅除セザレバ甲果ヲ食盡シテ乙果ニ移ルコアリ
- (三) 梨花ノ凋落後、樹一回ニ前述ノ如ク石油乳劑ヲ灌注シ其蠶入セントスル幼蟲ヲ殺スベシ又前述ノ亞砒酸鉛、綠色砒石ヲ用フルモ可ナリ

○桃ノ象鼻蟲(ものちよきりむし)

學名 *Rhynchites heros*, Roel.

昆蟲學上ノ地位 鞘翅目、象鼻蟲科

被害植物 桃、梨、苹樹(枇杷?)類

○成蟲 體長三分幅一分五厘、口吻二分餘、體ハ光澤アル赤紫色ヲ呈シ口吻長ク殆ント水平ニ突出ス其中間ニ棍棒狀ノ觸角ヲ具有ス翅鞘ハ略ボ四角形ニシテ多數ノ點刻ヲ有シ尾端少シク細シ胸部ハ略ボ圓柱形ニシテ幅翅鞘ノ半バニ過ギズ全體堅牢ニシテ暗褐ノ短毛ヲ簇生ス

及ビ尾脚ハ疣狀ニ退化ス

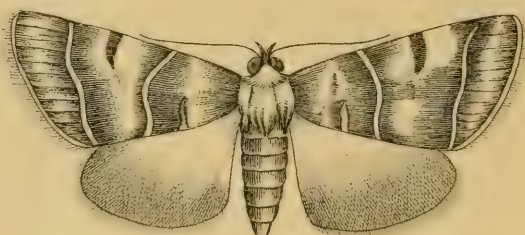
○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ第一回ノモノハ七月中旬ニ出
 デ第二ノモノハ九月下旬ヨリ十月ニ跨リテ顯ハル第二回ノ蛾ハ扁平橢圓ナル黒
 色ノ卵子ヲ樹枝ニ産下シ白色ノ絹絲ヲ以テ之レヲ被包ス其數二十乃至七、八十顆
 アリ卵ハ其儘越年シ翌春、六月上旬ニ至リテ孵化ス幼蟲ハ稚果ヲ索メテ離散シ各
 一個宛蠹入ス果柄ハ常ニ絹絲ヲ以テ纏綿セラル、ガ爲メニ落下スルコトナシ凡ソ
 三週間餘ヲ經テ果中ニ蛹化ス蛹ハ黒褐又ハ赤褐ニシテ常ニ頭部ヲ蟲孔ニ向テ唯
 小量ノ白絹ヲ吐クノミニシテ繭ヲ造ルコトナシ凡ソ二週間餘ヲ經テ羽化ス第二回
 ノ卵子ハ未ダ判然セザレモ定メテ果面ニ一顆ヅ、産下セラル、モノナラン此害
 蟲ニ罹リタル果實ハ黒色ノ蟲孔ヲ有シ褐色糞ヲ排泄スルヲ以テ容易ニ認ムルコ
 ト得ベシ之レヲ驅除セザレバ一果ヨリ他果ニ移リテ食害ス此害蟲ハ本邦有數ノ
 一ニシテ果樹業者ノ最モ苦慮スル所ナリ

○驅除豫防法

(一) 冬季、落葉セルキハ卵子ヲ採集スベシ少シク注意スレバ容易ニ認メ得ベシ

第九十九圖



7



3



2



4

梨ノ果蠹蟲なしのあんくみ

(4)(3)(2)(7)
成 幼 卵 成
蟲 塊 蟲

○梨ノ果蠹蟲(なしのまんくひ)

學名 *Nephopteryx rubrizonella*, Rag.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目 螟蟲科

被害植物 梨等

○成蟲

體長三分乃至四分、翅ノ開張七分乃至九分、前翅ハ灰褐又ハ灰黒ニシテ二個ノ黒色ナル細横線アリテ殆ント翅ヲ三等ニ分ツ外縁ニ近キ黒線ハ其外側ニ翅底ニ近キ黒線ハ内側ニ各一條ノ灰色線ヲ有ス尙ホ此二黒線ノ中間ニ一個ノ短カキ黒線アリテ之レヨリ往々細線トナリテ其内縁ニ達スルヲモアリ此外内縁ノ中央部及ビ外縁ニ接シテ灰色ヲ呈スル部分アリ外縁ニ近ク黒色ノ點線ヲ有シ外縁ニハ光澤アル短縁毛アリ後翅ハ暗灰色ニシテ翅底ニ近キ部分ハ多少淡色ヲ呈シ光澤ヲ帶ビ胸部ハ前翅ト同色ニシテ腹部ハ少シク淡色ナリ

○幼蟲

充分成長スルキハ六分乃至七分ニ達ス初メハ白色ナレモ成長スルニ從ヒ淡赤褐ヲ呈ス頭第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黒褐ヲ呈シ體ノ所々ヨリ淡褐ノ短毛ヲ生ズ體ハ紡錘狀ニシテ第六、七、八ノ三節最モ大キク胸脚ハ黒褐ニシテ腹脚

ヲ有シ前翅ヨリハ遙カニ小形ナリ頭、胸、腹及ビ脚ハ何レモ翅ト同色ニシテ脚ニハ暗色ノ部分アリ腹部ニハ十四五個、胸部ニハ五、六個、翅ト同様ノ黑褐紋ヲ散在ス下唇鬚ハ突出シ觸角ハ割合ニ長ク殆ント尾端ニ達ス

○幼蟲 充分、成長スルルハ七分内外ニ達ス初メハ白色ニシテ黑頭ヲ有スレモ老成スルニ從ヒ黃色ヲ呈シ少シク赤味ヲ帶ブ頭部ハ褐色、第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ淡褐ヲ呈シ尙ホ第二節ヨリ尾節ニ至ルマデ各節、十個乃至十四個ノ淡褐紋アリテ之レヨリ一、二ノ短毛ヲ生ズ其形ハ紡錘狀ニシテ梨ノ果蠹蟲ニ酷似ス氣門ハ黑褐ナリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘地中ニ越年シ翌春ニ至リテ蛹化シ次デ蛾化スルコト及ビ其產卵ノ狀ニ至リテハ前述、桃ノ小果蠹蟲ニ異ナルナシ第一回ノ蛾ハ六月ニ出デ第二回ハ八月ノ中旬乃至下旬ニ顯ハル其幼蟲ノ形、大ナルヲ以テ從テ其加害モ旺ナリ蛾ハ燈火ニ飛來スルノ性アリ

○驅除豫防法 同前

桃ノ果蠹蟲
もものこゝろむし



- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 被害ノ狀



回ノ蛾ハ六、七月頃ニ出デ一顆宛、卵子ヲ桃果ニ附着ス但シ二、三粒ノ卵子ヲ一果ニ産下スルコアリ卵ハ球形ニシテ黄色ヲ呈シ徑、凡ソ一厘一毛、卵ハ數日ノ後、孵化ス其初メテ孵化シタルモノハ桃果ヲ走り廻リ適當ノ場所ヲ得テ之レヨリ蠹入ス此害蟲ニ罹リタル果實ハ落下シ易ク内部ヲ食盡シ蟲糞ノミヲ以テ之レヲ充ス爲メ歴スルキハ甚ダ軟カク且ツ一種固有ノ色ヲ顯ハス第二回ノ蛾ハ八月頃ニ出デ稀ニ九月頃ニ見ルコモアリ

○驅除豫防法 第一ト同様ノ方法ヲ行フベシ

○桃ノ果蠹蟲(ものしんくゐ)

學名 *Astura punctiferalis*, Guen.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 桃等

○成蟲 體長四分翅ノ開張九分五厘、前翅ハ濃色ニシテ細長ク略ボ三角形ヲ呈シ二十五六個ノ黑褐紋ヲ散在ス後翅モ同シク濃黄色ニシテ凡ソ十五個ノ黑褐紋

○桃ノ小果蠹蟲(もものひめまんとくひ)

學名 *Carpocapsa perniciosa*, Sasaki.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 桃等

○成蟲 體長二分五厘翅ノ開張六分前翅ハ灰色ニシテ銀色ノ光澤ヲ有シ中央

部ハ暗黒ニシテ更ニ其前縁ニ三個、中央ニ二個、濃色ノ毛塊アリ外縁ニ近ク弓狀ヲ
ナセル暗黒ノ横線アリテ此ハ前縁ノ黒點ト相合ス外縁ハ細キ暗黒條ニテ分界セ
ラレ之レヨリ長縁毛ヲ簇生ス後翅ハ灰黒ニシテ光澤ヲ有シ同シク長縁毛ヲ生ス
頭、胸部ハ暗色ナレモ腹部ハ灰色ヲ呈ス

○幼蟲 充分、老熟スレバ四分乃至五分ニ達シ其大體ノ形狀ノ如キハ前種ト異
ナル所ナシト雖モ各節ニ於ケル疣狀紋ハ淡褐ヲ呈シ之レヨリ生ズル毛ハ長クシ
テ多少褐色ヲ帶ブ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ充分、老熟スレバ桃果ヲ辭シテ
地下ニ入り一、二寸ノ處ニ灰白ノ繭ヲ造リテ其儘越年シ翌春ニ至リテ蛹化ス第一

第九十七圖



桃ノ果蠹蟲

もものひめあらくん

(1) (2) (3)

成蟲
幼蟲
被害桃

日 本 害 蟲 篇

子ヲ食害ス充分、老熟スレバ果實ヲ辭シテ地上ニ下リ更ニ樹幹ニ昇リテ皮下、其他適當ノ場所ヲ求メテ紙狀ノ白繭ヲ造リ其内ニ越年シ翌春ニ至リ蛹化ス蛹ハ初メハ淡黄ナレドモ一兩日ノ内ニ褐色ニ變ズ蛹期ハ凡ソ二週間ニシテ次デ羽化ス稀ニ二回ノ羽化ヲナスコモアリ此害蟲ニ懼リタル果實ハ落下シ易ク未ダ幼蟲ノ充分成熟セザル前ニ果實ノ落下スル場合ニハ更ニ樹幹ニ上リテ他ノ果實ニ蠹入スルコモアリ

(附記)此害蟲ハ嘗テ米國ヨリ本邦ニ輸入セラレテ今ヤ北海道並ニ南部地方ニ於ケル苹果ニ大害ヲ加ヘツ、アリ

○驅除豫防法

- (一) 冬期ハ樹幹ノ剝離セントスル皮下ニ越年スルモノナレバ早春、此等ノ皮ヲ剝キ取リテ燒キ拂フベシ又襪褌布ヲ樹幹ニ纏ヒ置キテ結繭所ヲ造リ誘殺スベシ
- (二) 他ハ前種同様ナリ

○ 苹樹ノ大果蠹蟲(こつどりん)

學名 *Carpocapsa pomonella*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 苹樹、梨等

○ 成 蟲

體長三分、翅ノ開張七分、前翅ハ暗灰色ニシテ褐色ノ横線多ク外縁ト後縁ト相接スル所ニ一個卵形ノ暗灰紋アリテ中央ニ更ニ蛇目狀ノ赤褐紋アリ後翅ハ黃褐ニシテ光澤ヲ有シ暗色ノ縁毛アリ體ハ暗褐、腹部ハ殊ニ光澤アリ

○ 幼 蟲

充分成長スルキハ四分餘ニ達ス初メハ前種ト同様ニ白色ナレドモ老熟スルニ從ヒ黃色ヨリ淡赤色ヲ帶ブルニ至ル頭部ハ褐色ニシテ小サク第一節ノ硬皮板ハ淡褐ヲ呈ス尙ホ體ノ各部ニ小隆起アリテ之レヨリ各灰色ノ一毛ヲ生ズ幼蟲期ハ三週間又ハ四週間ナリ

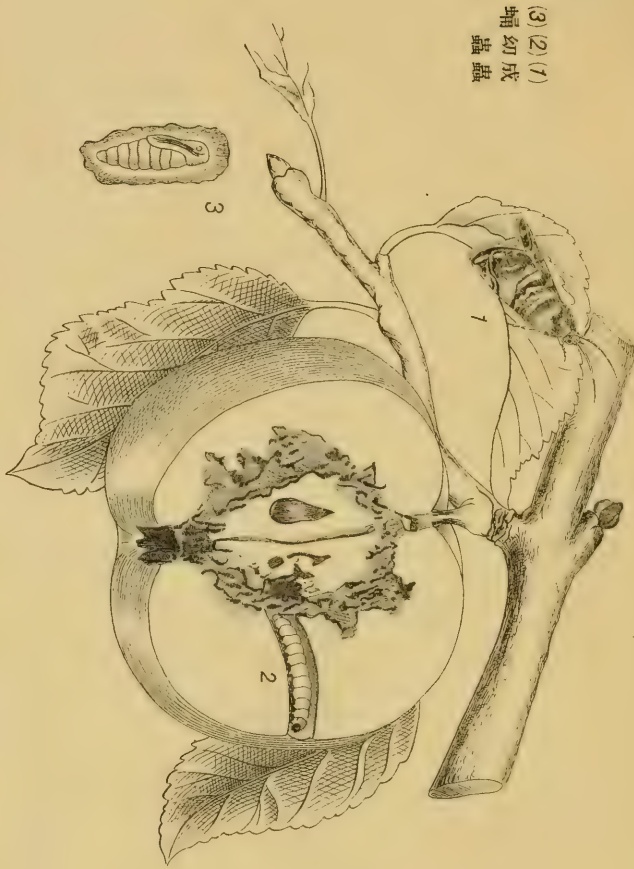
○ 經 過 習 性

成蟲ハ六月乃至七月ニ出デ黃色ノ卵子ヲ一顆宛、果側ニ產下ス又果萼ニ產下スルコトモアリ卵ハ凡ソ八日間ニシテ孵化シ果中ニ蠹入シテ重ニ種

第九十六圖

華櫛ノ大果蠹蟲

おつどりん



ヲ可トス

(二) 害蟲ヲ含有スル果實ハ落下シ易シ故ニ例年、其被害患アル果樹園ニアリテハ果實ノ全ク熟セザル前ニ樹幹ヲ少シク振蕩シ其落チタルモノヲ拾ヒ去ルベシ左ラバ翌年ニ於ケル害蟲ノ猖獗ヲ防ギ得ベシ

(三) 落下セル果實ハ直チニ拾ヒ探ルベシ然ラザレバ幼蟲ハ三十分内外ニシテ果實ヲ破リ地下ニ入ルモノトス故ニ落下後、長時放置セラレタルモノハ拾ヒ去ルノ必要ナシ若シ拾ヒ去ル場合ニ小孔ヲ有スルキハ幼蟲ノ既ニ果實ヲ辭シテ地中ニ入りタルモノト知ルベシ此場合ニハ其果實ノ存在セル所ニ熱湯ヲ灌注スベシ

(四) 落果後、果實ノ豆大トナリタル頃、砒石劑ヲ用ユベシ其詳細ナル記事ハ拙著害蟲驅除全書ヲ見ヨ

(五) 石油乳劑三、四十倍ノモノヲ落花後、時々一圓ニ灌注スベシ其卵子ヨリ孵化シテ果中ニ蠢入セントスル幼蟲ヲ殺シ得ベシ

(六) 苹果ヲ輸入シタル場合ニハ其箱底ニ注意シ其結繭セルモノヲ殺スベシ

○幼蟲 充分成長スルキハ二分餘ニ達ス初メハ乳白ニシテ頭部第一節及ヒ尾

節ノ硬皮板ハ黒色ヲ呈シ成長スルニ從ヒ白色ヲ呈シ黒色ノ部分ハ褐色ニ變ズ尙ホ蟲鏡ヲ以テ注意スルキハ各節ニ小隆起アリテ之レヨリ一本宛ノ粗毛ヲ生ズ

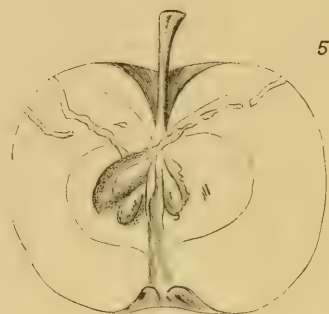
○經過習性 幼蟲ノ有様ニテ越年スルモノニシテ翌春蛹化ス蛹ハ二層ノ薄

キ白繭ヲ以テ被ハレ常ニ被害樹下ノ地中ニアリ翌春七月頃ニ羽化シ萃樹ノ側面ニ一個若クハ二個ノ卵子ヲ附着ス卵ハ一週間内外ニシテ孵化シ果中ニ入りテ食害ス果肉ニ隧道ヲ造リテ食害スルモノト種子ヲ食スルモノトアリ大凡一ヶ月内外ニシテ老熟シ絲ヲ吐キ地中ニ入り其儘越年ス又遠國ニ輸出セララル、場合ニハ箱底ニ蛹化ス其性燈火ニ飛來セズト雖ヒ糖液ニ集マルモノ、如シ

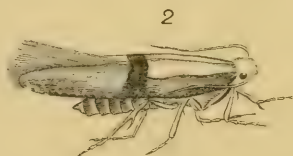
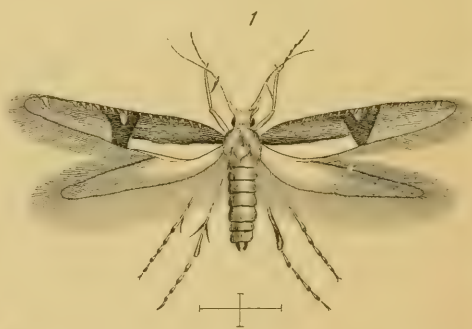
○驅除豫防法

- (一) 此害蟲ハ地中ニ入りテ越年シ翌春、蛹化スルモノナレバ晩秋被害樹ノ根邊ヲ二三寸下位マデ攪拌シ幼蟲ヲシテ寒暖ノ變動ニ遇ハシムベシ是レ歐米ニ於テ普通行ハル、方法ニシテ一ハ以テ植物ノ成長ヲ増進スルノミナラズ害蟲ハ此時最モ脆キガ爲メニ多クハ死スベシ尤モ此時家禽ヲ放チ嘴食セシムル

蟲蠹果ノ樹苹
ひくんあめひのぶんり



(5)(4)(3)(2)(1)
加害ノ状
勿蟲
越年ヒル繭
成蟲背面圖
成蟲



第十章 果蠹蟲類

○ 苹樹ノ果蠹蟲(りんごのひめしんくひ)

學名 *Argyresthia conjugella*, Zell.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、穀蛾科

被害植物 苹樹、みやまな、かまど等

○ 成蟲

體長一分二厘、翅ノ開張三分五厘、前翅ハ細長ニシテ翅底ノ部分最モ廣シ、外縁ニハ長縁毛ヲ裝フ、地色ハ暗灰色ヲ呈シ、灰色及ビ黑色ノ小紋ヲ裝ヘ、内縁ニ黃白色ノ廣條アリテ殆ント翅ノ半バニ至リ、恰カモ切斷セラレタルガ如ク、急ニ終リ、其界スル所ニ黑紋アリ、尙ホ外縁ニ黃白ノ一紋ヲ有シ、之レニ接シテ黑紋アリ、其他、前縁ニ短黃線多シ、後翅ハ前翅ヨリ遙ニ小ニシテ、劍狀ヲ呈シ、暗色ニシテ、長縁毛ヲ具有ス、頭ニハ黃白ノ長毛ヲ密生シ、觸角ハ長ク、各節、相互ニ黑色及ビ黃色ヲ呈シ、基節太クシテ、黃白ノ毛塊アリ、腹部ハ暗灰色ヲ呈シ、脚ハ灰褐ニシテ、黃輪アリ、靜止ノ時ハ翅ヲ以テ腹部ヲ卷キ、其末端ヲ舉グ

ヲ 害 ス ル ノ ミ ナ ラ ズ 害 蟲 ノ 其 内 ニ 入 ル 可 モ 少 ナ シ

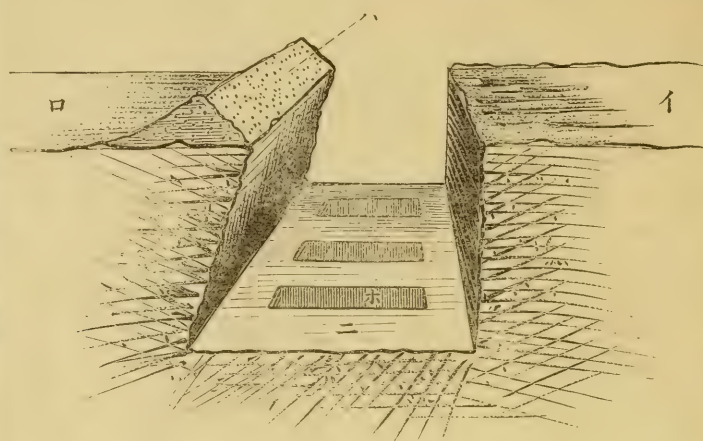
入セバ決シテ上昇シ能ハザルノ構造ナラシムベシ而シテ降雨ニ遇ヒ孔側固結スルルハ更ニ「レキ」ヲ以テ崩レ易クナスベシ又糊糠或ハ粟糠ヲ無害地ノ一方ニ敷クモ可ナリ害蟲昇リ來ルモ糠ト其ニ轉ビ溝底ニ落ツベシ若シ害蟲夥シク陥リテ孔ヲ充塞スルノ場合ニハ之レヲ埋メ更ニ其傍ニ開堀スベシ

(六) 根切蟲ノ害ヲ防グニハ新聞紙ヲ三、四枚ニ折リテ二、三寸ノ高サトナシ之レヲ以テ輪ヲ造リ作物ヲ圍繞シ置クルハ害蟲來ルモ決シテ之レヲ越ヘテ侵入セズ此紙ハ露ニ遇フモ幼芽成長シテ被害患ナキニ至ル迄充分保持セシムルヲ得ベシ但シ「ブリキ」ニテ輪環ヲ造ルルハ土中ニ於ケル濕分ノ流通ヲ遮リ寧ロ害アリ

(七) 石油乳劑ヲ灌注スベシ夜盜蟲ノ幼稚ナルルハ日夜ヲ分タズ食害スルモノナレバ何時ニテモ行ヒ得ベシ同劑ニ三十倍ノ水ヲ混シ唧筒ニテ注グベシ其成長シタルモノヲ殺スニハ二十倍乃至二十五倍ノ水ヲ混加スベシ

(八) 亞麻ノ如キ作物ニ夜盜蟲ノ起リタル場合ニハ寒冷紗ニテ長橢圓形ノ網ヲ造リ之レニテ掬ヒ捕フベシ但シ掬フルハ徐々ニナスベシ急激ニ行フルハ作物

第九十四圖 明溝設置法



(イ) 地害被 (ロ) 地害被未 (ハ) 堀上りタル土 底溝(ニ) 底溝(ホ) 孔

ニ遇ハシムベシ左ラバ多クハ來春迄ニ死去
スベシ

(五)

明溝ヲ切り甲地ヨリ乙地ニ移轉スルモノヲ
遮斷スベシ明溝ヲ切ル方法アリ其構造ハ田
圃ノ一方若シクハ周圍ニ深幅共ニ一尺位ノ
明溝ヲ切り開キ其被害ノ恐レアル地ノ一邊
ヲ垂直トナシ堀リ上ダタル土ハ無害地ノ方
ニ積ミ其溝中ニ他物ナキヲ要ス蓋シ之レヲ
傳フテ害蟲ノ侵入スルコアリ又溝底ニ更ニ
三間乃至四間程ヲ隔ダテ、深サ一尺程ノ穴
ヲ穿テ置クハ害蟲ハ溝底ヲ沿ヒ逃路ヲ求
ムルノ際此孔ニ陥リテ遂ニ免レザルニ至ル
此法ニ就テ最モ注意ヲ要スルモノハ即チ第
二ノ深孔ト溝側トニシテ害蟲一度此内ニ陷

(二) 潜所ヲ造リ地蠶類ヲ誘引スベシ蓋シ此等ノ蟲類ハ晝間、日光ノ直射ヲ忌ムヲ以テ皆根邊ノ土塊間、若クハ塵芥等ノ下ニ潜隱ス昨年、夜盜蟲群生ノ際、苜蓿ツメグサヲ以テ徑一尺程ノ束把ヲ造リ之レヲ亞麻圃ニ投シ置キ一方ニハ鈎竿ノ如キ竹ヲ以テ亞麻莖ヲ拂フテ害蟲ヲ落下セシメ二三時間ノ後、苜蓿ニ集リタル害蟲ヲ箕中ニ振ヒ落シ甚ダ好結果ヲ得タリ其一束ニ集リタル數ノ多キハ百九十頭ニシテ平均百四五十頭アリタリ又夜盜蟲ハ苜蓿ヲモ食スルヲ以テ一ニハ食物誘殺法トモナルナリ

(三) 壓殺スベシ夜盜蟲ヲ壓殺スルニ用ユル器具ハ土塊破碎器、柴耙、轉壓器、整地板等ナリ此内最モ農家ニ應用シ得ベキモノハ轉壓器(ロウライ)ニシテ特ニ生木ヲ以テ製スルヲ宜シトス(徑一尺五寸長サ)之レニ軸栓ヲ兩端ニ打チ込ミ之レニ網ヲ附シ馬ニ牽引セシメ縱横ニ被害地ヲ鎮壓スルニアリ尤モ犁ヲ以テ鋤起シタル後ナレバ更ニ有効ナリ其地表ニアルモノハ壓殺セラレ地下ニアルモノハ壓迫セラレテ羽化スルモ地表ニ出ヅルコ能ハズ

(四) 晩秋收穫後ハ必ズ鋤起シテ土中ニ蛹化セルモノヲ地表ニ曝露シ寒暖ノ變動

落シテ空シク捕殺セラレ雨天ノ節ハ溶液ヲ稀薄ニナシ且ツ其固有ノ香氣ヲ減却スルノ憂アリ左ナキダニ香氣ハ常ニ減却スルモノナレバ此場合ニハ豫メ製造シ置キタル新鮮ナル糖液ヲ加ヘ絶ヘス香氣ヲ保持セシムルヲ必要ナリ地蠶蛾其他如何ナル蟲類ニセヨ一度此井中ニ陷入シタルモノハ再ヒ井外ニ出ヅルヲ能ハズ糖液ハ粘着性ナレトモ蛾類ノ脚翅ヲ固着セシムル程ノ粘着力ヲ有セズ然ラバ何故ニ再ヒ井ノ外ニ出ヅルヲ能ハサルカト云フニ彼等ハ充分ノ糖液ヲ吸收スルヲ以テ腹之レガ爲メニ膨大シ加フルニ其脚ヲ置ク所ハ溶液ナルヲ以テ飛バント欲スルモ脚ニ抵抗力ナキ爲メ飛ブヲ能ハズ趾ヒ登ラントスルモ井ノ内側ハ滑澤ナルヲ以テ登ルベカラズ而シテ遂ニ其儘死去ス尤モ多數ナル蟲類ノ陷入スル時ハ既ニ死セルノ蟲類ヲ足臺トシテ飛去スルヲアレバ豫メ死蟲ヲ毎朝除去シ置カザル可カラズ爰ニ一ノ注意ヲ要スルコトハ燈火誘殺法ト併行セシムルコト是ナリ即チ昨年札幌農學校第一農場ニ於テ余ノ試験シタル結果ニヨリテ見レバ燈火ニ近接シテ置キタル井ニハ暗所ニ置キタルモノヨリ二倍ノ害蟲ヲ得タリ

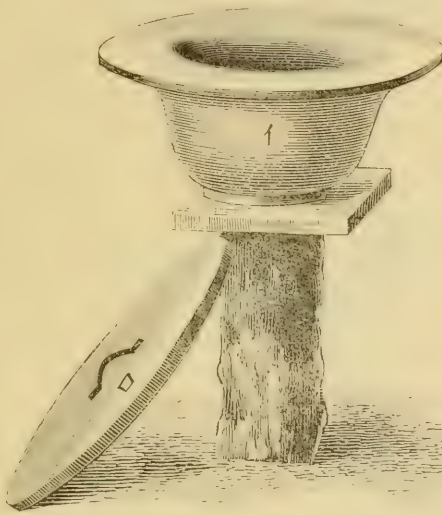
一般ノ驅除豫防法

(一) 糖液ヲ以テ誘殺スベシ糖液ノ製法ハ極メテ簡單ナルモノニシテ先ヅ黑砂糖一斤ヲ鍋ニ入レ之レニ水五勺ヲ注加シ

第九十三圖

糖蜜誘殺法 (口同) 蓋

^イ糖蜜ヲ入レタル井



徐々武火ヲ以テ熱シ漸次溶解スルヲ待テ之レヲ下シ置キ糖液ノ冷却セシ後砂糖一斤ニ對シテ二合ノ粗酒ヲ混シ能ク調和スル様攪拌スベシ(但シ糖液ノ熱セシモノニ酒ヲ混ズルハ酒精分發散シテ効驗少ナキヲ以テ注意スベシ)後之レヲ大凡六個ノ井(經一尺二三寸深サ三四寸位ノモノ)ニ深サ一寸位ニ入レ田圃ノ所々ニ碇ヲ立テ其上ニ据ヘ置クベシ又晝間及ビ雨天ノ節ハ井ニ密着スルノ蓋

ヲ以テ蓋ヒ置クベシ然ラザレバ晝間ハ寄生蠅若クハ蜜蜂ノ如キ有益蟲ノ陷

シ曇天、若クハ直接、日光ヲ遮ヤル作物間ニアリテハ晝夜ヲ分タズ食害ス一昨年、札幌地方ニ群生セシ際、晝間ハ粟穂ノ間ニ潜伏セルモノ少ナカラザリキ幼蟲期ハ普通一ヶ月間ニ亘リ第二回ノ幼蟲ハ九月中旬ニ至リテ蛹化シ十月上旬、蛾化セリ蛹ハ赤褐ニシテ地下極メテ淺ク存在シ殆ント其頭部ヲ顯ハセルモノアリ蛾ハ其儘土塊、枯草間ニ越年シ翌春ニ至リテ産卵ス又稀ニ幼蟲、若クハ蛹ノ有様ニテ越年スルモノアリ燈火ニ飛來スルノ性ナシト雖モ好マデ糖液ニ集マル又花間ニ徘徊シ花蜜ヲ吸收スルモノアリ

因ニ記ス此害蟲ハ米國ニモ産シ同シク禾本科植物ヲ害スルヤ頗ル大ナリ余ハ嘗テ米國農務局ニ此害蟲ヲ送附シ其學名ヲ籬メタルガ北米ト同種ノ昆蟲ヲ産ストハ又奇ト云フベシリ一氏日本及ビ朝鮮、鱗翅類目錄ニヨリテ見ルニ地蠶蛾類ノミニテ日米共有ノ昆蟲ハ十一種アリ

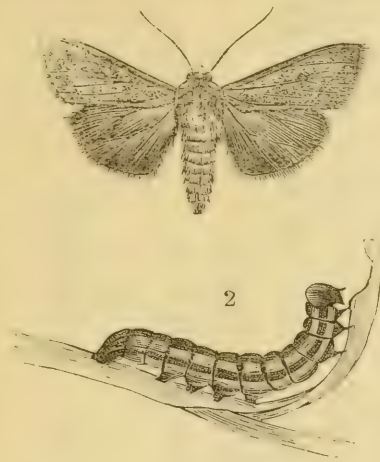
○ 驅除豫防法 前種同様

リ其内、氣門下線ハ淡綠黃ニシテ白線ヲ有シ氣門上線ハ黑色ニシテ其中央部少シク淡ク亞背線ハ暗綠黃ニシテ白線アリ背線ハ白色ニシテ細ク其中央部ハ不明ナリ頭ハ光澤アル黃褐ニシテ又少シク綠色ヲ帶ブルモノアリ

第九十二圖

あわよどうむし

(1) 成蟲 (2) 幼蟲



◎ 經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノナ

レモ稀ニ三回ノ發生ヲ見ルコトモアリ蛾ノ有様

ニシテ越年ス蛾ハ翌春、禾本科植物ノ折合セル

葉内、若クハ袴内ニ卵子ヲ産下スルモノニシテ

常ニ白色ノ膠質物ヲ以テ之レヲ蓋フ其一塊ノ

卵數ハ十乃至七十個ニシテ一雌ノ産スル總數

多キハ七百三十七個ニ達ス卵子ハ黃白ニシテ

饅頭狀ヲナス蛾ハ青草ヨリ寧ロ枯草ヲ擇ビテ

産卵スルノ傾キアリ産卵後、大凡十日間ニシテ

蛹化シ四齡迄ハ普通ノ根切蟲ト同様ニ加害ス而シテ其數ノ多キ時ハ之レヨリ一

群、方向ヲ等クシ甲地ヨリ乙地ニ移リテ大害ヲ加フ晝間ハ草根、土塊等ノ間ニ潜伏

○經過習性 前種同様ノ經過習性ヲナス

○驅除豫防法 前種同様ノ方法ヲ施スベシ

○粟蠶(粟ノ夜盜蟲)あわよとうむし

學名 *Leucania unipunctata*, Haw.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠶蛾科

被害植物 粟、麥、蕎麥、稗、竹、蘆、生薑、^{シヤウガ}牧草類

○成蟲 體長六分、翅ノ開張一寸三分乃至一寸五分、前翅ハ灰黃色ニシテ中央ニ

一個ノ小白紋ヲ有シ其周圍少シク暗色ナリ腎狀紋及ビ環狀紋ハ不明ニシテ單ニ

黃色ヲ呈シ前縁ノ角端ヨリハ暗色ノ短斜條ヲ出シ其角ヲ二等分ス其他所々ニ小

黒紋ヲ散在ス後翅ハ灰色ニシテ光澤ヲ帶ビ外縁ニ至ルニ從ヒ暗色ヲ呈シ翅脈ハ

黒色ナリ體ハ前翅ト同色ナリ

○幼蟲 充分成長スルルハ一寸四分乃至一寸七分ニ達ス色澤ハ種類ニヨリ大

ニ異ナレ^ル先ヅ地色ハ暗緑ニシテ腹部ハ淡色ヲ呈シ側面ニハ三條ノ太キ縦線ア

日 木 害 蟲 篇

○ 蕪菁ノ地蠶(かぶらのねきりむし)

學名 *Agrotis segetum*, Schiff.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、糖蛾科

被害植物 蕪菁、煙草、甘菜、馬鈴薯、麥類、玉蜀黍類

○ 成蟲

體長六分餘、翅ノ開張一寸四五分、前翅ハ數種ニヨリテ異ナリ、灰褐色ナルモノト、灰色ナルモノトアリ、環狀紋及ビ腎狀紋ノ周緣ハ黑色ナルヲ以テ判然ス、栓狀紋ハ黑色ニシテ尖ガリ、横線ハ多少皆、波狀ヲナス、後翅ハ光澤アル白色(⊖)ニシテ、又灰褐色ノ丁モアリ、胸部ハ灰褐色ニシテ、少シク暗色ヲ帶ブ、モ腹部ハ灰褐色ニシテ、少シク淡色ナリ

○ 幼蟲

充分老熟スル時ハ一寸六七分ニ達ス、全體暗黃色ニシテ、少シク綠色ヲ混シ、又時ニ少シク黃赤若シクハ紫色ヲ顯ハス、丁モアリ、頭及ビ第一節ノ背上ハ暗褐色ヲ呈シ、背線及ビ亞背線ハ暗色ニシテ、殊ニ背線ハ波狀ヲナシテ、二分ス、但シ個種ニヨリテハ該線不明ナルモノモアリ、腹面ハ灰白ナリ

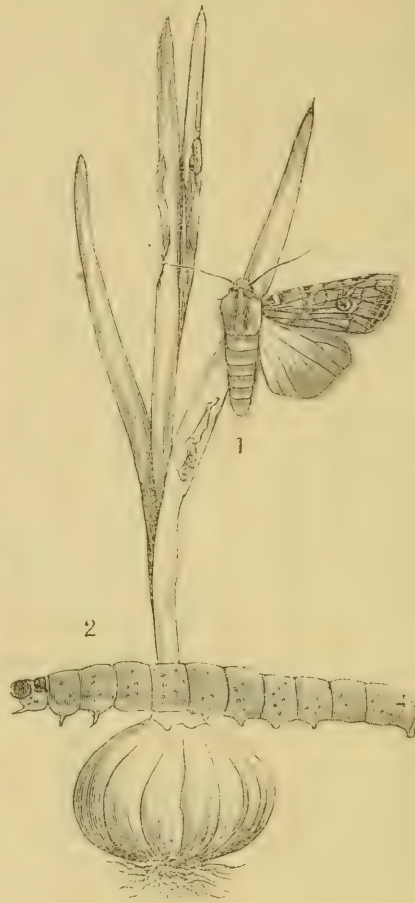
ク 黒 色 ナ 帶 ズ

○ 幼 蟲

第 九 十 一 圖

玉 葱 ノ 地 蠶 (ねぎきりむし)

(1) 成 蟲 (2) 幼 蟲



達 ス 色 ハ 前 種 ヨ
リ 少 シ ク 淡 色 ニ

シ テ 其 各 節 ニ 於

ケ ル 瘤 狀 ノ 黒 紋

ハ 亮 毛 異 ナ ル 所

ナ シ ト 雖 モ 背 線

及 ビ 亞 背 線 ノ 痕

跡 ア リ テ 此 部 分

ハ 多 少 濃 色 ナ 呈

ス 而 シ テ 其 異 ナ ル 所 ハ 頭 部 ノ 大 半 黒 褐 色 ナ ル ニ ア リ

○ 經 過 習 性

前 種 ト 同 様 ナ リ

○ 驅 除 豫 防 法

同 前

スルヲ以テ俗ニ根切蟲ノ名アリ其蛹化セルモノハ早春、蛾化スルモ未ダ其蛹化セザルモノハ早夏ニ至リテ蛹化シ後、次デ蛾化ス蛹ハ他ノ地蠶ト同様ニシテ赤褐ナリ蛾ハ好テ糖液ニ飛來スルヲ以テ糖蛾ノ名アリ又燈火ニ來ルノ性アリ

○驅除豫防法 同種同様ノ方法ヲ行フベシ

○玉葱ノ地蠶(ねぎきりむし)

學名 *Agrotis ingrata*, But.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目糖蛾科

被害植物 玉葱、葱、甘藍、蕪菁等

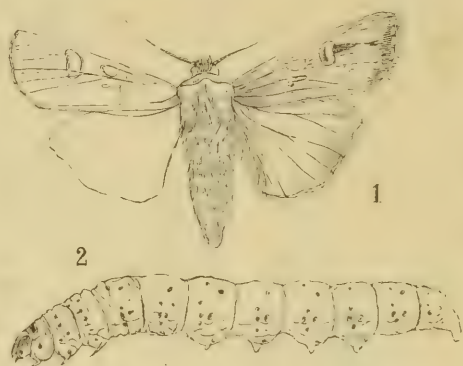
○成蟲 體長六分翅ノ開張一寸二分乃至一寸五分、此ニハ變種多ク從テ彩色モ

數種ニヨリテ大ニ異ナレモ其地色ハ先ヅ灰黒ナリ腎狀紋及ビ環狀紋ノ周縁ハ黒褐色ヲ呈シ明亮ナリ綫狀紋ハ小ニシテ黒色ナリ半横線及ビ前横線ハ明亮ナレモ後横線ハ時ニ不明ナルヲアリ外縁ニ於ケル波狀線ハ灰色ニシテ太キモノト細キモノトアリ尙ホ外縁ニハ七個ノ黒紋ヲ列ヌ後翅ハ光澤アル灰色ニシテ外縁少シ

シ之レヨリ一本ノ短毛ヲ出ス是レ地上ニ生活セル地蠶ノ特性トモ云フベシ背線
 亞背線及ビ氣門線ト稱スベキモノハ判然セズ

第九十圖

○經過習性 年二回發生ス第一回ハ五、六、七月
 ニ亘リ第二回ハ八、九月、時ニ十月ニ出ヅルモノモア
 リ以上如斯其發生ノ時期ヲ異ニセルヲ以テ年ニ數
 回ノ孵化期ヲ有スルモノ、如シ普通第二回ニ發生
 シタルモノハ八月ニ產卵ス鰻頭狀ノ卵子ヲ一個宛
 或ハ作物根、或ハ落下セル葉上、或ハ直接、地上ニ產下
 スルモノニシテ其總卵數ハ二百内外ナリ卵ハ一週
 乃至二週間ヲ經テ孵化シ秋期大凡三齡位ニ成長シ
 地中ニ入りテ卵形ノ穴ヲ掘リ其内ニ越冬スル者ト
 又充分老熟シテ蛹化スルモノトアリ是レ秋季ニ於



またなねきむし(1)成蟲(2)幼蟲

テ鋤起ノ必要アル所以ニシテ之レニコリテ其大半ヲ殺シ得ベシ晝間ハ作物根邊
 ノ地下二、三寸ノ所ニ潜伏シ其根ヲ食害ス夜ニ至レバ地中ヨリ出テ作物根邊ヲ害

○甘藍ノ地蠶(たまなねきりむし)

學名 *Agrotis sulfusa*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、糖蛾科

被害植物 甘藍、胡蘿蔔其他蔬菜類

○成蟲

體長八分、翅ノ開張一寸五六分、前翅ハ光線ノ工合ニヨリテ其色澤ヲ異ニスレド先ヅ黒褐ニシテ少シク赤味ヲ帶ブ腎狀紋ハ判明ニシテ此外側ニ相接シテ一個外方ニ尖レル黒紋アリ尙ホ之レニ對シテ外縁ヨリ二個ノ黒紋ヲ出シ内方ニ尖ガル環狀紋ハ多少、不正形ニシテ外方ニ少シク尖ガリ栓狀紋ハ細ク其周縁ハ黒色ナリ後横線及ビ前横線ハ判然ス後翅ハ光澤アル灰色ニシテ外縁ハ少シク黒色ヲ帶ブ體ハ前翅ト同色ナリ

○幼蟲

充分成長スル時ハ一寸七八分ニ達ス地色ハ暗黃、頭ハ暗褐ニシテ割合ニ大ナリ光澤ヲ帶ビ弓狀ノ褐色紋アリ體ハ圓柱形ニシテ太ク第一節ノ硬皮板ハ黒褐、皮膚ハ半透明ニシテ光澤ヲ帶ビ各節ニ數個ノ黒紋アリテ少シク瘤狀ニ隆起

テ頭及ビ頸ノ毛ハ灰色ヲ帶ビ後者ニハ黒帶アリ

○幼蟲 充分成長スル時ハ一寸三四分ニ達ス地色ハ灰黄ニシテ背上ニハ少シ

第八十九圖

甘菜ノ地蠶



ク暗赤色ヲ帶ビ各節ニ四個ノ褐紋點アリ背線及ビ亞背線ハ褐
色ニシテ其内ニ白點ヲ散在ス初メノ二節ノ背上及ビ尾節ノ硬
皮板ハ綠褐ニシテ第十一節ニハ白色ノ帶アリ體側ハ灰黄ニシ
テ氣門線ハ白色、氣門ハ赤色、腹面及ビ脚ハ灰綠ナリ體形ハ前種
ニ酷似ス頭ハ赤褐ニシテ白點ヲ散在シ二個ノ白條アリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様

ニテ越年ス翌春、蛹化シ次テ六月頃、蛾化ス蛾ハ前種同様ニ卵子
ヲ一個宛産下スルモノニシテ其形、上面ハ球形ニ膨起シ縱溝ヲ
有シ下面ハ平タク色ハ綠黄ニシテ中程ニ暗色帶アリ第二回ノ
蛾ハ九月十月頃ニ顯ハル蛹ハ褐色ニシテ尾端ニ一個鈎狀ノ附屬物アリ土窩ヲ造ル
コハ前種ト異ナラズ

○驅除豫防法 前同様ノ方法ヲ行フベシ

間、飛翅ス幼蟲ハ前述ノ夜盜蟲ニ酷似シ同様ニ加害ス蛹モ亦同様ニシテ區別スル
ヲ難シ

○驅除豫防法 同前

○甘菜ノ地蠶(かんさい)のよとうむし)

學名 *Noctua plecta*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、糖蛾科

被害植物 甘菜、防風、蒿^チ、苜^サ、きくぢさ等

○成蟲 體長五分、翅ノ開張一寸一分、前翅ハ暗赤褐ニシテ前縁ハ腎狀紋迄、灰白

ヲ呈シ翅底ニ黑色ノ縱線アリ前横線及ビ後横線ハ暗色、波狀線ハ黄色、何レモ餘リ
判然セズ環狀紋及ビ腎狀紋ハ灰色ニシテ少シク黄色ヲ混シ此兩者ヲ貫キテ黑色
ノ太キ線アリテ内側ハ尖ル線毛ハ黄褐ナリ後翅ハ白色ニシテ暗黄ヲ混シ前縁角
ノ部分少シク暗色ヲ呈シ中央ニハ淡キ暗色ノ横線アリテ翅ノ裏面ニアル前翅ノ
後横線ハ判然シ後翅ノ横線ニ接續ス後翅ノ前縁ハ黒褐ナリ體ハ前翅ト同色ニシ

線ノ淡緑ナルヲ及ビ亞背線及ビ氣門線ノ間ノ黒綠色ナルヲ是ナリ

○幼蟲

充分老熟スル時ハ一寸五分餘ニ達ス體色ハ種々ナレトモ先ヅ灰黄ニシテ少シク赤味ヲ帶ビ各節ノ背上ニハ二個ノ黒紋アリテ八字形ヲ成ス殊ニ第十一節及ビ十二節ノ紋ハ大ニシテ著明ナリ尙ホ黄白ノ背線亞背線ヲ有スレトモ往々明ラカナラザルモノアリ氣門線ハ白色ニシテ判然ス氣門ハ白色ニシテ其直上ニ各黒色ノ斜線アリ腹部ハ灰黄ヲ呈シ少シク青味ヲ帶ズ頭ハ割合ニ小サク褐色ニシテ二個ノ弓狀黒褐紋アリ

○經過習性

年二回發生ス第一回ノ蛾ハ六月下旬ニ出デ第二回ハ八月下旬乃至九月ナリ第二回ノ幼蟲ハ殆ント老熟スルニ至リ倒木塵芥等ノ下ニ越年シ翌春ニ至リテ蛹化ス蛾ハ卵子ヲ植物根又ハ落下セル枯葉下ニ一個宛産下スルモノニシテ其卵數ハ二百内外ナリ卵ハ一週間乃至二週間ヲ經テ孵化ス幼蟲ハ初メ黄色ニシテ所々ニ黒紋ヲ散在ス大凡四週間ヲ經テ老熟シ次テ蛹化ス後十日内外ニシテ蛾化ス此ハ第二回ノ蛾ナリ此蛾ノ産下セル卵子ヨリ發生シタル幼蟲ハ越年ス蛾ハ好ンデ燈火及ビ糖液ニ飛來ス晝間ハ翅ヲ水平ニ疊ミ土塊塵芥下ニ潛ミ夜

第八十八圖



(4) (3) (2) (1)
蛹 幼 卵 成
蟲 子 蟲

蚕地ノ麻垂
りきねぢのちは

日 木 害 蟲 篇

○亞麻ノ地蠶(はちのぢねきり)

學名 *Noctua ditrapezium*, Bkh.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、糖蛾科

被害植物 亞麻、甘藍、豌豆、玉葱等

○成蟲

體長六分、翅ノ開張一寸三四分、前翅ハ灰黒ニシテ少シク赤紫色ヲ帶テ前縁ノ中央ニ三角狀ノ灰白紋ヲ有シ其附近ハ黒色ナルヲ以テ其紋、顯著ナリ尙ホ前翅ノ中央ニ各一個ノ腎狀紋アリ三角紋ノ外側ニ相接シ更ニ其外側ヨリ淡色ノ横線ヲ後縁ニ送ル又前縁ノ外縁ニ接スル所ニ一個ノ黒紋アリテ之レヨリ淡色ノ波狀線ヲ送リ略ボ外縁ト相併行ス尙ホ其他翅底ニ黒色、灰色ノ二條アリ後翅ハ淡黒色ニシテ光澤ヲ帶ビ内縁ニ暗黄ノ縁毛、多シ觸角ハ絲狀ニシテ少シク赤紫色ヲ帶ビ前胸ノ前縁ニハ灰白ノ鱗毛アリテ輪環ヲナス胸背ハ茶褐ニシテ腹背ハ淡褐ナリ一種(*N. cinigrum*, L.)ト稱シテ該種ニ酷似シ亦同様ノ作物ヲ害スルモノアリ其異ナル所ハ前翅ノ赤紫色ヲ混ゼザルト幼蟲ノ灰綠色ナル背線ノ黃色ナルト亞背

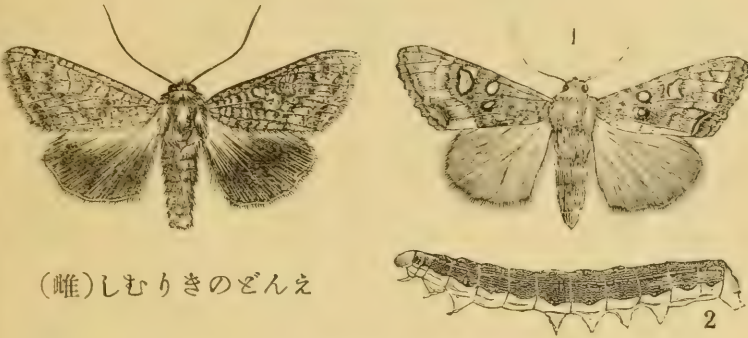
第二其固有ノ彩色ヲ顯ハス大凡一ヶ月ニシテ老熟シ地中ニ入りテ蛹化ス蛾ハ第二回ノ卵ヲ甘藍蕎麥等ノ葉下ニ産ミ蕃殖スルヲ第一回ヨリ甚シク老熟スルモハ地中ニ入りテ蛹化シ其儘越年ス三齡頃迄ハ日中ニモ拘ハラズ食害スレモ四齡ニ至レバ土塊若クハ塵芥ノ下ニ隠レ日没ヨリ出デ食害ス成蟲及ビ幼蟲共ニ燈火及ビ糖液ニ來ルノ性アリ若シ之レニ抵觸スレバ環狀ヲナシテ地上ニ落チ死狀ヲ眞似ス

因ニ記ス此害蟲ハ本邦有名ナルモノニシテ殊ニ北海道ノ如キ之レガ爲メニ年々巨額ノ損害ヲ被ル歐洲及ビ北米加奈太ノ西部ニモ産スト云フ

○驅除豫防法

- (一) 蛾ヲ捕フルニハ燈火誘殺法ヲ行フベシ
- (二) 糖蜜誘殺ヲ行フベシ
- (三) 明溝ヲ切ルベシ
- (四) 秋鋤ヲ行ヒ地中ニ蛹化セルモノヲ撥キ寒温ノ變ニ遇ハシムベシ
- (五) 晝間ハ地下一、二寸ノ所ニ潜伏セルヲ以テ摘殺スベシ

第 八 十 七 圖



(雌)しむりきのどんえ

しむりきのどんえ(1)成蟲(雄) (2)幼蟲

部ニ於ケル班紋ハ餘リ判然セズ腹面ハ黃綠ヲ呈
 ス氣門ハ白色ニシテ其周縁ハ黑色、頭部ハ割合ニ
 小サク黃褐ニシテ少シク綠色ヲ帶ブ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシ

テ第一回ハ六月乃至七月ニ出ダ第二回ハ八月乃
 至九月ニ顯ハレ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ繭ヲ營
 マズ地中ニアリテ長サ七八分アリ色ハ黑褐ニシ
 テ翅鞘ノ部分少シク赤褐ヲ帶ブ六七月頃ニ至リ
 テ蛾化ス晝間ハ翅ヲ屋根形ニ疊ミ叢間、塵芥等ノ
 下ニ潜ミ夜ニ至リテ交尾シ豌豆ノ如キ食葉下ニ
 産卵ス卵ハ饅頭狀ニシテ一葉下ニ於ケル卵數ハ
 少キハ三十多キハ二百餘ニ達ス初メハ黃綠ナレ
 卽其孵化期ニ近ケバ紫黑色ニ變シ大凡二週間ニ
 シテ孵化ス初メハ綠色ニシテ尺蠖狀ニ運行シ次

第九章 夜盜蟲類

○夜盜蟲(えんどのきりむし)

學名 *Manestra brassicae*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、地蠶蛾科

被害植物 豌豆、甘藍、煙草、亞麻、大麻、大、小豆、棉、蘿蔔、蕎麥、薯蕷等

○成蟲

體長七、八分、翅ノ開張一寸三四分、前翅ハ光澤アル、灰褐色ニシテ少シク

赤味ヲ帶ビ、横線、環狀紋及ビ栓狀紋ハ黑色、波狀線及ビ腎狀紋ハ灰白色、外緣ハ波狀、凹凸ヲナシ、短キ緣毛アリ、後翅ハ灰黒ニシテ、翅底ハ淡色ナリ、體ハ暗色ニシテ、腹背ニ毛塊ノ隆起アリ

○幼蟲

充分成長スル時ハ一寸五分餘ニ達ス、體ハ圓柱形ニシテ、尾端ニ至ルニ

從ヒ次第ニ増大ス、種類ニヨリテ或ハ淡褐ナルモノアリ、或ハ暗褐ナルモノアリ、或ハ綠色ナルモノ、黑色ナルモノ等アリ、テ其色澤ハ一ナラズ、背線及ビ亞背線ハ白色ニシテ、時ニ判然セザルモノモアリ、各節ノ背上ニハ馬蹄狀ノ斑紋アレ、體ノ前半

被害植物 稻、竹類

○成蟲 體長五分五厘乃至六分五厘、前種ニ酷似スレモ形、少シク小ニテ唯タ其異ナル處ハ頭、小サク下唇鬚ハ黃綠毛ヲ密生シ胸、割ニ細ク後翅ニハ五紋アリテ一列ニ横走セザルコ是ナリ

○幼蟲 前種ニ酷似スルモ背上ニ褐色線アリ此ハ稻葉ニ少ナク多クハ笹ノ葉ヲ以テ食トス

○經過習性 前種ニ異ラズ

○驅除豫防法 同前

ズ尾端急ニ終ル捲葉中ニアリテ極薄ノ白繭ヲ被ル蛹期ハ十日内外ナリ第二回ハ八月中旬第三回ハ九月中旬ナリ此ノ三回目ノ蝶ハ群ヲナシテ山間ニ入り竹葉ニ産卵シ幼蟲若クハ蛹ノ有様ニテ越年スルヲ前述ノ如シ蝶ハ殊ニ蕎麥、ガ、イモイケマ蘿摩手皮消ノ如キ花ニ集リ其蜜ヲ吸收スルノ性アリ

○驅除豫防法

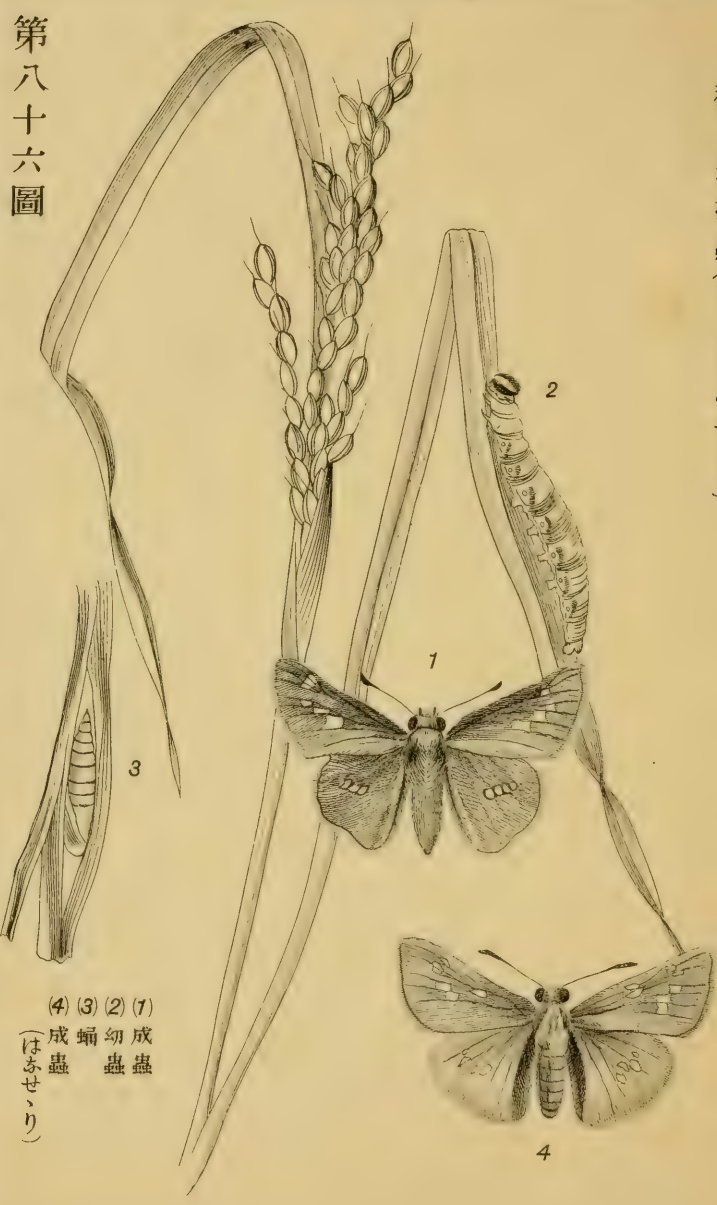
- (一) 網羅ヲ以テ成蟲ヲ捕獲スベシ此蝶ハ蕎麥、ガ、イモイケマ蘿摩手皮消等ノ花ニ集マルノ性アルヲ以テ特ニ之レヲ植付ケ置キテ其集ルヲ待テ捕獲スベシ
- (二) 豫メ一段歩ニ石油四、五合ヲ注キ置キ竹櫛ヲ以テ捲葉ヲ梳リ苞ヲ解クルハ害蟲ハ水面ニ落チテ死スベシ
- (三) 苞葉ヲ開キテ其内ニアル害蟲ヲ捻ミ殺スベシ

○稻ノ葉捲蟲(乙)はなせせり

學名 Pamphila pellucida, Mur.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、栉蝶科

稻ノ葉捲蟲(いちもあせり)



第八十六圖

(4) (3) (2) (7)
成蟲 蛹 幼蟲 成蟲
(はみせり)

狀ヲナシ更ニ其尖端ハ少シク灣曲シ黃綠ヲ帶ズ觸角ノ基節ニハ黑色ノ毛塊アリテ頭頂ニハ綠色及ビ黃色ノ毛塊アリ此ハ光線ノ工合ニテ五色ノ彩色ヲ顯ハス尙ホ頸ニ同様ノ毛塊アリ胸背ハ太ク地色ハ紫ニシテ之レニ黃綠ノ軟毛多ク同シク五色ノ彩色ヲ表ハス腹部ハ稍ヤ圓錐形ヲナシ光澤アル黑褐ニシテ尾端ニ黃毛アリ體下部モ黃綠毛ヲ密生シ脚ハ黃褐ナリ

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸餘ニ達ス體ハ稍ヤ紡錐狀ニテ淡綠色ヲ呈シ頭大キク色ハ黃褐其兩側ハ黑色額片上及ビ兩側ニハ各一條ノ黑條アリ第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黑綠ニシテ前者ノ後緣ハ黑色ナリ背線及ビ亞背線ハ濃綠體全面ニ無數ノ褐色小隆起アリテ各之レヨリ黑色ノ短毛ヲ出ス尙ホ各節ニハ横皺多ク殊ニ第五節以下ニ於テ判然ス氣門ハ黃褐胸脚ハ黃色ナリ

○經過習性

年三、四回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲若クハ蛹ノ有様ニテ越

年ス翌春、五六月頃、羽化シ卵子ヲ葉上ニ一個宛、産下ス卵ハ五、六日ヲ經テ孵化シ幼蟲ハ絲ヲ吐キ葉ヲ綴リテ巢ヲ造リ其内ニ住ス此巢ヨリ頭ヲ出シ食葉ス成長スレバ數葉ヲ綴合シ其内ニアリ七月上旬、蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ腹部ハ圓錐狀ヲナサ

リ背上ニハ二列ノ棘狀突起アリテ更ニ之レヨリ刺毛ヲ出ス尙ホ頭及ビ腹部ニ粗毛ヲ生ズ蛹期ハ一週間内外、蛾ハ八月中旬ニ出ヅ晝間、飛翔スル性アリ

○ 驅除豫防法 石油乳劑ヲ灌注スベシ

○ 稻ノ葉捲蟲(甲)はまくりむし又いちもぢせり

學名 *Pamphila guttata* Brem.

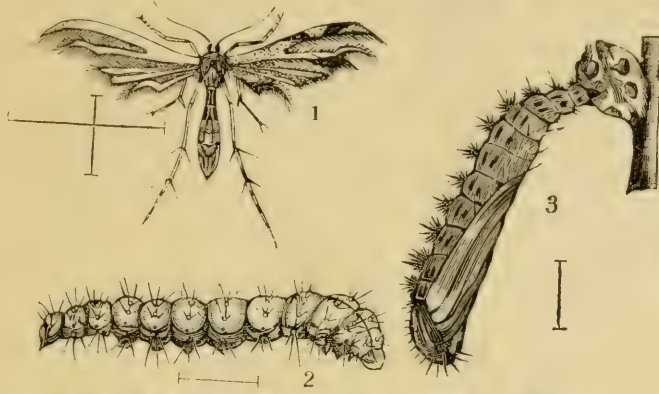
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、槇蝶科

被害植物 稻、竹類

○ 成蟲 體長六分乃至七分、翅ノ開張一寸二分乃至一寸四分、體、翅共ニ黒褐ニシテ綠色ヲ帶ビ前翅ハ三角狀ヲ呈シ翅ノ中央ニ合ハ七個、早ハ八個ノ白色半透明ノ紋アリ半圓形ニ并列ス中央室ノ下方ニアルモノ最大ナリ後翅ハ稍ヤ圓形ニ近ク中央ニ前翅ノ如キ四紋アリテ稍ヤ一列ニ横走ス綠毛ハ灰白翅底ニ灰綠ヲ帶ビタル軟毛アリ翅ノ裏面ハ表面ト同様ナレモ黃綠ノ短毛ヲ密生ス頭ハ廣ク眼ハ黑綠ニシテ光澤ヲ有シ下唇鬚ハ太ク黃毛ヲ密生ス觸角ハ黑色、其末端ハ膨大シテ紡錘

第八十五圖

第八章 葉捲蟲及ビ芽蟲類



ふこはりどめまぢふ 成蟲(1) 幼蟲(2) 蛹(3)

アリ體ハ暗黄ニシテ腹部、細長ク之レニ褐色ノ班紋アリ脚ハ細長ニシテ殊ニ後肢、發達シ之レニ二双ノ刺アリ色ハ黄褐ニシテ黑紋アリ其形蚊ノ如シ

○幼蟲

充分成長スルルハ三分五厘乃至四分ニ達ス全體黄緑ニシテ頭部ハ光澤アル褐色ヲ呈シ暗色ノ細キ背線アリ各節六個ノ疣狀突起アリテ之レヨリ各三本ノ灰色毛ヲ生ズ頭ハ小サク復タ尾端ニ至ルニ從ヒ細小ス

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ其越年ノ狀、未ダ詳ナラス而シテ幼蟲ハ翌春、五月頃顯ハル新芽、花蕾ヲ食害ス其性、集合スルヲナク六月上旬ニ至リ蛹化ス蛹ハ甚ダ異形ニシテ初メハ黄緑ナレモ羽化前ニハ暗褐ヲ呈ス豆莖ノ節部ニ尾端ヲ以テ垂下ス頭頂、平タク兩側隆起シ翅鞘ニハ縱溝ア

葉ノ開綻ト共ニ出デ葉ヲ捲キテ食害ス五月中旬、老熟シ捲葉中ニ蛹化ス蛹ハ褐色ニシテ尾端ニ刺アリ五月下旬、蛾化ス第二回ハ七月上旬、第三回ハ八月中旬ナリ

○ 驅除豫防法

萃樹ノ葉捲蟲(甲)同様ニ行フベシ

○ 鵲豆ノ芽蟲(ふぢまめとりはてふ)

學名 *Aciphius* sp.

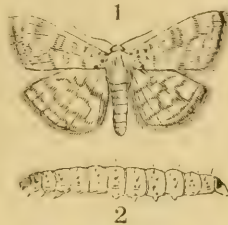
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、羽蛾科

被害植物 鵲豆等

○ 成蟲

體長二分五厘乃至三分、翅ノ開張七分乃至七分五厘、翅ハ灰黃ニシテ前翅ハ細長ク中央ヨリ二枝ニ分裂シ其前翅ハ弓狀ヲナシテ少シク下向ニ灣曲シ中央ニ二個ノ暗褐紋アリ後翅ハ前翅ヨリ更ニ細ク末端ニ剝リタル部分ヲ有シ前縁及ビ後縁ニ黒灰ノ縁毛アリ後翅ハ更ニ細長ニシテ短カク翅底ヨリ三枝ニ分裂シ最後ニアルモノ最モ少サク其末端ニモ剝リタル部分アリテ此部分、暗褐ヲ呈ス就レモ黒灰色ノ縁毛ヲ有ス其狀恰カモ烏羽ニ類スル者アルヲ以テとりはてふノ名

第八十四圖



棉ノ葉捲蟲
成蟲(1) 幼蟲(2)

リテ其上端ヨリ太キ短線ヲ前縁ニ走ラシ又下端ヨリハ同様ノ短線ヲ後縁ニ送ル
 尚ホ外縁ニ近ク波狀ヲナシタル横線アリテ其後縁ニ終ル所ニ一紋アリ外縁ハ暗
 褐縁毛ハ光澤アル灰色ニシテ其中央ニ細キ暗褐條アリ後翅ニハ四條ノ横線アリ
 テ何レモ多少屈折ス外縁ハ前翅ト同様ナリ翅ノ裏面ハ淡色ニシテ前翅ノ外縁ニ

七八個ヨリ成レル二條ノ點紋列アリ體ハ光澤アル白色ニ

シテ頭及ビ胸背ハ少シク黄色ヲ帶ビ後者ニハ數個ノ暗褐
 紋ヲ散在ス眼ハ黑褐觸角ハ灰黄ニシテ其基節ハ白色ヲ呈
 ス脚、白ク前肢ニハ暗褐ノ輪紋アリテ班ヲナス

○幼蟲 充分成長スルルハ長サ八分餘ニ達ス體ハ黄緑

頭及ビ第一節ノ硬皮板ハ褐色ニシテ後者ノ前半ハ白色ヲ

帶ビ暗色ノ背線ヲ皮膚下ニ透視シ得ベシ各節六個乃至八個ノ疣狀突起アリ之レ
 ヨリ一、二木ノ褐毛ヲ生ズ胸脚ハ黑色、腹脚及ビ尾脚ハ白色ニシテ少シク綠色ヲ帶
 ブ

○經過習性

年三回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春、嫩

○桑ノ絲引葉捲蟲(いとひきはまきむし)

學名 *Tortrix* sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 桑等

余ハ未ダ此害蟲ニ付キ試驗セシコナク又目撃シタルコナシ明治三十年滋賀縣農事試驗場發刊ノ害蟲試驗報告第一報二百三頁ニ此記事アリ

○棉ノ葉捲蟲(わたのはまきむし)

學名 *Zebraonia solomealis*.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 棉、苘麻、葵、木樺、木芙蓉等

○成蟲 體長四分五厘乃至五分、翅ノ開張九分五厘乃至一寸、翅ハ淡黃白色ニシ

テ暗褐ノ紋條ヲ有シ光線ノ工合ニテ紫色ヲ顯ハス翅底ニハ三個ノ點紋ヲ具ヘ半横線、前横線、環狀紋及ビ腎狀紋ハ判然ス腎狀紋ノ外側下方ニ一個、心臟形ノ大紋アリ

○桑ノ芽蟲(丙)いとひきめむし

學名 Tortrix sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 桑等

○成蟲

體長二分餘、翅ノ開張四分五厘乃至五分、前翅ハ畧ボ長方形ヲナシ、地色ハ光澤アル黃褐ニシテ、翅面綾樣紋ヲ有シ、翅底ハ褐色ヲ呈ス、翅ノ中央ニ太キ褐色ノ斜橫線アリ、此線内ノ前緣部ニハ淡色ノ部分アリ、尙ホ外緣ニ近ク長狹ナル三角形ノ褐紋アリテ、其細キ頂角ハ殆ント後緣角ニ達ス、又此三角紋ノ判然セザルモノモアルナリ、後翅ハ暗色、緣毛ハ光澤ヲ帶ビ、黃褐ナリ、頭、胸背及ビ觸角ハ濃黃色、腹背ハ後翅ト同色、尾端ニ黃褐ノ毛塊アリ

○幼蟲

幼蟲ニ就テハ未ダ充分ノ試驗ヲ遂行セザレ、前種ニ酷似スルモノナルベシ、余ハ前種ト誤認シ、同シ養蟲函ニ入レテ試驗シタル結果、此蛾ヲ得タルニ依ル

被害植物 桑等

○成蟲 體長二分、翅ノ開張五分、一見前種ニ酷似ス地色ハ黃色、翅底ハ黑褐ニシテ鉛色ヲ帶ビ翅ノ中央モ同ジク黑褐ニシテ黃色及ビ鉛色ヲ混シ外縁ニ近ク斜走セル鉛色ノ長紋アリ前縁角ニハ一個ノ黑褐點アリテ其内側ノ黃色部ニ四黑紋ノ横列セルモノアリ前縁ニハ黃色ト黑色トノ交互ノ紋列アリ後翅ハ暗黑色、翅ノ裏面ハ暗色ナリ頭及ビ胸背ハ黑褐ニシテ頭ニハ毛塊アリ下唇鬚ハ灰黃ニシテ長毛ヲ帶ビ腹背ハ暗黒、體下部及ビ脚ハ灰黃ナリ

○幼蟲 充分成長スルキハ三分五厘ニ達ス地色ハ暗緑ニシテ頭、第一節及ビ尾節ノ硬皮板并ニ胸脚ハ黑色、各節八個乃至十個ノ暗色、疣狀突起アリテ各々之レヨリ一本ノ短毛ヲ生ズ

○經過習性 前種ニ酷似ス唯ダ蛹化スルノ場合ニハ葉ノ一端ヲ捲キテ其内ニ蛹化ス尤モ芽ノ内ニアリテ食害シ其儘、其内ニ蛹化スルモノモ少ナカラズ

○驅除豫防法 同前

第八十一圖 及 八十二、八十三圖

桑ノ芽蟲類

(くわのあをめむし)



4 くわのあをめむし
 5 同幼蟲
 6 くわのあとひきむし

(1) 成蟲
 (2) 幼蟲
 (3) 幼蟲ノ越年セル所ヲ示ス

○驅除豫防法

- (一) 暗色ニ變シタル芽中ニハ必ズ幼蟲ヲ含有スルヲ以テ手ニテ壓殺スベシ
- (二) 果樹葉捲蟲驅除法第三ニ記載セルモノト同様ニ砒石劑ヲ用ユベシ如斯毒藥ヲ灌注スル時ハ蠶兒ニ向テ甚ダ危險ナリト信ズルモノアラシカ其幼芽ノ作注射スルモノナレバ決シテ斯ル患ナシ蓋シ其幼芽ハ開展シテ食葉ニナル迄ニハ全面ニ極メテ少量ヲ附着スルニ當リ假へ葉面ニ殘留スルモノ雨露ノ爲メニ流去セラレテ毫モ毒性ヲ留メザルニ至ル此場合ニハ濃粉、其他糖液ヲ混ゼザルヲ可トス(害蟲驅除全書百三頁參照)
- (三) 成長スレバ葉捲蟲同様ニ葉ヲ捲キテ食害ス此場合ニハ手ニテ捕フベシ
- (四) 石油乳劑ヲ利用スベシ

○桑ノ芽蟲(乙)くわのほまめむし

學名 Tortrix sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

著シク發達延長シテ尾端外ニ出ヅ

○幼蟲

充分成長スルモハ七分ニ達ス形細長ニシテ兩端少シク細ク全體黃綠色ニシテ頭ハ小サク光澤アル黒色ヲ呈シ硬皮板及ビ疣狀突起ナク各節ヨリ數個ノ細毛ヲ出ス

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ二、三回ノ脱皮ヲ經タル幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春新芽ニ蠹入シテ食害ス爲メニ霜害ニ罹リタル新芽同様ニ黑色ニ變ジ枯死ス此桑芽ヲ開索スレバ一頭宛ノ幼蟲ヲ見ルベシ其成長スルト共ニ葉ヲ捲キ其内ニアリテ食害スルコト前種ニ類ス更ニ二、三回ノ脱皮ヲ經ルノ後捲葉ニ薄キ白繭ヲ營ミ其内ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ細長ク萃樹ノ葉捲蟲同様ニ腹背ニ齒狀突起ノ二横列アリテ前方ニアルモノ大ナリ脱殻ハ常ニ葉外ニ半バ露出ス蛾ハ六月下旬乃至七月上旬ニ顯ハル卵子ハ桑葉ノ裏面ニ一個宛産下セラル、モニシテ他ノ葉捲蟲同様ニ透明ナリ八、九月頃ニ孵化スルモ當時桑葉ノ硬化セルガ爲メニ加害少ナク加フルニ其形小ナルヲ以テ人ノ注意ヲ惹クコトナシ一分位ニ成長シタル後枯死セル舊芽ノ下若クハ絲ヲ吐キ暗黒ノ被蓋ヲ造リテ其内ニ越年ス

替ミ其儘越年シ翌春、蛹化シ次テ蛾化スルヲ前述ノ如シ

○驅除豫防法 前種同様ノ方法ヲ適應スベシ

○桑ノ芽蟲(甲)くわのあをむし

學名 *Exartema mori*, Mats.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 桑等

○成蟲 體長二分五厘乃至三分、翅ノ間張五分乃至六分、前翅ハ畧ホ長方形ニシ

テ前縁ハ少シク弓狀ヲナシテ灣曲シ前縁角ハ少シク突出ス班紋ハ甚ダ複雑ニシ
テ灰色、綠褐及ビ灰黒ノ諸色ヲ混ズ翅底ハ灰黒ニシテ少シク青味ヲ帯ビ此内ニ黒
色及ビ灰色ノ紋アリ之レニ接シテ灰色ノ横線ヲ走ラシ後縁ニ接シテ翅ノ中央ニ
ハ綠褐紋ヲ有シ此上ニハ青色及ビ灰色ヲ混シタル黒色部アリ外縁ハ暗緑ニシテ
灰色ヲ混シ前縁ニハ灰色ト綠褐トノ交互ノ紋列アリ後翅及ビ翅ノ裏面ハ暗色、頭
及ビ胸背ハ暗褐ニシテ下唇鬚ハ太ク突出シ脚ハ灰黃ニシテ暗褐ノ輪アリ後肢ハ

ハ灰白、眼ハ黑褐、胸片ハ多少銀色ノ光澤ヲ帶ブ

○幼蟲 充分生長スルキハ七分五六厘ニ達ス、地色ハ淡黃褐色、頭及ビ第一節ノ

硬皮板ハ淡褐ニシテ後者ノ背上ニハ二個ノ黑紋アリ、淡色ナル背線ヲ皮下ニ透視

シ得ベシ、各節四個乃至六個、黑色ノ疣狀突起アリテ之レヨリ各一本ノ灰白毛ヲ出

第八十圖

ス胸脚ハ淡褐ナリ



わくのすきむし (1) 成蟲 (2) 幼蟲

○經過習性 年四回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ

有様ニテ越年シ翌春、蛾化ス、蛹ハ赤褐、氣門ハ黑褐ヲ呈シ胸

片ハ少シク青味ヲ帶ブ、蛹期ハ一週間内外ナレドモ第一回

ノ蛹期ハ長クシテ二週間ニ跨ル、蛾ハ卵ヲ葉ノ裏面ニ數粒

粗ニ産下ス、透明ニシテ少シク黃色ヲ帶ブ、一蛾ノ産數五、六

十個、卵期ハ四乃至八日間、幼蟲ハ絲ヲ以テ葉ヲ捲キ其内ニ

アリテ葉縁舂テ食害シ、唯タ表皮ヲ殘留ス、幼蟲期ハ二週間内外、老熟スレバ捲葉ノ

内ニ白色ノ薄繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス、此羽化スルル第二回ハ恰カモ七月中旬ナリ

第三回ハ九月上旬ニ出テ第四回ノ幼蟲、老熟スルノ後桑樹ノ空隙ニ入りテ薄繭ヲ

ニ住シ之レコリ頭部ヲ出シテ食害ス五月下旬乃至六月上旬頃老熟シ巢中ニ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ苹樹ノはまきニ酷似ス六月上旬乃至七月上旬ニ涉リテ蛾化ス蛾ハ燈火ニ飛來スルノ性アリ

○驅除豫防法

苹樹ノ葉捲蟲(甲)ヲ參照セラレヨ

○桑ノ葉捲蟲くわのすきむし

學名

Glyphodes pyralis, Walk.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 桑等

○成蟲

體長三分五厘、翅ノ開張八分、翅ノ地色ハ光澤アル白色透明ニシテ少シク紫色ヲ帶ビ前緣、後緣、翅底、翅ノ中央及ビ外緣ハ暗褐ナリ外緣ノ内側ニ接シテ之レニ平行セル稍ヤ太キ横線アリテ同ジク暗褐ヲ呈ス中央ニアル太キ暗褐紋ノ下方ニハ一個ノ眼狀紋アリ後翅ノ外緣ハ太ク暗褐ナリ翅ノ裏面ハ表面ト異ナラザレモ紫色ヲ混ゼズ紋ハ暗色ナリ頭及ビ胸背ハ淡褐ニシテ胸背ニハ長毛アリ腹部

被害植物 櫻、苹樹等

○成蟲

體長二分八厘乃至三分、翅ノ開張六分乃至七分、前翅ノ色ハ種類ニヨリ變化多ク先ヅ地色ハ褐色、翅底ハ黑褐、中央ニハ黑褐ノ横線アリテ前縁ヨリ後縁角ノ方向ニ斜走ス、尤モ此線ハ前縁ニテ細ク後縁ニテ膨大シ又其膨大セズシテ一樣第七十九圖 ナルモノモアルナリ前縁角ニ接シテ稍ヤ三角状ヲナセル一個ノ



さ ま は の ら く さ

○幼蟲

充分成長スルルハ六、七分ニ達ス、地色ハ暗灰色ニシテ背ハ灰褐、體下部ハ光澤アル灰色ニシテ脚ハ少シク褐色ヲ帶ブ

少シク青味ヲ帶ブ頭ハ光澤アル黑色ニシテ第一節ノ硬皮板ハ褐

色ヲ呈シ全體而ニ灰白ナル疣狀突起アリテ之レヨリ一本宛ノ短毛ヲ生ズ胸脚ハ黑色、腹脚ハ褐色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ苹樹ノ葉捲蟲同様ニ越年ス、翌春、新芽ニ蠶入シテ食害シ葉ノ開綻ト共ニ圓柱形ニ葉ヲ捲キ其内

卵子ハ不明ナレヒ他ノ葉捲蟲同様ニ葉下ニ産下セラレ七、八粒相集合スルモノ、如シ蓋シ其幼蟲ノ越年スルモノヲ見ルニ常ニ網狀ニ食害セル葉ニ覆ハレテ七、八頭相集合シ各自管狀ノ巢ニ越年スルヲ見ル此巢ハ暗色ニシテ絲ヲ以テ樹皮屑ヲ纏結シテ造リタルモノナラン

○驅除豫防法

- (一) 幼中ノ越年スル所ニハ必ズ一枚ノ枯葉ヲ附着セリ故ニ冬季之レヲ發見スルヲ難カラズ一葉ノ下ニハ七、八頭アルヲ常トス
- (二) 幼蟲ハ七、八頭相集マリテ共有ノ巢ヲ造リアルヲ以テ目ニ留リ易ク從テ驅除スルヲ難カラズ
- (三) 蛹モ亦嘗テ幼蟲ノ造營セル巢ニ相集合スルモノナレバ之レヲ採リ殺スベシ

○櫻ノ葉捲蟲(さくらのほまき)

學名 Tortrix sorbiana, Hübn.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目葉捲蟲科

ニ近ク後縁ニ接シテ赤褐ノ大紋アリ翅ノ中央ニ濃色ノ長紋アリテ波狀線ハ灰白之レヨリ外縁ノ方ハ少シク淡色ヲ呈シ外縁ニハ三重セル縁毛アリ後翅及ビ翅ノ裏面ハ暗色ニシテ光澤アル縁毛アリ眼ハ綠褐、觸角ハ灰褐、胸背ハ赤褐、腹部ハ灰色ナリ

○幼蟲

充分成長スルトキハ七分内外ニ達ス地色ハ赤褐若クハ暗褐ニシテ少シク紫色ヲ帶ヅ形、圓筒形ナレモ尾端ノ方、細シ頭ハ光澤ナキ黑色、第一節ノ硬皮板ハ黑褐ニシテ其中央ニ黃色ノ縱線アリ尙ホ第一節及ビ第二節ノ兩側ニ各一個ノ疣狀突起アリ全體割合ニ長キ黃褐ノ細毛ヲ粗生ス胸脚ハ黑褐ニシテ發達シ腹脚ハ小形ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春、新芽ノ開綻ト共ニ出ヅ、葉ヲ捲キ其内ニアリテ食害ス其成長スルニ從ヒ數頭、相混シ絲ヲ吐キ葉ヲ纏メ稍ヤ堅固ナル巢ヲ造リ各自己ノ穴ヲ有シ之レヨリ頭ヲ出シ食害ス老熟スレバ巢内ニ灰白ノ絲ヲ以テ薄キ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ細長ク尾節ニ黑褐ノ硬皮板アリテ尾端ニハ數個ノ短毛アリ七月上旬、蛾化ス

第七十八圖



(4) (3) (2) (1)
被害ノ状
幼蟲
成蟲

きまはのしな

期ニ近クバ黒褐ノ頭部ト硬皮板ヲ有セル綠色ノ幼蟲ヲ透視シ得ベシ卵期ハ七日乃至十日間、孵化スレバ直ニ葉綠層ヲ食ヒ表皮及ビ網狀ヲナセル纖維ヲ殘留ス其孵化セルヨリ數時ノ後幼蟲ハ絹絲ヲ以テ蟲糞ヲ纏ヒ兩端開放セル管ヲ造リ外患ニ接スルトキハ其内ニ退隱ス幼蟲ハ五回ノ脫皮ヲ經ルモノナルガ孵化ノ年内ニハ三四回位ノ脫皮ヲ終ヘ新芽ノ間或ハ其他、樹皮ノ粗造ナル處ニ絲ヲ吐キテ身體ヲ纏ヒ茲ニ越年シ翌春出デ、加害スルコト前述ノ如シ

因ニ記ス此害蟲モ米國ヨリ輸入セラレタルモノニシテ苹樹大害蟲ノ一ナリ

○驅除豫防法

苹樹ノ葉捲蟲(甲)ト同様ニスベシ

○梨ノ葉捲蟲(なしのはまきむし)

學名 *Rhodophaea Jollandella*, Rag.

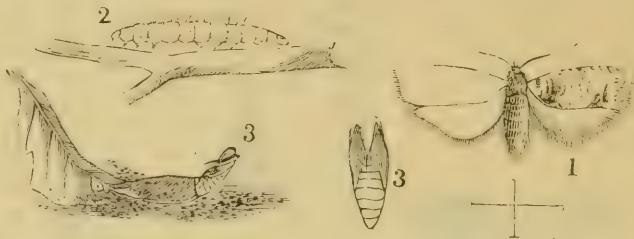
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 梨等

○成蟲

體長三分、翅ノ開張七分、前翅ノ地色ハ黒褐ニシテ灰色ヲ混シ稍ヤ翅底

第七十七圖



り へん の め む し (1) 成 蟲 (2) 幼 蟲 (3) 蛹

一節及び尾節ノ硬皮板ハ黒褐各節六個乃至八個ノ疣狀紋アリテ更ニ其中央ニ黒褐點ヲ有シ之レニ一木ノ光澤アル細毛ヲ生ズ胸脚ハ黒褐ナリ

○ 經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ稀ニ二回

ノ發生ヲナスコアリ幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春新芽ニ蠹入シテ食害ス葉ノ稍ヤ成長シ蓄ヲ生ズルニ至レバ絹絲ヲ以テ此等ヲ纏ヒ其内ニ食害ス又々嫩枝ニ蠹入スルコモアリ葉ノ開展スルニ從ヒ絹絲ヲ以テ葉屑ト蟲糞ヲ纏ヒ管狀ノ巢ヲ造リ其内ニ住ス六月下旬老熟スレバ其内ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ胸背部ハ黃褐ヲ呈シ腹節ノ各背上ニハ二個ノ齒横列アリテ前方ニアルモノハ大ナリ又尾節ニハ齒狀ノ突起ト鈎狀ノ附屬物アリ蛹期ハ二週間内外、蛾ハ卵子ヲ一個ツ、葉下ニ産附スルモノナルガ時ニ二個乃至七個ノ相集合スルコアリ

卵ハ平タクシテ蠶卵形ヲ呈シ長サ二厘六毛、巾二厘二毛、色ハ初メ透明ナレモ孵化

因ニ記ス此害蟲モ萃樹ノ苗木ト共ニ米國ヨリ本邦ニ輸入セラレ今ヤ盛ニ加害シツ、アリ

○驅除豫防法

(甲)ノ方法ヲ應用スベシ

○萃樹ノ芽蟲りんごのめむし

學名 *Tmetocera ocellana*, Schiff.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 萃樹、李等

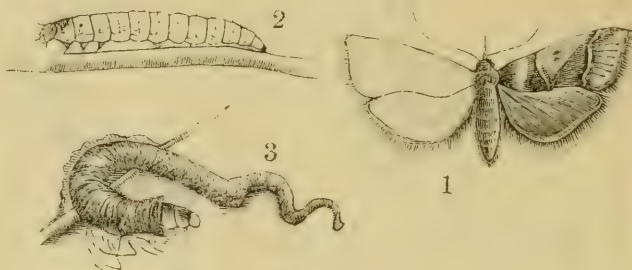
○成蟲

體長二分、翅ノ開張四分、五厘乃至五分、前翅ハ白色ニシテ中央ニハ不明ナル灰色ノ波狀線ヲ有ス、翅底ハ暗黒、後緣角ニ近ク稍ヤ三角狀ヲナセル黒褐紋アリテ其内ニ二、三ノ黒點アリ、外緣ニハ灰藍色ノ部分アリテ其中央ニ七個ノ黒紋列アリ、前緣ニハ灰色ノ短斜條ヲ連テ前緣角ハ黒褐ナリ、後翅ハ暗灰色、頭及ビ胸背ハ暗黒、腹部ハ光澤アル灰黃ヲ呈シ、下唇鬚ハ杓子狀ヲナス

○幼蟲

充分成長スルルハ五分餘ニ達ス、體ハ兩端細ク地色ハ暗褐、頭ハ赤褐、第

第七十六圖



き ま は つ つ
 蟲成(1) 蟲幼(2) 蟲幼ルアノ筒(3)

○幼蟲 充分成長スルキハ七分餘ニ達ス頭ハ黑色、第

一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黒褐、其兩側ニモ黒褐紋アリ體ハ暗褐、若クハ暗灰褐ニシテ各節十二個内外ノ小黑疣ヲ散在シ第二節ノ兩側ニアルモノ最モ大ナリ此等ノ小疣コリ灰褐ノ短毛ヲ一本宛生ズ頭ニハ短毛多シ胸脚ハ黒褐ニシテ短毛多シ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲

ノ儘越年ス翌春、顯ハレ綿様ノ絹絲ヲ以テ稚葉片ヲ纏ヒ管狀ノ巢ヲ造リ其内ニ住ス又暗色ノ物質ヲ以テ蛇様ノ管巢ヲ造リ之レヲ小枝ニ固着シ晝間ハ其内ニ住シ夜間出デ、食害スルモノモアリ六月下旬乃至七月上旬ニ老熟シ巢中ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ尾端黒褐ヲ呈シ腹部ノ第七節迄ノ背上ハ少シク黒味ヲ帶ビ之レニ小點刻ヲ散在ス蛹期ハ大凡二週間ナリ蛾ハ七月中旬乃至下旬ニ出デ葉下ニ一個宛、産卵ス

シ中胸及ビ後胸背ニ鋸齒狀ノ齒列アリテ此部分黒褐ナリ尙ホ腹部ノ各節ニモ二個ノ齒横列アリ蛾ハ七月中旬ニ出ヅ卵ハ未ダ判然セズ

○驅除豫防法 前種同様ノ方法ヲ行フベシ

○ 苹樹ノ葉捲蟲(成)つのはまきむし

學名 *Phycis indigenella*, Zell.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、卷捲蟲科

被害植物 苹樹、櫻、李、桃等

○ 成蟲

體長三分弱、翅ノ開張七分五厘、前翅ハ灰黒ニシテ中央ニ三角形ヲナセル灰色紋アリテ其二邊ハ黒色翅底ニ近キ一邊ノ内側ハ白色ヲ呈シ三角紋ノ中央ニ更ニ二個ノ黒點アリ波狀線ハ白色ニシテ其内側黒ク外縁ニハ數個ノ小黒點ヲ羅列シ縁毛ニハ白毛ヲ混ズ翅底ハ灰白、後翅ハ暗色ニシテ外縁少シク濃色ヲ呈シ縁毛ハ前翅ト同様翅ノ裏面ハ光澤アル灰色、頭及ビ胸背ハ前翅ト同色、眼ハ黒ク腹部ハ暗灰ナリ

○ 萃樹ノ葉捲蟲 (トキまだらはまきむし)

學名 *Pandemis sinapina*, Butl.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 萃樹、櫻、梨、李等

○ 成蟲 體長三分、翅ノ開張八分乃至九分、前翅ハ黃橙色ニシテ赤褐ノ二橫線アリテ斜走シ稍ヤ翅面ヲ三等分ス尙ホ翅面ニハ黃褐ノ網狀紋アリ外緣ニハ細キ赤

褐條アリテ後緣角ノ緣毛ハ黑色ナリ後翅ハ暗灰色ニシテ前翅ハ灰白、外緣ハ淡色ナリ翅ノ裏面ハ灰黃ニシテ前翅ニハ二個ノ暗色斜條アリ頭及ビ胸背ハ前翅ト同色ニシテ眼ハ灰色、腹背ハ灰黑、胸片、腹面及ビ脚ハ灰黃ニシテ光澤アリ

○ 幼蟲 充分成長スルトハ六分乃至七分ニ達ス全體、綠色ニシテ各環節ノ接合部ハ淡色ヲ帶ビ體ニハ小疣起アリテ之レヨリ一本ノ短毛ヲ生ズ

○ 經過習性 前種ト同様ニ幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春、新芽ノ開綻ト共ニ出ヅ初メハ芽ニ蠹入シテ食害スレハ葉ノ開展スルニ從ヒ絹絲ヲ以テ綠葉ノ一部ヲ捲キ其内ニ住シ老熟スレバ其捲葉ノ裡ニ蛹化ス蛹ハ灰黃色ニシテ尾端褐色ヲ呈

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 苹果、梨、等

○成蟲

體長二分五厘乃至三分、翅ノ開張五分五厘乃至七分、前翅ハ黃褐ニシテ光澤ヲ有シ、黑褐ノ斑紋アリ、内緣角ニ橢圓形ノ紋アリテ、時ニ此紋ノ二分セルモノアリ、翅ノ中央ニハ太キ横帶アリテ、後緣角ノ方向ニ斜走ス、但シ此帶ハ前緣ニテ細ク、後緣ニ至リ膨大ス、其外側ノ中央ニ一箇小ナル黑紋アリ、尙ホ其直上ニ長橢圓紋ヲ有シ、此ハ前緣ニ接ス、又外緣ニ近ク同様ノ橢圓紋アリテ、前緣角モ亦多少黑褐ヲ呈ス、後翅ハ暗色ニシテ、前緣ハ灰白、外緣角ハ突出シ、之レニ灰黃ノ長線毛アリ、翅ノ裏面ノ中央ハ暗色、周圍ハ黃色、頭、胸背、及ヒ觸角ハ褐色、體下部ハ光澤アル灰白、脚ハ少シク黃色ヲ帶ズ

○幼蟲

苹果ノはまき(甲)ト共ニ同養蟲函ニ羽化シタルモノナレバ、未ダ其特性ヲ詳記スルコト能ハズ

○經過習性

及ヒ驅除豫防法(甲)ト異ナル所ナシ

前縁ハ灰白色ヲ呈シ縁毛ハ灰色ナリ翅ノ裏面ハ内方ノ半バ灰色、外方ノ半バ黄色、
頭胸背及ビ觸角ハ暗褐色、腹部及ビ脚ハ灰褐ナリ

○幼蟲 充分成長スルキハ八、九分ニ達ス初メハ集合スルノ性アレモ成長スル

ニ從ヒ相離散ス地色ハ様々ニシテ或ハ淡緑ナルモノアリ或ハ暗灰色ナルモノアリ
リテ普通暗緑ノ背線ヲ有ス初メ頭ハ黑色ナレドモ成長スルニ從ヒ光澤アル黃褐
若クハ赤褐ヲ呈シ第一節ノ硬皮板ハ淡褐若クハ暗褐ナリ體面ニ灰色、若クハ體色
同様ノ疣狀突起アリテ其中央ニ更ニ黒褐ノ一點ヲ有シ之レヨリ各一本宛ノ淡色
毛ヲ出ス腹面及ビ腹脚ハ灰白、胸脚ハ黑色ナリ

○經過習性 前種ニ酷似ス蛹ハ褐色ニシテ前方ハ綠色ヲ帶ビ腹部ハ黃緑ヲ

呈シ腹部ニ淡色ノ輪アリ

○驅除豫防法 前種同様ノ方法ヲ以テ適用スベシ

○ 苹樹ノ葉捲蟲 (丙) かくもんはまき

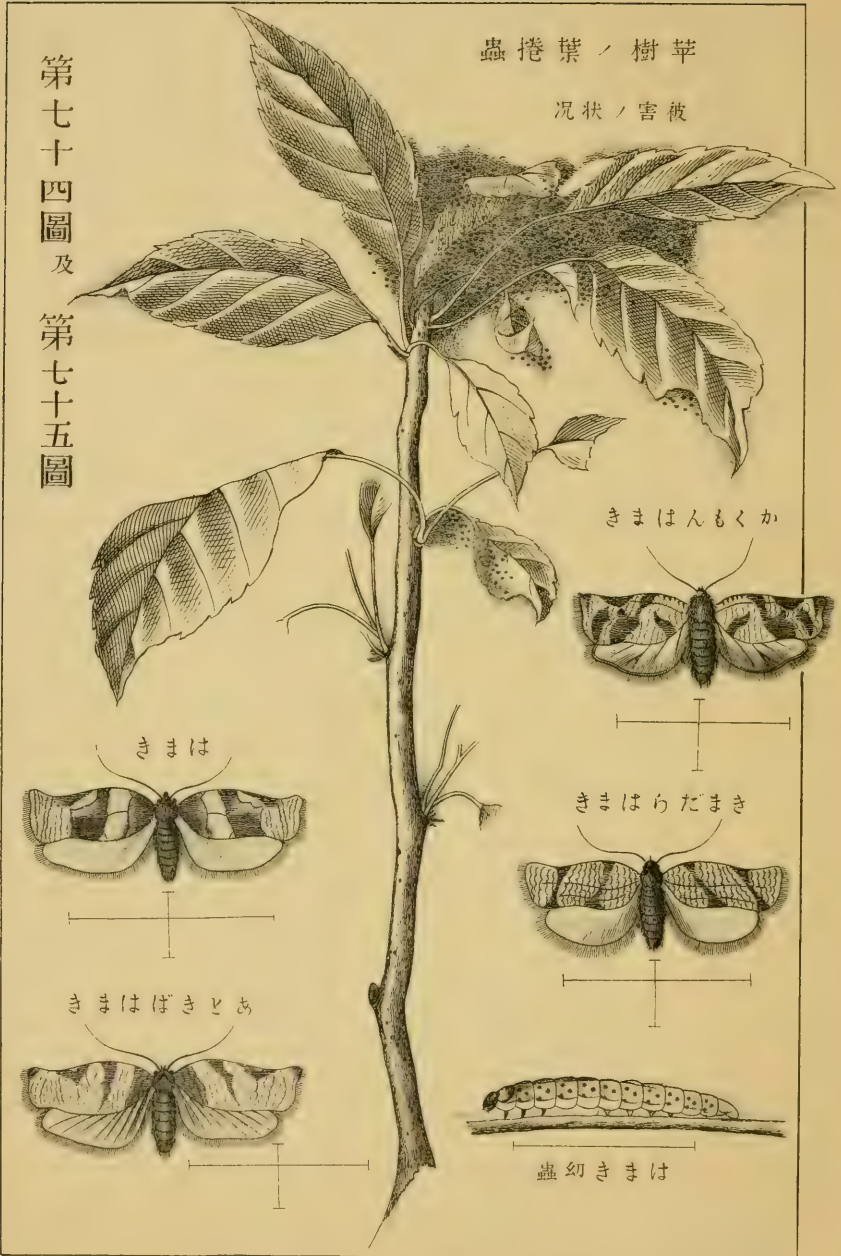
學名 *Chenecia costana*, Wv. ?

蟲捲葉ノ樹芽

況状ノ害被

第七十四圖
及

第七十五圖



きまはらもくか

きまは

きまはらたまき

きまはぼきとあ

蟲幼きまけ

(五) 人手ノアル場合ニハ、砧梯ヲ用非其葉ヲ捲ケルモノヲ手ニテ捻ミ殺スベシ

(六) 第三同様ニ其越年所ヲ出デ、新芽ニ蠶入スルトキ石油、乳劑、三四十倍位ノモ

ノヲ灌注スベシ

○ 苹樹ノ葉捲蟲 (乙) あと きばね は ま き

學名 *Cacneia laevigana*, Wv.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 苹樹、梨、すぐり等

○ 成蟲

體長二分五厘乃至三分、翅ノ開張七分乃至九分、前翅ハ畧ボ長方形ヲ呈

シ前緣角ハ突出シテ少シク上方ニ曲ル地色ハ黃褐ニシテ光線ノ工合ニテ少シク青味ヲ帶フ翅底ニ近ク細キ横線アリテ之レヲ界トシ翅底マデハ暗色ヲ帶フ翅ノ中央ニハ稍ヤ太キ黑褐ノ横線アリ前緣ヨリ外緣ノ方ニ傾キテ斜走ス此斜線ノ外側ニ稍ヤ三角形ヲナシタル黑褐紋アリ其底部ヲ前緣ニ有ス尙ホ外緣ニ近ク二、三條ノ細キ横線アリテ前緣角ニハ黑褐ノ縁毛アリ後翅ハ灰色ニシテ外緣ハ黃橙色、

シ得ベシ卵ハ二週間内外ニ孵化ス幼蟲ハ少シク葉綠層ヲ食害シ三四回、脱皮シタル後、絲ヲ吐キ暗黑色ノ小巢ヲ小枝ノ粗糲ナル所ニ造リ其内ニ越年ス蛾化スルノ時期ハ札幌地方ニアリテハ七月上旬ナリ

因ニ記ス此害蟲ハ嘗テ米國ヨリ苗木ニ附着シテ本邦ニ輸入セラレタルモノニシテ北海道ノミナラズ東北地方ニモ傳播シ果樹栽培家ノ最モ苦慮スル所ナリ

○驅除豫防法

- (一) 燈火誘殺ヲ行フベシ
- (二) 幼蟲ハ枝上ニ越年スルヲ以テ整枝ノ序デニ注意シテ殺スベシ
- (三) 被蓋下ニ越年スルモノニ石油乳劑ヲ放散スルモ容易ニ死セズ故ニ翌春、越年所ヲ出デ、之レヨリ加害セントスルトキ毒劑ヲ灌注シ置クベシ左ラバ害蟲ハ新芽ニ蠹入スルト共ニ毒ヲ食ヒ死スベシ假ヒ死セザルモ大ニ其勢力ヲ減ズ毒劑トハ重ニ亞砒酸鉛、亞砒酸曹達、倫敦紫、亞砒酸銅(巴里綠)等ヲ云フ
- (四) 樹梢ヨリ天幕ヲ蓋被シ青酸瓦斯ニテ薰蒸スベシ

○幼蟲 充分ニ成長スルトハ八分内外ニ達ス地色ハ様々ニシテ或ハ暗褐或ハ黄緑或ハ褐色ナルモノモアルナリ背線ハ濃色氣門線ノ部分ハ灰黄色ヲ呈ス頭ハ割合ニ大キク褐色ニシテ黒紋ヲ有シ第一節ノ硬皮板ハ半圓形ニシテ前半ハ黄褐後縁ハ黒色ナリ體ノ各節ニハ六個乃至八個ノ瘤狀突起アリテ其中央少シク黒ク之レヨリ各一、二本ノ灰色、短毛ヲ生ズ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年ス翌春新

芽ニ蠹入シ又蕾ヲ食フ灰色ノ蟲糞ヲ出スヲ以テ容易ニ其存在ヲ認メ得ベシ又其葉ノ開展スルトキハ絲ヲ吐キ之レヲ纏メテ巢ヲ造リ其内ニ住シ且ツ食害ス其性甚ダ活潑ニシテ之レニ觸ルレバ忽チ巢ヨリ出デ絲ヲ吐キテ地上ニ落チ老熟スレバ捲葉ノ内ニ薄キ白繭ヲ營ミ其内ニ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ各腹節ノ背上ニハ小突起ノ二列アリ一ハ大ニシテ右側ノ氣門ヨリ左側ノ氣門ニ達シ一ハ小ニシテ背上ノ中央ニ横列ス羽化後ノ脱殻ハ半繭外ニ露出セリ蛾ハ卵子ヲ一個宛葉下ニ産下スルモノニシテ時ニ數個、相集合スルヲモアルナリ形、饅頭狀ニテ透明色ヲ呈シ恰カモ露滴ノ如シ十日前後ニ殻内ノ幼蟲ハ綠色ヲ呈シ頭部ノ黒褐ナルヲ透視

第八章 葉捲蟲及ビ芽蟲類

○ 萃樹ノ葉捲蟲(甲)りんごのはまき

學名 *Chacoecia rosaceana*, Harris.

昆蟲學ヒノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 萃樹、梨、櫻、桃等

○ 成蟲

體長三分、翅ノ開張九分、前翅ハ稍ヤ長方形ニシテ前緣ハ弓狀ニ膨起シ外緣角、突出ス色及ビ紋ハ様々ナレモ先ヅ暗黃褐色ナルモノ最モ多シ三條ノ太キ暗褐ナル横線アリテ一ハ翅底ヲ斜走シ一ハ中央ヲ横ギリ一ハ外緣ニアリテ此終リノ線ノ内、前緣ニアル部分ハ太ク後緣ニ至ルニ從ヒ細小ス又此線ノ全ク絲狀ヲナシテ後緣ニ終ルモノアリ尙ホ翅ニ於ケル斜條ノ判然セズシテ唯々細キ横線トナレルモノアリ又外緣ニ赤褐ノ線毛ヲ有セルモノアリ後翅ハ暗色ニシテ前緣少シク灰色ヲ帶ビ外緣ハ少シク黃色、頭及ビ胸背ハ前翅ト同色ニシテ腹部及ビ脚ハ灰黃、舌ハ尾節ニ簇毛ヲ有ス翅ヲ疊ムルハ其形、梵鐘狀ヲナス

蟲ハ八、九、十ノ三ヶ月ニ亘リテ出ヅ翌春、新芽及ビ花ヲ食害シ又好シテ莢中ニ入り其實ヲ食フ老熟スレバ莖ニ入り蛹化ス蛹ハ帶蛹ニシテ短カク體ノ前方及ビ翅鞘部ハ細小ス地色ハ褐色ニシテ翅鞘及ビ胸背ニ黒褐紋アリ

○驅除豫防法

- (一) 蛾ヲ捕フベシ
- (二) 帶蛹ヲ捕フベシ

第七十三圖

うらなみまゝみ



幼蟲(2) 蟲成(1)

リ判然セズ此二紋中間ノ下方ヨリ尾様狀ノ附屬物ヲ出ス又種類ニヨリ翅ハ黑藍色ニシテ後翅ノ後緣角ニ紋ナキモノモアリ早ノ翅ハ暗色ニシテ前翅ノ中央ノミ紫藍色ヲ呈シ後翅ノ外緣ニ近ク二條ノ灰白線アリテ後緣角ニアル藍黑紋ノ周緣モ亦灰白ナリ翅ノ裏面ハ灰色ニシテ白色ノ波狀線多シ後翅ノ後緣角ニ眞黑ノ二

紋アリ之レニ金光アル青色ヲ混ズ尙ホ此紋上ニ黃橙

色ヲ呈スル部分アリ體ハ細小ニシテ黑色ナレモ少シ

ク青色ヲ帶ビ光澤アル灰白ノ軟毛ヲ裝フ觸角ハ黑褐

ニシテ其兩側下唇鬚胸片腹面及ビ脚ハ白色ナリ

○幼蟲 充分成長スルモハ五分餘ニ達ス體ハ短大

ニシテ紡狀ヲ呈シ背上ハ穹狀ニ膨起シ腹面ハ扁平脚

ハ小ナリ着色ハ様々ナレモ先ヅ綠色若クハ赤褐ナリ

背線ハ赤褐ニシテ其兩側ニ綠色ノ斜條ヲ併列シ氣門線ハ灰白ナリ但シ斑紋ノ色

ニハ變化多シ頭ハ小ニシテ褐色ナリ

○經過習性

經過未ダ詳ナラズ然レドモ年一回ノ發生ヲナスモノナラン成

(一) 蛾ヲ網ニテ捕殺スベシハ、九月頃、時々豆圃ヲ巡視シテ蛾ノ發生ヲ見計ヒ網柄ニテ枝ヲ拂ヒ其飛ブヲ捕フベシ但シ小豆圃ニ限ラズ牧草間ニ潜伏スルモノモ普通ナリ

(二) 收穫後ハ豆圃ノ遺物ヲ燒棄スベシ

(三) 小豆ノ莢ニ入り蟲孔ヨリ軟キ蟲糞ヲ出スヲ以テ容易ニ其存在ヲ認メ得ベシ
既ニ莢中ニ蠹入シタルモノハ手ニテ探ルヨリ他ニ良法ナシ

○ 鵠豆ノ莢蠹蟲(うらなみまぐみ)

學名 *Lycena baetica*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、小灰蝶科

被害植物 鵠豆、刀豆、^{イレゲン、ナタマ、マフシマ、}菘豆等

○ 成蟲 體長四分乃至四分五厘、^{♀♂}着色ヲ異ニセルノミナラズ、色ニハ變化多

シ、[♂]ノ翅ハ藍紫色ニシテ中央ニ藍色ノ細毛ヲ密生シ、外縁ハ暗色、縁毛ハ灰白ナリ、後翅ノ内縁ニハ灰白ノ軟毛ヲ密生シ、後縁ニ二個ノ藍黑紋アリテ内側ノモノハ餘

ズルモノアリ

○經過習性

年一回若クハ二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年
 スルモノト蛾ノ儘越冬スルモノトアリ而シテ七月ヨリ九月ニ渡リ小豆或ハ菜豆
 ノ莢中ニ蠹入シテ大害ヲ加フ之レニ侵サレタル豆莢ハ其基部ニ大孔ヲ有シ之レ
 ヨリ褐色ノ軟糞ヲ排出スルヲ以テ容易ニ其存在ヲ認メ得ベシ一莢ノ内容ヲ食盡
 スレバ他莢ニ移リ充分老熟スル迄ニ數莢ヲ食害ス三週間乃至四週間ニテ老熟ス
 老熟スレバ莢ヲ離レ地上ニ下リ葉片ヲ纏メテ粗繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス繭ハ極薄
 ノ西洋蚊張様ニシテ灰白ナリ蛹ハ褐色ニシテ細長ク頭ハ突出ス八月下旬乃至九
 月上旬ニ蛹化シタルモノハ其年内ニ蛾化スレハ遅ク蛹化シタルモノハ其儘越年
 ス余ハ未ダ卵子ヲ發見セズト雖モ花梗ニ近接シテ産下セラル、モノ、如シ此害
 蟲ハ年々大害ヲ加フルニ非ズシテ或ル年ハ盛ニ發生シ一時全ク消滅シ去リ復タ
 暴發スルノ性アリ故ニ平時ヨリ注意スレバ其蕃殖ヲ防止シ得ベシ其性燈火ニ飛
 來セズ晝間ハ飛翔シ活潑ニシテ捕獲シ難シ

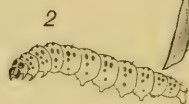
○驅除豫防法



(1) 成蟲

(2) 幼蟲

(3) 繭



小豆莢蟲

○小豆ノ蕨蠹蟲(あずきのさやむし)

學名 *Mamea aquatilis*, Boisdu.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 小豆、菜豆、豇豆等

○成蟲 體長四分五厘、翅ノ開張一寸、前翅ハ暗黒、光線ノ工合ニテ紫色ヲ顯ハス
前縁ハ暗褐、環狀紋ハ弦月形ニ變ジ、腎狀紋ハ大ニシテ殆ンド翅ノ中央ヲ横斷シ、檢
狀紋ハ球形ノ一點ニ變ズ、此等ノ紋ハ何レモ白色半透明ナリ、後翅ハ白色半透明ニ
シテ二個、灰色ノ細キ波狀線ヲ有シ、外縁ニ暗黒ノ凹凸アル、大紋ト前縁ニ二個ノ小
紋トアリ、縁毛ハ光澤アル、暗黒ニシテ後翅ノ後縁及ビ内縁ニアルモノハ白色ナリ、
體ハ灰色ニシテ胸片及ビ下唇鬚下ノ軟毛ハ白色ナリ、脚ハ黃白ニシテ黑點アリ

○幼蟲 充分成長スルルハ七分餘ニ達ス、地色ハ淡黃、頭ハ淡褐、第一節ノ硬皮板
ハ黑褐、各節ニハ十個乃至十三個ノ疣狀突起アリテ、背面ニアルモノハ黑褐ヲ呈シ、
側面及ビ腹面ニアルモノハ體色ヨリ少シク濃色ナリ、之レヨリ一、二本ノ細毛ヲ生

尾節ノ硬皮板ハ黑色ヲ呈スレモ成長スルニ從ヒ美麗ナル肉様ノ赤色ヲ呈シ曩ノ
 黑色部ハ褐色ニ變ズ體ハ圓筒形ナレモ少シク平タク頭ハ割合ニ大ナリ

○經過習性

蛾ハ八月頃ニ顯ハレ嫩莢ノ側面ニ各一個ノ卵子ヲ産附ス卵ハ

凡ソ二週間前後ニシテ孵化シ幼蟲出ヅレバ直チニ莖中ニ蠹入ス幼蟲ハ當時微小
 ナルヲ以テ蟲孔ハ莢ノ成長ニ伴フテ塞閉セラレ單ニ黑色ノ小點ヲ殘存スルニ過
 ギズ常ニ内部ノ種實ヲ食害シ絹絲ヲ以テ褐色ノ蟲糞ヲ相連結ス十月乃至十一月
 ニ至リテ老熟シ絲ヲ吐キテ地上ニ落地地下ニ入りテ白繭ヲ營ミ其内ニ越年スル
 モノト莢中ニ繭ヲ造リテ越年スルモノトアリ翌春其内ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ
 異狀ナシ八月ニ至リテ羽化スルコト前ノ如シ

○驅除豫防法

(一) 八月頃ニ於テ大豆圃ニ至リ網ヲ以テ蛾ヲ捕殺スベシ網柄ニテ葉ヲ拂ヘバ蛾

ハ飛翔ス

(二) 秋季ハ必ズ鋤起シテ地中ニ越年セントスル幼蟲ヲ寒氣ニ曝露スベシ

(三) 大豆ノ收穫後ハ不用物ヲ燒キ拂フベシ

第七十一圖



1 成蟲
2 幼蟲
3 蛹
4 被害豆

大豆ノ莢蟲

第七章 莢蠹蟲類

○大豆ノ莢蠹蟲(まめのさやむし)

學名 *Grapholita elyivivorella*, Mats.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、葉捲蟲科

被害植物 大豆等

○成蟲 體長二分翅ノ開張四分乃至五分、前翅ハ灰黒ニシテ黒紋及ビ黃紋ヲ散

在シ光線ノ工合ニテ少シク藍色ヲ帶ブ前縁ニハ黃色ト黑色ノ短線アリテ相互ニ
排置セラレ翅ノ中央ニハ字形ノ黒條アリテ前縁ヨリ始マリ内縁ニ達セズシテ終
ル尙ホ之レト併行シテ其内側ニ楔狀ノ黒紋アリ外縁ハ暗黄ニシテ其中央ニ當リ
金色紋ヲ有シ之レニ三個ノ黒紋アリテ横列ス此他、前縁ヨリ外縁ニ斜走セル一黒
條アリテ其外側ハ灰藍色ヲ呈ス後翅ハ暗黒ニシテ翅底ハ多少淡色、體ハ灰黄ニシ
テ別ニ記スベキヲナシ

○幼蟲 充分生長スルルハ長サ三分餘ニ達ス初メハ白色ニシテ頭、第一節及ビ

巴年二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ赤褐ニシテ舟形ヲシテ少シク上方ニ彎曲シ常ニ灰白色ノ薄キ繭ヲ被リ棉樹ノ枝幹ニ附着シ其儘越年ス翌春五六月頃ニ蛾化シ棉ノ莢ニ産卵ス春ハ嫩莖ヲ食スレモ秋ハ棉球ニ入りテ大害ヲ加フ云々

○ 驅除豫防法

- (一) 冬季、落葉セル棉枝ニ附着セル繭ヲ採リ去ルベシ
- (二) 棉球ニ蠹入セルモノニハ二硫化炭素若クハ安息香油ヲ其蟲孔ヨリ「スポイト」ニテ注入スベシ

被害植物 棉等

○成蟲

體長三分餘、翅ノ開張七分、前翅ハ稍ヤ長方形ニシテ色ハ黃綠、外縁ハ黒褐ヲ呈シ其内側、黃橙色ヲ帶ブ又タ翅底コリ翅ノ中央迄、前縁ニ沿フテ楔狀ノ暗黃紋アリ縁毛ハ黒褐、後翅ハ白色ニシテ光澤ヲ帶ビ縁毛ノ基部少シク暗褐ヲ呈ス此處、光線ノ工合ニテ紫色ヲ顯ハスコアリ下唇鬚、觸角及ビ前肢ハ赤色ヲ帶ブ頭及ビ胸背ハ黃綠ナレモ前翅コリハ淡色、腹背ハ灰色ヲ呈シ尾端ニ至リテ細小ス中、後ノ

第七十圖



わ た の りん じ

兩肢ハ灰色ナリ

○幼蟲

充分ニ成長スルモハ六分内外ニ達ス兩端少シク細小シ頭ハ小ニシテ稍ヤ球形ニ近ク光澤アル黒褐ヲ呈ス體ノ地色ハ様々ニシテ暗褐ナルアリ赤褐ナルアリ又綠褐ナルモノモアリ第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黒褐、背線ハ淡色ニシテ判然セズ、初メノ四節ニ棘狀突起ヲ有シ又黒紋ヲ裝フ

○經過習性

余ハ未ダ此害蟲ニ就キ試驗セスト雖モ埃及地方ニテ該種ニ酷似シタル棉ヲ食害スル *Panis insulana*, Boiscl. アリ今少シク其經過ノ大畧ヲ述ブレ

紋排列ス但シ第二及ビ第三節ニアルモノハ一列ニ横走ス尙ホ脚ノ直上ニモ同様ノ一紋アリ頭第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ光澤アル黃色ニシテ兩者ノ硬皮板ニハ黒褐紋アリ稻ノ大螟蟲ニ酷似ス

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ根ニ下リ越冬ス翌春加害スルコト大ナリ七月中旬ニ蛹化ス蛹ハ黃色ニシテ眼及ビ翅鞘ノ部分ニ黒紋アリ余ノ試験ニヨリ見ルニハ八月下旬ニ蛾化シタレトモ其歐洲ニ産スルモノハ蛹期甚ダ長ク十三ヶ月ニモ涉ルト云フ未ダ卵子ハ詳ナラズ

○驅除豫防法

此ハ宿根草ナルヲ以テ前種ノ如ク根ヲ掘リ起シ寒風ニ害蟲ヲ曝露スルコト能ハズト雖モ其他ハ前同様ニ驅除豫防スベシ

○棉ノ髓蟲(わたのりんむし)

學名 *Earis ciromataria* Wk.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、綠蛾科 (Nyeleolidae)

第六十九圖

菖蒲ノ螟蟲(まよぶのずいむし)



(2) (7)
幼蟲 成蟲

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠶蛾科

被害植物 苧蒲等

○成蟲

體長五分乃至五分五厘、翅ノ開張一寸一分之レニハ變種アリテ地色ハ黑褐ナルカ或ハ赤褐ナルカノ何レカニアリ赤褐ナルモノニアリテハ前翅ノ環狀紋及ビ腎狀紋ハ美麗ナル黃褐ヲ呈シ半橫線、前橫線ハ平行シテ各二條アリ中橫線及ビ後橫線ハ判然ス後橫線ノ内側ニ波狀線アリテ内側ニアルモノハ犬牙狀ヲナス尙ホ前緣角ニ灰黃ノ一紋アリ後翅ハ暗色ニシテ少シク黃色ヲ帶ビ緣毛ハ光澤アル暗黃ナリ翅ノ裏面ハ灰色ニシテ斑紋ナク前翅ノ中央部ハ暗色ヲ帶ビ腎狀紋ノ部分淡色ナリ頭及ビ胸背ハ前翅ト同色、眼ハ黑綠ニシテ黑點ヲ併列ス觸角及ビ腹部ハ灰褐ニシテ♁ノ尾端ニ赤褐毛ヲ簇生ス黑褐ナル變種ニアリテハ腎狀紋白色ヲ呈シ橫線ハ赤褐ノ種類ノ如ク判然セズ

○幼蟲

充分成長スルトハ一寸一分内外ニ達ス地色ハ灰黃、亞背線氣門上線及ビ氣門線ハ褐色ニシテ稍ヤ判然スレモ背線ヲ缺ク氣門ノ前後ニハ大ナル黑褐ノ疣狀紋アリ上下ニハ小ナル同様紋アリ又背上ニハ廣底四角形ヲナシテ四個ノ小

成長シタル幼蟲ノ有様ニテ切株若クハ地中ニ越年シ翌春蛹化シ次ヅ蛾化スルモノ、如シ兔ニ角幼蟲ハ六月中旬ニ現ハル藍ノ髓中ニ蠹入シテ大害ヲ加ヘ遂ニ枯死セシム此害蟲ニ侵サレタルモハ莖ハ小孔ヲ穿チ之レヨリ蟲糞ヲ排出スルヲ以テ容易ニ認メ得ベシ七月上旬頃ニ老熟シ地上ニ落チ絲ヲ吐キ枯葉ヲ纏メ其内ニ蛹化ス又莖中ニ蛹化スルモノアルガ如シ蛹ハ赤褐ニシテ五分餘アリ二週間内外ニテ蛾化ス是レ第二回ノ蛾ニシテ七月中旬乃至下旬ナリ卵子ハ未ダ判然セズ

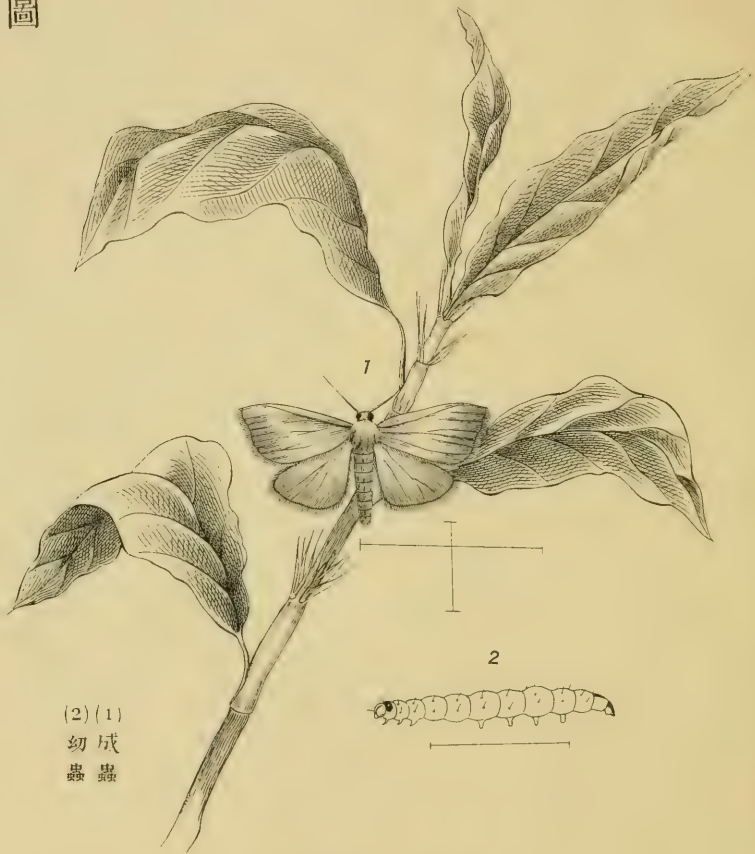
○驅除豫防法

- (一) 六七月ノ頃時々耕圃ヲ巡視シ葉ノ凋萎セルモノアレバ害蟲現存ノ證ナレバ之レヲ抜キテ其害蟲ヲ殺スベシ
- (二) 收穫後ハ落葉其他不用物ヲ集メテ燒棄スベシ
- 他ハ同種同様ノ方法ヲ行フベシ

○菖蒲ノ螟蟲(まよりぶのずいむし)

學名 *Hydracnia nishikans*, Guen.

第六十八圖



(2)(1)
幼成
蟲蟲

藍葵ノ螟蟲

日 本 本 害 蟲 篇

○藍ノ螟蟲(あいのずいむし)

學名 *Botys lepuinalis*, Hf.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 藍

○成蟲 體長四分餘、翅ノ開張八分内外、前翅ハ黃色ニシテ中央部少シク鉛色ヲ

帶ビ班紋ナシ、後翅ハ前翅ヨリ小ニシテ同シク黑色ナレ、少シク黒味ヲ帶ブ、縁毛

ハ前後共ニ濃黃翅ノ裏面ハ灰色ナリ、體ハ暗黃ニシテ胸片ニハ銀色毛アリ、觸角ハ

淡黃、複眼ハ黑褐、下唇鬚ハ黃色ニシテ前方ニ突出ス、脚ハ細長、跗節ノ外側ハ灰色ト

暗色ノ斑ヲナシ、内側ハ灰白ナリ

○幼蟲 充分成長スルモハ長サ六分餘ニ達ス、全體淡褐、若クハ暗黃ニシテ頭、第

一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ褐色、各節四個乃至六個ノ疣狀突起アリテ之レヨリ、本

宛ノ短毛ヲ生ズ、又々頭及ビ體側ニ短毛アリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ未ダ其經過判然セザレ、モ充分

リ少シク太シ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年シ翌春、五月頃ニ蛹化ス。蛹ハ淡褐ニシテ細長ナリ。蛹期ハ二週間乃至三週間、蛾ノ産卵ノ狀ハ未ダ判然セザレ。稲ノ螟蟲、同様ニ葉面ニ一塊ヲナシテ産下セラル、モノナラシ其孵化シタル幼蟲ハ初メテ莖ノ軟柔ナル部分、即チ成長點ヲ食害スルヲ以テ粟ハ直チニ萎縮シテ枯死ス。其成長スルニ從ヒ下部ニ下リ小孔ヲ穿チ之レヨリ褐色ノ蟲糞ヲ出ス。八月頃ニ老熟シ莖中ニ極薄ノ白繭ヲ營ミ其内ニ蛹化シ次デ蛾化ス。此卵子ヨリ孵化シ來リタル幼蟲ハ年内ニ老熟シ根部ニ下リ切株内ニアリテ越年シ翌春、蛹化シ蛾化スルコト前述ノ如シ。蛾ハ燈火ニ飛來セザレ。糖液ニ多少集ル幼蟲モ亦好ンデ糖液ニ集マルノ性アリ。粟ノ最モ害ヲ被ル時期ハ恰カモ其一尺内外ニ成長シタルノ頃トス。

○驅除豫防法

幼蟲モ亦糖液ニ集マルノ性アルヲ以テ其井ヲ地中ニ埋メ口縁ヲ地面ト平行セシムベシ。但シ此場合ニハ糖液ヲ慕フテ歩行蟲ノ如キ有益ナルモノ、陷落スルコト多シ他ハ同前。

第六十七圖



あわのむむむ

(4)(3)(2)(1)
 成幼成
 虫蟲
 被
 害ノ
 状

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 粟、玉蜀黍、藍等

○成蟲 體長五分内外、翅ノ開張八分乃至一寸、早ノ前翅ハ黃色ニシテ外縁ハ黃

褐ヲ呈シ環狀紋、腎狀紋、前橫線及ビ波狀線ハ判然ス、波狀線ハ犬牙狀ヲナシテ殆ノ
ト後縁ノ中央ニ終リ、何レモ色ハ黃褐ヲ呈スレモ亦少シク淡紅ヲ帶ブルモノアリ
後翅ハ暗黃ニシテ暗褐ノ二橫線アリテ一ハ中央ヲ走リ他ハ外縁ニアリ、縁毛ハ光
澤アル、灰白、舌ハ早ヨリ小ニシテ前翅ハ早ヨリ濃色、波狀線ハ著シク犬牙狀ヲナシ
外縁ニハ更ニ波狀ノ赤褐條アリ、翅ノ裏面ハ雌雄何レモ暗色ニシテ環狀紋及ビ腎
狀紋、判然シ、此二紋ノ間、波狀線ノ外側及ビ後縁ハ灰白ナリ、突出セル下唇鬚ヲ有シ
眼ハ黑褐體ハ前翅ト同色、胸片及ビ脚ニハ光澤アル、灰白ノ軟毛ヲ密生ス

○幼蟲 充分成長スルモルハ九分前後ニ達ス、地色ハ灰黃乃至淡褐、頭ハ褐色、第一
節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黃褐ニシテ之レニ小點アリ、背線ハ暗色ニシテ明亮ナレモ
亞背線及ビ氣門線ハ判然セズ、各體節ニハ四個ノ疣狀突起アリテ淡褐ヲ呈シ、其中
央ニ更ニ小褐點ヲ具ヘ之レヨリ一本ノ短毛ヲ生ズルモノアリ、體ハ稻ノ螟蟲(甲)ヨ

褐ナリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノナランカ其經過未ダ判然セズ定メシ前種同様ニ幼蟲ノ有様ニテ越年シ來春ニ至リテ蛹化シ次デ蛾化スルモノナラン
兔ニ角七月下旬ヨリ現ハレ稗ノ莖中ニ蝕入シテ其髓部ヲ食害ス莖ニハ常ニ小孔ヲ穿チ之レヨリ暗褐ノ蟲糞ヲ排出スルヲ以テ其存在ヲ認メ得ベシ八月中旬ニ老熟シ莖内ニ粗繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ濃褐、蛹期ハ大凡二週間、内外、九月上旬ニ蛾化ス其卵子ヲ發見セシモノナシト雖モ葉上ニ産卵シ其孵化シタルモノハ復タ
ビ莖中ニ入り年内ニ充分老熟シ其儘越年スルモノ、如シ

○驅除豫防法

- (一) 石油灌注器ヲ以テ石油乳劑若クハ酢ヲ蟲孔ヨリ灌注スベシ
- (二) 他ハ前種同様ナリ

○栗ノ螟蟲(あわのずいむし)

學名 *Spilodes kodzankalis*, Holl.

第六十六圖



學名 *Leucania zene*, Dup.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠶蛾科

被害植物 稗、玉蜀黍、蘆粟等

○成蟲

體長五分、翅ノ開張一寸乃至一寸一分、前種ニ酷似スレモ肥大セリ、前翅ハ長方形ニシテ前緣角、少シク突出ス、地色ハ赤褐ニシテ外緣ハ少シク淡色、光線ノ工合ニテ少シク紫色ヲ帶ブ、別ニ判然セル斑紋ナク、翅脈ハ太クシテ判然ス、後翅ハ灰白ニシテ中央ヨリ外緣ニ至ルノ間、暗色、外緣ハ少シク黃色ヲ帶ビ、緣毛ハ灰白ナリ、眼ハ黑褐ニシテ毛ヲ有シ、黑紋アリ、觸角ハ黃褐、胸部ハ大ニシテ長毛ヲ密生ス、腹部ハ胸部ヨリ細小ニシテ尾端ニ至リ、細シ、胸腹共ニ灰黃ナリ、腿節及ヒ脛節ニハ灰黃ノ長毛ヲ密生ス

○幼蟲

充分成長スルトハ長サ八分内外ニ達ス、全體灰白ニシテ其形、稻ノ螟蟲ニ酷似ス、背線ハ褐色、亞背線及ヒ氣門線ハ判然セズ、第一節ノ兩側ニハ各一個ノ黑褐紋ヲ有シ、第二節ヨリ尾節ニ至ル迄、四個乃至六個ノ疣狀突起アリテ、其中央ニハ更ニ黑點ヲ具ヘ、之レニ褐色ノ短毛ヲ生ズ、頭ハ黑褐、第一節及ヒ尾節ノ硬皮板ハ淡

ルモノハ稍ヤ一列ヲナシ氣門線ニアルモノ最モ大ナリ頭ハ赤褐ニシテ小サク第一節及ビ尾節ノ硬皮板モ亦赤褐ニシテ之レニ黒褐紋アリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ切株内ニ越年

シ翌春蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ腹面少シク淡色ナリ六、七月頃蛾化ス蛾ハ稻葉ノ裏面ニ産卵ス卵ハ橢圓形ニテ色ハ淡黄長サ三厘許リ縦横ニ溝條アリテ網狀ヲナス前種同様ニ長橢圓形ノ一塊トシテ産下セラレ其數、百内外ナリ此卵塊ハ常ニ母蟲ノ體毛ヲ以テ被蔽セラレ卵期ハ二週間内外、其莖髓ニ蝕入シテ食害シ小孔ヲ穿テテ蟲糞ヲ出スノ點ニ至リテハ前種ニ異ナルヲシ八月下旬、老熟シ次ジ莖中ニ蛹化シ九月上旬乃至中旬ニ蛾化ス此蛾ノ卵子ヨリ來ルノ幼蟲ハ年内ニ老熟シ翌春ニ至リテ蛹化スルコト前述ノ如シ蛾ハ糖液ニ集來スルノ性アリ

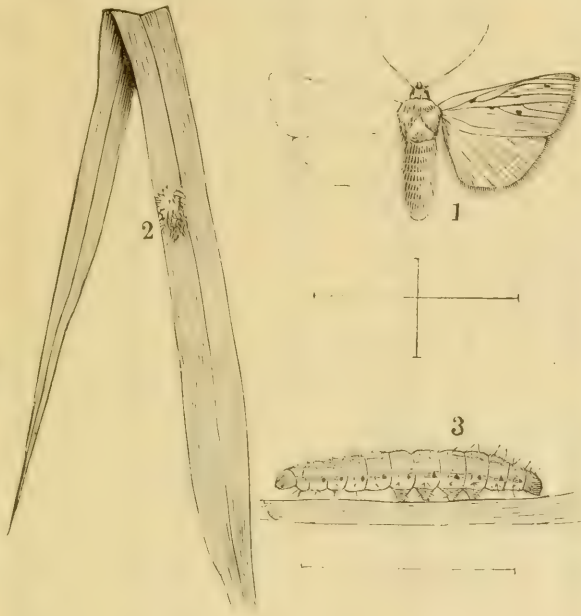
○驅除豫防法

糖液誘殺ヲ行フベシ他ハ同前

○稗ノ螟蟲(ひえのずいむし)

第六十五圖 おほずいむし

- (1) 成蟲
- (2) 幼蟲
- (3) 卵塊



在シ之レヨリ各一本ノ短毛ヲ出ス背上ニアル疣紋ハ小サク第二及ビ第三節ニ在

モ少シク褐色ヲ帶ブ全體、光澤ヲ帶ビ
 三個、若クハ四個ノ黒褐紋アリ外縁ニ
 ハ凹凸ナク縁毛ハ翅ト同色ナリ後翅
 ハ小ニシテ稍ヤ三角形ニ近ク灰白ニ
 テ光澤アリ靜止ノトハ翅ヲ水平ニ疊
 ム體ハ灰白ニシテ肥大シ胸背ハ少シ
 ク黄色ヲ帶ブ脚ニハ軟毛多ク眼ハ黒
 褐ニシテ細毛ヲ有シ又黒紋ヲ併列ス

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸内
 外ニ達ス體ハ圓錐形ニシテ兩端稍ヤ
 細ク地色ハ淡黄ニシテ少シク赤味ヲ
 帶ビ背線及ビ氣門線アレト判然セズ
 各節ニハ十四個内外ノ黒褐疣紋ヲ散

同様ノ經過ヲ終ヘ充分老熟シタル幼蟲ノ有様ニテ越年スルコト前述ノ如シ蛾ハ第一回ニ於テハ可成、長大ノ成長ヲナセル葉上ニ産卵スル性アレド第二回殊ニ第三回ニ至リテハ可成、嫩軟ナル種類ヲ擇ブ性アリ蓋シ後者ノ場合ニアリテハ莖、既に粗剛ニ過ギテ幼蟲ノ食餌タルニ適セザルニヨル一蛾ハ唯ダ一塊ノ卵子ヲ産下スルモノニシテ其卵數ノ多キハ數百ニ達ス其性、前種ノ如ク活潑ナラズ燈火ニ飛來スルノ性アリ

○驅除豫防法 同前

○稻ノ螟蟲(丙)おほずいむし

學名 *Leucania (Nonagriia) sp.*

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠶蛾科

被害植物 稻、蘆粟、玉蜀黍等

○成蟲 體長四分五厘、翅ノ開張九分、前翅ハ略ホ長方形ニシテ前緣角少シク突出シ翅脈ハ太ク判然セリ地色ハ灰黄ニシテ中央部ニ褐色ノ縱條アリテ尙ホ外緣

灰色ニシテ中央ニ黒點アレヒ小ニシテ判然セザルコアリ前縁角ヨリ内縁ノ方向ニ暗黒ノ一條ヲ斜走シ外縁ニハ七八個ノ暗色點ヲ列テ尙ホ翅面全體ニ暗色ノ微小紋ヲ密布ス口吻ハ雌ヨリ長クシテ灰色ヲ呈シ一層ニ化螟蟲ニ酷似ス早ノ腹部ニハ白色ノ軟毛多ク殊ニ尾端ニアルモノハ毛塊ヲナス

○幼蟲 充分成長スルトキハ七分内外ニ達ス黃白ニシテ少シク青味ヲ帶ビ背線亞背線及ビ氣門線ハ判然セズ他ハ前種ト畧ボ同様ナリ

○經過習性 年三回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年シ翌春蛹化ス蛹ハ細長ニシテ尾端少シク上方ニ向キ色ハ赤褐ナリ常ニ稻ノ切株内ニアリテ前種ヨリハ少シク厚キ白繭ヲ被ル蛹期ハ二週間内外、蛾ハ前種同様ニ葉ノ表面ニ産下ス卵塊ノ形狀ハ穹狀ニ隆起セル長橢圓形ニシテ前種ノ如ク圓形ノ卵子相重疊シテ併列シ容易ニ剝離スベカラズ且ツ卵塊ハ母蟲ノ體毛ヲ以テ被蔽セラレ初メハ其何物タルヤヲ見紛フコアリト雖ヒ一度目撃シタルモノハ容易ニ發見スルコトヲ得ベシ卵ハ二週間内外ニテ孵化ス幼蟲ハ二十日前後ニテ四回ノ脱皮ヲ終ヘ次デ蛹化ス第二回ノ蛾ハ六、七月ニ現ハレ第三回ノ蛾ハ八、九月ニ出デ第一回ト

(四) 秋季ハ必ズ耕鋤シテ切株ヲ起シ置キ寒風ニ曝露スベシ九州地方ニテハ刈株ヲ截斷シテ其内ニ潜伏セル幼蟲ヲ撲殺セリ其幼蟲ノ多數ニ潜伏セル恐レアレバ刈株ヲ掘リ起シテ燒棄スベシ

(五) 黃白ヲナシテ枯死セントスル稻莖アレバ是レ螟蟲存在ノ證ナレバ之レヲ根邊ヨリ採リテ其内ニアルモノヲ殺スベシ

(六) 新藁ニテ俵ヲ作ルベカラズ之レニヨリテ螟蟲ノ傳播スルコトアリ

○ 稻ノ螟蟲 (乙) さんかめいちろう

學名 *Tarthesia* sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲蛾科

被害植物 稻、稗、菖蒲、^{マコモ}菰等

○ 成蟲 體長 $\frac{1}{3}$ 至 $\frac{1}{2}$ 吋、翅ノ開張 $\frac{1}{2}$ 至 $\frac{3}{4}$ 吋、前翅ハ灰黃ニシテ縁毛ハ黃色ヲ呈シ中

央ニ一個ノ黑點アリ、二化螟蟲ヨリハ翅細長ニシテ前縁角突出ス、下唇鬚ハ白色、口吻狀ヲナシテ前方ニ突出シ、二化螟蟲ニ酷似ス、合ハ體長 $\frac{1}{3}$ 吋、前翅ノ開張 $\frac{1}{2}$ 吋、前翅ハ

第六十四圖

稻螟 / 稻



(6) (5) (4) (3) (2) (1)
 同 三 同 同 二
 卵 化 卵 幼 化
 塊 螟 塊 蟲 螟
 蟲

存在セル稻莖ニハ小孔アリ之レヨリ褐色ノ蟲糞ヲ排出ス其加害ノ初メハ莖ノ上方ナレモ成長スルニ從ヒ下降シテ水邊ノ莖部ヲ食ス幼蟲期ハ大凡五十日内外老熟スレバ莖中ニ蛹化ス第二回ノ蛾ハ八九月ニ涉リテ出デ此卵子ヨリ成長セル幼蟲ハ深ク切株ニ入りテ越年スルモノト稻莖ニ残りテ傳播セラル、モノアリ何レモ翌春蛹化シ次テ蛾化スルヲ前述ノ如シ尤モ冬期ハ切株内ニアレモ翌春此所ヲ辭シ草木ノ根邊其他落葉下ニ蛹化スルモノモアルナリ蛾ハ燈火ニ飛來スルノ性アレモ糖液ニ來ラズ其飛翔スルヲ餘リ高カラズ晝間ハ稻莖若クハ雜草間ニ棲止シ夜間飛行ス而シテ交尾及ビ産卵ノ如キハ必ず夜間ナリ

○ 驅除豫防法

- (一) 燈火誘殺ヲ行フベシ
- (二) 蛾ハ好シテ強生ノ苗ニ産卵スルノ性アリ故ニ苗代田ノ周圍ニ幅一、二寸位、種ヲ薄ク蒔キ發芽ノ上、水肥ヲ其個所ニノミ施シ他ノ苗ヨリ成長ヲ迅速ナラシメ其産卵ヲ待テ驅除スベシ
- (三) 苗代ハ總シテ三、四尺位ノ幅ニ切ルモハ卵塊ノ有無ヲ發見スルヲ容易ナリ

長、腹部ハ $\frac{9}{10}$ ニテハ七節 $\frac{1}{10}$ ニテハ八節アリ何レモ皆前翅ト同色、脚ハ灰白ナリ

○幼蟲 充分成長スル $\frac{1}{10}$ ハ八、九分ニ達ス體ハ紡錘狀ニシテ兩端稍ヤ細ク地色

ハ黃白若クハ灰黃ニシテ背線、亞背線及ビ氣門線ハ淡褐、此内背線尤モ細ク氣門線ハ餘リ判然セズ氣門ハ黑色ニシテ中央ハ白色ナリ頭ハ黃褐、單眼ハ黑褐、第一節ノ硬皮板ハ光澤アル淡褐ニシテ楯狀ヲナシ各節ニハ八個乃至十個ノ褐色小疣アリテ第二及ビ第三節ノ小疣ハ一字形ニ横列ス頭及ビ腹面ニハ短毛アリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年シ翌春蛹

化ス蛹ハ細長ニシテ赤褐ヲ呈シ尾端ニ數個ノ突起様ノ附屬物アリ(因ニ記ス札幌地方ニハ尙一種ノ

蠅蟲アリテ其經過未ダ判然セザルモ此種類ハ蛹ノ有様ニテ越年スル)長サ四分許多クハ極薄ノ白

繭ヲ被ル蛹期ハ十一、二日、蛾ハ葉ノ表面ニ産卵スルモノニシテ常ニ集合ス其一塊

ノ數普通七、八十個ナリト雖モ少ナキハ二十個位ノ者モアリ一雌ノ總産數數百以

上ノ $\frac{1}{10}$ アリ卵ハ扁平橢圓ニシテ魚鱗形ニ疊重セラレ初メハ淡黃ナレモ次第ニ黃

褐トナリ孵化前ハ殆ンド黑色ニ變ズ卵期ハ二週間内外孵化スレバ葉腋ヨリ蝕入

シテ莖内ニ入り髓部ヲ食ス爲メニ養液ノ上昇ヲ斷テ所謂、白枯稻ヲ生ズ此幼蟲ノ

第六章 螟蟲類

螟蟲トハ一名髓蟲トモ稱シ莖稈ニ蠹入シ其髓部ヲ加害スルモノ、總稱ナリ但シ樹幹ニ蠹入スルモノニハ別名ヲ附シテ木蠹蟲ト云フ棉ノりんむじノ如キハ螟蟲ニアラザレモ假リニ此部ニ入ル

○ 稻ノ螟蟲(甲)にかめいちう

學名 *Tarbesia chrysographella*, Moor.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲蛾科

被害植物 稻、麥類

○ 成蟲 體長三分五厘乃至五分、翅ノ開張八分乃至九分、前翅ハ窄ボ長方形ニシ

テ灰黃色ヲ呈シ褐色ノ小鱗毛ヲ散在ス外縁ニハ縦皺多ク、 \cup ニテハ六個、 \square ニテハ七個ノ黒褐點ヲ列テ縁毛ハ長クシテ翅ト同色ナレドモ光澤ヲ帶グ後翅ハ白色ニシテ縁毛モ亦同色ナリ下唇鬚ハ甚ダシク延長シテ頭ニ三倍シ觸角ハ鞭狀、體ハ細

突起アリテ之レヨリ黒毛ヲ出ス氣門線以下ニ黒紋ナシ此種類ハ時ニ大害ヲ加フルコアリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘越年シ翌春蛹化ス蛹ハ紡錘狀ニシテ黒褐ヲ呈シ頭部ハ稜柱狀ヲナシテ突出シ各環節ノ末端ハ隆起シ腹背ニハ齒列アリテ尾端ニハ二個釣狀ノ附屬物數個アリ六七月頃ニ蛾化ス其産卵ノ狀未ダ判然セズ第二回ノ蛾ハ八九月ニ出ヅ

○驅除豫防法

- (一) 石油乳劑ニ三四十倍ノ水ヲ混シ灌注スベシ
- (二) 冬季ハ蛹ノ有様ニテ地中ニ越年スルモノナレバ秋鋤以テ寒風ニ曝露スベシ
- (三) 六月及ビ九月ノ兩回ニ蛾化スルモノナレバ注意シテ捕フベシ

リ後翅ハ光澤アル淡黄ニシテ外縁ニ近ク一條ノ暗褐横線アリ縁毛ハ長シ翅ノ裏面ハ淡黄ニシテ前翅ニ二紋ト一横線アリ體ハ淡黄ニシテ眼ハ黑緑ヲ呈シ觸角ハ淡褐ナリ

第六十三圖



ほ成(1) 成(1) 幼(2) 幼(2)



○幼蟲

充分成長スルトハ八分五厘内外ニ達ス體ハ黄緑ニシテ頭第一節及ビ尾節ノ硬皮板并ニ胸脚ハ黑色、背線及ビ各節ニ於ケル疣狀突起ハ暗黒ニシテ疣狀突起ヨリハ各一個ノ黒毛ヲ出ス亞背線ノ部分少シク暗色ヲ呈スルモ判然セズ又白線ヲ有スルモノアリ氣門ハ白色ナリ

因ニ記ス此幼蟲ニ酷似シ蠶、蠶、蘿蔔等ノ莢ニ集リ絲ヲ吐キテ之レヲ纏ヒ食害スル螟蛉アリ幼蟲ヨリ推究スルトキハ *Orobena* sp. ナルベクレト未ダ成蟲ヲ得ザレバ學名

判然セズ此幼蟲ハ少シク綠色ヲ帯ビタル黄色ナレトモ背上赤味ヲ帯ビ美麗ナリ頭ハ黄色ニシテ兩側ニ各一個ノ黒紋ヲ有シ背線、亞背線アレトモ判然セズ第一節ノ兩側ニハ各一個ノ大黒紋ヲ有シ他節ニ四個乃至六個ノ黒色ナル疣狀

春五、六月頃、蛾ハ葉上ニ七八十個ノ卵子ヲ産下ス形、饅頭狀ニシテ淡黄色ヲ呈シ表面ニ淡紅ノ輪環アリ卵期ハ五、六日幼蟲ノ成長ハ春時ハ遅シト雖モ夏期ハ早ク大凡二週間内外ニテ老熟シ絹絲ヲ以テ葉ヲ二重ニ屈折シ其内ニ繭ヲ造リテ蛹化ス此繭ハ二重ニ屈折スル處ヨリ切斷セラレテ其儘水面ニ浮遊スルヲ屢ミナリ

○ 驅除豫防法 同前

○ 蘿蔔ノ小螟蛉(ほしあをむし)

學名 *Pionen forficalis*, Hüb. (Syn) *P. sodalis*, Bnt.

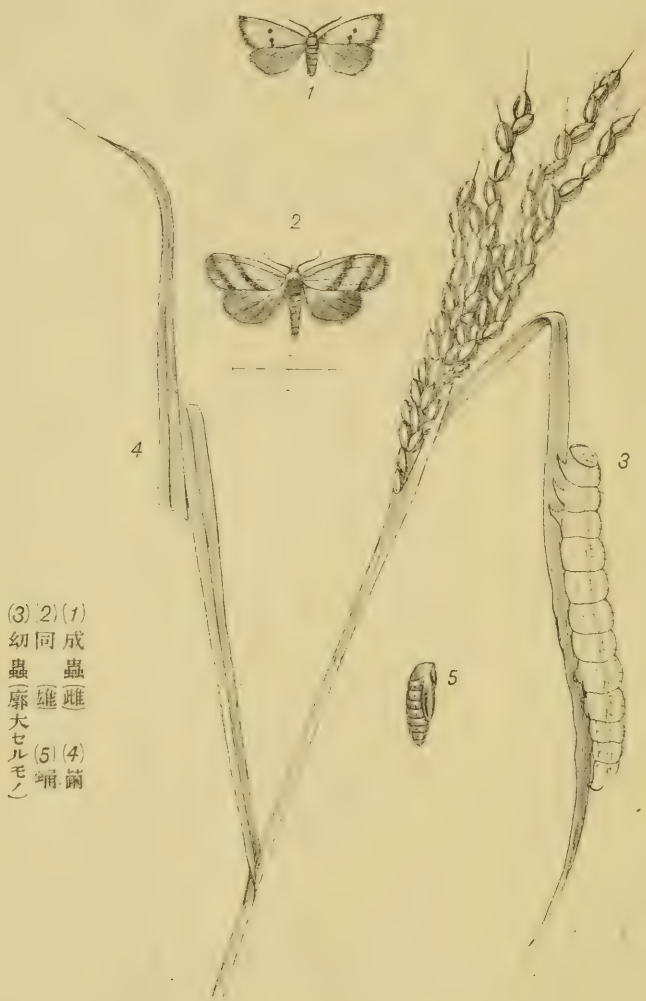
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蟲科

被害植物 蘿蔔、甘藍等

○ 成蟲

體長四分、翅ノ開張九分、前翅ハ三角狀ニシテ前緣角少シク尖リ色ハ暗黄ニシテ光澤ヲ有シ中央ニ二條ノ暗褐ナル横線アリテ翅底ニ近キ一線ハ前緣ニ近キ所ニテ著シク銳角ヲナシテ曲折ス外側ニアル一線ハ弓狀ニ灣曲シテ前緣ニ出ヅ此二線ノ中間ニ暗黑色ノ一點アリ尙ホ外緣ニ近ク不明ノ一線ヲ走ラス

第六十二圖



(1) 成蟲雄
 (2) 成蟲雌
 (3) 幼蟲(麻大セルモノ)
 (4) 繭
 (5) 卵

いねこのあむむ

○成蟲

體長二分五厘乃至三分、翅ノ開張五分五厘乃至八分、 \square ノ前翅ハ略ボ四角形ニシテ前緣角ハ突出ス濃黃色ニシテ中央ニ帶赤褐色ノ斜條ヲ有シ後緣ノ方太シ之レニ平行シテ外緣ニ同色ナル一條アリ後翅ハ黑灰色ニシテ斑紋ナク前種同様ニ黃色ノ緣毛ヲ有ス翅ノ裏面、前翅ハ暗黑色ニシテ周圍黃色ヲ呈シ後翅ハ淡黃ナリ頭及ビ胸背ハ灰黃色ニシテ眼ハ黑褐觸角ハ黃色ニシテ長ク殆ソド前翅ノ半バニ達ス脚ハ多少暗色ナリ \square ノ前翅ハ黃色ニシテ中央ニ二個ノ少シク紫色ヲ帶ビタル暗色紋ヲ有シ此外ニ前緣角ニ同紋ヲ斜走セルモノアリ後翅ハ稍ヤ前翅ヨリ廣ク灰色若クハ黃色ヲ呈シ緣毛長シ裏面ハ \square ト畧ボ同様ナリ

○幼蟲

充分成長スルトキハ六分五厘内外ニ達ス全體淡綠色ニシテ白色ノ背線及ビ亞背線アリ體ハ細長ニシテ第八及ビ第九ノ兩脚最モ太ク此二節ニ腹脚ヲ有シ他ノ二節ニハ之レヲ缺ク尾脚ハ後方ニ突出シ稍ヤ退化シテ細シ故ニ其運行ノ狀尺蠖ニ類ス

○經過習性

年三四回ノ發生ヲナスモノニシテ越年ノ狀ハ判然セザレ \square 蛹ノ有様ニテ越年スルモノ、如シ蛹ハ淡黃ニシテ少シク綠色ヲ混ズ長サ三分許、翌

テ孵化シルソ四十日餘ヲ經テ老熟ス老熟スレバ葉ヲ纏メテ白色ノ薄キ繭ヲ造リ
其内ニ蛹化ス蛹ハ白色若クハ綠白ニシテ背部ハ黑色ナリ長サ五分、蛹期ハ二週間
乃至三週間ナリ其越年ノ状態ヲ判然セザレモ多分卵子ノ有様ナラン稀ニ早春蛾
ヲ見ルコトアレバ或ハ成蟲ニテ越年スルモノモアルベシ

○驅除豫防法

- (一) 長楕圓形ノ掬網ニテ幼蟲ヲ掬ヒ捕フベシ
- (二) 蛹ハ葉ヲ捲キテ其内ニアルヲ以テ搜索シ殺スベシ
- (三) 苗代ノ場合ニハ一段歩三四合ノ石油ヲ水口ニ注ギ次第ニ増水シテ苗ノ没スル迄ニ至ラシムルベシ本田ニハ五、六合ノ分量ヲ用ユベシ

○稻ノ小螟蛉(いねのこあをむし)

學名 *Prastria* sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、擬尺蠖科

被害植物 稻

第六十一圖



○成蟲 體長六分、翅ノ開張一寸、前翅ノ地色ハ金色ヲ帶ビタル褐色、中部ニ二個

ノ銀色紋アリテ少シク金色ヲ混シ其内方ニアルモノハ大ナリ又前緣基部、後緣及ビ前緣角ノ大部ハ金色ヲ呈シ前緣角ニモ同シク金色部アリテ其外側ハ黑褐下方ニ銀紋アリ尙三四條ノ褐色横線アレヒ唯ダ後緣部ニ於テ判然ス後翅ハ黃褐ニシテ光澤ヲ有シ緣毛ハ少シク赤味ヲ帶ズ翅ノ裏面ハ黃色ニシテ少シク褐色ヲ帶ビ前後各一個暗色ノ波狀線ヲ有シ後翅ニハ暗色ノ中央紋アリ頭及ビ前胸背ハ美麗ノ黃赤色ニシテ觸角ハ黃褐、他ノ胸背ハ褐色、腹背ハ灰黃ナレヒ少シク赤味ヲ帶ズ

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸三分乃至一寸七分ニ達ス地色ハ綠色ニシテ縁褐ノ頭部ヲ有シ各關節ニ黃帶アリ背線ハ白縁ヲ有セル暗綠色、亞背線ハ細ク黃色ヲ呈シ氣門下線ハ太クシテ白色ナリ全體面ニ微毛ヲ有ス腹脚ハ二双ニシテ初メノ二双ヲ缺ク故ニ其運行ノ狀尺蠖ニ類似ス

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ第一回ハ五、六月第二回ハ八、九

月卵子ハ灰色ニシテ少シク綠色ヲ帶ビ一個宛、葉下ニ產下ス卵ハ縱溝及ビ横溝ヲ有シ上面ハ穹狀ニ膨起シ下面即チ葉ニ附着スル部分ハ平タシ卵ハ二週間内外ニ

○幼蟲 充分成長スルニハ一寸二分餘ニ達ス地色ハ灰黄ニシテ黑色ノ背線ヲ

有シ亞背線ノ部分ニ判然セザル黑色ノ斜條ヲ列テ氣門線ハ廣ク赤灰色ニシテ其上緣ニ黑色ノ波狀線アリ尙ホ第四及ビ第五節ニ三角狀ノ白紋アリ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ食樹下ノ地中ニ

越年シ翌春ニ至リ蛾化ス蛾ハ若芽ノ附近ニ産卵ス

○驅除豫防法

(一)燈火誘殺ヲ行フベシ

(二)糖液誘殺ヲ行フベシ

(三)秋季根邊ノ地上ヲ攪伴スベシ

○稻ノ螟蛉(いねのあをむし)

學名 *Plusia festuana*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目擬尺蠖科

被害植物 稻、亞麻、香蒲、ガマ莎草等

混ズレニ其數餘リ多カラズ糖液ニ集マルモノ多シ

○驅除豫防法

- (一) 亞麻ヲ害スル場合ニハ掬網ヲ用ヒテ捕フベシ
- (二) 晝間ヲ分タズ加害スルノミナラズ其形大ニシテ且ツ著明ノ斑紋ヲ有スルガ爲メ農家ノ目ニ留マリ易ク從テ手ニテ摘殺スルコトモ容易ナリ
- (三) 秋季ハ耕鋤シテ蛹ヲ寒氣ニ暴露スベシ
- (四) 糖液ニテ誘殺スベシ

○李ノ切蟲(螟蛉)(すもゝきりむし)

學名 *Taenioampa munda*, Esp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠶蛾科

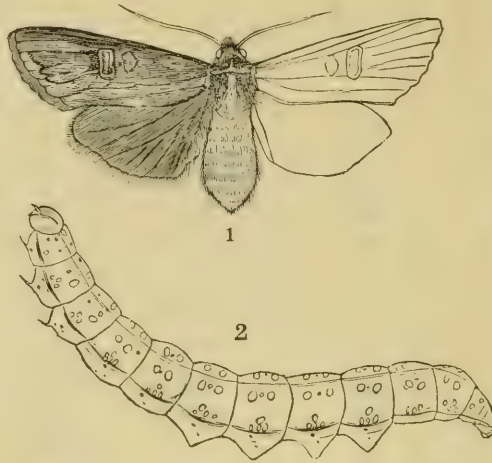
被害植物 李、棗樹、ブナ等

○成蟲

體長四分、翅ノ開張八、九分、前翅ハ灰色ニシテ少シク黃色ヲ混シ腎狀紋ハ判然スレニ環狀紋ハ不明ナリ尙ホ外縁ニ近ク黑紋ヲ有ス

ス前胸ノ毛塊ハ三角狀ヲナシテ前方ニ突出シ胸部ハ四角形ニシテ黒毛ヲ密生シ
前縁ニ黃褐毛アリ腹部ハ灰褐ニシテ尾端ニ灰黃毛アリ頭ハ黃褐ニシテ眼ハ綠褐
其内側ニ黒毛アリ

第六十圖



しむをあらだまご 蟲幼(2)蟲成(1)

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸七分乃

至二寸ニ達ス全體淡綠ニシテ氣門線ハ赤
色ヲ呈シ或モノハ此線連續セズ氣門ノ上
部ニ各三個ノ白紋アリテ背黒輪ヲ有ス尙
各節ノ背上ニ四個ノ同様紋アリテ都合一
節二十個ノ白紋アリ(但シ一節及ビ)尙ホ此他
ニ黒紋ヲ有ス

○經過習性 年一、二回ノ發生ヲナスモ

翌春蛾化シテ食草ニ産卵ス幼蟲ハ五月ヨリ八月ニ亘リテ加害ス常ニ夜盜蟲ト相
ノニシテ蛾若クハ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹
ハ赤褐ニシテ常ニ地中ニアリ晩秋若クハ

ニモ集マル性アリ夏目軒下ノ蛛巢ニ懸リテ死セルモノ多キヲ見ル其害餘リ烈シカズ

○驅除豫防法

- (一) 燈火誘殺ヲ行フベシ
- (二) 糖液誘殺ヲ行フベシ
- (三) 冬季樹梢ニアル枯葉ヲ取り去ルベシ

○ 蠶 蠶ノ星 螟 蛉(ごまだらあをむし)

學名 *Calocampa exoleta*, Hb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、木目蛾科(Xylindidae)

被害植物 蠶蠶、大、小豆、亞麻等

○成蟲 體長八分、翅ノ開張二寸、前翅ハ灰褐ニシテ少シク紫色ヲ混シ、木目狀ノ濃色紋多シ、環狀紋ハ中央ニテ少シク縊レ、其周緣、黑色、腎狀紋ハ大ニシテ、其内ニ黒紋アリ、尙ホ腎狀紋ノ外側ニ黒色ノ部分アリ、後翅ハ黒褐ニシテ、縁毛ハ灰黃色ヲ呈

被害植物 櫻桃、萃樹、李、胡桃、柳、楊等

○成蟲 體長八分乃至九分、翅ノ開張一寸七分乃至二寸、前翅ハ灰褐ニシテ環狀

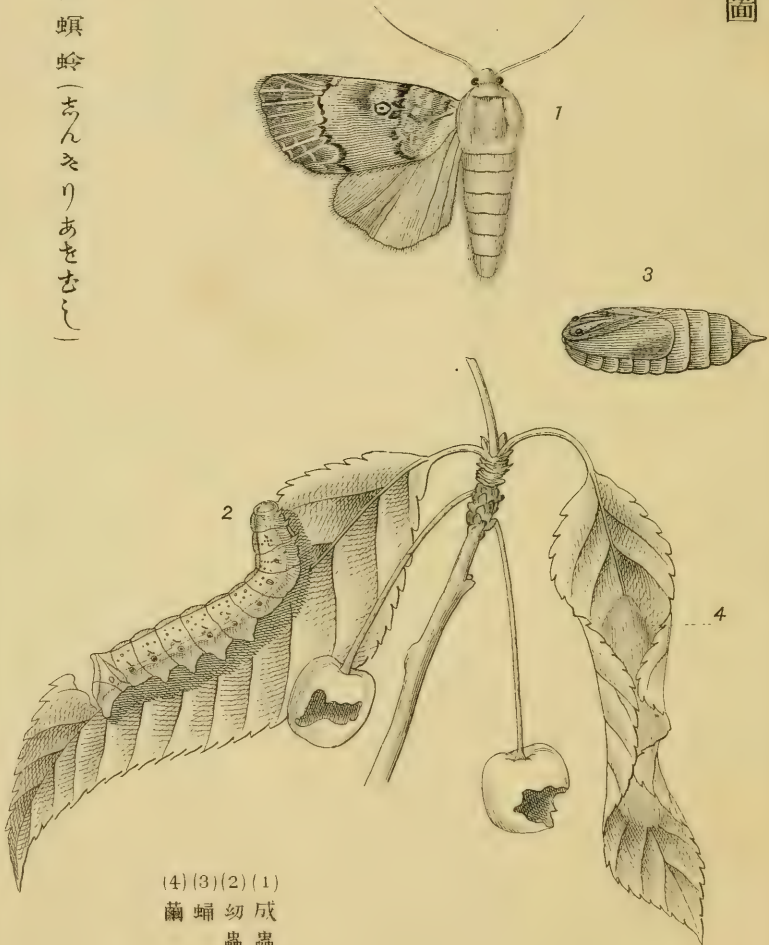
紋ハ白色ヲ呈シ其中央ニ黑紋アリ前横線ハ半バ黑色半バ灰色ニシテ犬牙狀ヲナス翅ノ中央ハ多少黑色ヲ帯ビ後横線ハ灰色ニシテ廣ク尙外縁ニ灰色ノ小紋ヲ列ス後翅ハ赤褐ニシテ前縁ハ黑褐ナリ

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸四五分ニ達ス地色ハ淡緑ニシテ背線ハ白色ヲ呈シ氣門線ハ黃白ナリ氣門ハ白色ニシテ其周縁ハ黑色、第十一節ノ背上ニ三稜形ノ突起ヲ有シ其尖端ハ黃色ニシテ之レヨリ五個ノ白線ヲ出ス尙背線ト氣門線トノ間ニハ白紋多シ極メテ細小ナル短毛アリ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛾ハ七月乃至九月ニ出デ産卵ス之レヨリ孵化シタル幼蟲ハ二回ノ脱皮ヲ終ヘ其儘枯葉ヲ固着シテ其内ニ越年シ翌春新芽ヲ食害シ次テ葉ニ移リ時々實ヲモ害スルコトアリ三回ノ脱皮後ハ固有ノ色澤ヲ現ハシ四回ノ脱皮ヲ經テ老熟シ葉ヲ捲キ粗繭ヲ造リテ其内ニ蛹化ス蛹ハ赤褐ニシテ翅鞘部ハ黑色、其後三四週ヲ經テ蛾化ス其性燈火ニ飛來シ又々糖液

第五十九圖

櫻ノ螟蛉(ちんそりあせむし)



(4)(3)(2)(1)
 成 幼 成
 蟲 蟲 蟲

シテ彼者ハ太ク亞背線ノ直下ニ黒褐條ヲ走ラスコアリ氣門ハ白色ニシテ黒線ヲ有シ更ニ其外圍ニ赤褐部アリ腹面ハ黒色ニシテ斑紋ナシ頭ハ緑黄ニシテ多數ノ黒色點ヲ散在ス

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐

ニシテ少シク藍色ヲ混ツ形前種ニ酷似スレドモ少シク細長ク尾端ニ二個ノ刺アリ翌春五、六月頃蛾化ス卵子ハ不明ナリ兎ニ角一代ハ八週間内外ニシテ第二回ノ蛾ハ八月頃ニ出ヅ晝夜ヲ分タズ飛ブ夏日昔蓆間ニ普通ナリ

○驅除豫防法

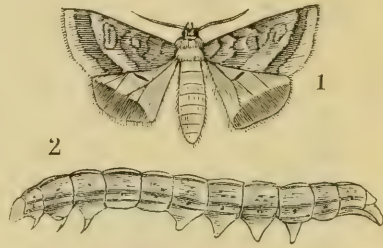
- (一) 亞麻ヲ害スル場合ニハ長橢圓形ノ掬網ヲ以テ幼蟲ヲ掬ヒ捕フベシ
- (二) 他ハ前種同様ニ驅除豫防スベシ

○櫻ノ螟蛉(志んきりあをむし)

學名 *Amphipyra pyrroides*, L. (Syn) *A. sumii*, Feld.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粟蠹蛾科

第 五 十 八 圖



つめさくふて (1) 成蟲 (2) 幼蟲

トナリ其四隅ニ同様ノ點アリ腎狀紋ハ大ニシテ之レヲ通シテ前縁ヨリ後縁ニ太キ暗色條ヲ斜走シ此線ト外線トノ中間ニ同様ノ太キ線アリ外縁ニハ七個ノ黒紋ヲ並列シ縁毛ハ少シク褐色ヲ混ズ後翅ハ黄白ニシテ中央ニ黒紋ヲ有シ外縁ニ黒色ノ太キ帶アリテ此帶ノ中央ニ一個橢圓形ノ黄白紋アリ縁毛モ亦黄白ナリ翅ノ裏面ハ灰黄前翅ノ環狀紋及ビ腎狀紋ハ大ニシテ全ク黒色ヲ呈シ外縁ニ近キ横線モ太クシテ判然ス後翅ノ中央紋ハ表面ノ同紋ヨリ小サク外縁ニアル太キ帶ハ淡色ナリ胸背ハ前翅ト同色腹背ハ黒色ニシテ黄褐毛ヲ有シ體下部ニハ灰白毛ヲ密生ス之レニハ變種多ク其前翅中央ニハ赤褐ノ大紋ヲ有シ翅ノ裏面ハ黄褐ニシテ甚ダ美麗ナルモノモアリ

○ 幼 蟲

充分成長スルキハ一寸三分ニ達ス地色ニハ赤褐ナルモノノ緑褐ナル

モノ及ビ黄褐ナルモノアリテ大ニ其着色ヲ異ニス背線ハ細ク白色ノ二條線ヨリ成ル尤モ此線ノ往々判然セザルモノアリ亞背線及ビ氣門線ハ白色若クハ黄白ニ

ヲ生シ第二及ビ第三節ニアルモノハ一字狀ニ横列シ第四及ビ第五節ニアルモノ最モ大ナリ第一節ノ硬皮板ハ黑褐ニシテ白紋ヲ散在ス頭ハ淡褐ニシテ顔ニ褐色紋アリ

○經過習性

年二三回發生シ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黃褐ニシテ割合ニ細ク前種同様ニ尾端ニ一刺アリ翌春六月頃ニ蛾化ス其經過習性ハ前種ニ酷似ス第二回ハ八、九月尤モ七、八月頃ニ二回ノ蛾化シタルモノハ九月頃ニ三回ノ蛾トナルヲモアリ此種類ハ札幌地方ニテ最モ普通ナレモ前種ハ餘リ多カラズ

○驅除豫防法 同前

○亞麻ノ螟蛉(つめぐさてふ)

學名 *Heliothis dipsaceus*, L. (syn) *H. adaneta*, Junt.

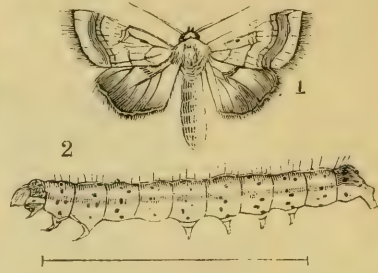
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、螟蛉科

被害植物 亞麻、大、小豆、苜蓿等

○成蟲

體長五分翅ノ開張一寸二分、前翅ハ暗綠、環狀紋ハ甚ダ小ニシテ一黑點

第五十七圖



たばこのあざむし

成蟲(1) 幼蟲(2)

ニハ暗黒ノ帶アリ縁毛ハ光澤アル淡黄ナリ翅ノ裏面ハ表面ト大ニ異ナリテ環狀紋腎狀紋及ビ後横線ノ部分ハ暗黒ヲ呈シ後翅ニハ班紋ヲ缺ク何レモ赤色ヲ混シテ美麗ナリ頭頸及ビ胸背ハ赤褐ヲ呈シ腹部ハ灰黄ニシテ光澤ヲ帶ビ腹面及ビ尾端ハ黄褐觸角ハ赤褐脚ハ灰黄ニシテ赤色ヲ帶ブルモノアルナリ

○幼蟲

充分成長スルモハ一寸三四分ニ達ス地色

ハ様々ニシテ暗緑ナルアリ或ハ赤褐ナルアリテ黄色ノ綾縞様ノ紋條アリ背線ハ暗色ニシテ之レニ白縁ヲ有スルモノアリ亞背線ハ黄白ニシテ細ク此線ニ沿フテ第四節ヨリ十一節ニ至ル迄各節ニ褐色紋アリ第九節ハ其四隅ニ稜狀ヲナシテ黒色ノ疣紋ヲ有シ之レヨリ各二、三ノ黒毛ヲ生ズ氣門上線ハ太クシテ背線ト同色ヲ呈シ氣門線ハ白色ニシテ更ニ其中央ノ赤褐若クハ暗色ナルコモアルナリ其内ニ黒色ノ氣門アリ腹部ハ淡色ナレモ赤褐ノ種類ニアリテハ三條ノ白線ヲ縦走ス各節十二個乃至十四個ノ疣狀突起アリテ之レヨリ短毛

- (四) 石油乳劑ニ三四十倍ノ水ヲ混シ加害セル幼蟲ニ灌注スベシ
 (五) 晝間ハ根邊ノ地下ニアルヲ以テ搜索スベシ
 (六) 亞麻ヲ害スル場合ニハ長橢圓形ノ掬網ヲ用ヒ幼蟲ヲ捕殺スベシ

○ 煙草ノ螟蛉 (乙) たばこのすぢあをむし

學名 *Charlelea umbra*, Hufn. (Syn) *Heliothis marginata*, Frb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目 螟蛉科

被害植物 煙草

○ 成蟲 體長五分乃至六分翅ノ開張一寸一分乃至一寸三分前翅ハ黃褐ニシテ

紋條ハ赤褐ナリ半横線ハ判然シ前横線ハ三折シテ後緣ニ出デ環狀紋ハ大ニシテ其中心ニ一點ヲ有スル者ト其點ノ判然セザル者トアリ腎狀紋モ大ニシテ其中央黑褐ヲ呈シ之レヨリ後緣ニ中横線ヲ斜走ス尙ホ同基點ヨリ前緣ニ斜條ヲ出スモノアリ後横線ハ黑褐ニシテ太ク此線ヨリ外緣ニ至ル迄ハ濃色ヲ呈シ其内ニ更ニ細キ波狀線アリ緣毛ハ藍紫色ヲ帶ブ後翅ハ灰黃ニシテ中央ニ暗色紋ヲ有シ外緣

○ 經過習性

年二、三回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ赤褐ニシテ夜盜蟲ノ蛹ニ酷似スルモ少シク細小ナリ第一回ノ蛾ハ六、七月頃ニ出デ卵ハ葉下ニ一個宛産下セラル其形、稍ヤ球狀ニシテ縱溝及ビ横溝多シ其幼蟲ノ若

第 五 十 六 圖



しむをあとげた 蟲成(1) 蟲幼(2)

- (一) 燈火誘殺ヲ行フベシ
- (二) 糖液誘殺ヲ行フベシ
- (三) 蛹ハ根邊ノ地下一二寸ノ所ニアルヲ以テ搜索シ殺スベシ

○ 驅除豫防法

キルハ全體、綠色ニシテ尺蠖狀ニ運行ス成長スルニ從ヒ晝間ハ根邊ノ土塊間ニ隠レ只、夜間出デ、食害ス但シ曇天ニハ晝夜ヲ分タズ食害スルノ傾キアリ充分成長スルトキハ地中ニ入り土窩ヲ造リ其内ニ蛹化ス第二回ノ蛾ハ八、九月頃ニ出デ復タ第一回同様ノ經過ヲナス蛾ハ糖液ニ來ルヲアリ幼蟲ニ抵觸スレバ環狀トナリテ地上ニ落チ死ヲ真似ス

被害植物 煙草、棉、亞麻、大麻、南瓜、玉蜀黍等

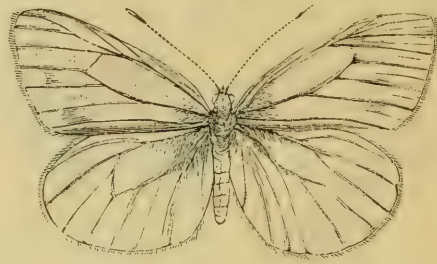
○成蟲

體長四分乃至四分五厘、翅ノ開張一寸二三分、前翅ハ暗黃、若クハ綠黃ニシテ暗色ノ紋條アリ、半橫線及ビ前橫線アレモ餘リ判然セズ、環狀紋ハ甚ダ小ニシテ唯ダ一點トナルモノト環狀ヲナシ、其内ニ一點ヲ有スルモノトアリ、腎狀線ハ判然ス、腎狀紋ヨリ後緣ニ向テ中橫線ヲ出ス、波狀線ハ太ク、其内側ニ更ニ一細線アリ、後翅ハ淡色ニシテ中央ニ弦月樣ノ暗色紋ヲ供ヘ、外緣ニ接シテ廣キ暗色帶ヲ橫走シ、更ニ其中央ニ淡色部アリ、外緣ハ黃色ニシテ緣毛ハ灰白ナリ、翅ノ裏面ニ於ケル環狀紋、腎狀紋及ビ外緣ニ近キ太キ橫線ハ判然ス、頭、觸角及ビ體ハ前翅ト同色ニシテ觸角ハ鞭狀、眼ハ暗褐ナリ

○幼蟲

充分成長スルトハ一寸二分乃至一寸三分ニ達ス、地色ハ様々ニシテ綠色ナルアリ、或ハ褐色ナルアリ、腹面ハ何レモ皆淡色、頭ハ黃褐、背線及ビ氣門上線ハ太クシテ暗綠色ヲ呈シ、氣門線ハ黃色若クハ淡綠色ニシテ、黑色ノ氣門ヲ有ス、又々各節ニハ八個乃至十個ノ黑色ナル疣狀突起アリ、テ之レヨリ各黑色ナル短毛ヲ單生ス、頭ハ綠褐、若クハ黃綠ニシテ、顔ニ濃褐紋ヲ有スルモノアリ

第五十五圖



すぢぐろてふ

○幼蟲 充分成長スルキハ一寸三分ニ達ス地色ハ

少シク褐色ヲ帶ビタル綠色ニシテ兩側ハ少シク淡色ヲ呈シ黃色ノ氣門線アリ氣門ハ黑色ニシテ赤黃ノ周縁ヲ具ヘ體ニハ白色ノ疣狀突起及ビ黒點ヲ散在ス前種同様ニ短毛ヲ密生ス

○經過習性 前種ト同様ニシテ往々農家ノ相混ズ

ルモノナリ唯其異ナル所ハ卵子ハ黃色ナレモ少シク綠色ヲ帶ビ蛹ハ稍ヤ大ナル黒紋ヲ散在シ翅鞘縁ハ黃色ヲ帶ビ頭及ビ胸背突起ノ稍ヤ大ナルト是ナリ

○驅除豫防法 同前

○煙草ノ螟蛉(甲)たばこあをむし

學名 *Heliothis armigera*, Hüb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目螟蛉科(*Heliothidae*.)

- (二) 蝶ヲ誘殺スベシ此蝶ハ糖液ニ集マルノ性アリ又豫メ蕪菁其他大根ノ花ヲ開カセテ之レニ誘引シ後、網羅ヲ以テ捕獲スルモ一法ナルベシ
- (三) 石油乳劑ニ三、四十倍ノ水ヲ混シ灌注スベシ

○ 蔬菜ノ螟蛉(乙)すぢぐるてふ

學名 *Pieris napi*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粉蝶科

被害植物 蘿蔔、蕪菁、甘藍等

○ 成蟲

體長六分乃至六分五厘、翅ノ開張一寸八分乃至一寸九分、春生ノモノ、

翅ハ白色、前翅ノ前緣角及ビ前緣基部ノ半バ并ニ後翅ノ翅底ハ灰黒ナリ又々前翅ノ翅脈ハ廣ク灰黒色ヲ呈シ後緣并ニ第一室及ビ第三室ニ於ケル紋ノ灰黒ナルモノモアリ翅ノ裏面ニ於テハ何レモ翅脈、廣ク灰黒色ヲ呈シ前緣角及ビ後翅ノ全面ハ黄色ナリ夏生ノモノハ形大ニシテ前緣角及ビ二個ノ大紋ハ黒色ナリ又々翅脈ニ沿フテ黒色ヲ有スルモノモアリ

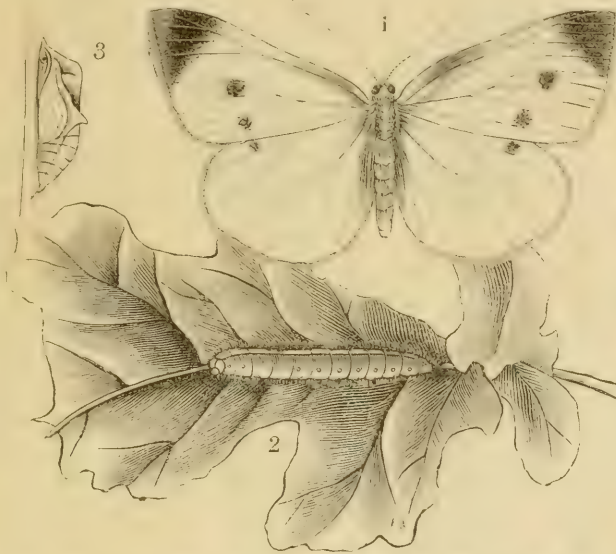
生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス。蛹ハ帶蛹ニシテ灰黄色、綠灰色、若クハ褐色ヲ呈シ、三條ノ黄線アルヲ常トス。又體ニハ黑褐ノ小紋ヲ散在ス。羽化スルモハ多シ。白蠟色ヲ帶ブ。頭ニハ楔狀ノ突起ヲ有シ。胸背ノ中央ニハ縦隆アリ。翌春、四、五月頃ニ羽化ス。蝶ハ黄色、卵ヲ一個宛葉下ニ産附スルモノニシテ大凡、二週間ニテ孵化ス。蝶ハ數日ニ涉リテ産卵スルノ性アリ。從テ幼蟲ノ出ヅルモ一様ナラズ。故ニ農家ガ此害蟲ヲ驅除シ盡シタリト信シ數日ノ後、復タビ田圃ニ至リ前同様ニ幼蟲ヲ發見スルハ是レ晩産、卵子ノ孵化シ來リタルモノニシテ敢テ怪ムベキニ非ズ。况ンヤ時ヲ異ニシタル多蝶ノ來リテ産下スルモノアルニ於テチャ幼蟲ハ七月上旬ニ老熟シ。葉下ニ蛹化スルモノ多シ。蛹期ハ二週間内外ナリ。蝶ハ第二回ノ卵子ヲ前同様ニ産下シ之レヨリ孵化シタル幼蟲ノ老熟スルモハ食葉ヲ辭シ籬垣、板壁、軒下等ニ隱所ヲ索メ蛹化シ其儘越年ス。

○驅除豫防法

- (一) 蝶ヲ捕獲スベシ此ハ黄昏ニ至レバ菜園ニ近キ叢中ニ集マルノ性アルヲ以テ網羅ヲ以テ容易ニ捕ヘ得ベシ

第五十四圖 もんしろてふ

(1)成蟲 (2)幼蟲 (3)蛹



ヲ缺クモノアリ後翅前縁ノ中央ニ一黒紋アリ翅ノ裏面ハ美麗ニシテ前翅ノ翅底ハ緑黄、後翅、翅底ノ前縁ハ黄橙色ヲ帶フ體ハ黒色ナレモ白毛ヲ密生ス眼ハ褐色ニシテ濃褐狀ヲ横列ス觸角ハ黒褐ニシテ各節ニ白毛ヲ裝ヒ觸角端ハ黄色ナリ

○幼蟲 充分成長スルキハ一寸三、四分

ニ達ス地色ハ天鵝絨様ノ綠色、背線及ビ氣門上線ハ細クシテ黄色ヲ呈シ氣門線モ黄色ナレモ連續セズシテ點線ヲナセリ其内ニ黒色ノ氣門アリ腹面ハ黄緑ニシテ頭部ハ緑褐ナリ體面ニハ無數ノ小褐紋ヲ散在シ黒色及ビ白色ノ短毛ヲ密生ス

○經過習性 年二回、若クハ三回ノ發

第五章 螟蛉類

螟蛉トハ蘿蔔ノ葉ヲ食害スル青蟲ノ如キモノニ與ヘラレタル名稱ニシテ學術上ノ分類ニアラズ

○ 蔬菜ノ螟蛉(甲) もんしろてふ又つまぐるてふ

學名 *Pieris rapae*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目粉蝶科

被害植物 蘿蔔、蕪菁、甘藍等

○ 成蟲

體長六分乃至六分五厘、翅ノ開張一寸八分乃至二寸一分、早ハ白色ニシテ少シク黃色ヲ帶ビ前翅、翅底ノ大半ハ灰黑色、前緣角ハ廣ク黑色、若クハ灰黑色ヲ呈シ第一室及ビ第三室ニ大ナル黒紋アリ後翅ハ廣ク前紋ノ中央ニ黑色ノ大紋アリ、白ハ白色ニシテ少シク綠色ヲ帶ビ前翅、前緣ノ翅底ニ近キ大半ハ灰色ヲ呈シ前緣角ノ黑色部ハ早ヨリ少ナク第一室及ビ第三室ニ小黒紋アリ但シ第一室ニ黒紋

酷似スルヲ以テ一見紛ヒ易シ前翅ハ暗黒ニシテ班紋異ナレトモ多クハ五個ノ大白
第五十三圖 紋ヲ有ス後翅ハ黒色ト白色トノ班ニシテ外縁ニハ五個ノ大

むめしやくどりこふ

黒紋ヲ列テ翅底ノ白紋中ニハ黒紋アリ體ハ前種ニ酷似スレ

ト後胸背ハ黄色ヲ呈ス

○幼蟲 充分成長スルトハ一寸三分乃至一寸六分餘ニ達

ス地色ハ黒色ニシテ灰黄ノ縦線アリテ前種ニ酷似ス

○經過習性 年一回ノ孵化ヲナス者ニシテ蛹ノ有様ニ

テ越年ス蛹ハ赤褐ニシテ枝上ニ粗繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス

○驅除豫防法 同前



ク黒色ナリ胸部ハ黄色ニシテ末端、黒ク各胸脚間ノ兩側ニ廣キ黒條アリ腹脚及ビ尾脚モ黄色ニシテ黒紋ヲ散在ス

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐

ニシテ短ク頭部ハ下方ニ突出シ尾端ハ棘狀ヲナシテ終ル常ニ粗繭ヲ造リ地中、塵芥、其他蘚苔ノ中ニアリテ七月中旬乃至下旬ニ蛾化ス卵子ハ黄緑卵形ニシテ一雌ノ産數、大凡四、五十個ニ過ラス蛾ハ晝間、飛翔スルモノニシテ其性、遲鈍ナリ

○驅除豫防法

蛾ハ晝間、飛翔シ其性遲鈍ナルヲ以テ網羅ヲ用ヒ捕獲スルコ

容易ナリ

○梅ノ尺蠖(むめのしやくどり)

學名 Vithorn (Abraxus) enrymede, Mots.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

被害植物 梅、杏等

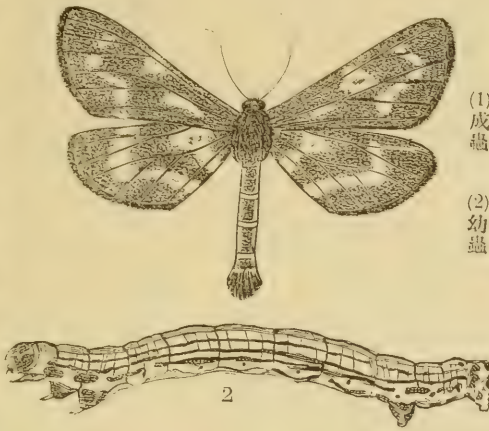
○成蟲

體長六分乃至七分、翅ノ開張一寸六分乃至一寸八分、前出とんぼてふニ

兩側及ヒ腹面ニモ亦同様ノ黒紋アリ、腹部長クシテ尾節ニ黒色ノ長毛ヲ簇生ス
形、蜻蛉ノ如キ觀アルヲ以テ此名アリ、下唇鬚ハ黃白毛ヲ密生シ、觸角ハ黒色ニシテ

第五十一圖 どんぼこぶ

(1)成蟲 (2)幼蟲



棍棒狀ヲ呈ス、脚ハ黒色殊ニ♀ノ後脛節ハ著シク
膨大シ、二双ノ刺アリ

○幼蟲 充分成長スルモハ二寸内外ニ達ス、初

メハ卵子ヨリ蟬化シタル當時ハ白色ニシテ班紋
ヲ有セズト雖モ成長スルニ從ヒ固有紋ヲ現ハス

體ハ灰白ニシテ少シク青味ヲ帶ビ、腹面ハ黄色ナ
リ、第一節ノ硬皮板ハ濃黄色ヲ呈シ、尾節ノ硬皮板

ハ黒色、背線、亞背線、氣門上線及ヒ氣門線モ亦黒色
ナリ、氣門線ハ第四節ノ中程ヨリ九節ノ中程ニ至

リテ終リ、其兩端ヨリ更ニ斷片トナリテ第一節及
リテ終リ、其兩端ヨリ更ニ斷片トナリテ第一節及

ヒ第十二節ニ達ス、腹面ニモ背面ト同様ノ縱條アリ、氣門及ヒ小瘤起ハ、黒色ニシテ
體ノ諸部ヨリ短黒毛ヲ粗生ス、頭ハ黄色、其兩側ニ各三個ノ黒紋ヲ有ス、口部ハ同シ

突起アリ尙ホ尾部ニ棘狀突起ヲ出シ其末端ノ更ニ二分セルハ此屬ノ特性トモ稱スベキカ七月上旬蛾化ス蛾ハ百内外ノ卵子ヲ點々産下スルモノニシテ卵色ハ淡褐ヲ呈シ卵形ナリ幼木ニアラザレバ大害ヲ加フルコト少ナシ桑ノ尺蠖ノ如ク晝間ハ枝上ニ直立セルヲ以テ其存在ヲ認ムルコト難シ

○驅除豫防法 同前

○櫻ノ尺蠖(とんぼてふ)

學名 *Vithora stratonice*, Cram. (*Syn V. agrionides*, Butl.)

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

被害植物 櫻、苹樹、李等

○成蟲 體長八分乃至一寸、翅ノ開張一寸九分翅ハ黑色ニシテ前翅ニ四個ノ大白紋ヲ有スレ此ハ往々相連續セルコアリ後翅ノ翅底ハ白色ヲ呈シ内縁ノ下方ヨリ一個ノ廣キ白條ヲ出シ外縁ノ方向ニ屈折スルノ後、前縁ニ達ス胸背ハ黑色、其前端ハ黃毛ヲ簇生ス腹部ハ黃色ニシテ各節ノ背上ニ橢圓形ノ黑紋ヲ有シ更ニ其

第五十圖



判然セズ後翅ハ一個ノ黒條ヲ有シ内縁ノ下方ヨリ前縁ニ達セズシテ終ル内縁ニハ灰黄色ノ軟毛多シ頭胸ハ灰色毛ヲ密生シ胸部ノ前縁ニハ褐色ノ部分アリ腹部ハ灰褐、其基部ニ灰色毛ヲ帯ビ脚部、殊ニ腿部ニ長毛アリ雄蟲ノ觸角ハ羽狀ニシテ暗黄色ヲ呈シ後脛節ニハ二双ノ端刺アリ雌蟲ノ觸角ハ鞭狀ニシテ後脛節ニハ唯タ一双ノ端刺アリ眼ハ綠褐ニシテ黒紋ヲ列ス

○幼蟲

充分生長スルモハ二寸三分乃至二寸四分ニ達ス色ハ種々ナレモ先ヅ赤褐、若クハ綠褐ニシテ頭ハ黃褐ナリ頭部ハ異形ヲ呈シ兩端ニ鬼角狀ノ突起ヲ出シ其全面ニ更ニ顆粒狀ノ小隆起アリ尙ホ顔ニ一個ノ凹所アリ初メノ三體節皺襞多ク第一、第三、第七、第八及ビ第十節ノ背上ニ各二個ノ瘤狀突起アリ但シ第八節ニハ四個アリ尙ホ各節ニ黃褐ノ瘤狀突起アレモ前者ノ如ク大ナラズ腹部ハ唯タ一双ニシテ九節及ビ十節ノ中間ニ位シ大ニ發達ス尼脚ハ大ニシテ腹脚トノ中間ニ七双ノ瘤狀小突起ヲ具ヘ氣門ハ黃褐ナリ

○經過習性

年一回ノ孵化期ヲ有スルモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐ニシテ腹部ノ環節ハ赤褐、前胸背ノ中央ニ一個ノ縱隆アリテ其兩側ニ耳狀ノ

ニ土中ニアリテ根部ニ附着ス翌春三月中旬乃至四月下旬ニ蛾化ス蛾ハ數百ノ卵子ヲ樹枝ニ集合シテ産下ス幼蟲、孵化シタル當時ニアリテハ黒褐ニシテ其形狀ノ異様ナル恰モ鳥糞ノ葉上ニアルガ如シ成長スルニ從ヒ固有ノ綠色ヲ呈シ發見スルヲ難シ六月中旬頃、蛹化シ其儘越年ス

○驅除豫防法 同前

○萃樹ノ尺蠖(つものしやくとり)

學名 *Biston robustum*, But.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

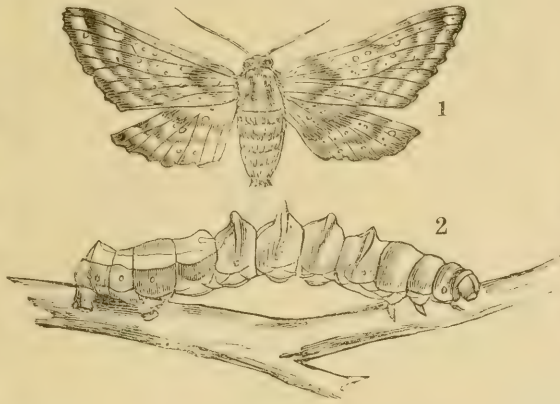
被害植物 萃樹、李、榎、椿等

○成蟲 體長六分五厘乃至七分五厘、翅ノ開張一寸七分乃至二寸三分、翅ハ灰白

色ニシテ殊ニ後翅ニ多數ノ小黑紋ヲ散在ス前翅ハ三角狀ニシテ二個ノ黒條ヲ有シ翅底ニ近キ線ハ餘リ判然セズ外方ニアルモノハ後縁ノ中央ヨリ起リ少シク弓形ヲナシテ前縁ニ達ス尙ホ該二線ノ中央ニアタル前縁ニ黒紋アレヒ雌蟲ニテハ

シ早ノ前翅ニ於ケル横線ハ舌ト少シク異リテ翅底ニ近キモノハ波狀ヲナシテ前
第五十圖 (1)成蟲 (2)幼蟲

くわとげまやくとり



縁ニ出デ中央ニアルモノモ同ジク波狀ヲナシ殆ン
ト其外側ニアル横線ト相接近ス頭及ビ體ハ灰褐ニ
シテ胸背ニ黃褐毛アリ頭少サク眼ハ黑色舌ノ觸角
ハ羽狀ヲナス

○幼蟲 充分成長スルキハ一寸五分内外ニ達ス

體ハ肥大シ地色ハ綠色ニシテ終リノ四、五節ノ兩側
ニハ太キ白色ノ縦條アリ第四、五、六、七及ビ第十一節
ニ太キ棘狀突起アリテ初メノ四個ハ少シク白色ヲ
帯ビ第十一節ニアル者ハ全ク白色ナリ尙ホ尾節ニ
モ二個ノ棘狀突起アリ頭ハ黑褐ニシテ割合ニ少サ
ク脚ハ赤褐ヲ帯ブ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ

蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黑褐ニシテ尾端ニ刺ヲ有シ繭ヲ被ル繭ハ暗色ニシテ常

起テ有シ之ニ灣曲セル六個乃至八個ノ小刺アリ蛹化スルキ絲ヲ吐キ木屑ヲ纏ヒ結ビテ粗繭ヲ造リ樹幹ノ空隙ニ有テ其内ニ蛹化ス蛾ハ卵子ヲ點々葉枝ニ産下ス長卵形ニシテ初ハ綠色ナルモ其孵化スルニ至レバ赤褐ニ變ズ燈火ニ蛾ハ飛來ス

○驅除豫防法 同前

○桑ノ刺尺蠖(くわとげしやくとり)

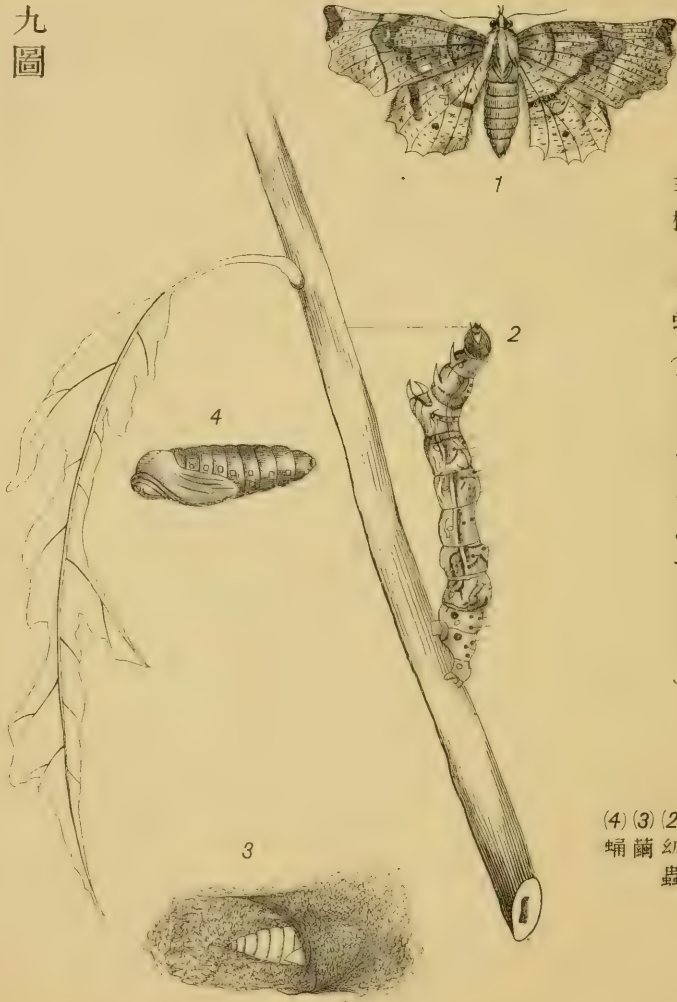
學名 *Apocheima* sp.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

被害植物 桑

○成蟲 體長五分乃至六分、翅ノ開張一寸五分乃至一寸八分、翅ハ灰白ニシテ暗黒ノ横線ヲ有シ赤褐紋ヲ散布ス合ノ前翅ハ翅底ニ近ク銳角ヲナシテ曲折スル横線ヲ有シ翅ノ中央ニ稍ヤ弓狀ニ近キ細形ノ横線アリ前縁ニ出デズシテ終ル又其外側ニ二條ノ太キ横線アリテ内者ハ多少、波狀ヲナシ外者ハ前縁ニ至ルニ從ヒ膨大ス外縁ハ暗黒ニシテ凹凸アリ後翅ハ小ニシテ二條ノ横線中央ヲ横斷シ外者太

第四十九圖



苹樹ノ尺蠖（むらさきまやくとり）

(4) (3) (2) (1)
蛹 繭 幼 成
蟲 蟲 蟲 蟲

○成蟲 體長五分、翅ノ開張一寸二分、翅ハ紫褐色ニシテ翅底ノ過半及前翅ノ前縁角ハ濃色、各翅一個、弦月形ノ白紋アリ前翅ニハ濃色ナル二横線アリ略ホ翅面ヲ三等分ス一ハ翅底ヲ走リ他ハ濃色部ヲ界トシ外縁ニ近ク前横線ト平行ス尙ホ前翅ノ弦月紋コリ後翅ノ同紋ヲ通シテ半圓形ヲ畫ケル濃色部アリ後翅ノ中央ニモ濃色ノ横線アリテ其中程ノ下方ニ同色ノ圓形紋アリ其他翅ノ所々ニ小班紋ヲ散在ス體ハ黃褐ニシテ胸背及ビ頭上ハ少シク紫色ヲ混ズ

○幼蟲 充分成長スルモハ一寸餘ニ達ス色ハ種々ナレモ先ヅ暗褐色ニシテ時ニ灰黃色ヲ呈スルコトモアリ體ノ前半ハ細ク尾節ニ至ルニ從ヒ増大ス四、五、七、八ニ於ケル四節ノ背上ニ各二個ノ突起アリテ殊ニ七節ノ突起ハ發達ス體ノ所々ニ粗毛アリ頭ハ灰黃色、額片ハ灰色ニシテ黒圍ヲ有シ氣門ハ白色ニシテ黒環アリ胸脚ノ前ニハ黒紋アリテ殊ニ二節ニアルモノハ斜走シテ黃色ノ氣門線ニ達ス腹脚ノ前側ハ黒色、後方ハ黃色、第四節ヨリ第八節ニ亘リタル黃色ノ背線ハ判然ス

○經過習性 年二回ノ發生ヲナス者ニシテ第一回ハ六月、第二回ハ八月、蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ五分乃至六分六厘、色ハ赤褐ニシテ尾端ニ皺襞アル瘤狀ノ突

二回ノ蛾ハ九月上旬ニ出テ其卵子ヨリ孵化セル幼蟲ハ越年ス幼蟲ハ晝間、一本ノ絲ヲ吐キ枝様ヲナシテ枝上ニ直立ス爲メニ注意セザレバ發見スルコト難シ

驅除豫防法

- (一) 冬季、樹幹ニ藁稈ノ如キモノヲ纏ヒ付クテ潜伏場ヲ造リ越年性ノ幼蟲ヲ誘殺スベシ又樹幹ノ空隙、或ハ裂目ノ如キ所ヲ搜索シ其潜伏セルモノヲ殺スベシ
- (二) 早春、軟葉ノ開綻ト共ニ食害セルモノナルガ晝間、幼蟲ハ必ズ一本ノ絲ヲ吐キ小枝ノ如ク直立セルガ爲メ注意スレバ發見スルヲ得ベシ此時ニハ鋏ヲ以テ兩斷スベシ
- (三) 六、七月ノ頃、人工ニテ第一ノ如ク樹幹ニ結繭場ヲ造リ其蛹化スルヲ殺スベシ

○ 苹樹ノ尺蠖(むらさきしやくどり)

學名 *Selenia tetralinaria*, Hüb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

被害植物 苹樹、榊、赤楊等

第四十八圖



りどくやあだにわく

(4)(3)(2)(1)
蛹 幼 卵 成
蟲 子 蟲

○幼蟲

充分成長スルルハ二寸内外ニ達ス色ハ其場所ニヨリテ異ナレモ先ヅ灰色ニシテ背部ハ少シク黃赤色ヲ呈シ桑樹ノ皮膚ニ酷似ス腹面ハ黒灰色ニシテ多數ノ黒紋ヲ散在シ殊ニ枯枝ニ彷彿タリ第二節ノ兩側ハ突起狀ニ膨大シ其中間ニ一個ノ黒點アリ第三節ノ後端ニ一字狀ノ横隆アリ其前ニ二個ノ黒點アリ尙ホ第八節ニモ同様ノ横隆アリテ其直前ニ黒色ノ小隆起ヲ散在ス氣門ハ黃赤、氣門環ハ黒色、更ニ其周圍ハ黃赤ニシテ殊ニ第四節ニ於ケルモノ最モ著シ脚ハ五双胸脚ノ内第三双ノモノ最モ發達シ其前半ハ黒色ナリ第四双ノ脚ハ九、十兩節ノ間ニアリテ著シク發達シ黒條ヲ有セリ第五双ハ尾脚ニシテ大ニ發達セルノ外、異狀ナシ尾端ヨリ前方ニ細小スルヲ以テ宛然小枝ノ觀アリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナス者ニシテ幼蟲ハ第二回ノ脫皮ヲ終ヘ其儘越年ス其場所ハ桑樹ノ空隙ニシテ當時、其形甚ダ扁平ナリ翌春、更ニ二回ノ脫皮ヲ終ヘ枯葉ヲ纏メ褐色ノ粗繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ光澤アル黒褐ニシテ翅鞘部ニ縮紋多シ第一回ノ蛾ハ七月上旬ヨリ中旬ニ出デ樹枝、葉裏ニ産卵ス卵ハ最初、青藍色ナレモ其孵化スルニ至レバ紫褐色ニ變ズ蛾ノ卵數ハ七十乃至八十個ナリ第

第四章 尺蠖類

○桑ノ尺蠖(えだしやくどり)

學名 *Hemiraphila atrilineata*, Butl.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、樹尺蠖科

被害植物 桑

○成蟲

翅ノ開張一寸六分乃至一寸九分、體長七分、前翅ハ灰黒ニシテ二條ノ黒色ナル波狀線ヲ有シ一ハ内縁ノ中央ヨリ前縁角ノ方向ニ斜走シ犬牙狀ヲナシ屈曲シテ前縁ニ出ヅレモ其終點ハ判然セズ一ハ之レト畧ボ平行シ翅底ノ内縁ヨリ起リ前縁ノ中央ニ向ヒ中央室ノ中央ニ於テ銳角ヲナシ前縁ニ出デズシテ終ル翅ノ中央ニハ太キ暗褐部アリテ之レハ翅底ヨリ外縁ニ亘ル外縁ノ上方及ビ翅底ニ近キ内縁ノ部分ハ濃色ヲ呈シ全面、黒褐ノ短横紋ヲ群散ス外縁ハ波狀ヲナシ縁毛ハ灰褐ナリ後翅ハ前翅ト同様ノ紋ヲ有シ中央ニ一個ノ黒キ横線アリ外縁ハ濃色ニシテ少シク褐色ヲ混ズ内縁ニハ白色ノ長毛アリ

氣門上ニハ各一條ノ斜走セル黒線アリテ第八節ノ背上ニハ波狀ヲナシ殆ント相接ス第八節ノ氣門上ニモ各一條ノ斜線ヲ具ヘ又第九節ニモ同様ニ波狀線アリテ其一端各背上ニ出ヅ以上ノ黒線トニハ灰白ノ部分アリ尙ホ體ノ各節ニ橢圓形ヲナセル輪狀紋アリテ横列ス

○**經過習性**

年三回ノ發生ヲナスモノニシテ經過習性ノ如キハ前種ニ酷似ス蛹ハ暗褐ニシテ頭部ニ長キ角様ノ二突起ヲ有シ前種ヨリ左右ニ開クト多ク胸部ノ突起餘リ高カラズ初メノ三、四節ニ跨ル腹背ハ少シク弓狀ヲナシテ上方ニ曲リ、第三腹節ハ廣ク左右ニ突出シ其局部、他ヨリ濃色ヲ呈ス第五腹節ヨリ尾端ニ至ル迄、各背上ニ甲狀ノ硬化セルモノアリ

○**驅除豫防法**

前種同様ナリ

第四十七圖

からすばあけは

(一) 成蟲(雌) (二) 幼蟲



♀

2

タ一個ニシテ其形甚ダ
 小サキ者モアルナリ後
 翅裏面ノ内縁ニハ弦月
 形ノ赤紋ヲ列シ内縁角
 ニハ表面ト同様紋アリ
 體ニ斑紋ナク眼ハ黒褐
 ナ呈シ脚ニハ白色ヲ帶
 ブ

○ 幼蟲 充分成長ス
 ルトハ一寸七分乃至二
 寸一分ニ達ス地色ハ前
 種ニ似テ暗綠色ヲ呈シ
 第四節ノ兩側ニハ同様
 ノ眼狀紋アリ第七節ノ

ニシテ前種ニ類スルモ頭及ビ背上ノ突起ハ稍ヤ長シ翌春、五、六月頃ニ發生シ一個宛黃色ノ卵子ヲ柑橘類ノ葉裏ニ産下ス其充分ニ成長セザルハ黑色ニシテ黃白ヲ混ツ短カキ毛塊ヲ散在ス其習性ノ如キニ至リテハ前種ト異ナルナシ

○驅除豫防法 同前

○檳柑ノ烏蠅(からすばあげは)

學名 *Papilio demetrius*, Cram.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、鳳蝶科

被害植物 柑橘類

○成蟲 體長一寸乃至一寸二分翅ノ開張三寸五分乃至五寸體翅光澤アル天鵝

絨様ノ黑色ヲ呈シ翅ニ藍色鱗ヲ散在ス前翅ハ種類ニヨリ濃淡アリテ淡キ者ハ灰

黑色ヲ呈シ前縁、外縁翅脈、翅脈間ノ縱條及ビ中央室ニアル縱條ハ黑色ナリ又後縁

ニアル鱗毛ハ多少綠色ヲ帶ブ後翅ノ燕尾様突起ハ短カク内縁角ニ赤色ノ大紋ヲ

有シ其内ニ黒紋アリ尙ホ外縁ニ近ク第二室ハ弦月形ノ赤紋ヲ有ス尤モ赤紋ハ唯

第四十六圖

あけはのてふ



(1) 成蟲
(2) 幼蟲

○ 經過習性

年三回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ帶蛹

眼狀紋アルヲ以テ猶ホ然ルヲ覺ユ第四節ト第五節トノ縫皺ハ黑色ニシテ之レヨリ各一條ノ細線ヲ出ス此線ハ第六節ニ於テ最モ深ク灣曲シ斜走シテ第八節ノ背上ニ出デ銳角ヲナシテ互ニ相合ス第七、八ノ兩節ニ於ケル斜條ノ外側ハ黒綠色ヲ呈シ第九節及ビ尾節モ亦同様ニ暗黑色ヲ呈スルノ部分アリ尙ホ第四節ヨリ十一節ニ至ル迄兩側ニ各一個ノ輪紋アリテ第六、七ノ兩節ニ於ケルモノ最モ大ナリ第一節ニ藏メアル黃角ハ前種ノきあけはニ酷似シ同臭ヲ發ス頭ハ黃綠ニシテ少シク暗色ナリ

○ 柑桔ノ小烏蠅(あげはのてふ)

學名 *Papilio xuthus*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、鳳蝶科

被害植物 柑橘類

○ 成蟲

體長八分乃至一寸、翅ノ開張二寸七分乃至四寸、地色ハ綠黃ニシテ又々黃色ノモノモアルナリ前翅ハ前種ニ酷似スルモ中央室ニ綠黃ナル四條ノ點線アリテ縱列スルガ爲メニ容易ニ區別シ得ベシ尙ホ中央室ヨリ發スル翅脈ノ兩側ハ廣ク黑色ナリ後翅モ前種ニ類スレモ其異ナル所ハ中央室ヨリ發スル翅脈、兩側ノ廣ク黑色ナルト内緣角ニ於ケル黃赤紋ノ小ニシテ其内ニ更ニ黑點ヲ有スルトニアリ頭及ビ體ノ如キハ前種ト略ボ同様ナリ

○ 幼蟲

充分成長スルキハ一寸二三分ニ達ス全體暗綠ニシテ赤黃紋ヲ散在シ殊ニ第四、第八及ビ第九節ノ背上ニ最モ多シ第三節ノ兩側ニ眼樣紋ヲ有シ其中央ハ黑色更ニ之レニ黃色ノ細線アリテ二分ス尙ホ此二紋ノ中間ニ馬蹄樣ノ四紋アリ第三、第四ノ兩節ハ最モ大キク頭部ヲ收縮スル時ハ此部恰カモ頭部ノ如ク殊ニ

一回ノ蝶ハ四五月頃出ヅ形甚ダ小ナリ是レ蓋シ秋季ニ於ケル食物ノ缺乏ニ歸スルモノナラン第二回ハ六七月頃ニ出デ第三回ハ八九月ニ顯ハル蝶ハ黃綠ノ卵子ヲ一個宛葉下ニ産下ス其形球狀ニシテ少シク側扁ノ氣味アリ卵子ハ數日ノ後孵化ス初メハ黑色ニシテ赤色ノ突起ト白紋ヲ有スレモ成長スルニ從ヒ固有紋ヲ具フルニ至ル老熟スルバ食草ヲ辭シ適當ノ場所ヲ求メ帶蛹ヲ造ル蛹ハ黃綠ニシテ黃色條アリ頭部ヨリ二個ノ角狀突起ヲ出シ胸背及ヒ胸側ニ各一個ノ突起アリ蛹期ハ十日内外ナリ秋季發生シタルモノハ蛹化シ其儘越年ス幼蟲ハ性甚ダ貪食ニシテ時ニ大害ヲ加フルコアリ蝶ハ人ノ能ク知ル處ニシテ百合等ノ花間ヲ徘徊シ復タ一定ノ場所ニ集リ來ルノ性アリ

○驅除豫防法

- (一) 幼蟲ハ大ナルノミナラズ其彩色美麗ナルヲ以テ眼ニ留マリ易ク從テ驅除スルコトモ難カラズ
- (二) 蝶ハ百合ノ如キ花ニ集マルノ性アルヲ以テ之レニ誘引シ捕獲スベシ

○幼蟲

充分成長スルルハ二寸餘ニ達ス地色ハ綠色各節ノ背上ニハ一條ノ黒

第四十五圖

胡蘿蔔ノ烏蠅(きあげは)



蛹(3) 蟲幼(2) 蟲成(1)

帯アリテ其内ニ四個乃至六個ノ赤黃紋ヲ有シ第五節ヨリ尾節ニ至ル迄氣門部ニ鈞狀ノ黒紋アリテ中央ニ各一個ノ赤黃紋アリ尙各環節ノ接合面及び腹面ニ散在セル斑紋モ亦黒色ナリ天蛾科ノ幼蟲ト異リテ尾角ヲ缺ク第一節ノ背上ニ二個黃色ナル肉狀ノ角アリテ平時ハ内ニ藏メ害患ニ接スルルハ出角シ之レヨリ惡臭ヲ發ス頭部ハ黃綠ニシテ四條ノ黒線ヲ有シ額片及ビ單眼部ハ黒色ナリ

○經過習性

年三回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス第

○胡羅蔔ノ烏蠅(きあげは)

學名 *Papilio machaon, L.*

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、鳳蝶科

被害植物 胡羅蔔、防風、茴香等

○成蟲

體長八分乃至一寸一分、翅ノ開張二寸六分乃至四寸ニシテ形ニ甚シク大小アリ春性ノモノ小ナリ前翅ハ黑色ニシテ三列セル黃紋アリ上部ニアルモノ三個ニシテ其二個ハ大キク中央室ニアリ中央ヲ斜走セルモノハ八個ニシテ内縁脈ノ上ニアルモノ最大ナリ最後ニ並列セルモノハ外縁ニアリテ同シク八個ナレトモ大サ他ニ比シテ遙カニ小ナリ後翅、翅底ノ大半ハ黃色ニシテ翅脈及ビ内縁、黒ク外縁ハ天鵝絨様ノ黑色ニシテ其内ニ七個ノ藍色紋ト六個ノ黃色紋トアリ尙ホ内縁角ニ一個、圓形ノ大ナル赤褐紋ヲ有シ外縁ノ下方ニ一個、燕尾様ノ突起アリ體ハ黃色ニシテ胸背及ビ腹背ニ太キ黒縱條アリ又腹面ニモ四個ノ太キ縱條アリ眼ハ褐色ニシテ口吻及ビ觸角ハ黑色ヲ呈シ後者ハ末端ニテ棍棒狀ヲナス

ノ黒紋アリ内縁ヨリハ一個ノ太キ緑褐條ヲ前縁角ノ方ニ斜走シ其内側ニハ數列
 稍ヤ平行セル灰色及ビ緑褐ノ斜條アリ又内縁ハ少シク紫色ヲ混シ内縁ニハ白色
 毛アリ後翅ハ黒色ニシテ内縁角及ビ中央部ハ灰黄色ヲ呈ス頭及ビ胸部ハ前種ニ
 第四十四圖



葡 葡 小 烏 蠅 (すずめふ)

異ナラズト雖モ胸部ニ於ケル金色ノ縦毛ハ太ク腹
 背ノ中央ニ四個ノ灰黄線ヲ縱走シ兩側ハ金色毛ヲ
 生ズ

○幼蟲 充分成長スルキハ二寸五分内外ニ達ス

色ハ緑褐、或ハ暗褐ニシテ時ニ赤褐ヲ呈スルモノモ
 アリ班紋ノ如キハ前種ニ酷似スルモ初メノ第三節
 ニ於ケル亞背線ノ小紋ハ其數少ナクシテ僅カニ三
 個ニ過キス又第七節ニ於ケル兩側ノ黄紋ハ二個相
 接ス

- 經過習性 前種ニ異ナラズ唯タ食物ノ變化ノミ
- 驅除豫防法 同前

接合部ニ黄色ノ帶線アリ氣門下線ハ白色觸角及ヒ額片ハ黄色脚ハ赤褐體下部ハ黑色ナリ尾角ハ上方ヲ向キテ後方ニ突出シ顆粒狀ノ小突起多ク其色ハ黒クシテ尖端ハ白色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナス者ニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐ニシテ灰黄ヲ混ズ形少シク背部ノ方ニ曲リ尾端ノ突起ハ上部ニアリテ餘リ突出セズ翌春六七月頃ニ蛾化ス幼蟲ハ八九月ノ頃青芋等ニ普通見ル所ナリ

○驅除豫防法

同前

○葡萄ノ小烏蠟(すずめてふ)

學名 *Chareocampa japonica*, Boisid.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蛾科

被害植物 葡萄

○成蟲

體長一寸二分、翅ノ開張二寸二分、前種ニ酷似スレモ腹背ニ銀色ノ縱線ナキヲ以テ容易ニ區別シ得ベシ前翅ハ灰褐ニシテ綠色ヲ混シ翅ノ中央ニハ一個

頭頂及ヒ前胸ノ兩側ニ灰色毛ヲ有シ眼ハ淡綠褐觸角ハ櫛齒狀ニシテ形紡狀ニ近
第四十三圖
ク色ハ灰黃ナリ中胸背ノ兩側ニハ細キ金色ノ毛條
ヲ裝ヒ腹背ノ中央ニハ二條ノ銀白線ヲ縱走シ腹側
ニハ金色毛アリ



せすじすめ

○幼蟲 充分成長スルトキハ二寸八分内外ニ達
ス着色ハ様々ナレモ先ヅ綠褐ノモノ多ク稀ニ紫ヲ
混ズルコトモアリ第六節ヨリ尾角ニ至ル迄暗色ノ亞
背線ヲ縱走シ暗色ノ背線ハ第三、四節ノ處ニ終リテ
以下ハ判然セズ體側ハ淡色ヲ呈シ氣門ノ下方ニ當
リ七個暗色ノ斜條ヲ有ス亞背線ニ沿フテ黃色及ヒ
白色紋ヲ列ス其内初メノ三節ニ跨リ兩側ニアル者
ハ小ニシテ九個内外アリ第四節ヨリ第十節迄各兩
側ニ一個ヲ有ス四、五ノ兩節ニアル眼狀紋ハ黃色ト
側ニ一個ヲ有ス四、五ノ兩節ニアル眼狀紋ハ赤色、青色及ヒ黃色ヲ混ズ又各節ノ

青色ヲ混ツ六節以下十節ニ至ル迄ノ眼狀紋ハ赤色、青色及ヒ黃色ヲ混ズ又各節ノ

ヲ呈シ頭端ニハ短大ナル口吻アリテ二重ニ灣曲ス秋季ニ出ヅルモノハ蛹化後、大凡四週間ニシテ蛾化ス九月下旬乃至十月月上旬頃ナリ又蛹ノ越年シタルモノハ翌年五、六月頃、蛾死ス蛾ハ黃昏、白粉花^{オシロイ}ニ最モ普通ナリ其性、燈下ニ飛來ス

○驅除豫防法 同前

○青芋ノ烏蠋(せすじすづめ)

學名 *Cherocampa Oldenlandiae*, Fab.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蛾科

被害植物 青芋^{カラフスビシヤク}半夏等

○成蟲

體長一寸三分、翅ノ開張二寸五分、前翅ハ灰褐ニシテ少シク綠色ヲ帶ビ後縁ノ中央ヨリ斜ニ前縁角ニ達スル灰白條アリ其内側ニ接シテ太キ黒褐狀ヲ有シ此線ノ中央ニ更ニ濃色ノ細線アリ又外側ニハ黒色ノ稍ヤ細キ線アリテ其外側ニ更ニ灰白線アリ尙ホ翅ノ中央ニハ一個ノ黒キ圓紋ヲ有シ内縁ニハ銀白ノ縁毛アリ後翅ハ小ニシテ暗色ヲ呈シ中央ニ灰黃色ノ部分アリ頭及ビ體ハ前翅ト同色

セリ

○幼蟲

充分成長スルモハ三寸五分乃至四寸ニ達ス着色ノ暗褐ナルモノト暗

第四十一圖

えびがらすずめ



ト卵子ニテ越冬スルモノト二様アルガ如シ蛹ハ光澤アル褐色ニシテ腹部ハ暗褐

緑ナルモノトノ二様アリ何レモ暗色ノ背線ヲ有ス第一暗褐ナル種類ノ腹部及ビ體側ニ於ケル七個ノ斜線ハ黃褐ニテ腹部ニハ黒條アリ氣門ハ黒色ニシテ黄色ノ周縁ヲ有シ尾角ハ黒色第二ノ暗緑ナル種類ハ體側ニ七個黄色ト黒色ト相半セル斜線ヲ有シ暗色ナル背線ノ兩側ニ各一個ノ黒紋アリ(但シ第一節及ビ尾節ニ缺ク)尾角ハ黄色ニシテ其末端黒色氣門ハ赤色頭ノ兩側ニハ各二個ノ黒條アリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ前種ニ酷似シ蛹ノ有様ニテ越年スルモノ

飛來シ黄昏、長吻ヲ出シテ花蜜ヲ吸收ス、飛翔極メテ迅速ナリ

○驅除豫防法 同前

○甘藷ノ烏蠅(えびがらすずめ)

學名 Proctoparce convolvuli, L. (Syn) P. orientalis, But.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蛾科

被害植物 甘藷、ヒレガキ旅花、朝顔等

○成蟲 體長一寸七分、翅ノ開張三寸二分、前翅ハ灰褐ニシテ黑色又ハ灰色ノ斑

紋及ビ條線アリテ中央ニ一個、灰色ノ腎狀紋ヲ有シ、其中央ハ暗色ナリ、尙ホ少シク
外縁ニ近キ所ニ一條ノ犬牙狀ヲナセル黑色、波狀線アリ、其内側ハ灰色ナリ、後翅モ
暗灰色ニシテ四條ノ黑色橫線ヲ有シ、翅底ニ近キモノハ短カク、第二線ト銳角ヲナ
シ他ノ三線ハ略ボ相平行ス、頭及ビ體ハ灰褐、觸角ハ淡色ヲ呈シ、眼ハ綠灰色ヲ帶ビ
腹部、各節ノ背上ニ黒毛、白毛及ビ赤毛ノ三橫列アリ、恰カモ蝦ノ腹部ニ類シタルモ
ノアリ、是レえびがらすずめノ名アル所以ナリ、腹端ハ圓錐形ヲナシテ著シク細小

藍色ヲ混ズ、兩側ニハ七個、黑色ノ斜狀アリテ氣門上ヲ走リテ各背上ニ出ヅ、初メノ三節及ビ尾節ノ外、全體面ニ黒藍色ノ小紋ヲ散在ス、尾角ハ暗黄、第三ノ種類ハ黄橙色ヲ帶ビタル初メノ三節及ビ尾節ノ外、全體面ハ綠色ヲ呈シ、斑紋ハ前者ニ酷似ス、以上、述ブルガ如ク幼蟲ノ着色及ビ斑紋ハ様々ナレモ亦其老幼ノ如何ニヨリテ此他ノ諸色ヲ顯スコアリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年スルモノト卵子ノ有様ニテ越年スルモノト二様アルガ如シ、蛹ハ黒褐ニシテ黑色ノ氣門ヲ有シ、地中ニ土窩ヲ造リ其内ニアリ、蛾ハ九月頃ニ普通ナレドモ亦五月、六月頃ニ顯ハル、トモアリ、卵子ハ未ダ判然セザレドモ一個宛、葉下ニ産下セラル、モノ、如シ幼蟲ハ六月下旬ヨリ九月頃迄、食害ス、此害蟲ハ幼蟲、蛹、成蟲ノ何レヲ問ハズ一樣固有ノ音ヲ發スルコトハ既ニ農家ノ知ル處ニシテ其發音ノ方法ハ未ダ知レザルモ成蟲ハ口吻ヲ觸角ニ摩擦シテ鼠ノ如キ音ヲ發シ、幼蟲ノ電花ノ如キ音ヲ出スハ大腮ノ摩擦ニヨルナラント云フ、又蛹ノ發聲ハ其羽化ノ際ニアリ、幼蟲ノ若キトキハ格外ノ尾角ヲ有シ、體ハ細長ナレモ成長スルニ從ヒ何レモ固有形ニ復ス、其性、燈火ニ

ハ大ニシテ淡褐、口吻ハ短大ニシテ黃褐ナリ

○幼蟲

充分成長スルトキハ三寸五分乃至四寸ニ達ス色ハ様々ニシテ先ヅ三

第四十一圖

めんがたすずめ



種アリ第一ノ地色ハ灰褐、若クハ綠褐ニシテ多
數ノ白紋ヲ散在シ各其内ニ褐色點アリ第二及
ビ第三節ハ黃橙色、白色、或ハ褐赤色ニシテ兩側
ニ於テ灰褐ヲ呈シ背上ノ中央ニ天鵝絨様ノ黑
線ヲ縱走ス其縱線ノ中央ニ更ニ黃色ノ細線ア
リ尙ホ此兩節ノ部分ハ體中最モ廣キ所ナリ第
四節ヨリ第十一節ノ尾角ニ至ル迄、二條波狀ヲ
ナセル黑背線アリ此七節ノ兩側ニモ亦短キ黑
線アリテ各氣門上ニ斜走ス尾脚ハ黑色及ビ黃
色ノ顆狀突起ヲ有シ其末端ハ前方ニ灣曲ス氣
門ハ黑色、脚モ黑色ナレドモ末端ハ白色ヲ帶ブ
頭ハ灰色、兩側ハ黑色、額片ニ沿フテ黑條アリ第二ノ種類ハ黃橙色ニシテ背上ニハ

○驅除豫防法 同前

○胡麻ノ烏蠅(めんがたすずめ又がいとつてふ)

學名 *Acherontia atropos*, L. (Syn) *A. medusa*, But.

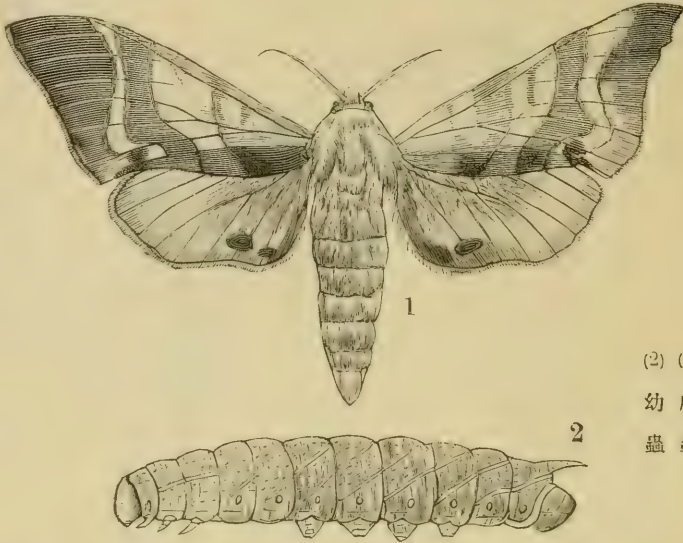
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目天蛾科

被害植物 胡麻、馬鈴薯、茄子等

○成蟲 體長一寸六分、翅ノ開張三寸二分乃至三寸五分、前翅ハ天鵝絨様ノ黑色

若クハ黑褐ニシテ白色及ビ黃色ノ鱗毛ヲ散在ス、翅ノ中央ニハ一個、黃色ノ紋アリ
テ其上ニ更ニ小紋ヲ有スルモノアリ、濃色ノ横線アレド餘リ判然セズ、唯タ外縁ニ
稍ヤ近ク波狀線ヲ認メ得ベシ、後翅ハ濃黃色ニシテ二個ノ黑横線ヲ有シ、外部ハ兩
側ニ凹凸アリ、内部ハ小ナリ、觸角ハ櫛齒狀ニシテ其櫛齒ハ黃褐ヲ呈シ、末端ハ白色
頭及ビ胸背ハ前翅ト同色ナレド後者ハ少シク藍色及ビ黃色ヲ帶ビ、中央ニ二個ノ
黑紋アリ、其形恰モ髑髏ニ類シタルモノアルヲ以テがいこつてふト云フ、腹部ハ黃
色ニシテ各節ニ黑帶ヲ有シ、背上ニ太キ黑線ヲ縱走ス、脚ハ黑色ニシテ黃帶アリ、眼

第四十圖 ももすずめ



(1) 成蟲
(2) 幼蟲

テ三寸五分位アリ氣門ハ白色ニシテ黒縁ヲ有シ胸脚ハ帶綠暗黃ニシテ末端褐色ヲ呈シ腹部及ヒ尾脚ノ兩側ハ褐赤ヲ帶ブ頭ハ綠色ニシテ白條アリ

○ 經過習性

年一回ノ發生ヲナスモ

ノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス翌春五、六月頃ニ蛾化ス蛹ハ黒褐ニシテ初メノ三腹節ハ小孔ヲ散在シ他節ニハ縮紋多シ尾脚ニハ粗糙面ヲ有スル突起ヲ出シ第八腹節ニハ短カキ尾角様ノ突起ヲ有スルモノアリ夜間燈火ヲ慕ヒ家屋ニ來リ又タ糖液ニ集ル其産卵ノ狀ハ前種ニ異ナルナシ札幌地方ニテハ六月下旬頃ニ最モ多ク見ルノ種類ナリ

學名 *Triptogon complacens*, Wlk. (Syn) *T. roseipennis*, Bat.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蛾科

被害植物 桃、櫻等

○成蟲

體長二寸三分乃至二寸五分、翅ノ開張二寸六分乃至三寸一分、前翅ハ暗褐又ハ黃褐ニシテ黑褐ノ斑紋及ビ横線アリ種類ニヨリ大ニ斑紋ヲ異ニセルモノアリ先ヅ最モ普通ナルモノハ翅底ニ接シテ一個ノ短カキ横線ヲ有シ其次ニ三條アリテ各内縁ニ於テ恰ンド相合ス其合スル所ハ濃色ナリ翅ノ中央ニハ弦月形ノ一紋ヲ有シ其外側ニ太キ黃線アリテ其外側ハ銳角ヲナシテ突出ス外縁、中央ノ大半ハ黑褐、其内側ニ横線ヲ有スルモノアリ内縁ハ黑褐ナレドモ少シク藍色ヲ帶ビ後縁角ニ近ク橢圓紋アリ後翅ニ桃赤色ニシテ外縁ハ淡黑褐ヲ呈シ内縁角ニ二個若クハ其相合セル黑褐紋アリ頭及ビ體ハ前翅ト同色、胸部ノ兩側毛ハ少シク藍色ヲ混ズルコアリ

○幼蟲

充分成長スル時ハ二寸七八分ニ達ス全體綠色前種同様ニ白色ノ顆粒ヲ散在シ兩側ニ七個ノ斜走セル疣列アリテ各背上ニ殆ンド相合ス尾角ハ長クシ

全體面ニ白色ナル顆粒狀ノ小突起ヲ散在シ殊ニ兩側ニハ他ヨリ大ナル突起列アリテ第四ヨリ第十一節ニ至ル迄ハ氣門上ヲ斜走シ此部分、白色、若クハ黃白ヲ呈ス第十一節ニ於ケル尾角ハ綠色ニシテ體同様ニ顆粒狀ノ小突起多シ頭ハ青綠ニシテ形、三角狀ヲ呈シ頭頂、細ク顔ニ二個ノ黃線アリ同シク顆粒狀ノ小疣、多シ氣門ハ白色ニシテ赤色ノ周縁ヲ有シ胸脚及ビ體ニ赤紋ヲ有スルノ種類モアルナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛾ハ翌春

六月頃

(札幌ニテハ七月中旬出ヅルコアリ)

ニ出ヅル食樹ノ葉裏ニ一個宛、産卵ス卵ハ綠色、滑澤ニシテ

卵形ナリ幼蟲ハ七月上旬頃ヨリ九月下旬頃迄、加害ス老熟スレバ地上ニ下リ地中ニ入りテ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ尾端ニ短カキ突起ヲ有シ長サ大凡一寸五分、蛾ハ夏口、室内ニ入り來ルコアリ爲メニうちすゝめノ名アリ其性、燈火ニ飛來シ又好シ

糖液ニ集マル

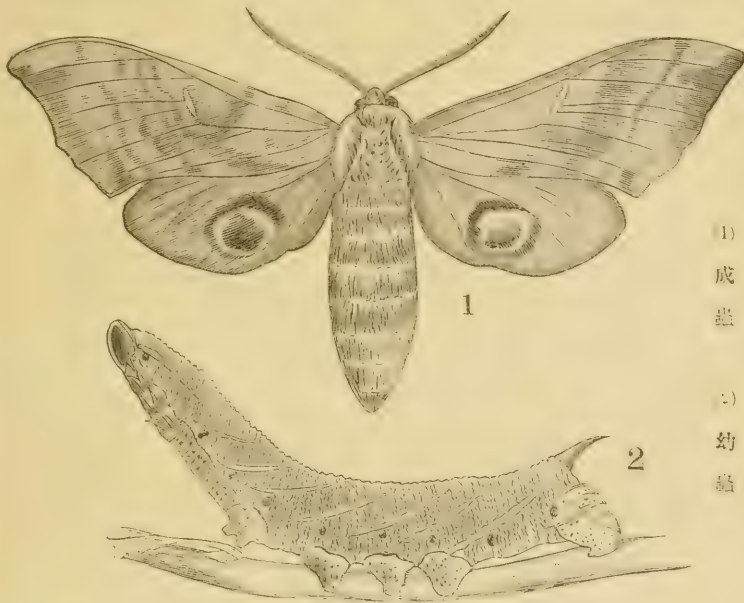
○驅除豫防法

同前

○桃ノ烏蠅(もゝすずめ)

第 三 十 九 圖

う ち の め



1) 成 蟲 2) 幼 蟲

形ノ灰色紋アリ其外側ニハ濃色
 ノ二横線アリテ外縁ニハ不正形
 ナル濃色ノ雲状紋アリ外縁ハ少
 シク波状ヲ呈ス後翅ノ中央ハ桃
 赤色ニテ黒輪ヲ有セル大形ノ眼
 状紋アリ藍色ヲ呈シ其中央ハ暗
 黒ナリ觸角ハ黄色ニシテ頭部及
 ビ前胸ハ灰褐中後ノ兩胸背及ビ
 腹背ハ綠褐ヲ帶ブ翅ノ裏面ニハ
 前後共ニ波状ノ灰色、二横線アリ
 テ前翅底ノ大半ハ桃色ヲ呈シ後
 翅ノ前縁ハ灰色ナリ

○ 幼 蟲

充分ニ成長スルトキ
 ハ二寸五分餘ニ達ス綠色ニシテ

○驅除豫防法

- (一) 收穫後ハ田園ノ落葉ヲ集メテ燒棄スベシ
- (二) 蛹ノ地下ニアルモノハ淺キガ爲メニ攪拌スレハ容易ニ發見スルコトヲ得ベシ
- (三) 幼蟲ハ大ナルモ葉ト同色ナルヲ以テ注意セザレバ看出シ難シ然レドモ動搖スル所ハ地上ニ落下スルノ性アリ故ニ之レヲ踏ミ殺スベシ

○櫻ノ烏蠅(うちすずめ)

學名 *Smerinthus ocellatus*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蛾科

被害植物 櫻、苹樹、柳、白楊等

○成蟲

體長一寸二分乃至一寸五分種類ニヨリ着色ヲ異ニス前翅ノ暗灰色ニシテ少シク綠色ヲ帶アルモノト褐色ヲ帶アルモノトハ最モ普通ナリ翅底及ヒ前縁ハ灰色ヲ呈シ内縁ニ二個濃色ノ大紋ヲ具ヘ翅ノ中央ハ濃色ニシテ之レニ弦月

第三十八圖



葡萄ノ烏蠅
くるますゞめ

(1) 成蟲雌
(2) 幼蟲
(3) 蛹

ヲ呈ス

○幼蟲

充分成長スルトキハ二寸七分内外ニ達ス全體綠色ニシテ腹面ニハ綾樣ノ赤褐紋アリ背線亞背線及ビ氣門間ノ斜線ハ赤褐ヲ呈シ頭及ビ第一節ノ硬皮板ハ割合小ニシテ黃綠ヲ帶ビ各節ニハ七個ノ横皺アリ第三及ビ第四節ノ兩側ハ著シク膨大シ第一節ノ背上ニハ尾角アリテ少シク下方ニ弓狀ヲナス其末端ハ赤褐ナリ胸脚ハ黃褐基節ノ外側ハ光澤アル黑色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス翌春七月

頃ニ蛾化シ卵子ヲ一個宛（罕ニ二、三個アリ）葉裏ニ産下ス卵ハ黃綠ニシテ稍ヤ卵形ニ

近ク孵化前ニハ少シク赤味ヲ帶ブ五、六日ニテ孵化シ出ヅレバ卵殼ヲ食スルノ性

アリ初ハ著シク長キ黑色ノ尾角ヲ有スレテ成長スルニ從ヒ其長ク體ニ準シ色モ

固有有色ヲ呈スルニ至ル老熟スルトキハ地上ニ落チ落葉ヲ纏ヒ極メテ薄キ繭ヲ造

リ其内ニ蛹化ス繭ハ灰褐ニシテ黑色ノ氣門ヲ有シ翅鞘ニ黒點ノ縦列アリ背上ハ

粗糙ニシテ尾端ニハ太キ棘狀ノ突起アリ葡萄ノ新芽ヲ食ヒ時ニ花梗ヲ切りテ大

害ヲ加フルコアリ

第三章 烏蠅類

○ 葡萄ノ烏蠅(くるますずめ)

學名 *Ascomeryx aucens*, Gram.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目天蛾科

被害植物 葡萄

○ 成 蟲 體長一寸乃至一寸三分、翅ノ開張二寸三分乃至三寸、前翅ハ褐色ニシテ少シク紫色ヲ混シ、四個濃色ノ横線アリ、其内、翅底ニ接スル半横線ハ新シキ標本ニ非ラザレバ判然セズ、第三ノ横線最モ廣ク、 \cup ニ於テハ、第二ト相接近セリ、前縁角ニ近ク大ナル濃色紋アリ、 \cap ニ於テハ、此紋、第四ノ横線ト相接ス、尙ホ外縁ノ中央ニ一箇、長橢圓形ノ濃色紋アリ、後翅ハ暗黒ニシテ、外縁ハ紫褐色ヲ呈シ、前翅同様ニ縁毛ハ光澤アル、黃褐ナリ、裏面ハ黃褐ニシテ、前翅ノ翅底及ビ外縁ハ暗黒ナリ、觸角ハ灰色ニシテ、橢齒狀ヲ呈シ、前胸、側ニ各一個及ビ胸腹兩背、上ノ中央ヲ通りテ、一個、灰色ナル縦線アリ、頭及ビ胸部ハ濃褐、腹部ハ圓錐形ニシテ、腹背ハ黒褐、體下部ハ黃褐色

白巢ヲ張り其加害ハ果樹家ノ最モ恐ル、所ナリ六月下旬老熟スレバ巢中極メテ薄キ繭ヲ造リ其内ニ繭ヲ造リ繭内ニ蛹化ス蛹ハ其色初メハ暗緑ナレドモ遂ニ黒褐ニ變ズ二週間内外ニテ蛾化ス幼蟲ハ往々絲ヲ吐キ地上ニ落テ隣木ニ轉ズ食盡クレバ一町内外ハ縱横ニ食物ヲ探リ夜ハ棒杭其他檣籬ノ頂上ニ顆シク絲ヲ吐キテ集合ス他ノ蜻蛉ノ如ク葉上ヲ匍匐スルコトナク常ニ巢ヲ傳ヒ口部ノミヲ葉ニ接シテ食害ス

○驅除豫防法

(一) 樹幹ニアル卵塊ヲ採ルベシ此ハ灰白ニシテ直徑一分五厘乃至二分位ナリ早春枯木狀ナルトキハ容易ニ發見スルヲ得ベシ

因ニ記ス此ハ卵ニアラズシテ既ニ幼蟲ノ孵化セルモ未ダ護謨ノ被蓋ヲ破リテ出デザルモノナレバ記事ノ撞着トシテ誤ルベカラズ

(二) 早春幼蟲ハ巢ヲ張り集合スルヲ以テ驅除スルコト容易ナリ然レドモ時ヲ經レバ一圓ニ巢ヲ張り驅除スルコト甚ダ難シ

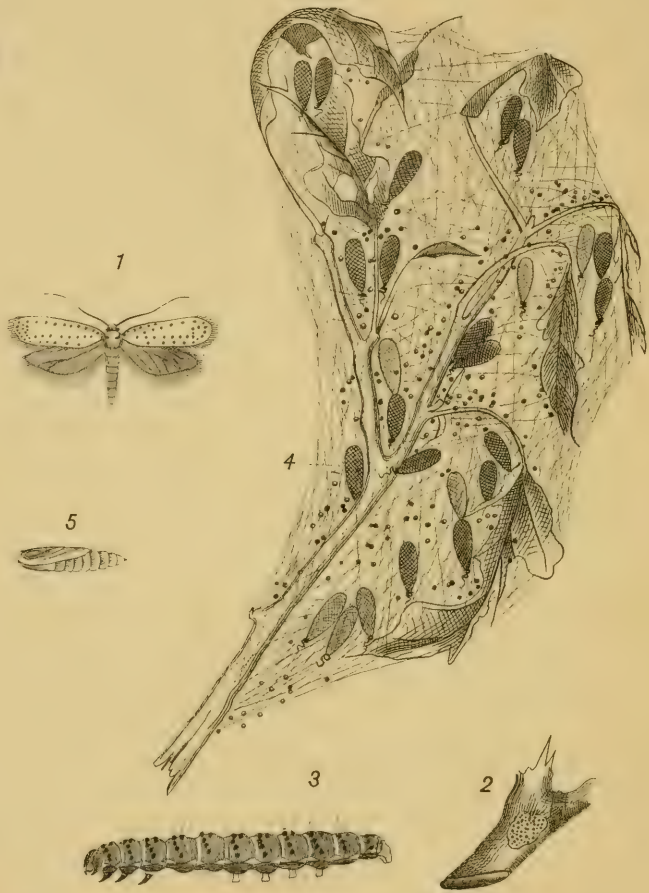
(三) 竹端ニ羅紗布ヲ附ケ之レニ捲キ着ケテ巢ヲ採ルベシ

キ縁毛アリ翅ノ裏面ハ何レモ暗色ニシテ周縁ハ多少灰白ナリ頭、觸角及ビ胸部ハ白色、眼ハ黒ク胸背ニハ四個、胸側ニハ三、四個ノ黒紋アリ腹部ハ灰白、脚ハ白色ナリ

○幼蟲 充分成長スルトハ六分内外ニ達ス全體暗黒ニシテ頭第一節及ビ尾節ノ硬皮板ハ黒色、頭部ハ光澤ヲ有ス第二節ヨリ第十一節ニ至ル迄、各節ノ背上ニ二個ノ天鵞絨様ノ黒紋ヲ有シ各節更ニ二十四個ノ疣様黒紋アリテ之レヨリ一、二個ノ細毛ヲ出ス胸脚ハ黒色、腹脚ハ疣狀ニシテ淡色ヲ呈シ之レニ二、三個ノ細毛アリ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年ス蛾ハ九月頃、出デ卵子ヲ樹枝、若クハ樹幹ニ集産シ其上ヨリ灰色ノ護膜質物ヲ以テ被フ爲メニ其卵子タルヤ否ヤヲ識別シ難シ左レド一度卵子タルヲ知レバ後ハ容易ニ其ノ存在ヲ認メ得ベシ一塊ノ卵數ハ大凡百二十餘ニシテ十月頃、孵化ス但シ翌春迄依然トシテ其護膜下ニ留マルヲ以テ卵子ニテ越年シタル觀アリ早春、試ミニ之レヲ開索スレバ小形ノ幼蟲ヲ認メ得ベシ當時、其色ハ黃色ニシテ少シク綠色ヲ帶ビ頭ハ黒褐ナリ翌春、嫩葉ノ開綻ト共ニ護膜ヲ破リテ出テ萃樹ノ芽、若クハ花ニ集マリ巢ヲ張リテ其内ニ集合ス常ニ褐色ノ小糞ヲ混ゼリ其成長スルニ從ヒ樹一圓ニ

第三十七圖



(5) (4) (3) (2) (1)
 蛹 繭 幼 卵 成
 蟲 子 蟲

蟲 巢 / 樹 萃

層ノミヲ食シ透明ナル表皮ヲ殘留スレドモ成長スルニ從ヒ硬キ全葉ヲ食スルニ至ル其性甚ダ遲鈍ニシテ之レニ觸ルレバ體ヲ環狀ニ捲キ地上ニ落ツ老熟スレバ暗黄ナル長卵形ノ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ兩端細シ

驅除豫防法

- (一)早春、竹葉上ニ雌雄相交尾スルモノ多ケレバ注意シテ捕殺スベシ
- (二)幼蟲ハ群棲シテ食害スルノ性アレバ驅除スルコト易シ

○ 萃樹ノ巢蟲(くるこ)

學名 *Hyponomeuta malinella*, Zell.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、穀蛾科

被害植物 萃樹、梨、櫻、楮、梓等

○ 成蟲

體長二分五厘、翅ノ開張六分五厘乃至七分、前翅ハ雪白ニシテ黒紋ヲ散在シ其數種類ニヨリ異ナリテ二十八乃至四十五個アリ外縁ノ紋ハ他ヨリ小ニシテ且ツ多數ニ集合シ中央部ニ紋ナク縁毛ハ白色ナリ後翅ハ暗色ニシテ同色ノ長

學名 *Proctis funeralis*, But.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、鹿子蝶科

被害植物 竹

○成蟲

第三十六圖

體長二分五厘乃至三分、翅ノ開張六分乃至七分、雄翅ハ淡褐ニシテ光澤

アリ胸腹ハ黑褐、腹背ハ少シク藍色ヲ帶ビ觸角ハ灰黑ニシテ橢齒狀ヲ呈シ♀ノ翅ハ暗黒ニシテ觸角ハ少シク棍棒狀ヲ呈シ藍色ヲ帶ビ腹背ハ一層濃厚ナル藍色ヲ呈ス

○幼蟲

充分成長スルニハ六、七分ニ達ス地色ハ暗黄ニシテ體量及ビ體下部ハ褐色ヲ帶グ各節、四個横列セル黑色ノ疣狀突起ヲ有シ之レヨリ各黒毛ヲ出ス頭ハ黄色、第一節ノ硬皮板ハ黄褐、胸脚



たけのけむし

及ビ氣門ハ黑色、體ノ兩端ニアル毛ハ他ヨリ長シ

○經過習性

年二回、若クハ三回ノ發生ヲナスモノニシテ多クハ蛹ノ有様ニテ越年ス翌春、蛾化シ葉下ニ二、三十粒ノ卵子ヲ産下ス卵ハ卵形ニシテ灰黄色ヲ呈ス幼蟲ハ集合性ニシテ一列ニ並ビ後方ニ食害スルノ性アリ初メハ柔軟ナル葉縁

ヲナス外縁ノ翅脈、分支セルモノアリ

○幼蟲 充分成長スルトキハ五分内外ニ達ス形、短大ニシテ地色ハ灰黄、背線ハ

暗色、亞背線ノ部分ニ黒紋ノ縦列アリ、體ニハ暗色ノ短毛ヲ粗生ス、頭及ビ胸脚ハ黒、
禍ニシテ氣門ハ黒色、腹脚及ビ尾脚ハ短小ナリ

第三十五圖



ほむけむし

○經過習性 成蟲ハ年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛾ハ七

八月ニ出ヅ、七八十ノ卵子ヲ葉下ニ産下ス、卵ハ稍ヤ球形ニシテ黄色
ヲ呈シ、二週間内外ニテ孵化シ、半バ成長シタル幼蟲ノ有様ニテ越
年スルモノ多シ、充分成長スルトキハ暗黄ナル、紙様ノ繭ヲ營ミ、其
内ニ蛹化ス、幼蟲ハ葉ヲ捲キテ食害スル性アリ、蛾ハ晝間飛翔ス

○驅除豫防法

- (一) 蛾ノ飛翔スルユト遅鈍ナレバ捕獲スルユト難カラズ
- (二) 幼蟲ハ捲葉中ニアルヲ以テ其存在ヲ知ルヲ易シ

○竹ノ粘蠶(たけのけむし)

越年スルモノ、如シ札幌地方ニテハ七月頃ニ始メテ幼蟲ヲ見ルコトヲ得ベシ八月中旬ニ老熟シ地上ニ落チ落葉ヲ纏メ其内ニ極薄ノ繭ヲ造リ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ腹部ニ於ケル終ノ五節ハ圓柱形アレドモ他ノ腹節及ビ胸部ハ少クク平タク且ツ廣シ頭側ニハ凹陷セル部分アリ九月下旬蛾化ス

○驅除豫防法

- (一) 幼蟲ハ美麗ニシテ著名ナルノミナラズ形大ナルヲ以テ驅除スルコト易シ
- (二) 蛾ハ糖液ニ來ルノ性アルヲ以テ誘殺スベシ

○梨ノ星蝘蝓(なまはまきけむし又ほまきけむし)

學名 *Northia psychina*, Obert.

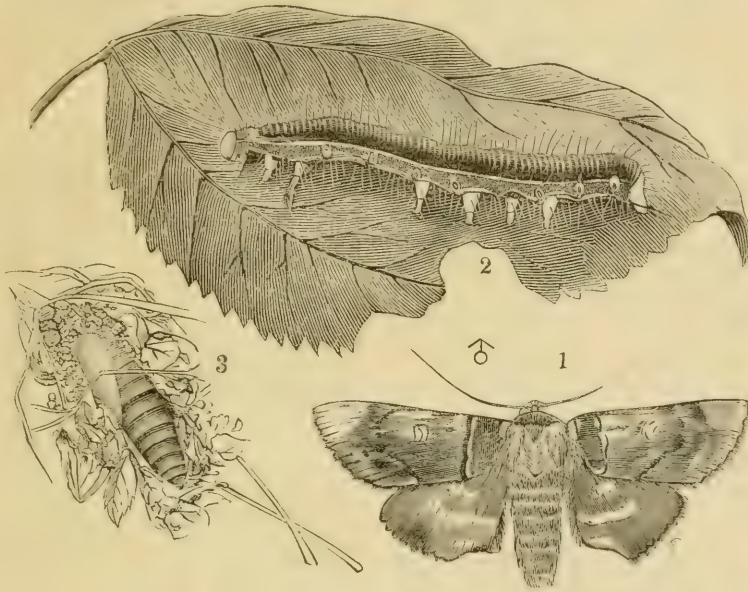
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、鹿子蝶科

被害植物 梨、苹樹等

○成蟲 體長三分、翅ノ開張六分五厘、翅ハ透明ニシテ割合ニ細長ク少シク暗色ヲ帶ビ暗褐ノ鱗毛多ク縁毛ハ黒色ナリ體ハ細クシテ黒色ヲ呈シ舌ノ觸角ハ羽狀

第 三 十 四 圖

か ら む し て ふ



(雄) 蟲 成 (1) 蟲 幼 (2) 蛹 (3)

○ 經 過 習 性

リ

節及ヒ尾節ノ硬皮板ハ黃色、第一節ノモノハ少シク濃色ニシテ黒紋ヲ混ズ頭ハ黒褐、胸脚ハ黃褐、脚ニ沿フテ各一線ノ太キ黒線アリ又タ地色ノ黒色ナルモノハ背上ニ黃色ノ横線多ク氣門下線氣門上線及ヒ腹面ハ黃色、頭、第一及ヒ尾節ノ硬皮板並ニ脚ハ黃褐ナリ此外種類ニヨリ背上ニ黃紋ノ點線狀ヲナシテ縦列セルモノモアリ

年一回ノ發生
 ナナスモノニシテ其越年ノ狀未
 タ判然セザルモ卵子ノ有様ニテ

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、擬尺蠖科

被害植物 苧麻、苧麻、蓴、蓴等

○幼蟲

體長九分乃至一寸二分前翅ハ黑褐ニシテ半横線、前横線及ビ波狀線ハ眞黑ニシテ判然ス環狀紋ハ小ニシテ黑色ヲ呈シ腎狀紋ハ大ニシテ更ニ其中央ニ三個ノ黑紋ヲ有シ其内側ニ黑線アリ半横ノ外側及ビ下方ハ黑色ニシテ之レニ藍色ノ鱗毛ヲ有シ後緣ニ接スル翅ノ大半ハ紫黑ニシテ波狀線ノ外側ニアル弓狀ノ紫黑線ト相連ナル外緣ニハ黑色ノ七八紋ヲ列ス後翅ハ黑色ニシテ三條ノ藍色帶ヲ有シ外緣ニアルモノ短カシ内緣ニ長キ緣毛ヲ簇生ス胸背ハ甚ダ大ニシテ淡褐ヲ呈シ腹背ハ灰黑、尾端ノ背上ニ一個、黑色ノ硬皮板アリテ之レニ平行セル横溝多シ體下部、灰黃ニシテ口吻ハ黃褐、眼ニハ黑點ヲ列ス觸角ハ鞭狀ニシテ小刺アリ

○幼蟲 充分成長スルキハ二寸乃至二寸五分ニ達ス黃色及ビ黑色ノ地色ヲ有セル二種アリテ黃色ナルモノハ黑色ナル氣門線及ビ氣門上線ヲ有シ第四節以下ノ氣門周圍ハ紅赤色、其上下ニ各一個ノ黑點アリテ之レヨリ一個ノ白毛ヲ出ス各節ノ背上ニハ五個乃至六個ノ黑横條アリテ之レヨリ四個ノ長キ白毛ヲ出ス第一

乃至六月ニ蛹化シ三週間内外ニテ蛾化ス蛾ハ卵子ヲ葉裏ニ産下ス卵ハ扁平ニシテ初メハ淡黄ナレモ黒色ニ變ス早ノ産數二百内外鱗狀ヲナシテ集合ス卵ハ十日内外ニ孵化シ其初メハ扁平ニシテ九月下旬頃老熟シ結繭シテ越年スルコト前述ノ如シ幼時ニアリテハ集合シテ常ニ葉裏ノ葉綠層ヲ食ヒ網狀脈ノミヲ殘留ス時ニ大害ヲ加ヘ食樹ヲ裸木ナラシムルコトアリ其舉動遲鈍ニシテ風雨ノ際ハ墜下スルコト多シ故ニ此等ノ日ニハ樹梢ヲ辭シテ樹幹ニ集マルノ性アリ幼蟲ノ裝ヘル刺ハ有毒ニシテ皮膚ニ觸ル、時ハ腫癰ヲ生ズ此場合ニハ「アンモニア」ヲ塗ルベシ

○驅除豫防法

- (一) 冬季樹幹ニアル繭(オメイソンツボ)ヲ採ルベシ
- (二) 七月頃葉下ニ卵塊アルヲ以テ注意スレバ發見スルコト得ベシ
- (三) 幼蟲ハ樹ヲ動搖スルトハ落下ス唧筒ニテ水ヲ注グモ亦然リ

○苧麻ノ縞粘蟬(からむしてふ)

學名 *Coelytodes modesta*, Van. H.

其幼稚ナル時ニハ全體、黃褐色ヲ呈ス尙ホすも、のいらむし (*Parasa hilvius*, West.) ト
 第三十三圖 いらむし (1)成蟲(雌) (2)繭 (3)卵子



如キ觀アリ色ハ褐色ニシテ灰白ノ班紋アリ幼蟲ハ此内ニアリテ越年ス翌春、五月

(3)卵子

(1)成蟲(雌)

(2)繭

稱シテ此レニ酷似セルモノアリ
 此レハ全體、美麗ナル綠色ニシテ
 背線ハ桃色ヲ呈シ其兩縁ハ青色
 ナリ此族ハぐみ、けやき等ヲモ食
 害ス又タ梨ノいらむし (*Mimesa in-*
ornata, Walk.) ト稱シテ一種前者ニ

酷似セルモノモアルナリ

○經過習性 年一回ノ發生

ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニ
 テ越年ス其越年スル前絹絲ヲ吐
 キテ卵形ノ繭ヲ造營ス此ノモノ
 堅クシテ光澤ヲ有シ恰モ烏卵ノ

アリ何レモ前縁角ヨリ出デ一ハ翅ノ中央ニ終リ他ハ稍ヤ外縁ニ平行シ殆ンド内縁ニ達シテ終ル内縁コリ外縁ニ至ル迄ハ赤褐ニシテ微小ノ褐色紋ヲ散在ス又々翅ノ中央ニハ \square ニ限リ二個、黒紋ヲ有スル \square アリ後翅ハ黃褐ニシテ同シク褐色紋ヲ散在ス脚及ビ下唇鬚ハ褐色、觸角鞭狀ニシテ黒褐ヲ呈シ腹部ハ黃褐ナリ

○幼蟲

充分成長スルトハ八分内外ニ達ス體ハ短大ニシテ各節ノ體側ニハ各二個ノ肉様突起アリテ更ニ之レヨリ環節アル黒色ノ小刺ヲ出ス地色ハ黃綠色、紫褐色ノ背線アリテ之レ第二、第三、第四、第八、及ビ第九節ニテ膨大ス青藍色ヲ混ズル部分アリ尙ホ第十節ノ兩側ニ長形紋アリテ同シク青藍色ヲ混ス第十一節ニハ慈姑狀ノ班紋アリテ尾節ニハ八個ノ黒褐小紋ヲ裝フ背線ハ綠色ニテ細キ二線ヨリ成リ短クシテ只ダ體ノ中央ニアルノミ脚ハ只ダ胸脚ノミニシテ甚ダ小サク腹脚及ビ尾脚ハ退化シ腹面全體歩行ニ適シ其運行ノ狀、恰モ^{ナメクシ}蛞蝓ノ如シ頭ハ灰黃色ニシテ兩側、黒色ヲ呈シ形甚ダ小サク延長セル第一節ノ下ニ隠レ第一節ニハ刺毛ナク其背上ニハ二個ノ黒紋アリ第三、第四及ビ第十節ニ於ケル肉狀突起ハ最モ大キク第三節ニアル大突起間ハ黃色ノ一文字形ヲ有シ第四節ニハ二個ノ黃紋ヲ裝フ

因ニ記ス該蟲ハ時ニ群生シテ粟若シクハ萃樹ノ葉ヲ食盡シテ大害ヲ加フル
ヲアレモ此老蠶ノ體中ニアル絲腺ハ即チ魚釣家ノ使用スル絲絲テグストナルモノ
ナレバ其製造ニヨリテ却テ利益アルモノト云フベシ

○驅除豫防法

- (一) 冬季卵塊ヲ探ルベシ多クハ樹幹ニアリ
- (二) 蛾ハ燈下ニ飛來スルノ性アレバ誘殺スベシ
- (三) 早ヲ以テ合ヲ誘引スベシ
- (四) 繭ヲ採ルベシ

○柿ノ刺蟲(いらむこ)

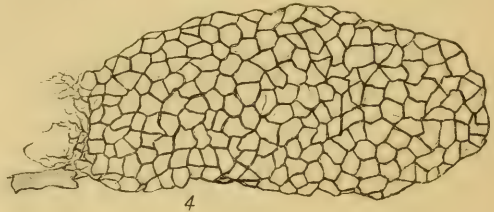
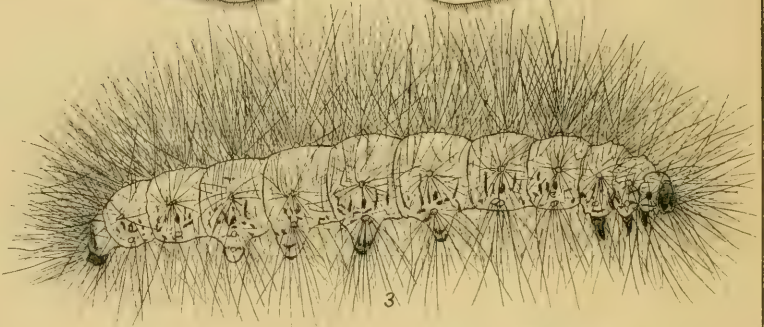
學名 *Monema flavescens*, Walk.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、刺蟲科

被害植物 柿、棗、梅、苹樹、桑、朴等

○成蟲 體長五分、翅ノ開張一寸二分、地色ハ黃色ニシテ前翅ニ二個、褐色ノ横線

圖二十三第



4 3 2 1
 繭 幼 卵 成
 蟲 子 蟲

うろたがら志

灰色ノ横線アリ又或ル種ハ同様ノ紋狀ヲ有スレモ地色ハ赤褐ナリ♀ハ黃褐ニシテ淡濃ノ別アリ紋條ノ如キハ合ト同様ナレモ桃色ヲ呈スル部分ナシ

○幼蟲

充分成長スルモハ三寸餘ニ達ス地色ハ淡綠、氣門線ハ青色ニシテ斷續シ氣門モ亦タ青色ニシテ美麗ナリ各節、六個ノ疣狀突起ヲ有シ之レヨリ長キ白毛ヲ簇生ス尙ホ體面ヨリ同様ノ長毛ヲ發ス氣門ノ周圍ニ數個、黑色ノ短線アリテ各節、其數ヲ異ニシ又々腹面ニモ黑點多ク第一節并ニ第六節ノ腹面ハ黑色ニシテ胸脚及び其周圍モ亦タ黑色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス色ハ淡褐ニシテ黑褐ノ小紋ヲ散在ス樹皮ニ産下セラレ形、橢圓ニシテ直立ス卵ノ一端ニハ圓形ノ暗黒部アリテ孵化スルモハ此部分ヲ破リテ出ヅ一雌ノ産數三百四十内外、二、三個所ニ産下セラル、モノ、如シ翌年、五、六月頃ニ孵化ス其初メハ黑色ニシテ二齡ヨリ白毛ヲ裝フニ至ル四十五日内外ノ日數ヲ經テ老熟シ食樹ヲ辭シテ網目狀ノ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ黃褐ニシテ横皺、多ク腹面ハ暗褐ナリ此繭ヲ俗ニすかしだわらト云フ九月下旬、蛾化シ卵子ヲ産下スルコトハ前述ノ如シ

(三) 雌蛾ヲ以テ雄蛾ヲ誘引スベシ

○ 栗ノ蛄蠲(まらがたるう)

學名 Caligula japonica, Moor.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蠶蛾科

被害植物 栗、樟、桉樹、白楊、胡桃、漆等

○ 成蟲

體長九分乃至一寸、翅ノ開張三寸八分乃至四寸五分、着色ハ大ニ異リテ

合ニ二様アリ一ハ暗黃綠ニシテ前翅ニ二個、濃色ノ橫線アリ其一ハ翅底ニ近ク其

一ハ中央ヲ斜走ス此二線ノ間ハ灰色ニシテ其内ニ一個、半月形ノ紋アリ其中央ハ

透明ニシテ周圍少シク赤味ヲ帶ブ外緣角ニハ桃色ノ部分アリテ之レニ白色ヲ混

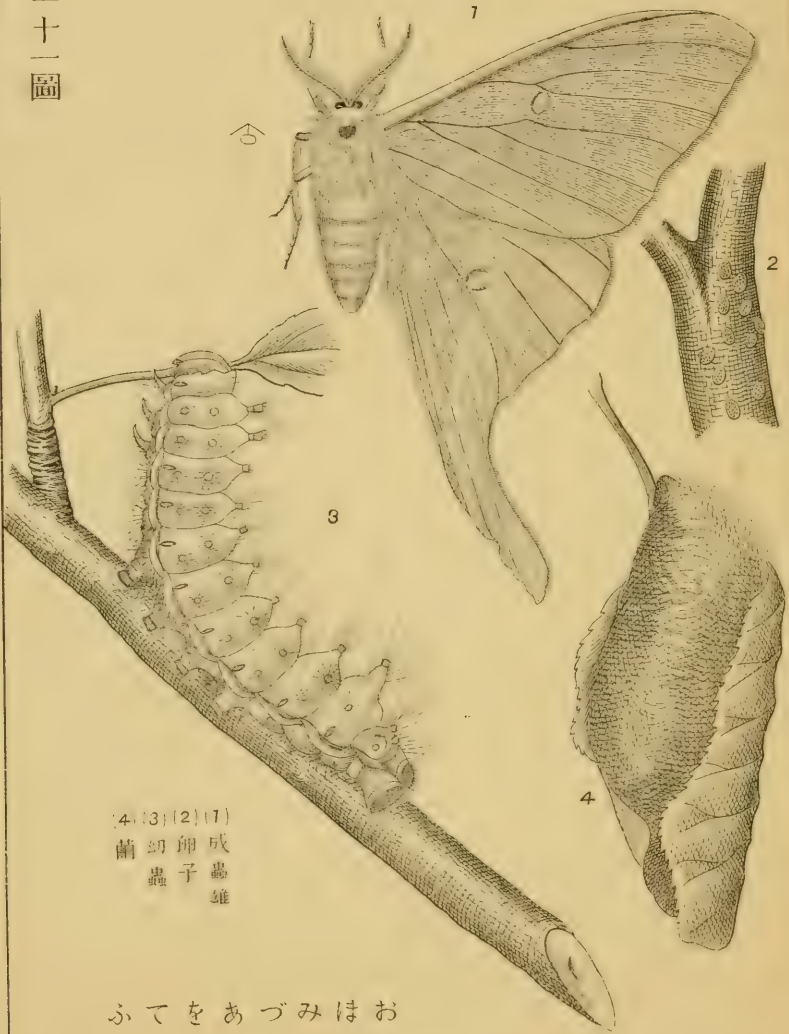
シ其内側ニ黑紫色ノ紋アリテ之レヨリ波狀ヲナシテ紫褐色ノ二線、内緣ノ方向ニ

斜走ス後翅ハ前翅ヨリモ少シク濃色ニシテ中央ニ黑紫色ノ眼狀紋ヲ有シ其内ニ

弦月形ヲナセル透明部アリ尙ホ此紋内ニ黃綠及ビ白色ヲ混ズ此ノ眼狀紋ノ周圍

ハ桃色ナリ之レニ近ク内方ニ一個、外方ニ二個紫褐色ノ波狀線ヲ有シ尙ホ外緣ニ

第二十一圖



1) 雄成虫
2) 卵
3) 幼虫
4) 葉

ふてをあげみほお

ケル背上ノ四疣及ビ第十一節ノ背上ニ於クル一疣ハ大キク兩側ノ疣ハ小ナリ此等ノ疣ハ何レモ黄橙色ニシテ褐色ノ長毛ヲ數個粗生ス尙ホ背上ニ白毛アリ第一節ノ硬皮板ハ淡緑尾節ノ硬皮板ハ紫褐ニシテ其上ニ黄色部アリ氣門ハ赤黄ニシテ美麗ナリ頭ハ淡紫褐兩側ハ濃色ニシテ灰色ノ短毛ヲ帶ビ胸脚ハ黄褐ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐

ニシテ赤褐ノ繭中ニ在リ繭ハ厚クシテ葉ニ蔽ハレ樹梢ニ在リ翌春六七月頃ニ蛾化ス蛾ハ班ニ卵子ヲ樹枝ニ産附ス卵ハ球形ニシテ少シク平タク暗褐ニシテ濃色ノ縦線アリ一雌ノ産數百内外蛾ハ燈火ニ飛來ス其形大ナルヲ以テ食害スル一亦多シト雖モ眼ニ留マリ易キヲ以テ左程恐ルベキ害蟲ニアラズ

因ニ記ス余ノ試験ニヨルニ此内ニ或ルモノハ二冬ヲ經テ初メテ蛾化シタルモノモアリタリ

○驅除豫防法

- (一) 冬季梢上ニアル繭ヲ採ルベシ
- (二) 蛾ハ燈火誘殺ヲ行フベシ

(二) 前種同様ニ糖液ニ飛來ス

○ おほみづあをてふ

學名 *Tropaea selene*, Hübn.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天蠶蛾科

被害植物 萃樹、梨、櫻、赤楊等

○ 成蟲

體長一寸一分乃至一寸三分、翅ノ開張三寸乃至四寸六分、翅ハ前後、淡褐ニシテ翅脈ハ灰黄ナリ前翅ノ前縁ハ赤褐ヲ呈シ中央室横脈ノ所ニ弦月形ノ黄色紋アリテ中央ハ透明、内側ハ黑色、後翅ニモ同様紋アレドモ遙カニ大ナリ、内縁ニハ白色ノ綿狀毛、多シ體モ同シク綿狀毛ヲ密生シ前胸背ノ中央ニ太キ赤褐ノ横帶アリ、早ノ觸角ハ羽狀ニシテ其小枝、長ク黄色ヲ帶ビ、合ハ黄褐ニシテ羽狀ノ小枝、短ク脛節及ヒ跗節ハ赤褐ナリ

○ 幼蟲

充分成長スルトキハ三寸乃至三寸六分アリ地色ハ綠色、氣門下線ハ赤黄ニシテ美麗ナリ各節ニハ四個乃至八個ノ疣狀突起アリテ第二、第三ノ兩節ニ於

狀線アリ環狀紋及ヒ腎狀紋ハ黑色ノ周縁ヲ有シ外縁ニ近ク尙ホ一個ノ波狀線アリ其内側ハ灰白色ヲ呈シ其後縁ニ達スル前ニ一個黑色ノ劍狀點アリ後翅ハ淡黄ニシテ外縁ハ少シク暗色ヲ帶ビ中央ニハ一個ノ灰黑紋アリ

○幼蟲

充分成長スルキハ體長一寸餘ニ達ス體ハ黑色ニシテ紫色ヲ混シ氣門

下線ハ太クシテ黄褐ナリ各節ニ各八個ノ黑色疣狀突起アリテ之レヨリ黑色ノ長毛ヲ發ス毛ノ根本ハ白色第四及ビ第十一節ニ生ズル毛ハ黑紫色頭ハ光澤ヲ帶ビ黑色ナリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ赤褐

ニシテ橢圓形ヲナセル薄繭内ニアリ翌春蛾化シ葉下ニ産卵ス卵ハ十二日位ニテ孵化シ七月上旬老熟シ繭ヲ作りテ蛹化シ十日内外ニテ蛾化ス之レ第二回ノ蛾ニシテ之レヨリ來ル幼蟲ハ九月上旬老熟シ葉ヲ捲キ繭ヲ造リテ其内ニ蛹化シ其儘越年ス

○驅除豫防法

- (一)收穫後田圃ノ殘物ヲ燒棄スベシ

四節ノ背上ニアルモノ最モ大ナリ體ノ兩側ニ班紋ナク灰色ノ短毛ヲ粗生ス頭ハ光澤アル黒褐ニシテ多數ノ黒紋ヲ散在ス白毛多シ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ粗繭

中ニ在リテ外ヨリ透視シ得ベシ色ハ赤褐ニシテ尾端ニ數個ノ刺アリ繭ハ木屑ヲ混シ樹皮下若クハ空隙ニアリ翌年六月下旬乃至七月上旬ニ蛾化ス第二回ハ九月上旬ヨリ十月中旬ニ至リテ蛹化シ其儘越年ス習性ノ如キハ前種ト異ナルナシ

○驅除豫防法 同前

○大麻ノ劍紋蛾(あさぼろぐろ)

學名 *Aeronycta consanguis*, Butl.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、擬蠶蛾科

被害植物 大麻

○成蟲 體長八分、翅ノ開張一寸八分、前翅ハ種類ニヨリ異ナレモ先ヅ暗灰色ニシテ少シク褐色ヲ帶ヒ翅底ニ一個、黑色ノ縱紋ヲ供ヘ之レニ接シテ二個、黑色ノ波

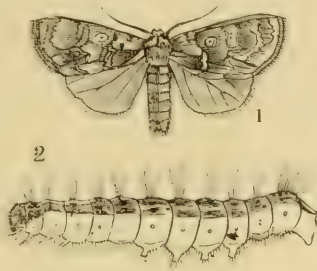
被害植物 櫻、椿、樹等

○成蟲

體長五分、翅ノ開張一寸一分、前翅ハ灰白ニシテ黑色ヲ混ズ、翅底ニ一個濃黒ノ劍狀紋アリ、其下方ハ黑色ヲ呈シ、其外側ニ黑色ノ橫線アリ、環狀紋及ビ腎狀

第三十圖

さくらほうぐろ



蟲成(1) 蟲幼(2)

紋ハ灰黄ニシテ或ルモノハ少シク綠色ヲ混ズ、何レモ其中央部ハ灰黒ナリ、外縁ニ近ク白色ナル犬牙狀ノ橫線アリテ、其外側ハ黑色、外縁ノ後方ヨリ一個濃黒ノ劍狀紋ヲ出シ、之レニ平行シテ後縁ニ近ク同様紋アリ、但シ或ルモノニアリテハ後縁、全ク黑色ニシテ班紋ノ不明ナルモノモアリ、後翅ハ灰白ニシテ外縁少シク暗色ヲ呈ス、體ハ前翅ト同色ニシテ、體下部ハ淡色ナリ、前種同様ニ復眼ノ後方ニ黑色アリ、爲メニほうぐろノ名アリ

○幼蟲

充分成長スルモハ一寸一分ニ達ス、黄色ニシテ少シク綠色ヲ混ズ、太キ褐色ノ背線ヲ有シ、八、九ノ兩節ニ跨ル背線、尤モ太シ、背線ハ黄線ニヨリテ二分セラレ、之レニ沿フテ二個乃至四個ノ光澤アル黒紋ヲ有シ、之レヨリ黒毛ヲ生ズ、殊ニ第

色ニシテ尾端ニ刺ヲ有シ繭中ニ在リ繭ハ灰色ニシテ割合ニ厚ク咀嚼セル木屑ヲ混ズ多クハ樹幹ノ空隙ニアリ翌春六月頃ニ蛾化ス蛾ハ卵子ヲ一個宛葉枝ニ産下ス色ハ黃白ニシテ縱條ヲ有シ形半球狀ヲナス之レヨリ孵化スル幼蟲ハ七月中旬乃至下旬ニ老熟シテ蛹化シ次デ蛾化ス第二回ノ幼蟲ハ十月頃ニ蛹化シ其儘越年ス幼蟲ハ常ニ頭ヲ下方ニ向ケ第四節ノ部分ヲ上ニ舉グル傾キアリ

○ 驅除豫防法

- (一) 冬季樹幹ノ空隙ニアル繭ヲ捕フベシ
- (二) 幼蟲ハ長毛ヲ裝ヒ赤條ヲ有スルヲ以テ美麗ナリ從テ眼ニ留マリ易ク亦驅除スルコトモ難カラズ
- (三) 糖液ニ來ルノ性アレバ誘殺スベシ

○ さくらほうぐる

學名 *Hyboma (Acronycta) strigosa*, Hüb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目擬蠶蛾科

第二十九圖



(3)(2)(7)
蛹 幼 成 蟲
蟲

ふてんもんけ

日 木 害 蟲 篇

○成蟲

體長七分、翅ノ開張一寸五分、前翅ハ灰色ニシテ光線ノ工合ニテ少シク赤味ヲ帶ビ斑紋ハ黑色ナリ、翅底ニ劍狀ノ太キ長紋ヲ有シ之レニ三齒アリ環狀紋及ビ腎狀紋アレヒ此二紋一線ニヨリ相合ス外縁ニ近ク波狀線アリテ之レニ二個ノ劍狀紋アリ尙ホ外縁及ビ前縁ニ黑紋アリ後翅ハ白色若クハ灰黃ニシテ外縁ハ少シク暗色ヲ帶ビ中央ニ暗色線ヲ有スルモノアリ體ハ前翅ト同色、眼ハ灰黃ニシテ其後方ニ黑毛アリ觸角ハ灰色ニシテ下唇鬚ノ外側ハ黑色ナリ

○幼蟲

充分成長スルトハ一寸三分餘ニ達ス地色ハ黑色ニシテ背線ハ太ク赤黃ナレヒ黑線ニテ二分セラレ第四節ノ背上ニハ黑色ノ隆起アリテ之レヨリ長毛ヲ簇生ス尙ホ十一節ノ背上ニモ隆起セル黑紋アリテ之レニ黃紋アリ尙ホ其隆起ノ後方ニ廣キ黃帶アリ背線ノ兩側ニハ各二個ノ白紋アリテ外側ニアルモノ大キク氣門線及ビ氣門下線ハ暗黃、氣門線ハ判然セザルヲ常トス腹面及ビ脚ハ暗灰色ニシテ腹脚ハ殊ニ長大ナリ體ノ各背上ヨリハ長黑毛ヲ粗生シ體側ニハ灰黃ノ長毛多シ頭ハ光澤アル黑色ニシテ黃條アリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ赤褐

ニ入リテ蛹化シ其儘越年ス此害蟲ハ時ニ大害ヲ加フルコアリ札幌地方ニテハ九月頃加害スル蛭蝨ハ多ク是ナリ

○驅除豫防法

- (一) 幼蟲ハ初メヨリ集合スルノ性アルヲ以テ注意スレバ驅除爲シ易シ其存在ノ有無ハ一方ノ葉ノ薄ラギアルヲ以テ知り得ベシ
- (二) 冬ハ土窩ヲ造リ蛹ノ有様ニテ地中ニ越年スルモノナレバ冬季前、樹根ノ近邊ヲ攪拌シ置クベシ
- (三) 蛾ハ晝間翅ヲ以テ腹部ヲ纏ヒ圓柱ヲナシテ葉上(七八月頃)ニ靜止スルモノナレバ搜索シテ殺スベシ

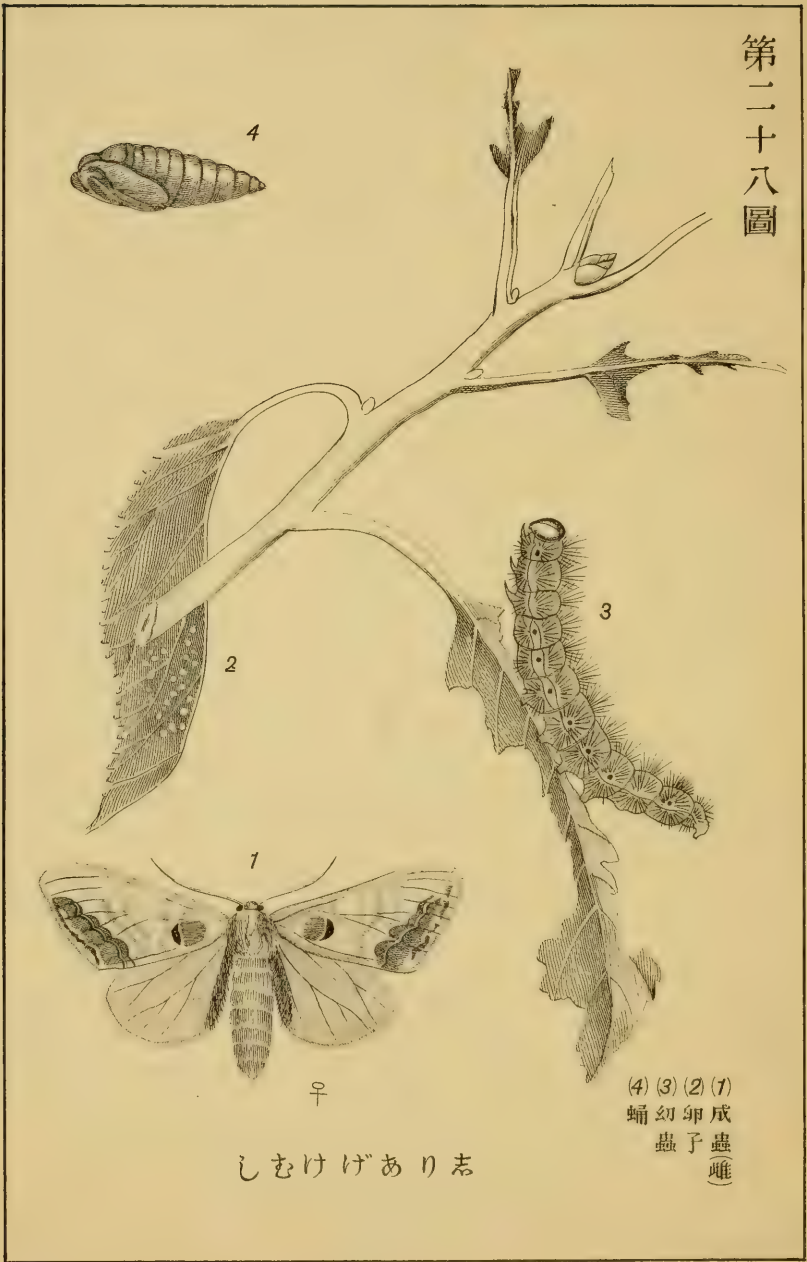
○劍紋蛾(ほふぐろてふ又けんもんでふ)

學名 *Aeronycta tridens*, Schiff.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、擬蠶科

被害植物 苹樹、櫻、梨、杏、李、柳等

第二十八圖



(1) 成蟲雌
(2) 幼虫
(3) 蛹
(4) 卵

しむけげあり志

縁ニハ七個ノ黒紋アリ後翅ハ黃白ニシテ紋ナシ頭ハ下方ニ向キテ背而ヨリ見えズ眼ハ黒色ニシテ之レニ顆粒狀ノ突起多シ觸角早ハ淡褐ニシテ絲狀ヲナシ合ハ櫛齒狀ナリ胸背ハ球形ニ膨起シ腹背ハ黃褐體下部ハ淡色ナリ靜止ノルハ翅ヲ以テ體ヲ卷キ圓柱狀ヲナス

○幼蟲 充分成長スルルハ一寸四分乃至一寸五分ニ達ス全體黒紫色ニシテ氣門上線及ヒ氣門下線ハ紫色ヲ呈ス全體黃白ノ長毛ヲ裝ヒ殊ニ體側ニ最モ多シ腹面ノ中央ニ紫線ヲ縱走ス頭ハ割合ニ大ニシテ黒ク黃白毛アリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒紫色ニシテ尾端ニ短キ六刺アリ其内二刺ハ他ヨリ長シ腹部ハ粗糙ニシテ各環節ノ縫皺深シ翌年七月乃至八月ニ蛾化ス蛾ハ黃白ノ卵子ヲ葉裏ニ産下ス一蛾ノ産數二百内外一葉ニアルモノ大抵三十許ニシテ班々ニ附着セラル其初テ卵子ヨリ孵化シタルモノハ黃褐ニシテ殆ンド裸體ナリ幼時ヨリ成熟スル迄集合スルヲ以テ一方ノ葉ノミヲ食シ去リ時ニ枯木ノ觀ヲ呈セシマアリ常ニ尾端ヲ舉グルヲ以テ志りわけけむしノ名アリ物ニ驚クトキハ絲ヲ引キテ地上ニ落ツ老熟スレバ地中

- (二) 繭ハ常ニ樹梢ニアルヲ以テ小木ナレバ捕殺シ得ベシ
- (三) 甲林ヨリ乙林ニ移轉スル場合ニハ明溝ヲ堀ルベシ
- (四) 幼蟲ノ樹幹ニ上昇スルヲ防グ爲メ釜見ニ魚油、三割ヲ混シ豫メ繩ヲ幹ニ纏ヒ置キテ其上ニ塗抹スベシ

○舟形粘蠶(志りあげけむし)

學名 Phalera flavescens, Brem.

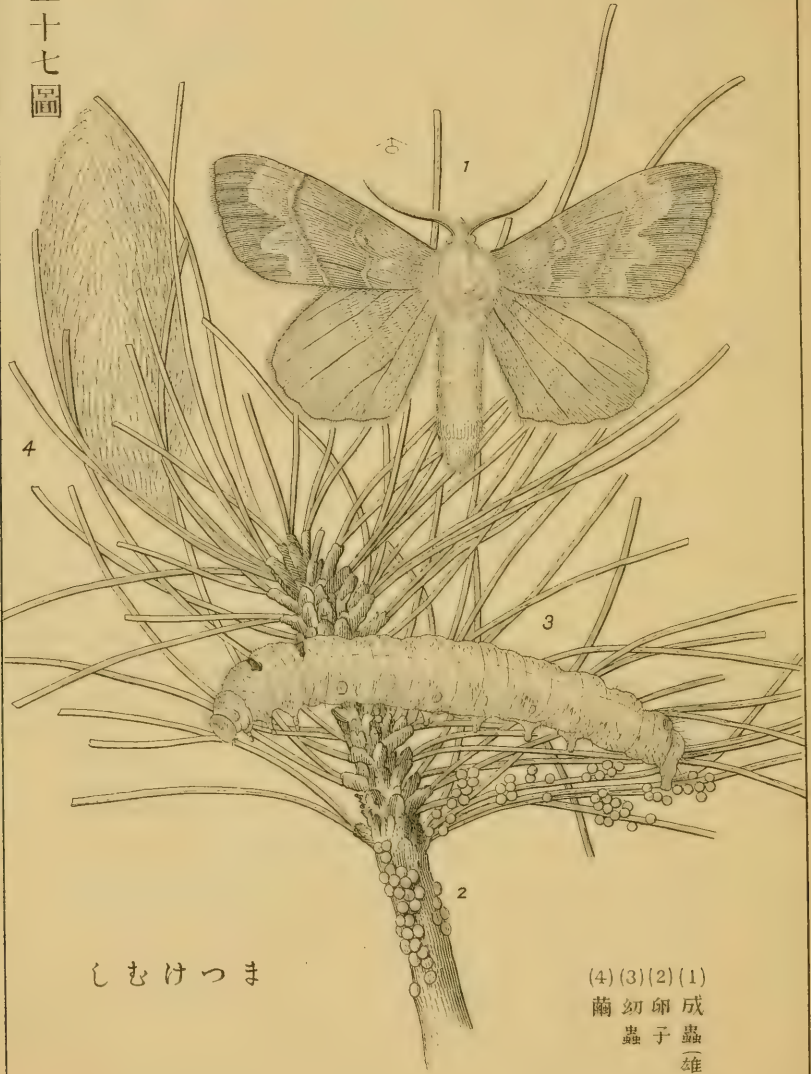
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、天社蛾科

被害植物 桜、梨、榆、櫟等

○成蟲

體長七分五厘乃至八分、地色ハ黃白ニシテ前翅ノ翅底ニ一個圓形ノ大紋アリ其内側ハ灰藍色、外側ハ黑褐ヲ呈シ殆ソド其中央ニ黃線アリ又々後線ヨリ外縁角ノ方向ニ太キ紋アリテ此ハ殆ソド外縁ニ相接ス此紋ノ外側ハ灰藍色、内側ハ黑褐ヲ呈シ此兩者ハ波狀ノ黃褐線ニテ界セラレ尙ホ此紋ノ外側ニ白色部アリ翅ノ中央ニハ三個乃至四個ノ波狀線アレモ或種類ニテハ此線判然セズ裏面ノ外

第二十七圖



しむけつま

(4)(3)(2)(1)
 繭 幼 卵 成
 虫 虫 子 蟲
 雄

紋アリ第二及ビ第三節ノ背上ニハ各一個黒藍色ノ横溝アリテ之レヨリ長毛ヲ發ス尙ホ背上ニハ銀光アル灰白ノ鱗毛ヲ有セルモノ多シ又タ體側ニハ赤褐紋ヲ散在シ灰色及ビ赤色ノ長毛多ク氣門ハ白色ニシテ其上方ニ灰色ノ鱗毛アリ頭ハ淡褐ニシテ短毛多シ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘松樹ノ皮、若クハ蘚苔下ニ潛ミテ越年ス其狀、蟲ノ大サハ様々ニシテ或ハ一回ノ脱皮ヲ經タルモノアリ或ハ二回ノ脱皮ヲ終ヘタルモノモアリ翌年六月上旬乃至七月上旬ニ老熟シ淡褐ナル長形ノ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス繭ハ食樹ニアリテ常ニ幼蟲ノ毛ヲ附着シ手ニ觸ル、時ハ脱離シ難シ蛹ハ黒褐ニシテ環節ノ縫皺ハ赤褐ナリ三週間乃至四週間ニシテ蛾化ス蛾ハ短楕圓形ノ卵子ヲ葉、若クハ枝ニ附着ス形割合ニ大ニシテ色ハ黄緑ナリ卵ハ八月中旬乃至下旬ニ孵化シ十月上旬ニハ食ヲ止メ隱所ヲ求メ其儘越年ス時々群ヲナシテ大害ヲ加ヘ松林、舉テ枯木ノ觀ヲ呈スルヲアリ

○驅除豫防法

(一) 冬時松樹ノ幹ニアル蘚苔若クハ其他潜伏所ヲ發キテ幼蟲ヲ殺スベシ

(二) 晝間樹枝ニ平着スル幼蟲ヲ捕フベシ

○松ノ蝓蠶(まつのけむし)

學名 *Gastropacha pini*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、家蠶科

被害植物 松類

○成蟲 體長平均一寸三分、翅ノ開張二寸四分、地色ハ種類ニヨリ大ニ異ナリテ

或ハ赤褐、或ハ黒褐、或ハ黃褐ナルモノアルナリ、何レモ前翅ノ中央ヨリ少シク翅底

ニ近ク一個ノ白紋ヲ有ス、黒褐ノ種類ニアリテハ二個灰色ノ横線ヲ有シ、一ハ白紋

ニ近ク走り他ハ波狀ヲナシテ中央ヲ斜走ス、外横線ノ外側ニ大ナル赤褐紋アリテ

更ニ其外方ニ灰色部アリ、赤褐ノ種類ニアリテハ三個黑色ノ波狀線アリ、 \cup ハ暗褐

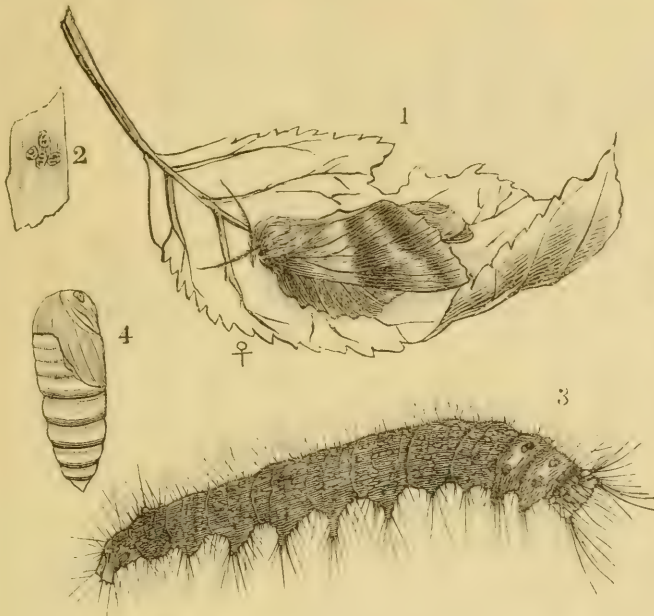
ナル羽狀ノ觸角ヲ有シ、其小枝ハ ♀ ヨリモ大ナリ

○幼蟲 充分成長スルトハ大ナルモノハ三寸五分ニ達ス、地色ハ様々ナレドモ

先ヅ灰褐色ニシテ、第四節ヨリ第十節ノ背上ニ稜狀ヲナセル褐色若クハ黑色ノ大

第二十六圖

ひめかれはてふ
(1)成蟲(雌) (2)卵子 (3)幼蟲 (4)蛹



○經過習性 卵子ノ有様ニテ越

年ス卵ハ短楕圓形ニシテ灰色ヲ呈ス
 之レニ暗綠紋アリテ美麗ナリ大抵二
 個乃至三個宛産下セラレ樹幹ニアル
 モノ多シ翌春孵化シ六月上旬頃ニ老
 熟シ黃繭ヲ造リテ此内ニ蛹化ス蛹ハ
 黒褐ニシテ常ニ赤色ヲ帯ビタル白粉
 ナ有シ頭部ノ短毛ハ赤褐ナリ前種同
 様ニ晝間ハ樹枝ニアリテ發見スルコ
 難シ

○驅除豫防法

(一)冬季固有紋ヲ有セル美麗ノ卵子
 ハ二三相集マリ樹幹若クハ樹枝
 ニアルヲ以テ發見スルコト易シ

内方ニ位ス此二線ノ間ニ灰白紋アリ尙ホ後縁ヨリ前縁角ノ方向ニ斜走セル灰白ノ廣帯アリ外縁ハ少シク灰色ヲ呈ス後翅ハ小ニシテ前翅ト同色ヲ呈シ中央ニ暗色帯アリ前後共ニ外縁ニ凹凸アリテ之レニ白毛アリ靜止ノルハ屋斜狀ニ疊ミ後翅ノ前縁ヲ出ダスヲ以テ枯葉ノ觀ヲ呈ス前翅ノ裏面ハ淡褐、中央ニ二條ノ斜線アリテ濃色ヲ呈ス後翅ハ黑褐、中央ニ濃色部アリ尙ホ種個ニヨリ裏面全ク黑褐ヲ呈スルモノアリ胸片及ビ腹面モ亦黑褐ナリ

○幼蟲

充分ニ成長スルルハ二寸五分内外ニ達ス着色ハ種々ナレモ先ヅ淡褐ニシテ少シク藍色ヲ帶ブルモノ最モ普通ナリ頭ハ黃赤ニシテ黑紋ヲ有シ白色及ビ黃色ノ短毛アリ第二及ビ第三節ノ背上ニ黃赤紋アリテ其兩側ニ黑紋アリ又々背上ニハ八條黃赤ノ縱線アリテ此レハ時ニ點線トナルコモアリ第十一節ノ背上ニハ圓錐形ノ突起アリテ之レニ黑色ノ短毛ヲ生ズ體側ヨリハ長キ突起ヲ出シ之レヨリ長毛ヲ簇生ス第一節ノ兩側ニハ二個ノ突起アリテ之レヨリ生ズル毛ハ殊ニ長シ體ハ少シク平タキ方ニシテ腹面ハ黑褐之レニ黃紋アリ尙ホ其兩側ニハ軟毛アリテ黃色ヲ呈ス

宛産下ス楕圓形ニシテ色、灰白ヲ呈シ綠色ノ帶アリテ中央ニ綠色點アリ一頭ノ産數百四五十、其靜止スルモニアリテハ枝、若クハ幹ニアリテ其扁平ニシテ樹皮ニ酷似セル爲メ中々看出スニ困難ナリ平時ハ背上ノ藍色隆起見ヘザレドモ物ニ驚クモハ直チニ之レヲ現ハス

○驅除豫防法

(一)晝間ハ樹枝ニ平着シ樹皮ト見紛フコアリ然レド其形大ナルヲ以テ注意スレバ發見スルコト難カラズ

○ひめかれはてふ

學名 *Gastropacha tremulifolia*, Hib.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、家蠶科

被害植物 梨、桑、榊、白楊、樺等

○成蟲

體長八分、翅ノ開張一寸七分、地色ハ赤褐ニシテ少シク灰色ヲ帶ブ前翅ニ二個ノ細キ暗黒條アリテ一ハ波狀ヲナシテ翅ノ中央ヲ走リ一ハ短カクシテ其

第二十五圖 かれはてふ

(1)成蟲(雌) (2)卵子 (3)幼蟲



♀ 1



2

3



一節ノ背上ニハ一個ノ突起アリ腹面ハ赤褐ニシテ黒紋ヲ具ヘ兩側ヨリ黄白ノ軟毛ヲ密生シ各節ノ兩側ヨリ長キ疣狀ノ突起ヲ出シ之レニ長毛ヲ簇生ス胸背ハ黒色ヲ呈シ腹脚及ビ尾脚ハ長ク黒褐ニシテ黄條アリ頭ハ黒褐ニシテ黄色條アリ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘越年ス翌春第三回ノ脱皮ヲ終ヘ六七月頃ニ老熟シ

楕圓形ナル黒灰ノ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ白粉ヲ以テ蔽ハレ少シク青色ヲ帶フ蛹期ハ三週間乃至四週間蛾ハ卵子ヲ一個若クハ二個

○かれはてふ

學名 *Gastropacha quercifolia*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、家蠶科

被害植物 梨、華樹、櫻、桃李、杏等

○成蟲

體長一寸二分、翅ノ開張二寸四分、體ハ肥大シ地色ハ赤褐ニシテ翅ノ外縁ニ著シク犬牙狀ノ切目ヲ有シ前翅ニハ二條ノ黒キ波狀線アリ一ハ外縁ニ近クシテ太ク一ハ中央ニアリテ細シ外縁ノ前角ニ近ク一個ノ大黒紋アリ後翅ノ前縁ハ黃褐ヲ呈シ中央ニハ一個黒色ノ横線アリ靜止ノ時ハ翅ヲ屋斜狀ニ疊ミ且ツ後翅ノ前縁ヲ出スヲ以テ恰モ枯葉ノ相アリ翅ノ裏面ハ黒褐、觸角ハ羽狀ヲ呈シ下唇鬚ハ長ク頭及ビ胸背ハ赤褐、中央ニ黒褐ノ縱條ヲ有シ腹背ハ淡褐、胸片及ビ腹面ハ黒褐ナリ

○幼蟲

充分成長スルルハ三寸乃至三寸五分ニ達ス體ハ平タク地色ハ暗灰色ニシテ少シク紫色ヲ混ズ各體節ノ背上ニ疣狀突起ト二個ノ小赤褐紋トアリ尙ホ第二、第三兩節ノ背上ニ大ナル黒藍色ノ隆起アリテ之レニ藍色毛ヲ生ズ又タ第十

節ノ背上ニモ二個濃色ノ圓形紋ヲ有ス第五節ノ背上ニ大ナル馬蹄狀ノ二紋アリ
 尙ホ第八節ノ背上ニモ同様紋アレモ餘リ判然セズ第十一節ノ背上ニハ一個ノ尾
 脚アリテ黃褐ヲ呈ス此他體側ニハ赤褐紋ヲ散在ス

○經過習性

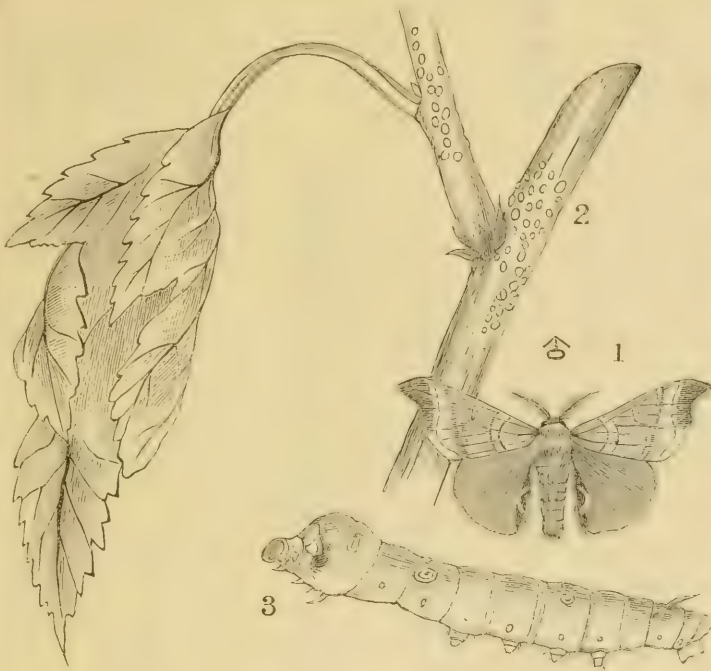
年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス卵ハ初
 メ灰黃ニシテ次第ニ灰藍色ニ變ズ桑枝ニ斑々産附セラレ翌春孵化シ第四回ノ脱
 皮ヲ終リ結繭スルコトハ毫モ家蠶ト異ナルナシ但シ野外ニアル爲メ成熟迄ノ日數
 多ク七月下旬乃至八月上旬ニ至リテ結繭ス繭ハ灰白若クハ灰黃ニシテ薄ク葉ヲ
 纏メテ其内ニアリ二週間内外ニシテ蛾化ス家蠶ト異ナリテ飛翔スルコト速ナリ家
 屋ニ入り來リ家蠶ト交尾シテ大害ヲ加フルコトアリ其他習性ハ家蠶ト同様ナリ

○驅除豫防法

- (一) 冬季注意シテ樹枝ヲ索ムレバ卵子ヲ發見スルコト難カラズ
 (二) 家蠶ノ早ヲ以テ野蠶ノ合ヲ誘引スルコトヲ得ベシ之レヲ行フニハ家蠶ヲ自然
 ノ温度ニテ飼育シ其蛾化ノ際早朝ヨリ室内ノ窓ヲ開放スベシ

第二十四圖 野蠶(くわご)

(1)成蟲(雄) (2)卵子 (3)幼蟲



ニシテ褐色ヲ呈シ胸背ハ前翅ト
 同色、腹背ハ後翅ト同色ナリ、早ノ
 班紋ハ合ノ如ク判然セズ、翅底ニ
 近キ弓狀ノ横線ハ太キ一線ヲナ
 ス

○幼蟲 充分成長スルルハ二

寸内外ニ達ス、暗褐若クハ黒褐ニ
 シテ形、家蠶ニ酷似ス、頭、甚ダ小ニ
 シテ第二、第三ノ兩節膨大シ、恰モ
 頭ノ如ク、又第二節ノ兩側ニ各一
 個ノ黒紋アリテ、其周圍赤色ヲ呈
 シ、眼球ノ如キ觀アリ、此眼球紋ノ
 中間ニ稍ヤ三角形ニ近キ紋アリ、
 其底角ニ各一個ノ黒紋アリ、第二

(二) 幼蟲ハ天幕様ノ巢ヲ張り朝夕ノ寒冷ナルトキハ之レニ集マルテ以テ竹端ニ

羅紗布ヲ纏ヒ巢ト共ニ取ルベシ

(三) 板片若クハ藁等ヲ以テ結繭所ヲ造リ誘殺スベシ又軒下、壁隅ヲモ注意シテ索

獲スベシ

○野蠶(くわご又やまかいこ)

學名 *Bombyx mori*, Var. *mandarina*, Moor.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、家蠶科

被害植物 桑

○成蟲 體長五分乃至六分翅ノ開張一寸二分乃至一寸五分、 \square ハ地色暗褐ニシ

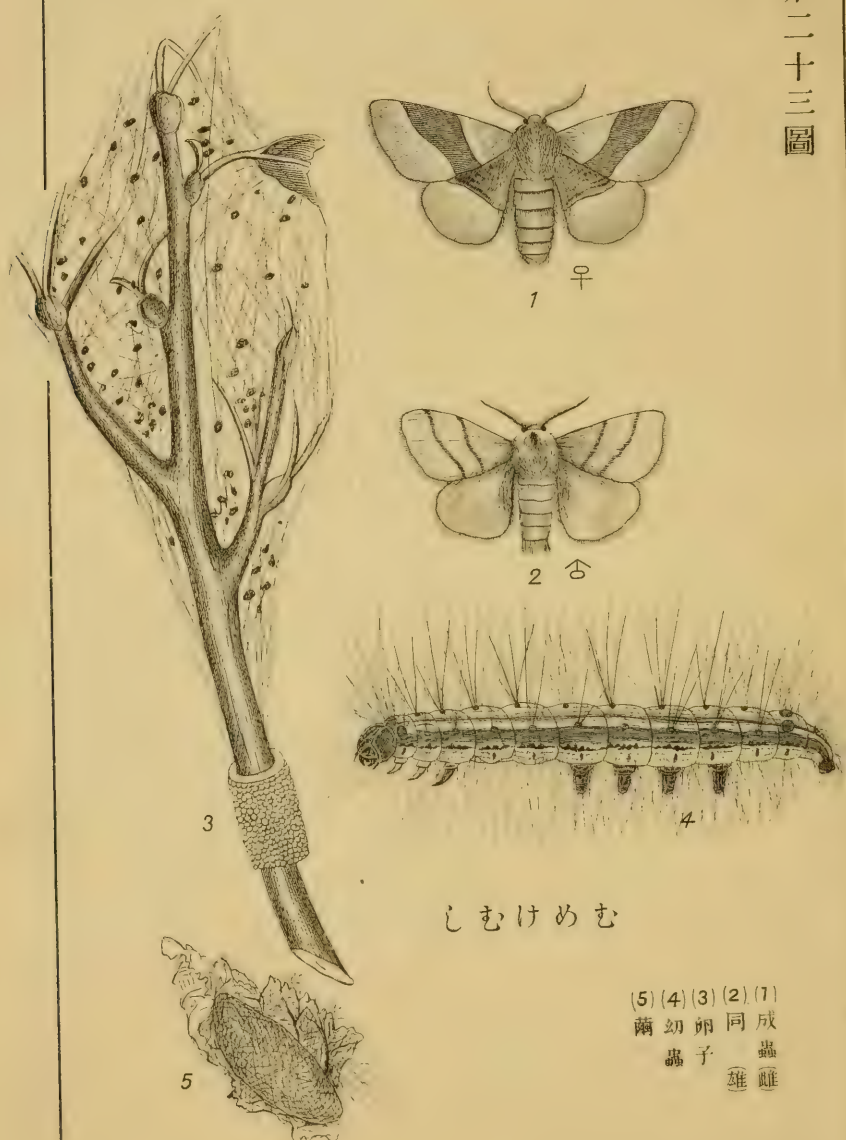
テ少シク綠色ヲ帯ビ紋條ハ黑褐ナリ前翅ノ翅底ニ近キ部分ニ二個弓狀ヲナセル

横線ヲ有シ前縁ニ近キ翅ノ中央ニハ一個弦月紋アリ其外側ニハ斜去セル直線ヲ

有シ外縁ニ近ク灣曲セル細線アリ突出セル前縁角ハ黑褐ニシテ其内側ハ灰色、後

翅ハ黑褐ニシテ内縁ニ二個ノ白紋ヲ有シ裏面ニハ二個ノ弓狀線アリ觸角ハ羽狀

第二十三圖



しむけめむ

(5) (4) (3) (2) (1)
 繭 幼 卵 同 成
 蟲 蟲 子 雌 蟲
 (雄 雌)

接スル所ニモ亦黃赤條アリ各節黑色ノ疣狀突起アリテ之レヨリ暗色ノ軟毛ヲ簇生ス第一節ト第十一節ノ背上ニハ稍ヤ大ナル黑紋ヲ有シ之レヨリ多數ノ黑毛ヲ出ス頭ハ藍黒ニシテ二個ノ黑紋アリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス卵ハ指

環狀ヲナシテ樹枝ニ産附セラレ其數二百五十内外ナリ灰色ヲ呈ス早春孵化セル當時ニアリテハ幼蟲黑色ニシテ黃褐色ノ毛ヲ有スレモ二齡ニ至レバ稍ヤ固有ノ體色ヲ顯ス初メハ絲ヲ吐キテ直徑一寸程アル天幕様ノ巢ヲ造リ小形ナル一個ノ入口ヲ有ス寒冷ノキ若クハ朝夕ハ此内ニ集マレモ成長スルニ從ヒ散在スルノ性アリ六月上旬乃至中旬ニ至リテ老熟シ或ハ葉ヲ纏メテ白繭ヲ造リ其内ニ蛹化スルモノアリ或ハ食樹ヲ辭シテ軒下壁隅ニ入りテ蛹化スルモノモアリ皆多量ノ黃粉ヲ有ス是レ幼蟲ノまるびぎす管中ニ存セシ結晶體ト同一ナルモノナリ三週間乃至四週間ノ後蛾化ス

○驅除豫防法

- (一) 冬季梢上ニ指環狀ヲナセル卵塊ヲ探ルベシ

ルコアリ

○驅除豫防法

冬季梢上ニアル繭ヲ採ルベシ

○天幕蛭蝻(むめけむし)

學名 *Clisiocampa neustra*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、家蠶料

被害植物 梅、苹樹、梨、桃、李、櫻、柳、白楊、樺、薔薇等

○成蟲 體長五分乃至八分、翅ノ開張一寸一分乃至一寸四分、♀ハ體翅共ニ赤褐

ニシテ前翅中央ニ一個濃色ノ太キ斜帶ヲ有シ其兩側ハ黃色ヲ呈ス♂ハ體翅共ニ

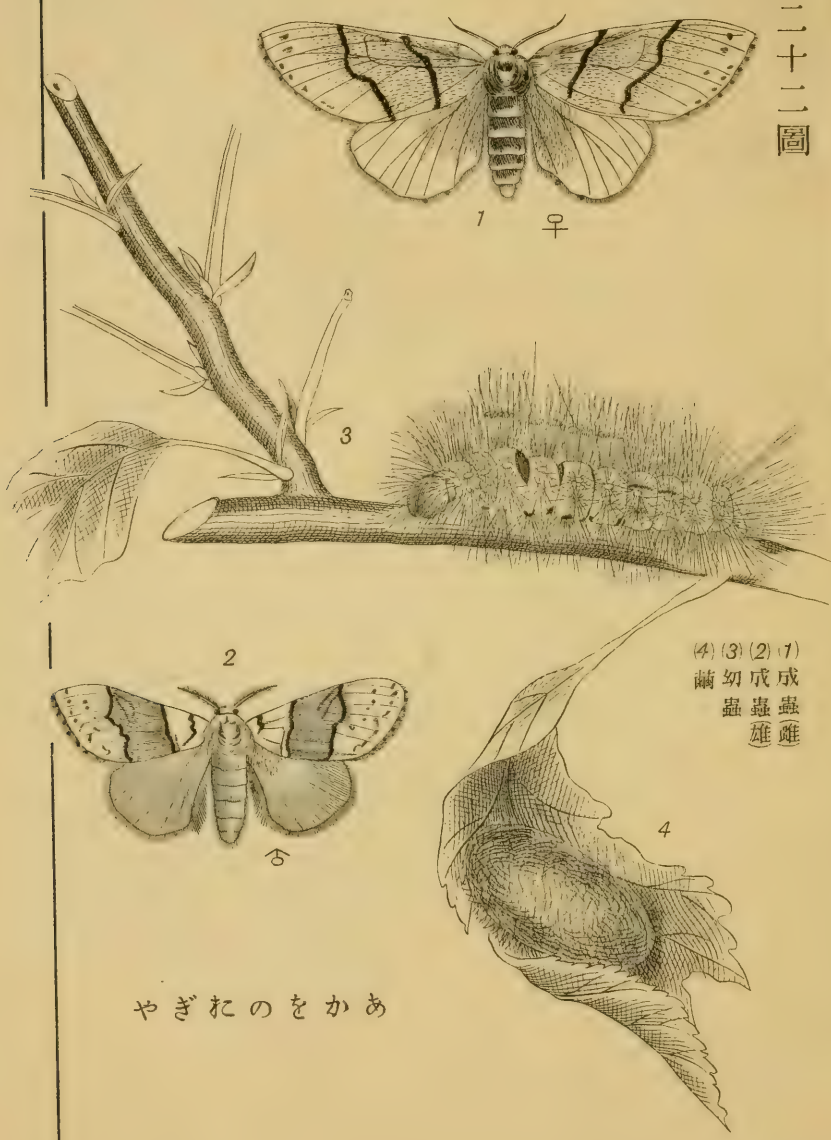
黃色ニシテ二個赤褐ノ斜條アリ縁毛ハ赤褐、但シ前翅ニハ黃色ノ部分アリ♀♂共

翅ノ裏面ニ一個ノ斜條アリ

○幼蟲 充分成長スルモハ一寸六分餘ニ達ス背部ハ藍色ニシテ腹面ハ暗色、兩

側ハ赤褐、若クハ暗褐ヲ呈ス黃赤ノ二背線ヲ有シ其兩側ニ於テ藍色ト赤褐色ト相

第二十二圖



1 女

3

2

♂

(4) (3) (2) (1)
 繭 幼 成 成
 蟲 蟲 蟲 蟲
 雄 雌

4

やぎらのかあ

帶アリテ其前縁ニ近キ部分ニ更ニ弦月形ノ紋アリ又々翅底ニハ一個ノ横線アリ
其他前縁ト外縁トニハ黒紋ヲ列テ後翅ハ暗色ナリ體ハ暗灰色、觸角ハ黃褐ニシテ
長枝ヲ有セル羽狀ヲナス

○幼蟲 充分成長スルキハ一寸八分内外ニ達ス地色ハ黃褐ニシテ第九及ビ第
十節ニハ黒色ノ亞背線アリ各節ニハ八個乃至十個ノ疣狀突起アリテ之レヨリ綠
黃ノ長毛ヲ出シ第四、五、六、七節ノ背上ニ長キ同色ノ毛塊アリテ其相互ノ間ハ黒色
ナリ尙ホ第十一節ノ背上ニハ淡紅色ノ長毛塊アリ腹面ハ暗黒色ヲ呈シ頭部ハ灰
黃ナリ以上記セル幼蟲ハ普通ナレドモ亦赤褐色ノ毛及ビ毛塊ヲ有セルモノモ少
ナカラズ

○經過習性

蛹ノ有様ニテ樹上ニ越年ス蛹ハ黒褐ニシテ長サ七分乃至八分
形少シク平タク背上ニハ黃毛ヲ有シ腹背ハ赤褐ナリ常ニ黃色、若クハ暗褐ノ繭中
ニ在リ繭ハ幼蟲ノ體毛ヲ混シ葉ヲ纏メテ其内ニ在リ翌春蛾化シ五十餘ノ卵子ヲ
樹幹ニ産附ス卵ハ球形ニシテ淡褐色ヲ呈シ其中央ニ一個ノ暗色點アリ其孵化セ
ルノ當時ニアリテハ黒色ナレドモ脱皮後ハ固有色ヲ呈シ時々萃樹ニ大害ヲ加フ

圓形ノ點刻ヲ散在シ腹部ノ中央ニ一條ノ黃褐帶アリ尙ホ腹面ニモ灰黃ノ部分ヲ有シ尾端ニハ長突起アリ[♂]ハ前種同様ニ晝間、旋轉シテ飛翔ス

○驅除豫防法

(一) 冬季間梢上ニ枯葉アレバ採リ去ルベシ灰白ノ卵塊ハ繭面ニ附着セラレテ其上ニアリ但シ其着色ハ既ニ脱殻セル卵子ノ如キ觀ヲ呈スルヲ以テ注意スベシ

○赤尾蛭蝻(あかをの おーぎや)

學名 *Dasychira pudibunda*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 苹樹、梨、櫻、^ア掬、^{ハシバミ}檜、^{ハシバミ}榛、^{ハシバミ}柳、胡桃、白楊等

○成蟲

體長六分乃至七分、翅ノ開張一寸五分乃至二寸、早ノ前翅ハ灰白ニシテ二條ノ黑横線ヲ有シ外縁ニハ小黑紋ヲ列テ翅ノ前面ハ無數ノ小黑點ヲ散在ス後翅ハ白色ニシテ時ニ暗色紋ヲ有セルモノアリ[♂]ノ前翅ハ灰白、其中中央ニ太キ暗色

第二十一圖

あつのけむし



- (2) (1) 成虫 (雄)
- (雌)
- (4) (3) 幼虫
- (5) 繭

發達セルモノニアリテハ開張一寸五分ニ達スルモノアリ體翅ハ灰黃色ニシテ前翅ノ前縁ニ近ク長楕圓ヲナセル黒褐ノ一紋アリ又々翅底及ビ後縁角ニ少シク藍色ヲ混ゼル小褐紋ヲ集合セルモノアリテ斑紋ヲナス尙ホ外縁ニ近キ翅ノ中央ハ暗黃色ヲ呈ス翅ノ退化セルモノニアリテハ腹部甚ダシク膨大シ胸背ニハ暗黒毛多シハ體長三分五厘乃至四分翅ハ暗褐ニシテ後縁及ビ翅底ハ黃褐ヲ呈シ前縁角ニ近ク黒褐紋ヲ具ヘ後縁角ニハ眼狀紋アリテ其中央ハ黒褐周圍ハ白色外縁ニハ黒褐ノ波狀線アリテ其内側及ビ縁毛ハ黃褐ナリ光線ノ工合ニテ翅面多少藍色ヲ混ズ

○幼蟲 充分成長スルルハ九分乃至一寸三分ニ達ス地色ハ暗黒ニシテ二個ノ背線ハ赤黃氣門線ハ灰黃ニシテ判然セズ其他ハ前種ニ酷似スレモ第五節ノ兩側ヨリ一個長キ黒色ノ毛塊ヲ出セルハ其最モ異ナル所ナリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス第一回ノ蛾ハ七八月第二回ハ九十月ニ出ヅ蛾ハ前種同様ニ繭上ニ産卵スルモノナレドモ母蟲ノ體毛ヲ以テ掩ハレズ繭ハ暗灰色蛹ハ光澤アル黒色ニシテ體ノ前半ニハ

アリ蛹期ハ二週間乃至三週間早ハ羽化スレバ繭上ニ交尾シ其上ニ産卵スハ甚ダ活潑ニシテ晝間旋轉シテ飛翔ス

○驅除豫防法

(一) 卵塊ヲ探リ採ルベシ

(二) 幼蟲ハ角狀ノ毛ヲ有シ赤色ヲ混シタル美麗種ナレバ眼ニ留マリ易ク從テ驅除スルヲ易シ

(三) 幼蟲ハ金條蛸蠶同様ニ粗皮下ニ越年スルモノナレバ早春、若クハ冬季間ニ不用皮ヲ剝離シ燒去スベシ

○こつのけむし(ひめれーきや)

學名 *Orgyia thyellina*, Butl.

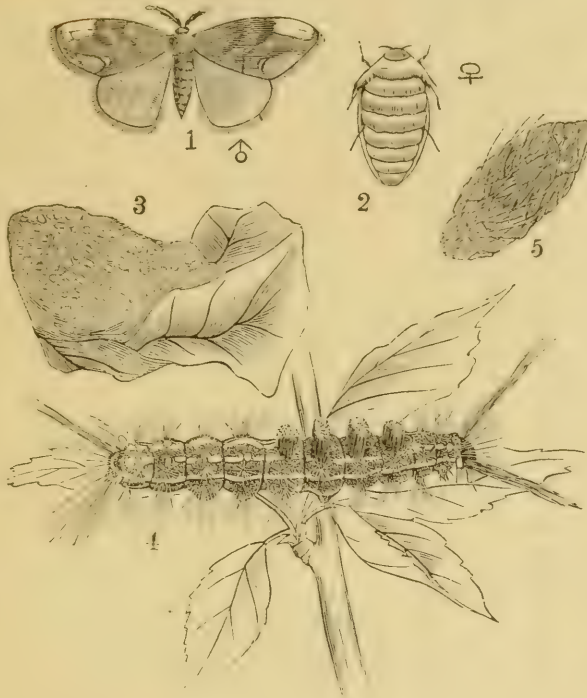
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 苹樹、梨等

○成蟲

♀體長四分乃至五分五厘、翅ノ退化セルモノトセザルモノトアリテ其

第二十圖 つのけむし



(1)成蟲(雄) (2)成蟲(雌) (3)卵子 (4)幼蟲 (5)繭

テ食害ス卵ハ球形ニシテ中央ニ凹陥部アリ灰色ニシテ一塊ノ數三百内外アリ常ニ暗色ナル繭上ニ産附セラレ母蟲ノ體毛ヲ以テ之レヲ蔽フ其卵子ヨリ孵化シタル當時ニアリテハ黑色ニシテ長キ黒毛ヲ有シ背上ノ中央ニ二個ノ黒紋ヲ具フ七月中旬乃至下旬ニ至リテ老熟シ葉ヲ纏メテ暗褐ノ薄繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス繭ハ暗黄ノ毛ヲ混ズ蛹ハ黒褐ニシテ尾端ニ長キ突起ヲ具ヘ腹部ノ關節ハ黄褐ヲ呈シ背上ニハ金色毛

○つものけむし(おーぎや)

學名 *Oryzia gonostigma*, Fab.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 苹樹、梨、櫻、李等

○成蟲

體長四分乃至七分、翅ノ開張一寸二分、早ハ全體暗黒ニシテ其翅退化シ

腹部甚ダ大ナリ、口ハ前翅赤褐ニシテ前緣角ニハ黃色ト白色紋ト有シ後緣角ニ

黃色ノ部分アリテ之レニ一個ノ白紋アリ後翅黒褐、體ハ黒褐毛ヲ密生ス觸角ハ羽

狀ナリ

○幼蟲

充分成長スルキハ一寸三分餘ニ達ス黒色ニシテ二條ノ背線及ビ氣門

線ハ赤黃ナリ第一節ヨリ二個尾脚ヨリハ一個ノ長黒毛ヲ出ス又タ第四、五、六、七節

ノ背上ニハ黃褐色ノ毛塊ヲ有シ尙ホ各節ニ於ケル疣狀突起ヨリハ白毛、若クハ黒

色ノ叢毛ヲ簇生ス

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ第一回ハ七月、第二回ハ九月、一

二回ノ脱皮ヲ經タル幼蟲ノ有様ニテ粗皮下ニ越年シ翌春新芽ノ開綻ト共ニ出デ

光澤アル黒色ニシテ胸脚端ハ黄色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘越年ス其幼蟲ハ多ク
 二回ノ脱皮ヲ經タル者ニシテ樹皮ノ下若クハ空隙ニ入リテ灰白ノ小粗繭ヲ作り
 冬期ハ其内ニ籠居ス翌春該繭ヲ破リテ出デ種々ノ新芽軟葉及ビ稚果ヲ食害ス更
 ニ二回ノ脱皮ヲ終ルノ後老熟シ適當ノ隱所ヲ求メテ暗灰色ノ粗繭ヲ造リ其内ニ
 蛹化ス繭ハ八分餘アリテ常ニ幼蟲ノ黒色毛ヲ混ズ其後二週乃至三週間ヲ經テ蛹
 化ス雌蛾ハ葉下ニ二百乃至三百餘ノ卵子ヲ産下シ尾端ノ黄毛ヲ以テ之レヲ蔽フ
 是レ恰モ七月中旬ニシテ幼蟲ハ其後一週間餘ヲ經テ孵化スレドモ其年内ニハ被
 害少ナシ九月頃ニ至リ樹皮下ニ入リテ小繭ヲ造ルコト前述ノ如ク其儘越年ス

○驅除豫防法

(一) 冬季樹皮ノ剝離セントスルモノヲ取り去ルベシ此内ニハ粗繭ヲ以テ蔽ハレ
 タル幼蟲越年ス

(二) 二八月頃卵子ハ母蟲ノ黄毛ヲ以テ蔽ハレ葉下ニアレバ注意スベシ

第十九圖 きんけむし



(1) 成蟲(雌)
 (2) 卵子
 (3) 幼蟲
 (4) 繭

1
 ♀

線ハ黃赤ヲ呈シ
 第四及ビ第五ノ
 背上ニ光澤アル
 毛塊ヲ裝ヒ背線
 ノ兩側ニ於ケル
 毛塊ニハ白色毛
 ヲ混ズ體ノ兩側
 ニハ疣狀突起ア
 リテ之レヨリ各
 灰黒相混ゼル多
 數ノ粗毛ヲ簇生
 ス其氣門線上ニ
 於ケル疣狀突起
 ハ紅色ナリ頭ハ

スルノ傾キアリ充分老熟スレバ根部、若クハ樹幹ノ適當ナル場所ヲ求メ濃褐ノ繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス繭ハ常ニ幼蟲ノ裝フヘル黄毛ヲ附着シ薄クシテ外方ヨリ蛹ヲ透視シ得ベシ蛹ハ赤褐ニシテ尾端ヲ以テ繭ノ一端ニ結着ス第一回ノ蛾ハ葉下ニ産卵ス其習性ノ如キハ前種ト異ナルナク其刺毛モ亦有毒ナリ

○ 驅除豫防法 前種ト同様ナリ

○ 金條粘蠶(きんけむし)

學名 *Porthesia auriflua*, Hüb.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

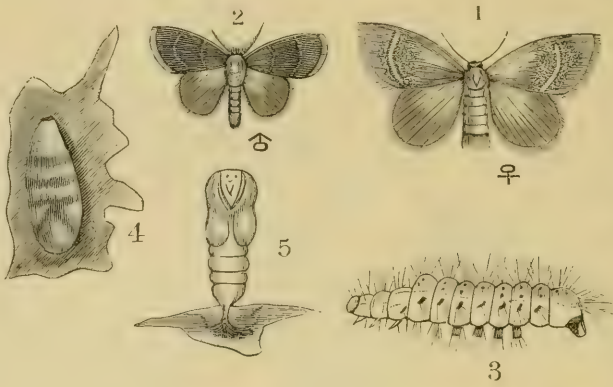
被害植物 桑、桃、苹樹、梨、櫻、すぐり、ふさすぐり、梅等

○ 成蟲 體長五分乃至七分、翅ノ開張一寸一分乃至一寸六分、體翅共ニ白色ニシ

テ時ニ前翅ト後翅ト相接スル所ニ相隔離シテ二個ノ暗色紋ヲ有シ前縁ノ裏面モ同シク暗色ナリ又々尾端ニハ黄色ノ毛アリテ殊ニ早蟲ニ多シ

○ 幼蟲 充分成長スル時ハ一寸四分餘ニ達ス地色ハ黒褐ニシテ背線及ヒ氣門

第十八圖 茶ノ粘蠶



(1)成蟲(雌) (2)同(雄)
 (3)幼蟲 (4)繭 (5)卵

モ黃色ニシテ中央ハ多少濃色ヲ呈シ體ハ黃毛ヲ密生シ尾端ハ毛塊ヲ以テ膨大ス

○幼蟲 充分成長スレバ六七分ニ達ス形前種ニ

酷似シテ第四及ヒ第五ノ背上ハ膨起シ其局部ノ疣狀突起ハ他ヨリ大キク毛モ亦多シ地色ハ黃褐ニシテ背線ハ黑褐氣門上線ハ白色腹面ハ灰白ナリ尙體ノ各節二十個乃至十二個ノ疣狀突起アリテ之ヨリ灰褐ノ長毛ヲ簇生ス頭ハ黃褐ニシテ光澤アリ

○經過習性 年二回ノ發生ヲナスモノニシテ

第一回ハ七月下旬第二回ハ九月中旬ナリ卵子ノ有様ニテ越年ス此卵ハ塊ヲナシテ産下セラレ常ニ樹幹ニアリテ母蟲ノ體毛ヲ以テ蔽ハル一頭ノ産數百内外ナリ翌春ニ至リテ孵化ス一、二回ノ脱皮後迄ハ殊ニ其性集合スルヲ好ミ數十相頭部ヲ揃ヘテ食害

- (二) 幼蟲ハ寒冷ノ場合ニ集合スルノ性アリ此時驅除スベシ
- (三) 卵子ハ母蟲ノ體毛ヲ以テ蔽ハレ一塊ヲナシテ存スルガ爲メニ發見スルヲ難

カラズ

○ 茶ノ粘蠟

學名 *Artaxa conspersa*, Butl.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 茶、ツバキ山茶、サウナンカ茶梅等

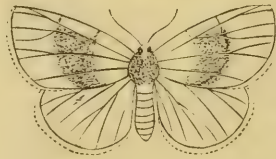
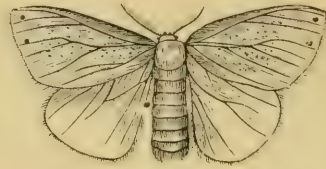
○ 成蟲 舌ノ體長三分、翅ノ開張七分五厘、前翅ハ畧ボ二等邊三角形ニシテ黑褐

ヲ呈シ黃色ナル不明ノ二横線アリテ其中央部ハ何レモ外方ニ屈折ス前縁及ビ外縁ハ黃色ニシテ後者ニハ黑褐ノ部分アリ後翅ハ黑色ニシテ縁毛ハ多少黃色ナリ頭部ハ黃毛ヲ密生シ眼ハ黑色、觸角ハ黃色ニシテ羽狀ヲ呈ス前胸背ニハ黃毛ヲ有シ中後ノ兩胸背及ビ腹背ニハ黑毛ヲ密生ス腹面及ビ脚部ハ黃色ナリ♀ノ體長三分三厘、翅ノ開張一寸一分、前翅ハ黃色ニシテ中央部ニ多數ノ黑褐紋ヲ散在ス後翅

○經過習性

蛾ハ年二回ノ發生ヲナスモノニシテ第一回ハ七月上旬乃至下旬第二回ハ九月下旬乃至十月ナリ卵子ノ有様ニテ越年ス卵ハ暗褐ニシテ畧ボ球形ヲ呈シ母蟲ノ黃毛ヲ以テ蔽ハレ其一塊ノ數二百内外ナリ翌春孵化スレバ新芽

第十七圖 毒蛾



(1) 成蟲(雌)
(2) 同(雄)

トナシ蛾ハ燈火ニ飛來スルノ性アリ

○驅除豫防法

(一) 燈火誘殺法ヲ行フベシ

又ハ時ニ若キ樹皮ヲ食シ大害ヲ加フルコアリ寒冷ノ時ハ殊ニ集合スル性アリ就眠期長ク時ニ三晝夜ニ涉ルモノモアリ其裝毛ハ折レ易ク皮膚ニ接スルトハ腫脹ヲ生シ又々其蛾ノ裝ヘル鱗毛モ同様ニ有毒ナリ其卵子ノ孵化セルヨリ大凡四十日餘ヲ經テ老熟シ食樹ヲ辭シテ適當ノ場所ヲ索メ薄繭ヲ作り相集マリテ結繭ス其後二週乃至三週間餘ヲ經テ蛾化ス是レ恰モ七月中旬乃至下旬ナリ第二回ノ經過ハ第一回ト異ナル

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 萃樹、梨等

○成蟲

體長四分乃至五分、翅ノ開張一寸二分乃至一寸五分、ハ前翅濃黃色ニシテ中央ニ弓狀ノ白色帶ヲ有シ其内側ニ褐色ノ小班紋ヨリ成立セル太キ帶アリ後翅ハ同シク黃色ニシテ前翅ヨリ少シク淡色ナリ、早ハハニ酷似スレモ白色帶ヲ有セズ前翅ノ中央部ニハ小褐紋ヲ散在シ外縁ニハ二個ノ褐色紋アリ後翅ハ淡色ニシテ内縁ニハ一個ノ褐色紋アリ

○幼蟲

充分成長スル時ハ一寸餘ニ達ス地色ハ黃橙色ニシテ頭部ハ割合ニ小サク光澤アル黑色ナリ腹面、腹脚、尾脚、第一ヨリ第三節ノ兩側ヲ縱去セル線條、第五第六節ノ背上及ビ第七節ヨリ第十二節ノ兩側ヲ縱走セル綠條等ハ黑色ヲ呈ス各節二十個乃至十二個ノ疣狀突起ヲ有シ之レヨリ各數個ノ黃色毛ヲ簇生ス第四及ビ第五節ノ背上ハ他ヨリ著シク膨起シ其疣狀突起モ大キク黑色ヲ呈ス第八節ヨリ第十二節ニ至ル迄ノ背上突起モ亦黑色ナリ氣門ハ黒クシテ其中央ノ縱線ハ白色ナリ

色ノ毛ヲ簇生ス殊ニ第四節ノ背上ニアル二個ノ疣狀突起ハ著大ニシテ短毛ヲ粗生ス尙ホ第一節ノ兩側ヨリハ長キ黒毛ヲ出シ角様ヲナス脚ハ割合ニ長ク腹脚ノ外側基部ハ黒色ナリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス卵ハ灰黃ニシテ常ニ母蟲ノ體毛ヲ以テ蓋ハレ二百餘相集合シテ樹幹ニアリ翌春孵化シ初メテ卵殼ヲ出ヅレバ數日間ハ其周圍ニ相集合シ後食葉ヲ求メテ互ニ離散ス七月中旬乃至下旬ニ至リ食樹ヲ辭シ場所ヲ擇ハズ雜草等ノ間ニ褐色ノ絹絲ヲ吐キ之レニ蛹ヲ結着ス蛹ハ黃褐ニシテ灰色ノ毛塊ヲ有シ口ハ頭部ニ黒毛ト第一節ノ背上ニ白色ノ毛ヲ裝フ長サ九分乃至一寸二分二週間内外ニシテ蛾化ス早蛾ハ遲鈍ナレドモ口ハ活潑ニシテ其盛ニ蛾化スルノ時ハ恰モ八月中旬ナリ

○驅除豫防法

前種ト同様ナリ

○萃樹ノ毒帖蠟(毒蛾)

學名 *Artaxa intensa*, Rntl.

第十六圖



♀ 1



♂ 2

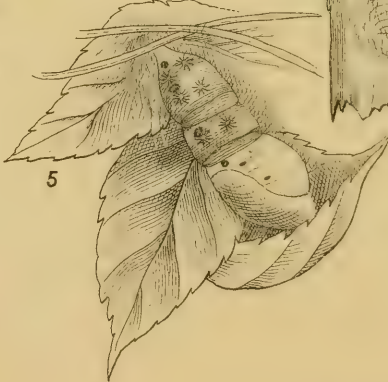
(2)(1)
同 成 蟲
雄 雌

(4)(3)
幼 蟲
卵 子

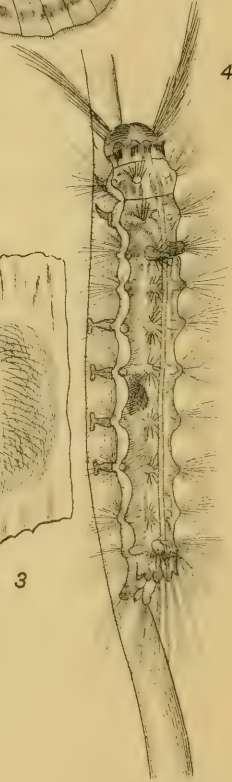
(5)
蛹



3



5



4

しむけはるか

目 本 害 蟲 篇

○ 櫛ノ粘蝨(かしわけむし)

學名 *Oenertia aurora*, Bntfl.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、毒蛾科

被害植物 櫛、櫟、檜、椿樹等

○ 成蟲

體長六分乃至一寸一分翅ノ開張九分乃至二寸〇分ノ前翅ハ灰白ニシテ中央部及ビ外縁ニ近ク暗色部アリ翅底、前縁及ビ外縁ハ淡紅ヲ帶テ後翅ハ淡紅ニシテ外縁ニ近ク暗色帶アリ體ハ白色ニシテ第一腹節ヨリ第四節迄ハ淡紅ヲ呈シ脚、觸角、基節及ビ下唇鬚モ亦タ淡紅ナリ口ノ前翅ハ暗灰色ニシテ暗黒ノ紋條ヲ有シ後翅ハ暗黄ニシテ中央ニ一個ノ暗色紋ト外縁ニ接シテ暗色帶アリ胸部ハ灰色ニシテ腹部ハ濃黄色ヲ呈シ其背上ニ一條ノ黑紋列アリ脚ハ黄色、觸角ハ羽狀ニシテ暗色ナリ

○ 幼蟲

充分成長スル時ハ一寸八分内外ニ達ス地色ハ黑褐、二個ノ背線及ビ波狀ヲナセル氣門線ハ黑色ナリ第一節及ビ第二節ノ背上ニハ濃黄紋ヲ有シ尾節ノ背上ニハ灰黄紋アリ各節六個乃至八個ノ疣狀突起ヲ有シ各之ヨリ灰色若クハ黒

レ母蟲ノ體毛ヲ以テ蓋ハル翌春孵化セル當時ハ集合スレドモ成長スルニ從ヒ所々ニ散在ス初メハ暗黒ナレドモ次第ニ固有ノ色ヲ顯ハシ七月下旬ニ至リテ老熟ス時々絹絲ヲ吐キテ樹枝ヨリ垂下シ風ノ助ケヲ得テ他樹ニ轉ズ故ニぶらんこけむしノ名アリ蛹ハ褐色ニシテ赤褐ノ叢毛ヲ班々ニ簇生シ極薄キ繭ヲ以テ樹枝ニ垂下セリ八月中旬ニ至リ蛾化ス早蟲ハ肥大シ飛翔スルコト遲鈍ナリ \cup 蟲ハ甚ダ活潑ニシテ白晝飛行シ旋轉スルノ性アルヲ以テまいまいてふノ名アリ歐米各國ニモ産シ常ニ甚ダシク損害ヲ加フ

○驅除豫防法

- (一) 冬季卵子ハ母蟲ノ體毛ニテ蔽ハレ樹幹若クハ其割目ニアルモノナレバ發見スル \cup 難カラズ
- (二) 五月頃卵子ヨリ孵化シタル當時ハ集合スルノ性アルヲ以テ此時殺スベシ
- (三) 八月中旬早蛾ハ葉上ニ棲止シ \cup 蛾ハ旋轉シテ飛翔スルノ性アルヲ以テ網羅ヲ用ヒ捕獲スベシ

第十五圖



♀

(5) (4) (3) (2) (1)
 蛹 幼 卵 同 成
 蟲 子 蟲 雌
 雛 雛



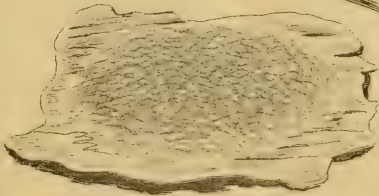
4



♂



5



3

しむけあんなぶ

被害植物 苹樹、梨、櫻、杏、榆、楓、柳、葵、藤等

○成蟲

體長六分乃至一寸二分、翅ノ開張一寸八分乃至二寸七分、早ハ體翅共ニ灰黄ニシテ前翅ニ各一個ノク字形黑褐紋ヲ有シ其内方ニ同色ノ小圓紋アリ尙ホ暗色ナル二條ノ波狀線アレモ其外側ノモノ判然セズ外緣ニハ八個ノ黑褐紋ヲ列テ後翅ニハ同様ニ九紋アリ、口ハ體翅共ニ暗灰色ニシテ外緣ハ黑褐ヲ呈シ其他ク字形ノ紋、小圓紋及ビ外緣ニアル八紋ノ如キハ早ト同様ナリ其形早ヨリ遙ニ小ニシテ觸角ハ甚ダシク羽狀ヲ呈ス

○幼蟲

充分成長スルトキハ二寸内外ニ達ス地色ハ褐色ニシテ黄色ノ綾紋アリ背線及ビ亞背線ハ黄色ヲ呈ス但シ亞背線ハ五節ニ來リテ終ルモノ多シ第一節ヨリ五節ニ至ル迄背上ニハ各二個ノ藍色紋アリテ之レヨリ以下ノ他節ニハ各二個ノ赤色紋ヲ有ス各節六個乃至十個ノ瘡狀突起ヲ有シ之ヨリ灰色、及ビ黑色ノ長毛ヲ簇生ス頭ハ灰黄ニシテ二個ノ黑條アリ

○經過習性

年一回ノ發生ヲナスモノニシテ卵子ノ有様ニテ越年ス一雌ノ卵數ハ二百乃至四百餘ニシテ色ハ灰黄ナリ常ニ樹幹若クハ其割目等ニ産下セラ

○經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ儘越年ス翌春五月乃至

六月上旬ニ老熟シ甚ダ大ナル薄繭ヲ造リ其内ニ蛹化ス繭ハ常ニ幼蟲ノ裝ヘル體毛ヲ附着シ蛹ハ光澤アル黒色ナリ四週間乃至五週間ノ後蛾化ス蛾ハ燈火ニ飛來スル性アリテ夏日之レガ爲メニ火ヲ滅セラル、ト多シ幼蟲ハ夏日路上ヲ走行シ嫌忌スベキ相貌ヲ有ス俗ニくまけむしト云フ卵ハ球形ニシテ葉裏ニ産下セラレ綠色ニシテ一雌ノ産數二百以上アリ之ヨリ孵化セル幼蟲ハ早キモノハ三回位ノ脱皮ヲ終リ晚キモノハ一回位ノ脱皮ヲ經テ越年ス

○驅除豫防法

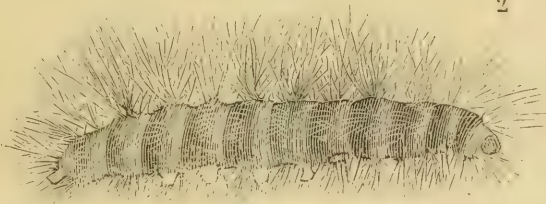
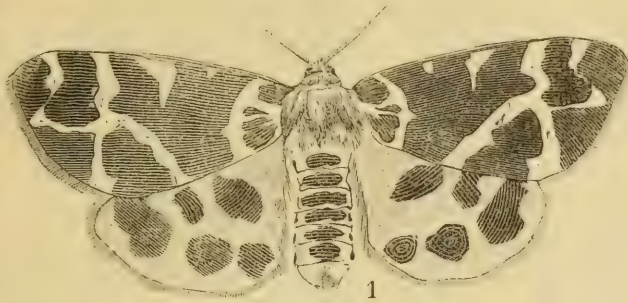
- (一) 一七八月ノ頃蛾ヲ捕フルニハ燈火誘殺ヲ行フベシ
- (二) 幼蟲ハ大形ニシテ眼ニ留リ易ク從テ驅除スルコト難カラズ

○苹樹ノぶらんこけむし(まいまいてふ)

學名 *Oenertia dispar*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目毒蛾科

第十四圖 をどりこてふ



(1) 成蟲
(2) 幼蟲

アレヒ其數種類ニヨリテ異ナレリ觸角ハ灰白ニシテ橢齒狀ヲ呈シ小枝ハ褐色ナリ頭、及ヒ胸背ハ前翅ト同色ニシテ頸ニ赤血色ノ部分アリ腹部ハ後翅ト同色ニシテ各節ノ背上ニ黒紋ヲ有シ腹面ハ黒色、脚モ黒色ニシテ腿部ハ赤色ナリ

○幼蟲 充分成長スルモハ二寸内外ニ達ス地色ハ黒色ニシテ十二個乃至十六個ノ疣狀突起ヲ有シ之ヨリ多數ノ長毛ヲ簇生ス兩側ノ毛ハ赤褐、他ハ黒色ヲ呈シ毛端ハ灰白ナリ背上ノ疣ヨリ生ズル毛ハ兩側ノモノヨリ長シ氣門ハ白色、頭ハ光澤アル黒色ニシテ兩側ハ黃褐ナリ

ヒ 黒色ノ毛塊ヲ簇生ス瘡狀突起ハ時ニ黃褐若クハ暗灰色ヲ呈スルコモアリ頭部及ビ背線ハ黃褐ニシテ時ニ褐色ヲ呈セルコモアリ氣門ハ白色ナリ

○經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ第一回ハ五月下旬第二回ハ七

月下旬蛹ノ有様ニテ越年ス蛹ハ黒褐ニシテ灰色ノ粗繭中ニアリ五月下旬蛾化ス蛾ハ葉下ニ産卵シ自體ノ毛塊ヲ以テ掩フコ前種ト同様卵ハ圓形ニシテ黃白ナリ之ヨリ孵化スルノ幼蟲ハ七月中旬ニ至リ蛹化シ次テ蛾死ス

○驅除豫防法

前種ト同然ナリト雖モ此種類ハ殊ニ燈火ニ來ルコ多シ

○燈蛾(をどり)をどりこてふ、ひをむし又ひとりむし

學名 Archia caja, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、燈蛾科

被害植物 桑、大麻、苧麻、かいらん、等

○成蟲

體長一寸一分、翅ノ開張二寸六分、前翅ハ黒褐ニシテ白紋及ビ相連續セ

ル大白條ハ種類ニヨリ大ニ變形セリ後翅ハ美麗ナル赤色ニシテ黒色ノ大紋數個

○ ひめごまだらてふ

學名 *Spilosoma menhastri*, Fabr.

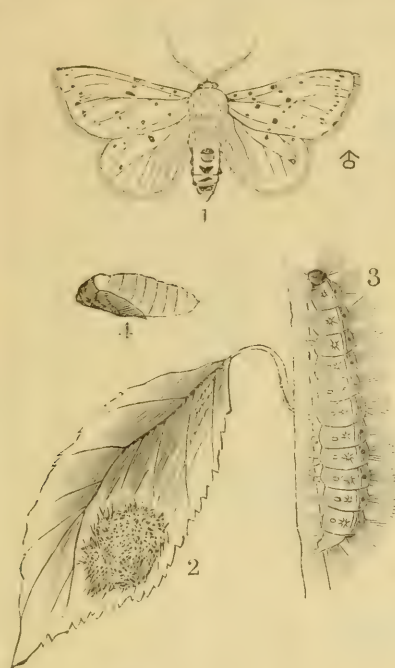
昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、燈蛾科

被害植物 苹樹、櫻、桑等

○ 成 蟲

第十三圖

體長五分、翅ノ開張一寸三四分、翅ハ白色ニシテ前翅ニ二十乃至三十個



(1)成蟲 (2)卵塊 (3)幼蟲 (4)蛹

餘ノ大小アル黒紋ヲ散在ス後翅ニ

モ亦同様ノ班紋二個若クハ三個アリ
頭部及胸部ハ白色觸角ハ黒色腹部
ノ背面ハ黄赤、腹面、尾端及ヒ基部
ハ白色腹部ニハ五列ノ黒紋ヲ有シ
前腿節ハ紅色ナリ

○ 幼 蟲

充分成長スルキハ一寸餘ニ達ス色ハ暗褐ニシテ各節ニ藍色ノ瘤狀突起ヲ有シ之ヨリ灰色及

長毛ヲ簇生ス癩起ハ多ク黄色ナレモ胸脚ノ上部ニアルモノ及ビ第八、九兩節ニ於ケル四癩起ハ紫藍色ヲ呈ス尙ホ第一節并ニ尾節ノ硬皮板、胸脚ノ全部及ビ腹尾兩脚ノ外側ハ同シク紫藍色ナリ頭ハ紫褐色ヲ呈ス

○經過習性

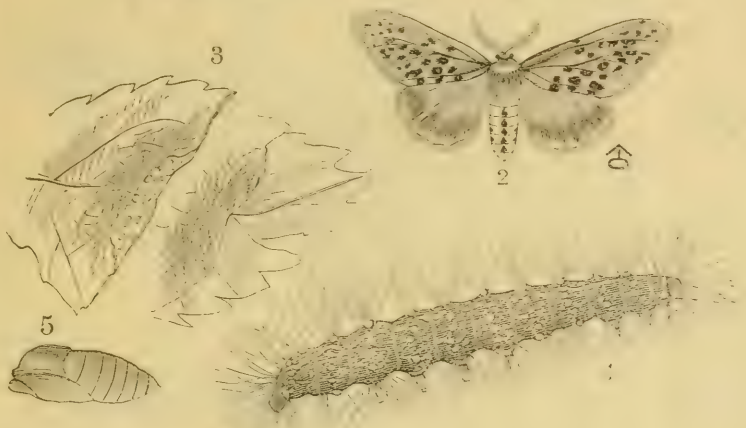
年一回發生ス幼蟲ハ第二回ノ脱皮ヲ終ヘ食樹ノ皮隙、割目等ニ入りテ越年ス翌春更ニ二回ノ脱皮ヲ終ヘ暗色ノ粗繭ヲ作り葉ヲ捲キ其内ニ蛹化ス蛹ハ黒褐ニシテ氣門ハ著シク隆起セリ常ニ尾端ニ幼蟲ノ脱皮ヲ附着ス七月下旬蛾化ス蛾ハ卵子ヲ葉下ニ集合シテ産下シ黄色ノ體毛ヲ以テ之ヲ掩フ其數二百内外ナリ

○驅除豫防法

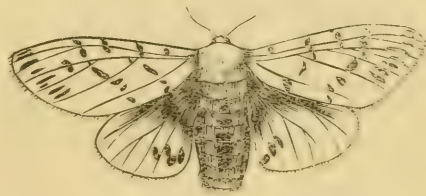
- (一) 八月上旬頃卵ヲ探ルベシ卵ハ葉下ニアリテ常ニ母蟲ノ黄色體毛ヲ以テ掩ハル爲メニ容易ニ發見シ得ベシ
- (二) 七月下旬頃蛾ヲ捕獲スベシ晝間ハ食樹ノ葉上ニ靜止ス
- (三) 蛾ニハ燈火誘殺法ヲ行フベシ

第 十 一 圖

こ ま だ ら て ふ



- (1) 成蟲(雌)
- (2) 同(雄)
- (3) 卵塊
- (4) 幼蟲
- (5) 蛹



♂ 1

翅ノ開張一寸四分體、翅暗
 黒ニシテ腹部及ビ前胸ハ
 黃橙色ヲ呈シ、腹背ニハ五
 個ノ黒紋アリ、前翔ニハ♀
 ト同シク三十數個ノ黒紋
 ナ散在ス、觸角ハ黒色ニシ
 テ羽狀ヲ呈ス

○幼蟲 充分成長スル

キハ一寸七分餘ニ達ス、黒
 褐ニシテ少シク紫色ヲ混
 シ、黃紋黃條アリ、背線ハ黃
 色ニシテ太シ、各節十二個
 内外ノ瘤狀突起ヲ有シ之
 ヨリ黒色若クハ灰白色ノ

紋アリ腹面ハ淡赤褐ニシテ白色ノ短毛ヲ粗生ス各節ノ刺ハ前種ニ似レモ皆黃色ニシテ第二節及ビ氣門上ニ於ケル刺ハ暗黒ナリ頭ハ黒クシテ顆粒狀ノ突起ヲ有シ之ヨリ白毛ヲ出ス

○經過習性 前種ニ酷似ス卵ハ鶏卵形ニシテ綠色ヲ呈シ縱隆條ヲ有ス

○驅除豫防法 前種ト同然

○桑ノ蝓蠶(ごまだらてふ)

學名 *Spilarchea imparilis*, But.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目燈蛾科

被害植物 桑、萍樹、柳、榆、^{アケビ}通草等

○成蟲 早ハ彩色及ビ形狀ヲ異ニシ早ハ體長六分翅ノ開張一寸八分、頭及ビ胸部ハ黃白毛ヲ密生シ前胸背ニ黃色毛アリ腹部ハ黃色ニシテ背上ニ五個ノ黒紋ヲ具ヘ尾節ハ黃色ノ毛塊ヲ簇生ス翅ハ黃白ニシテ前翅ニハ三十數個ノ暗色紋アリテ此ハ殊ニ外縁ニ多シ後翅ノ後緣角ニ接シテ四個ノ暗色紋アリ早ハ體長六分餘

○ 苧麻ノ刺蝟(乙)あかたてば

學名 *Yanessa callirhoe*, Fab. (Syn.) *Pyraonis indica*, Herrk.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、蛭蝶科

被害植物 苧麻、黃麻、壽麻、薊等

第十圖 (ばてたかあ) 蝟刺ノ麻苧



(1) 成蟲

(2) 幼蟲

○ 成蟲 體長七分、翅ノ開張二寸三分前

翅ハ前種ニ酷似スレモ前緣角ノ白紋數少
ナシ後翅ハ灰褐ニシテ外緣ハ黃赤色ヲ呈
シ二列ノ黑紋アリテ後緣角ニ藍色紋アル
ハ前種ト異ナラズ

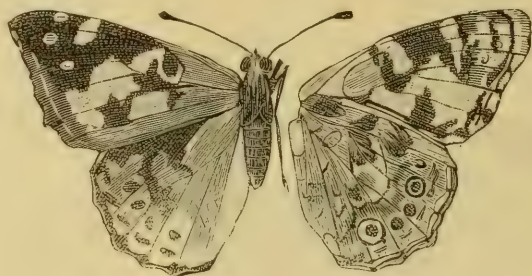
○ 幼蟲 充分成長スルモハ一寸四五分

ニ達ス地色ハ種々ナレモ先ヅ暗褐ノモノ
最モ普通ナリ背線ハ黑色、亞背線ハ黃色ニ
シテ連續セズ氣門下線ハ太クシテ黃色ヲ
呈シ波狀ヲナス氣門ノ後方ニ各一個ノ黃

○ 經過習性

年二回ノ發生ヲナスモノニシテ成蟲ノ儘越年ス翌春葉裏ニ産

第十圖 ひめたてば



卵ス卵ハ橢圓形ニシテ暗綠色ヲ呈シ淡色ナル網狀ノ溝アリ六月中旬老熟ス蛹ハ灰色若クハ褐色ニシテ體上ニ二列ノ棘狀突起ヲ有シ其内金色ヲ呈スルモノアリ胸背ノ中央ニハ一個兩側ニハ各二個ノ稜狀突起ヲ有ス尙此他ニモ小突起アリテ翅鞘ニハ成蟲ノ裝ヘル赤色紋ヲ見ルヲ得ベシ此ハ常ニ尾端ニ垂下ス第二回ノ幼蟲ハ八月下旬ニ老熟シ次デ蛹化シ羽化スルヲ前述ノ如シ蝶ハ活潑ニシテ花蜜ヲ吸收ス

○ 驅除豫防法

- (一) 蝶ヲ捕獲スベシ晝間ハ花ニアレモ夕刻ニ至レバ暄ヲ負ヒ路上ニ靜止スルノ性アリ
- (二) 蛄蠶ヲ殺スニハ石油乳劑ヲ用ユベシ
- (三) 粗布ヲ以テ手袋ヲ製シ之ヲ兩手ニ穿テテ害蟲ヲ捻ミ殺スベシ

日 本 害 蟲 篇

學名 *Yanessa (Pyraemis) cardui*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、蝶科

被害植物 苧麻、黃麻、壽麻、蕎麥等

○成蟲

體長七分、翅ノ開張二寸乃至二寸二分、前翅ハ黃赤ニシテ黑紋ヲ有シ、中央ヨリ翅端迄ハ黑色ヲ呈シ、之レニ數個ノ白紋アリ、外縁ニハ黑紋ヲ列ス、又往々此紋ノ相連結セルコトアリ、尙外縁ニハ黃紋及ビ白紋アリ、翅底ハ綠褐ニシテ金光ヲ有ス、後翅モ黃赤ニシテ前縁及ビ中央ハ暗色ヲ呈シ、外縁ニハ黑紋ノ三列アリ、テ中央ニ位セル最後ノ紋ハ藍色ヲ混ズ、縁毛ハ白色ニシテ翅ノ裏面ハ甚ダ美麗ナリ

○幼蟲

充分成長スルトハ一寸五分内外ニ達ス、地色ハ灰黒ニシテ二個黃色ノ脊線ヲ有シ、此ハ點線ヨリ成ル氣門上線及ビ氣門下線モ黃色ニシテ上線ハ斷續セリ、腹面ハ黃褐ニシテ少シク赤色ヲ混シ、中央ニ暗色ノ縱線ヲ有ス、氣門ハ黒クシテ周圍ハ黃色ナリ、各節ニ六個乃至七個有枝ノ刺アリ、テ背線及ビ氣門上下ニアルモノハ黃色、他ハ暗色ヲ呈ス、頭ハ黑色ニシテ白色ノ顆粒狀ノ突起ヲ有シ、之ヨリ暗色毛ヲ出ス、脚ハ黑色ナリ

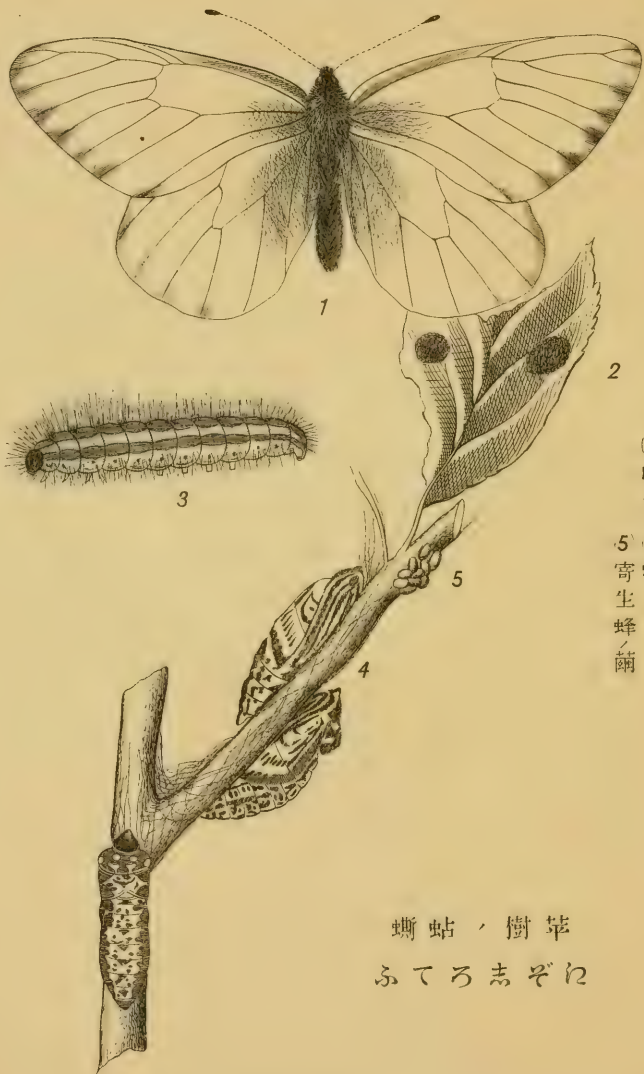
ヨリ出デ新芽ヲ食害シ六月上旬ニ至リテ蛹化ス蛹ハ黃白ニシテ黑紋及ビ黃紋ヲ散在シ氣門線ハ黃色ナリ常ニ數個相集合シ絲ヲ以テ枝上ニ縊ラル六月中旬乃至六月下旬ニ羽化ス蝶ハ黃色ナル長形ノ卵子ヲ葉下ニ集合シテ産附ス其數百内外ナリ八月中旬ニ幼蟲出デ食害スルコト少量ニシテ巢ヲ作り其内ニ越年ス冬季梢上ニ枯葉ノ附着シアルハ多ク該蟲ノ巢ニシテ其内ニ數匹相集ルヲ常トス翌春温暖ナル日ニハ出デ、食害スレモ寒冷ナル日ニハ復タ其巢ニ歸リ來リテ蟄居ス蝶ノ運行ハ遲鈍ニシテ花蜜ヲ吸收ス

○驅除豫防法

- (一) 冬季樹梢ニアル枯葉ヲ採リ去ルベシ幼蟲此内ニ越年ス
- (二) 六月上旬乃至中旬頃枝上ニ集合シテ蛹化セルモノヲ殺スベシ
- (三) 蝶ハ飛翔スルコト遲鈍ナレハ網羅ヲ以テ捕獲スベシ
- (四) 蛸蠟ヲ殺スニハ石油乳劑ニ三四十倍ノ水ヲ混シテ灌注スベシ

○苧麻ノ刺蛸蠟(甲)ひめたてば

第九圖



(2) (7) 成蟲
 卵子
 (3) 幼蟲
 4 蛹
 5 寄生蜂ノ繭

蠍粘、樹華
 ふてろまぞね

第二章 蛸蝻類

○ 苹樹ノ蛸蝻(大白蝶、えぞしろてふ)

學名 *Aporia erastri*, L.

昆蟲學上ノ地位 鱗翅目、粉蝶科

被害植物 苹樹、梨、櫻、梅、山樺、海棠等

○ 成 蟲 體長八分内外、翅ノ開張二寸三分乃至二寸六分、翅ハ白色ニシテ翅脈外

縁及ビ翅底ハ黑色ヲ呈ス、體ハ黑色ニシテ灰白毛ヲ密生シ、觸角ノ末端ハ黃白色ヲ呈ス

○ 幼 蟲 充分成長スルキハ一寸二分乃至一寸四分ニ達ス、色ハ種々ナレド先ツ

赤褐ニシテ背線及ビ亞背線ハ黑褐ヲ呈シ、少シク紫色ヲ混ズ、頭部並ニ第一節及ビ尾節ノ硬皮板、氣門、胸脚、腹脚、外側ノ瘤起等ハ黑色ナリ、全體白色ノ長毛ヲ密生シ、背上ニハ黃褐ノ短毛アリ

○ 經過習性 年一回ノ發生ヲナスモノニシテ幼蟲ノ有様ニテ越年ス、翌春巢

ス、又被蓋ヲ有セザルモノアリ之レヲ裸蛹(Pupa libera)ト云フ天牛カミキリノ如キ鍬形蟲ノ如キハ其ノ一例ナリ彼ノ蠅ノ蛹ノ如ク俵狀ノ堅皮ニ圍マルモノアリ之レヲ圍蛹(Pupa coarctata)ト云フ元來此被蓋ハ幼蟲ノ皮膚ノ硬化シテ其儘殘留セルモノナレバ被蛹トハ全ク其趣ヲ異セリ

日 本 害 蟲 篇

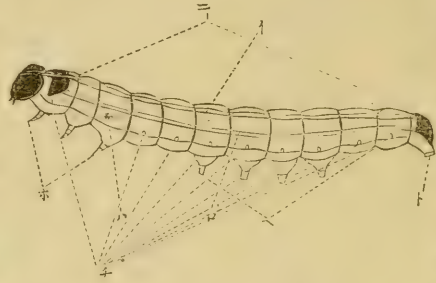
クハ蛾ノ幼蟲ナリ初學者ニハ幼蟲ヲ以テ蝶、蛾ヲ區別スルコト難シト雖モ少シク熟練セバ容易ニ區別シ得ベシ豹紋蝶ヒヨウモンゾフ若クハ蛺蝶ヒナドリシテフノ幼蟲ノ如ク分支セル刺毛ヲ有スル者ハ明ニ蝶類ノ幼蟲ナルコトヲ知り得ベシ此種類ノ蛸蠶ヲ呼イラケムシデ刺蛸蠶ト云フ其他體ニ短毛ヲ密生セルモノ或ハ頭ニ二個ノ硬キ角狀突起ヲ有スルモノ或ハ體ノ所々ニ肉狀ノ突起ヲ有セルモノ及ビ物ニ驚クモハ第一節ノ背上ヨリ肉狀突起ヲ出スルモノ或ハ膨大セル頭部ヲ有セルモノ等ハ多ク皆蝶類ノ幼蟲ナリ又第十一節ノ背上ニ尾角ヲ有スルモノ或ハ各體節ノ疣狀突起ヨリ長毛ヲ簇生スルモノ若クハ之レヨリ一個宛ノ短毛ヲ出スモノ或ハ第一節ニ肉狀突起ナクシテ全ク裸體ナルモノ等ハ大概蛾類ノ幼蟲ナリ又幼蟲ニハ十八個乃至二十二個ノ脚ヲ有スルモノアリ此等ハ多ク鋸蜂ノ幼蟲ナリ

第三編

蛹ニハ種類多ク粉蝶若クハ鳳蝶ノ如ク一本ノ絹絲ヲ以テ自體ヲ縊リ

蛹化スルモノアリ之レヲ帶蛹(Pupa saccinata)ト云フ俗ニモ菊蟲ト云フモノ是ナリ又蛺蝶ノ如ク尾端ニテ垂下セルモノアリ之レヲ垂蛹(Pupa suspensa)ト云フ又硬皮ヲ以テ被ハル、モノアリ之レヲ被蛹(Pupa obtecta)ト云フ此等ノ多クハ蛾類ニ屬

第 八 圖 幼蟲ノ説明

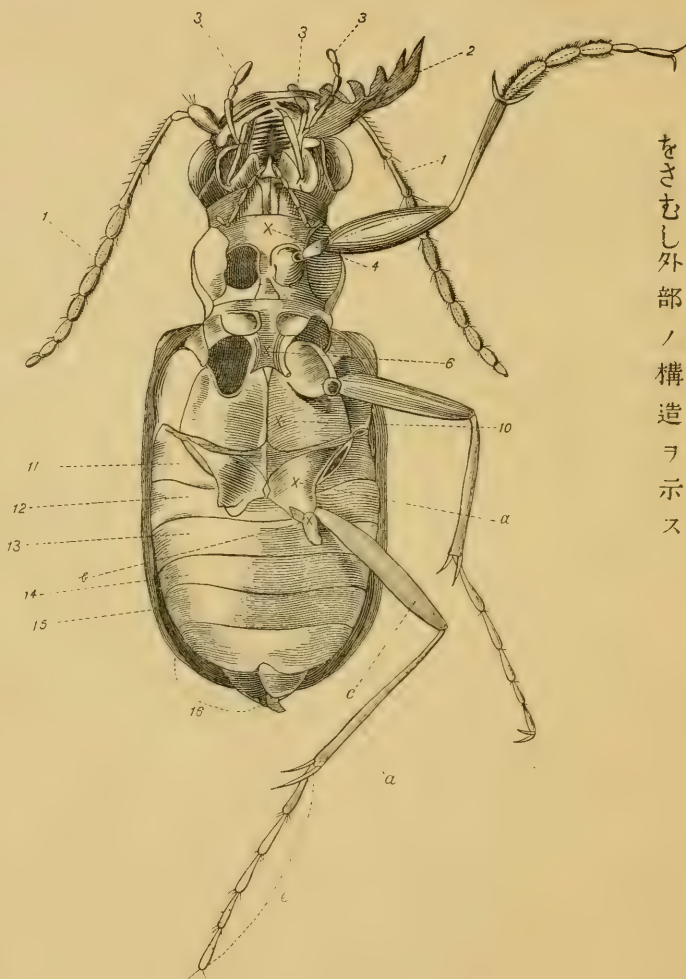


(イ) 背線
(ロ) 亞背線
(ハ) 氣門線
(ニ) 硬皮板
(ホ) 胸脚
(ヘ) 腹脚
(ト) 尾脚
(チ) 氣門

ニ固着スルニ適ス第一節及ビ尾節ノ背上ニ幾丁質
ニテ硬化セルモノアリ之レヲ硬皮板ト云フ幼蟲ニ
ハ縦線ヲ有セルモノ多シ背部ノ中央ヲ縱走セルモ
ノヲ背線ト云ヒ其兩側ヲ走ルモノヲ亞背線、氣門部
ヲ走ルモノヲ氣門線其上部ニアルトキハ之レヲ氣
門上線其下部ニアルトキハ氣門下線ト云フ幼蟲ニ
ハ長尾ヲ有スルモノ多シ此ハ毛塊ヲナシテ疣狀突
起ヨリ簇生ス又或ル蛾類ノ幼蟲ニハ第十一節ノ背
上ニ棘狀突起アリ之レヲ尾角ト云フ

幼蟲ノ内判然セル頭部ト三双ノ胸脚ヲ有スルモノハ大概ハ甲蟲ノ幼蟲ナリ又判
然セル頭及ビ脚ヲ有セザル者ノ多クハ蠅ノ幼蟲ニシテ俗ニ之レヲ蛆ト云フ但シ
カレんばノ幼蟲ハ明亮ナル頭部ヲ有セリ又判然セル頭部ヲ有セルモノ其脚ナキモ
ノハ多ク蜂若クハ樹幹ニ蠹入セル天牛及ビ象鼻蟲ノ幼蟲ナリ五双乃至六双ノ脚
ヲ有シ尺蠖狀ニ運行スルモノハ蠹ク蛾ノ幼蟲ナリ八双ノ脚ヲ有スルモノハ蝶若

第七圖



をさむし外部ノ構造ヲ示ス

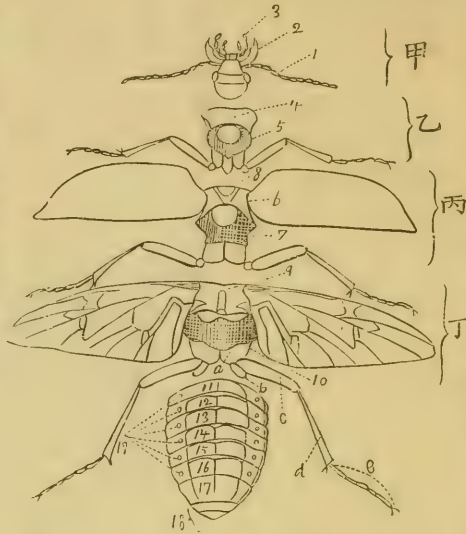
ル部分ヲ背片(背)兩側ヲ側片(側)下ニ位セル部分ヲ胸片ト云フ中胸ノ背片ニハ菱狀部ト稱シテ三角形ノ小片ヲ有スルモノ多シ胸部ニハ二双ノ氣門、翅及ビ三双ノ脚アリ前胸ニアル脚ヲ前肢、中胸ニアルモノヲ中肢、後胸ニアルモノヲ後肢ト云フ肢ハ基節、轉節、脛節、脛節及ビ跗節ノ五部ニ分ツコトヲ得ベシ跗節端ニ爪アルモノ多シ中胸ト後胸トニハ各一雙ノ翅アリ前者ニアルモノヲ前翅ト云ヒ後者ニアルモノヲ後翅ト云フ翅ノ前方ヲ前緣ト云ヒ後方ヲ後緣ト云ヒ體ニ附着セルノ部分ヲ翅底、其反對ノ部分ヲ外緣ト云フ腹部ハ十節ナレドモ多クハ癒合シテ其數ヲ減ズ尾端ヲ尾節ト云フ各節ノ兩側ニ氣門アレドモ尾部ニハナシ

第一 幼蟲 幼蟲ハ一名仔蟲若クハ虵トモ云フ大概ハ頭ト十二個ノ環節ヨリ成

レモ蠅類ノ幼蟲ニハ判然セル頭部ヲ有スルモノ少シ頭ノ兩側ニハ普通數個ノ單眼アリ體ノ兩側ニ氣門アリテ第二、第三及ビ尾節ニ之レヲ闕如ス脚ハ三双乃至十二双ニシテ初メノ三節ニアルモノ胸脚ト云フ此ハ三個ノ環節ヨリ成リ一個ノ太キ爪ヲ有スルヲ常トス尾節ニアル者ヲ尾脚ト云フ尾脚ト胸脚トノ間ニアルモノヲ腹脚ト云フ腹脚ハ肉狀ニシテ二節ヨリ成リ末端ノ外側ニ大小ノ爪列アリテ物

第 六 圖

をさむし外部ノ構造ヲ示ス



- (甲)頭部 (乙)前胸環 (丙)中胸環 (丁)後胸環
 (1)觸角 (2)大腮 (3)小腮鬚 (4)前胸背片 (5)前胸片
 (6)中胸背片 (7)中胸片 (8)稜狀部 (9)後胸背片 (10)後胸片
 (11)腹節 (12)尾節 (13)氣門
 (a)基節 (b)轉節 (c)腿篩 (d)脛節 (e)跗節

テ複眼ノ間ニアリ口ハ複雑セルモノニシ
 テ最上ニ位セルモノヲ上唇ト云ヒ其直下
 ノ兩側ニ各大齒アリ之レヲ大腮(顎上)ト云ヒ
 更ニ其下ニアルモノヲ小腮(顎下)ト云ヒ尙ホ
 其下ニアルモノヲ下唇ト云フ大腮ハ食物
 ナ粉碎スルニ用ヒ小腮ハ食物ヲ採集スル
 ニ用ユ眼ト眼トノ間ヲ額ト云ヒ上唇ノ直
 上ニ接スル小片ヲ額片ト云フ而シテ此二
 者ヲ合シテ顔ト云フ頭ノ最モ上ニ位セル
 部分ヲ頭頂ト云ヒ其直後ニ位セル部分ヲ
 後頭ト云フ又頭側ヲ頬ト云ヒ口下ヲ咽喉
 ト云フ又胸部ハ三個ニ分ツヲ得ベシ最
 モ前ニ位セル者ヲ前胸次ギテ中胸最後ノ
 モノヲ後胸ト云フ各胸環ニ於テ上ニ位セ

期ハ六個ノ胞脚ヲ具ヘ二個ノ長キ觸角ト二個ノ尾毛ヲ有スル活潑ナル幼蟲トナル第二期ハ蜂ニ寄食シタル後ニ取ルノ形態ニシテ觸角及ビ尾毛ヲ失シ脚ハ退化シテ甚ダ小形ト成ル第三期ハ蛆蛹狀ノ蛹皮ヲ以テ被ハル其内ニ蛆狀ノ幼蟲ヲ藏ス第四期ハ再ビ六脚ヲ有スルノ幼蟲ト成リ第五期ニ至リテ尋常ノ裸蛹ト成リ第六期ニ至リテ初メテ成蟲ト成ル

第一成蟲

昆蟲ハ盡ク六脚ヲ有スルヲ以テ一名六脚蟲トモ云フ(但シ幼蟲即チ至二十四個ノ脚ヲ有ス)彼ノ八個乃至八個以上ノ脚ヲ有スル蜘蛛ノ如キ蜈蚣ノ如キハ則チ昆蟲ニ非ラザルナリ昆蟲ハ頭、胸及ビ腹ノ三部ニ判然分ツ

ヲ得ベシ頭ニハ觸角、眼及ビ口アリ觸角ハ必ズ一雙ニシテ眼ノ間ニアルヲ常トス觸角ニハ種類多ク末端ニ至ルニ從テ細小セルモノヲ鞭狀、各節同經ナルモノヲ絲狀、末端ニ至リテ膨大セル者ヲ棍棒狀、鋸齒様ノ切目アル者ヲ鋸齒狀、其一層深キ切目ヲ有スルモノヲ櫛齒狀、各節ヨリ多數ノ長キ小枝ヲ出スモノヲ羽狀ト云フ尙ホ種々ノ異形ヲ呈スルモノヲ不正形ト云フ眼ニハ複眼ト單眼ノ別アリ前者ハ小眼ノ集合ヨリ成リ其數ノ多キモノハ三萬以上ニ達ス單眼ハ大概二個乃至三個ニシ

蟲箱ニ移スベシ是レ最モ安然ナル試驗ナリ室内ノ溫度ニ遇ハシムルニ於テ飼育シ難キ種類モ自然ノ冷氣ニ接セシムルニ於テハ案外ニ易ク其成蟲ヲ得ルコトアリ
 鋸蜂ノ如キ中夏ヨリ翌春ニ涉リテ地中ニ蛹化シアルモノ、如キニ至リテハ殊ニ然ルヲ見ル旅行中害蟲ヲ試驗スルノ場合ニハ前述寒冷紗ノ袋ヲ用ヒ其内ニ害蟲及ビ食草ヲ入レ成ルベク日光ニ直射セシムルコトナク時々新鮮ナル食草ヲ換與スベシ

用記ノ説明

昆蟲ノ變態

昆蟲ハ大概一代ノ内ニ其態ヲ變ズルモノナレバ其内卵子ヨリ

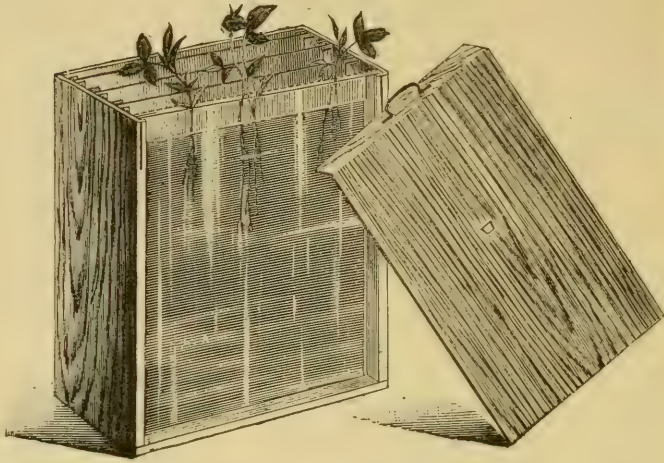
孵化シテ親蟲ト成ルマデ大サノ外其形態ヲ變ゼザルモノアリ之レヲ不變態類ト云フ又卵子ヨリ出デ、幼蟲(蟲仔)ト成リ休眠スルコトナク親蟲ト成リテ翅ヲ生ズルモノヲ不完變態ト云フ又幼蟲ノ充分成熟スルキハ被蓋ヲ被リテ休眠スルコトアリ此時代ヲ蛹ト云フ蛹ヲ經テ親蟲(成蟲)ト成ルモノヲ完變態ト云フ尙ホ此外異形變態ト稱スルモノアリ此ハ地膽若クハ芫菁等ノ幼蟲が經過スルノ變態ニシテ即チ第一

日 本 害 蟲 篇

最モ難キモノニシテ余ハ數年間該蟲ヲ室内ニテ試験セルモ未ダ成蟲ヲ得タルトナシ野外ニテ飼育スルニハ先ヅ無底ノ養蟲箱ヲ要ス此ハ高サ一尺五寸、正方形ノ木框ニシテ之ヲ被害作物ノ上ニ蔽ヒ自然同様ニ飼育スルナリ若シ高キ果木ニアル害蟲ヲ飼育セント欲セバ寒冷紗ヲ以テ穹狀ニ底ヲ縫ヒ合セタル袋ヲ造リ害蟲ノ靜止セル枝ヲ蔽ヒ置クベシ是レ害蟲ヲ見失ハザルノミナラズ寄生蟲ノ侵害ヲ避クルニ必要ナリ野外ノ試験ハ往々冬期ニ跨ルモノアルヲ以テ此場合ニハ養蟲箱ノ上ニ簾ノ如キモノヲ以テ蓋ヲナシ置クベシ近來英人ふれつちや氏ノ記スル簡便法アリ此ハ柳枝ノ細キモノ二本ヲ穹狀ニ灣曲シ兩端地中ニ貫キテ相互ニ交又セシメ其上ニ寒冷紗ヲ蔽ヒ地邊ニ接スル布片ノ浮上ラザル爲メ木釘ヲ以テ留メ置クカ若クハ上ヲ覆ヒ置クナリ是レ殊ニ大形ナル蝶類ノ卵子ヲ得ルニ最モ便ナリト云フ

彼ノ世代交替ヲナス蚜蟲ノ如キ、沒食子蜂ノ如キ害蟲ノ經過ヲ知ラント欲セバ宜シク野外ナラザルベカラズ又蛹若クハ幼蟲ノ有様ニテ越年スル害蟲ハ何レノ種類ヲ問ハズ冬期間ハ野外ニ置キテ自然ノ寒氣ニ遭遇セシメ翌春ニ至リテ室内ノ

第五圖



ハ狭クシテ此ノ間ニ土ヲ入レ其ノ内ニ播種ス
 ルカ若シクハ稚苗ヲ移植シテ試験用ニ供ス此
 ノ土ノアル處ハ狭キガ爲メニ根部ノ分支セル
 ト害蟲ノ來リテ加害シアルノ狀況ヲ一見直チ
 ハ認メ得ベシ平時ハ亞鉛板第五圖ノ(ロ)ヲ箝メ
 置キテ暗黒トナスこむすどつく氏ハ此裝置ヲ
 野外ニ埋メ置キテ時々必要ノ場合ニ臨ミ是レ
 ヲ舉ゲテ見ル方法ハ安然ナル試験ナリト云フ

野外飼育法 野外飼育ハ重ニ幼蟲ノ儘若

クハ繭中ニテ幼蟲ノ儘越年スル害蟲ニ向テ殊
 ニ適切ナルヲ見ル室内ニテハ到底飼育シ能ハ
 ザルモノ多シ例令ハ彼ノ大豆ノ大害蟲ナル莢
 蠹蟲(*Grapholita glycinivorella*)ノ如キハ其飼育ノ

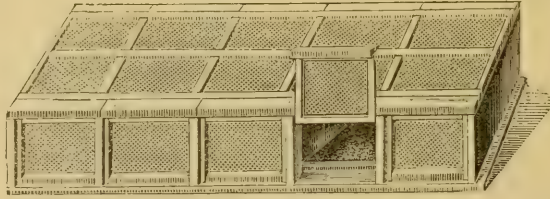
日 本 害 蟲 篇

シ又食液ヲ認メザル場合ニハ(假令ハ蝶)螺旋狀ニ回旋セル口吻ヲ針端ニテ靜カニ解キ其味ヲ知ラシムルノ必要アリ此場合ニハ幼蟲ノ食草ト二三匹ノ早ヲ相混シテ入レ置クベシ互ニ相爭鬪スルニ當リ葉上ニ靜止スルモノ、徃々ニシテ産卵スルコアリ若シ又産卵セズシテ死スル場合ニハ指ヲ以テ尾端ヲ壓シ卵子ヲ搾出セシム斯クノ如キ飼育シテ屢々貴重ナル標本ヲ得ルコトアリ尙ホ早蟲ノ未ダ受精セザルモノアレバ網ニ入レテ野外ニ放置スベシ左ラバハ蟲ハ飛來スルモノナリ是レ天蠶柞蠶等ニ於テ殊ニ目撃スル所ナリ

幼蟲ノ有様ニテ越年スルモノヲ室内ニ越冬セシムルハ頗ル難シ多クハ濕氣ノ缺乏ニ歸スルモノニシテ冬間ノ乾燥ハ以テ害蟲ヲ倒スモノト云フベシ此場合ニハ水邊ニ生ズル鮮苔ヲ以テ之レヲ蔽ヒ而シテ後ニ風穴若クハ座ノ下ニ置クベシ而シテ乾燥セザル様水ヲ與フベシ

根ヲ食害スル害蟲例令ハ針金蟲ノ如キモノヲ飼育セント欲セバ特別ノ裝置ナカルベカラズ第五圖ハこむすどつく氏ノ推舉セル裝置ナリ全體ハ木若クハ亞鉛板ニシテ前後ノ兩面ヲ硝子板トナシ其上ニ更ニ(ロ)ノ如キ亞鉛板ヲ箝ム硝子板ノ間

第四圖

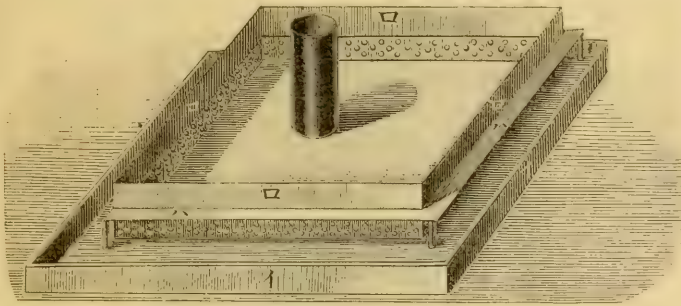


ニシテ普通

ハ海綿ニ浸漬シテ與フルモノナレモ又皿ニ盛リテ與フルコモアリ若

長サ一尺八寸、高サ四寸、幅八寸ナリ此ハ十室ヲ有シ五室宛二列ヲナス各室ノ隔壁
 ハ三面板ニテ上面及ビ前面ハ細金網ナリ底ニハ細砂ヲ入レ置ク
 ベシ此箱ハ極メテ輕便ナルモノニシテ小箱ナガラ十數種ノ害蟲
 ヲ試驗シ得ベシ此小室ニハ幼蟲ノ色澤、形狀、性質、大サ、月日等ヲ記
 シタル紙片ヲ入レ置クベシ然ラズンバ往々紛ヒテ生ズルコトアリ
 又微小ナルモノ、蛹化セル場合ニアリテハ化學用ノ試驗管ヲ用
 フルヲ便トス殊ニ寄生蜂ノ如キモノニアリテハ其透明ナル爲メ
 ニ羽化スレバ容易ニ之レヲ認メ得ベシ此口ニハ綿ヲ栓トナシ時
 ニ濕氣ヲ與ル爲メニ之レヲ濕スベシ
 稀有ナル害蟲ヲ試驗スルノ場合ニハ中々其幼蟲ヲ發見スルコト
 難シ故ニ此時ニハ寧ロ成蟲ヲ捕獲シテ之ヨリ卵子ヲ得ルコト計
 ルベシ先ヅ成蟲ヲ養蟲箱ニ入レ其食草ヲ與ヘ置キテ若シ兩三日
 ヲ經ルモ産卵セザル場合ニハ食物ヲ與フベシ食物トハ重ニ糖液

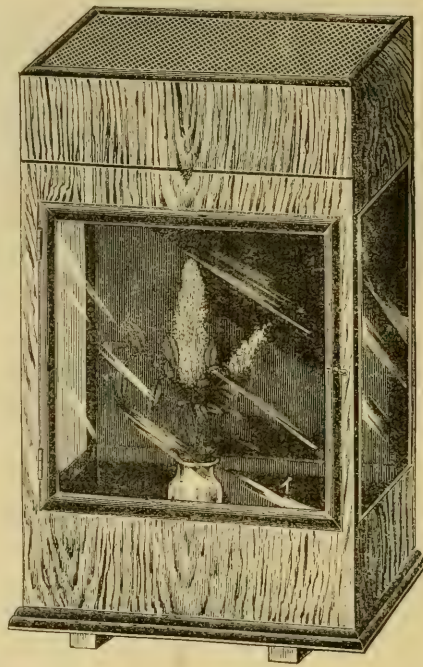
第 三 圖



ノ流通ヲ便ニシ三面ハ硝子板ニテ張り内部ヲ透見シ得ルニ供フ此箱内ニアル砂土ノ乾燥ヲ防グ爲ニハ不絶水ヲ與ヘザルベカラズ此ハ蛹ノ有様ニテ越年スルモノニ向テ殊ニ必要ナリ然ルニ若シ上ヨリ水ヲ注クニ就テハ次第ニ土ハ硬化スルノ患アリ爲メニ近來ハ第三圖ニ示スガ如キ二重ノ底ヲ用ヒテ其硬化スルヲ防止セリ此ハ亞鉛箱ニシテ(イ)ハ外箱(ロ)ハ内箱ナリ之ニ土ヲ盛り此内箱側ニハ多數ノ小孔アリ(ハ)ハ養蟲箱ヲ支ヘルノ砧ニシテ外箱内ニ水ヲ注グ時ハ内箱側ニアル小孔ヨリ水ハ徐々ニ入レ來リテ内部ノ土ヲ濕シ得ルナリ此ハ甞ニ養蟲箱ヲ開扉シテ後ニ注水スルノ不便ナキノミナラズ土ノ硬化セザル爲ニハ大ニ有効ナリ此箱内ニテ五齡間ヲ飼育シ終リ其蛹化セントスルモノ若クハ蛹化シ終ハリタルモノハ更ニ第四圖ノ如キ蛹化箱ニ移スベシ此箱ハ木製ニシテ余ノ使用シアルモノハ

テ壕口ノ上ニ置クモ可ナリ(但シ馬口鐵ニ)是レ同シク害蟲ノ陷落ヲ防グノミナラズ其逃路ヲ索メテ下降スルモ紙片ニ逢フテ復々上昇スルニ至ル以上此裝置ハ光線ニ當ツルコトナク北向ノ室ニ置クヲ要ス又害蟲ヲ移ス場合ニハ可成手ニテ觸レザル様小枝共ニ移スヲ可トス四眠迄ハ別ニ逃ゲ去ルノ患少ナシト雖也其成長シテ蛹化セントスルニ當リテハ大概ノ障害物ヲモ排シテ結繭所ヲ索ムルガ爲メニ四眠後ハ第二圖ノ如キ養蟲箱ニ移スベシ此箱

第一圖



ニハ種類多シト雖也今其最モ有効ナルモノヲ記セシニ此ハ全體木製ニシテ長サ一尺五寸幅廣共ニ一尺程ヲ便トス底ニハイノ如ク深サ四五寸程アル亞鉛箱ヲ置キ其内ニ土ヲ入レ其中央ニ食草塚ヲ置クノ裝置ヲナス上部ハ金網ヲ用ヒテ空氣

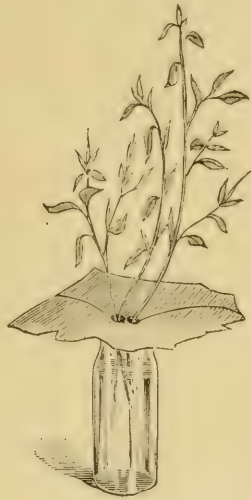
經驗ヲ得タル後ニアラズンハ能ハザルナリ飼育法ニ二アリ一ハ室内飼育ニシテ他ハ野外飼育ナリ

室内飼育法

此方法ハ大概害蟲ニ行ハル者ナルベシト雖モ重ニ年内ニ成長

シ終ルノ害蟲例令ハ ケムシ、シモシヤ、アトリス、ムシ 蜘蛛、蠅、葉捲蟲等ノ如キ葉上ニアリテ食害スルノ害蟲

第一圖



ニハ殊ニ行ハレ易キヲ見ル彼ノ兩三年間ノ

幼蟲期ヲ有スル害蟲ニアリテハ寧ロ野外飼

育ヲ有効トス今少シク其裝置ヲ述ベン害蟲

ノ小形ニシテ其既ニ蛹化セントスル者ナレ

バ大口ノ塚ニテ充分ナリ先ヅ其塚底ニ砂土

ヲ盛リテ少シク之レヲ濕シ置キ葉ト共ニ害

蟲ヲ入レ口ニハ綿片ヲ栓トナシ置クベシ其

未ダ成長セザル幼蟲ヲ飼育スルニハ第一圖ノ如キ大塚ニ水ヲ注ギ食草ヲ挿入シ

其口ニ濕シタル海綿可ニテモヲ纏ヒ置クベシ左ラバ一ハ害蟲ノ溺死ヲ防ギ一ハ

適當ノ濕氣ヲ與フルニ便アリ又徑五寸程アル畫學用紙ノ中央ヲ圓形ニ切り去リ

シテ彼ノ步行蟲ノ如キ有益蟲ハ白晝物ヲ怖レズ害蟲ヲ索メテ田圃間ヲ横行スルガ爲メニ從テ農家ノ日ニ留リ易ク彼等ノ無教育ナル害益ヲ顛倒シテ此等ヲ踏ミ殺シ喜色怡然タルヲ見ルニ及ンデハ害蟲ノ蕃殖スルモ亦故ナキニアラザルナリ其直接有益ナル蟲類ニ至リテハ假令無教育ナルモノト雖モ之レヲ認知スルニ難カラズ然レドモ其間接人類ニ利アルモノニ至リテハ昆蟲學ヲ研究シ始メテ後ニ知り得ベキノミ此間接有益蟲ハ則チ農家ノ安寧ヲ護スルモノニシテ昆蟲界ノ權衡ヲ保持スルモノトナル豈ニ復タ省ミザル可ンヤ

害蟲飼育

夫レ害蟲ヲ驅除豫防セント欲セバ須ラク其經過ヲ知り其習性ヲ糾シタル後ニアラズンバ奏効ノ結果ヲ得ルコト能ハザルナリ即チ害蟲ノ最モ脆弱ナルノ時期ヲ探知シ攻ムベキノ時ニ攻メ其除クベキノ時ニ除クニアラズンハ勢果樹ハ以テ一粒ノ實ヲモ留メズ菜禾ハ地ニ萎シテ初メテ止ムノ慘況ヲ呈センノミ是レ害蟲飼育ノ必要ナル所以ナリ然レドモ實際其飼育ノ如キハ甚ダ困難ナルモノニシテ多少

芫菁アリ綿織絲アリ又蟻酸モアルナリ食料ニハ蝗アリ鐵砲蟲アルアリテ吾人
 類ノ食料タラザルモノハ僅ニ美麗色ヲナセル成蟲及ヒ蛄蜥ナリト云フ又間接人
 類ニ有益ナルモノモ少ナカラザルナリ路上ノ腐敗物ヲ掃除スルニハ埋葬蟲アリ
 蟋^{セシチコル子}蝗アリ花粉ノ媒介ヲナスニハ蜜蜂アリまるばちモアルナリ獸ハ蟲ヲ食フテ肥
 へ魚ハ蟲ヲ得テ蕃殖シ鳥ハ蟲ヲ啄ミテ囓ル害蟲法外ノ蕃殖ヲ防止スルモノニハ
 步行蟲ノ如キ細腰蜂ノ如キ食肉蟲アリ馬尾蜂ノ如キ寄生蠅ノ如キ他蟲ノ體內ニ
 寄生シテ之レヲ倒スノ蟲類モ少ナカラザルナリ此等ノ蟲類ガ吾人人類ニ附與ス
 ルノ利益ハ果シテ幾何ゾヤ年々歳々七割半ノ蟲類ハ寄生蟲ノ爲メニ倒レ食肉蟲
 類モ其殘リノ若干ヲ殺スナルベク微菌ノ之レヲ侵スモノモ多カルベク又禽獸ノ
 之レヲ食フモノモ少ナカラザルナラン茲ニ於テ乎始メテ社會ノ權衡ヲ持シ來リ
 幾百千年ノ間相互ニ於ケル法外ノ蕃殖ヲ防止シ今日アルヲ見ルニ至リタリ然リ
 ト雖^ト社會文明ニ向ヒ開拓ノ事業日ニ其歩ヲ進メ家屋相參差スルニ至リテハ爾
 來叢澤ニアリテ野生草ニ甘シタル蟲類モ遂ニ其住家ヲ奪ハレ止ムナク培養植物
 ニ移リ來リ滋養分ニ富メルノ嫩葉ヲ食フガ爲メニ益々其蕃殖ニ便ヲ得之レニ反

蟲モアリ其他衣被ヲ害スルノ衣魚ト云ヒ衣蛾ト云ヒ或ハ厨房ニアリテ荒暴ヲ逞スルノ蚌蠟アブラムシト云ヒ肉蠅ト云ヒ其加害ノ千態萬狀ナル一々枚舉ニ遑アラザルナリ然リ而シテ此等ノ害蟲ガ年々歳々吾人人類ニ加フル所ノ損額ハ果シテ幾何ゾヤ其少量ノ害ニ至リテハ毫モ農家ノ注意ヲ惹カザルガ爲メニ之レヲ計算セルモノアルヲ見ズト雖トモ少ナクモ年々全作物ノ三割以上ハ減却セルナラン本邦ニテモ既ニ一億萬ノ下ニ落チザルベシ况ンヤ一昨年ノ如キ害蟲ノ荒暴ヲ逞スルアラバ其損害ノ量正ニ悚然トシテ端倪スベカラザルニ於テオヤ

益 蟲

昆蟲ニハ人類ニ直接有益ナルモノト間接有益ナルモノトアリテ前者ニハ家蠶アリ柞蠶アリ天蠶アルアリテ此等ハ等シク絹絲ヲ吐出シ現今社會ニ附與スルノ利益ハ果シテ幾何ゾヤ彼ノ蜂蜜ハ時ニ藥劑ヲ溶解スルノ要料トナリ卓上ニアリテハ珍重セラル、ノ糖料トナリ高等ノ練乳ニ混和セラレ其利益モ亦少ナカラザルナリ其他染料ニハ有名ナル臘脂蟲エンジムシアリ沒食子モツシヨクシアリ又五倍子モアルナリ藥劑ニハ

口 本 害 蟲 篇

ニ巢ヲ造リ蜜ヲ求ムルト同時ニ有害ナル蛄蝻ヲ殺スベシト雖モ亦有益ナル天蠶
柞蠶ヲモ食ヒ有害ナルニアラズヤ彼ノ子^{ホイフ}子ハ化シテ蚊トナリ人類ヲ惱マスト大
ナリト雖モ亦汚水ニ於ケル有害ノみあずまヲ食盡スルニアラズヤ彼ノ蚤ト云ヒ
蟲ト云ヒ等シク共ニ人ノ嫌忌スル所然リト雖モ肥滿セル小兒ノ刺絡者トナリテ
復タ有益ナルコモナキニアラザルナリ夫レ然リ然リト雖モ若シ昆蟲ヲ人類ニ對
スル利害ノ權衡ニ懸ケ其輕重ニヨリテ害益ヲ定ムルニ於テハ先ヅ其標準ヲ失セ
ザルニ庶幾カラシカ

現今學名ヲ有スル蟲數ハ全動物ノ四分ノ三ニシテ大凡三十萬餘ト云フ此内害益
ノ割合ヲ知ラント欲スルハ容易ノ事ニアラズト雖モ余ハ兩者其數ニ大差ナカル
ベシト信ズ此等害蟲ノ内或ハ森林ニアリテ葉ヲ食フノ蛄蝻モアラン幹ヲ穿ツノ
木蠹蟲モアラン果園ニハ芽ヲ咀ミ蕾ヲ貪ルノ芽蟲モアラン或ハ果實ニ喰ヒ入り
テ終ニ之ヲ落下セシムルノ果蠹蟲モ少ナカラザルベシ田圃ニハ根ヲ切ルノ夜盜
蟲アリ莖髓ヲ食盡スルノ螟蟲アリ葉液ヲ吸收スルモノニハ蚜蟲アリ浮塵子モア
ルナリ室内ニハ穀菽ヲ食スルノ穀象アリ麥蛾アリ毛皮ヲ咬ミ蠶繭ヲ穿ツノ鯨節

シトセズ然リト雖_レ如何セン此等ノ多クハ飼育法ノ容易ナルモノニシテ其生活時代ノ兩三年ニ跨ルモノニアリテハ一モ成効セシモノアルヲ見ズ加フルニ本邦參考スベキノ書籍ニ乏シク其記スル處ハ矛盾粗漏引テ以テ參考スベキノ記事少ナク斯ヲ以テ此書ニ記スル二百有餘ノ害蟲ハ多ク余ノ實驗ニ係ルモノニシテ素ヨリ本邦ニ産スル害蟲ヲ網羅シタルニアラズ惟フニ此外尙ホ之レニ蓓蕈スルノ害蟲アルナルベシト雖_レ今ヤ知ルニ由ナキヲ以テ他日ノ増補ヲ俟テ完璧ヲ期スト云爾

第一章 總論

害 蟲

蟲ニシテ益ナキモノナク復タ害ナキモノハアラザルナリ其害益ノ別ル、所ハ則チ人類ニ於ケル利害ノ輕重ニヨリテ定マルモノ素ヨリ此間ニ分明ナル限線ヲ畫ク能ハザルナリ試ニ彼ノ蠶兒ヲ見ヨ桑葉ヲ食シテ有害ナルモ其絹絲ヲ吐出スルニ至リテハ其害、益ニ比シテ云フニ足ラザルモノアルニアラズヤ彼ノ熊蟻ハ樹根

ラズンバ充分ナル經過習性ヲ知ルコト難キニ於テオヤ余ハ數年間ノ試驗ヲ繰リ返
 スモ今猶ホ以テ充分ノ經過ヲ知ル能ハザルノ害蟲多キヲ實驗ス若シ夫レ適當ノ
 裝置ナクンバ假令十年ノ星霜ヲ積ムモ猶ホ以テ探知シ能ハザルノ害蟲多キヲ認
 ムルナラン本邦ニ於テ害蟲ノ經過習性ヲ詳記セル書籍ノ現出セザルモ又故ナキ
 ニアラザルナリ其經過ノ既ニ世ニ公ニセラレタルモノハ多ク其研究ノ容易ナル
 者ニシテ年兩三回ノ發生期ヲ有スルモノ若クハ大形ニシテ飼育シ易キモノタル
 ナ見ルナリ其幼蟲ノ時代若クハ蛹期ニテ越年スルモノ、如キニ至リテハ其飼育
 甚ダ困難ナリ彼ノ作物根ヲ食害スルハリカチムシ針金蟲叩頭蟲ノ如キチ蟻トシ蟻トシノ如キ或ハ
タマムシ吉丁蟲ノ如キニ至リテハ本邦人ノ未ダ嘗テ其經過ヲ研究セシモノアルヲ見ズ若
 シ和書ノ其經過ヲ記スルモノアレバ恐クハ歐米ノ著書ヨリ斟酌譯述シタルモノ
 ナルベシ彼ノ有名ナル昆蟲學者いれい氏ガ十七年ノ壽命ヲ有スト想像セラレ
 タル蟬ヲ十三年日マデ飼育セルガ如キニ至リテハ現今本邦人ノ能ク企テ及ブ所
 ニアラザルナリ

余不肖此難海ニ楫シテヨリ爰ニ十數年、此間害蟲ノ經過、習性ヲ討究セルモノ少ナ

日 本 害 蟲 篇

ニ散在スルガ爲ニ學名ヲ知ラント欲セハ隨テ廣ク語學ニ通ゼザルヲ得ザルガ如キ又其書籍ノ高價ナル資力ニ乏シキモノ、能クスル所ニアラザルガ如キハ是レ即チ此學ニ身ヲ委シタルモノ、中途ニシテ往々挫折スル一因ト云フベク又專心ナル昆蟲學者ノ起ラザル一大要素タラズンバアラザルナリ即チ昆蟲學ナルモノハ一個人ノ得テ能ク研究シ能ハザルノ科學ニシテ資力アルモノ、其產ヲ以テ犧牲ニスルカ若クハ政府ノ保護ノ下ニアラズンバ到底充分ノ調査ヲ遂クルヲ能ハザルモノト云フバシ夫レ既ニ如斯九州ニハ三化螟蟲ノ慘毒ヲ見ルベク畿内ニハ桑茶ノ害蟲ニ遇フベク而シテ奥羽ニハ綿蟲ノ猖獗ナルアリ北海ニハ夜盜蟲ノ荒暴ヲ逞セルアルアリテ地方ニヨリテ大ニ害蟲ノ種類ヲ異ニス假令同種類ナルモ氣候風土ノ如何ニヨリテ其經過習性ヲ異ニスルモノアリ彼ノ褐色浮塵子ノ如キハ九州ニ四五回ノ發生ヲナシ北海ニアリテハ僅ニ三回ニ過ギズ又其成蟲ノ有様ニテ越年スルアリ蛹ノ時代ニテ凌冬スルアリ卵子ノ状態ニテ過寒スルモノ等アリテ甲地方ノ經過ヲ以テ直チニ乙地方ノ經過ニ箴適セシムル能ハザルノ場合モ少ナカラザルナリ况ンヤ其飼育法ニ困難ナル少ナクモ兩三年ノ試験ヲ經ルニア

ヨリ大ナルハナシ然リト雖モ若シ假ニ其源タル母蟲ニシテ少ナカラシカ如何ニ
 温濕ハ其當ヲ得、食物富饒ナルモ亦如何トモスル能ハザルナリ蓋シ害蟲ノ起ルヤ
 其起ルノ日ニ俄然トシテ起ルニアラズ必ズ因テ來ル所アリ即チ害蟲ハ年々歳々
 其數ヲ増シ來リ一朝適當ノ氣候ニ際會シテ暴發スルモノト云フベシ故ニ平時小
 數ノ時ヨリ驅除ノ法ヲ講シ其加害ノ顯著ナラザルノ日ニ豫防ヲ計ルニ於テハ害
 蟲モ亦恐ル、ニ足ラサルナランカ乃チ其經過ヲ知り其習性ヲ糾シ其脆キ時ヲ探
 知シ攻ムベキノ日ニ攻メ驅ルベキノ時ニ驅ルニ於テハ害蟲ノ驅除モ亦容易ナリ
 ト云フベシ然リト雖モ害蟲ノ經過習性ヲ知ラント欲スルコト容易ノ業ニアラズ其
 數ノ多クシテ卵、幼蟲、蛹及ビ成蟲ノ四期ニ於ケル變化ノ様々ナル其居所ヲ異ニシ
 其食物ヲ換ヘ其形ヲ變シ其色ヲ異ニスルニ於テハ到底同種類ノ化態ナリトシテ
 認識スルノ難キモノモ少ナカラズ又其農作物ヲ食害スル昆蟲ノ多クハ皆微小ナ
 ルガ爲メニ其調査ニ困難ヲ感ズルコト深ク而シテ害蟲ノ多クハ夜行性ニシテ晝間
 ハ巧ニ潜伏スルノ性アルガ爲メニ捕獲スルニ不便ナル此等ハ吾人昆蟲學ヲ研究
 スルモノ、最モ困難ヲ感ズル所、况ンヤ此學ノ沿漸ナル其參考書ノ廣ク世界各國

日本害蟲篇上卷

農學士 松村 松年 著

緒 言

古來饑饉ノ起ル多クハ蟲害ニ基因ス試ニ明治二十九年ニ於ケル害蟲發生ノ慘狀ヲ見ヨ南ハ四國九州ヨリ北ハ根室ノ一端ニ至ルノ間其氣候害蟲ノ發生ニ適シ温濕其當ヲ得タル爲メ浮塵子ハ雲霞ノ如ク到ル處ニ暴發シ其加害ノ殘酷ナル眼之レヲ見ルニ忍ビザリキ而シテ彼ノ夜盜蟲ノ北海道ニ併發シテ重要作物ヲ加害セルノ慘狀ハ耳之レヲ聞クニ忍ビザリキ其損害町歩ノ如何ニ至リテハ未ダ茲ニ精細ノ統計ヲ得ル能ハズト雖モ少ナクモ其收穫量ノ大半ヲ減却セリト云フモ敢テ不可ナカルベク彼ノ極メテ薄利ニ安スルノ農民專心一意賴ンデ以テ其口ヲ糊スルノ農產物が一朝害蟲ノ猖獗ニ遇フ彼等ノ田圃ニ狂奔シテ周章狼狽スルモ亦故ナキニアラザルナリ抑モ害蟲ノ暴發スル其原因數多アルベシト雖モ氣候ノ作用

第八章 葉捲及芽蟲類

りんごのはまき	一七三
あさきばればまき	一七六
かくもんばまき	一七七
きまだらばまき	一七八
つつばまきむし	一八〇
りんごのめむし	一八三
なしのはまき	一八四
さくらはまき	一八六
くわのすぎむし	一八八
くわのあをめむし	一九〇
くわのほしめむし	一九三
いさひきめむし	一九四
いさひきはまきむし	一九五
わたのはまきむし	一九七
ふぢまめこりばてふ	一九七
いちもぢせせり	一九九

日本害蟲篇 上卷 目次 終

第九章 夜盜蟲類

はなせせり	二〇一
えんどのきりむし	二〇三
はちのぢれきりむし	二〇六
かんさいのよさうむし	二〇八
たまなれきりむし	二一〇
れぎきりむし	二二三
かぶらのれきりむし	二四四
あわよさうむし	二五五
一般ノ驅除豫防法	二五八
第十章 果蠹蟲類	二六四
りんごのひめしんくひ	二六四
こつざりん	二七〇
もものひめしんくひ	二七九
なしのしんくひ	二八三
もものちよきりむし	二八四
くりのしぎむし	二八六

第三章 烏蠅類

くるますずめ……………八九

うちすずめ……………九八

ももすずめ……………九七

めんかたすずめ……………九六

えびからすずめ……………九五

せすぢすずめ……………九四

すずめてふ……………九三

きあげは……………九二

あげはのてふ……………九一

からすばあげは……………九〇

第四章 尺蠖類

えだしやくどり……………八九

むらさきしやくどり……………八八

くわさげしやくどり……………八七

つのしやくどり……………八六

さんぼてふ……………八五

むめのしやくどり……………八四

第五章 螟蛉類

もんしろてふ……………八三

すぢぐろてふ……………八二

たばこのあをむし……………二九

たばこのすすあをむし……………二八

つめぐさてふ……………二七

しんきりあをむし……………二六

こまだらあをむし……………二五

すものきりむし……………二四

いねのあをむし……………二三

いねのこあをむし……………二二

ほしあをむし……………二一

第六章 螟蟲類

にかめいちう……………二〇

さんかめいちう……………一九

おほすいむし……………一八

ひえのすいむし……………一七

あわのすいむし……………一六

あいのすいむし……………一五

しようぶのすいむし……………一四

わたのりんむし……………一三

第七章 莢蟲類

まめのしんくひ……………一六

あすきのさやむし……………一五

うらなみま下むし……………一四

日本害蟲篇 上卷 目次

緒言	一
第一章 總論	五
害蟲	五
益蟲	七
害蟲飼育	九
室内飼育法	一〇
野外飼育法	一五
用語ノ説明	一七
第二章 蜚蠊類	二四
えぞしろてふ	二四
ひめたてば	二五
あかたてば	二六
ごまたらてふ	二九
ひめぐまたらてふ	三三
をざりこてふ	三五
まいまいてふ	三五
かしわけむし	三六
ごくが	三六
ちやのけむし	四〇

きんけむし	四四
つものけむし	四七
こつのけむし	四九
あかのおほぎや	五一
むめけむし	五一
くわこ	五五
かれはてふ	五七
せめかれはてふ	六〇
まつのけむし	六〇
まりあげけむし	六三
ほふぐるてふ	六七
さくらほうぐる	六七
あさほうぐる	七一
おほみづあなてふ	七三
しらがたるう	七五
いらむし	七七
からむしてふ	八〇
なしはまきけむし	八三
たけのけむし	八四
くろこ	八六

注 意

一、本書稿を脱し、將に印刷に附せんと欲するに際し、松村松年先生、獨逸國留學の途に就かれ、校正のことは一切、石田昌人、野口胞吉、兩氏の手に成れり。

一、讀者若し書中の事項を講究せらるゝに際し、苟くも本書の研究上必要なるものを發見せられなば、幸に通報の勞を吝むこと勿れ、弊房是れを襍めて著者に送り、以て再版の資料に供すべし。

明治三十二年八月二十一日

裳 華 房 主 人 謹 識

又札幌農學校昆蟲學教室助手石田昌人、同昆蟲學科學生梁田斌、藤井欽吾の諸氏に向つて、少からざる助力を謝す、尙ほ岐阜昆蟲研究所長名和靖及び同助手名和梅吉等の兩氏に向つて、淺からざる厚意を表謝す。

一、本書編著中、獨逸國留學を命せられ、爲めに其業を卒ふること能はず、殊に室内害蟲の如きは、或る一部分は唯だ目錄のみを記載するものあり、又字句の如きも穩當を缺くものあらん、他日を待つて増補改訂すべし。

明治三十二年八月一日

松 村 松 年 識

凡 例

一、本書は専ら本邦産重要害蟲を研究せんと欲する爲めに、編著したるものにして、收むる所の害蟲大凡三百餘種、其經過習性及び驅除豫防法を記し、附するに圖畫を以てして説明の便に資せり。

一、本書挿入の圖畫は重に著者多年の實驗に係るものを撰みたり、然れども本邦未だ這般圖畫の剞刻に堪能ならざるを以て、多少原蟲と相異する所あらん、讀者諒せよ。

一、本書の卷末に原語、譯語及び害蟲分類、被害植物の四項に分ちて、索引を附せり。

一、本書編著に就き、札幌農學校教授理學博士宮部金吾氏に向ては、貴重なる秘藏書を貸與せられたるを爰に深く謝す。



四方購
求之人
須認此
印爲證
若無印
者皆係
僞刻

農學士 松村松年著

日本害蟲篇

東京 裳華房發行

農學士松村松年著

上卷

日本害虫篇

東京 裳華房發行